

中央区障害者(児)実態調査 報告書

(案)

令和 5 (2023) 年 3 月



中央区

目 次

第1部 調査の概要	1
第1章 調査の概要	3
1 調査の概要.....	3
2 各調査の概要.....	5
第2章 項目別概要	13
1 項目別概要（障害者・難病患者の実態調査）.....	13
2 項目別概要（子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査）.....	19
第2部 調査の結果	25
第1章 障害者・難病患者の実態調査	27
1 本人について.....	27
2 住まいについて.....	39
3 日常生活の中での介助について.....	42
4 相談について.....	56
5 障害福祉サービスについて.....	73
6 リハビリ・医療について.....	83
7 就労・経済状況について.....	88
8 社会参加・文化余暇活動の状況について.....	100
9 権利擁護について.....	107
10 障害者等への区民の理解度について.....	119
11 災害時の対策について.....	132
12 感染症の影響について.....	140
13 施策・サービスの満足度について.....	142
第2章 子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査	154
1 お子さんと家族の状況について.....	154
2 通園・通学の状況について.....	157
3 育ちや発達の状況について.....	161
4 サービスの利用状況について.....	202
5 主たる養育者の状況について.....	219
6 相談について.....	222
7 子どもの育ち等への理解について.....	225
8 子どもの将来について.....	228
9 感染症の影響について.....	230
10 今後の区の取組について.....	231
資料 調査票 エラー! ブックマークが定義されていません。	
1 身体障害者・難病患者実態調査.....	245
2 知的障害者実態調査.....	255
3 精神障害者保健福祉に関する実態調査.....	265
4 子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査.....	275

第1部 調査の概要

第1章 調査の概要

1 調査の概要

(1) 調査の目的

本調査は、令和5年度に予定している「中央区障害者計画・第7期中央区障害福祉計画・第3期中央区障害児福祉計画」の改定に向けて、計画策定の基礎資料とするため、区内在住の障害者の生活状況や意識・意向と子どもの育ち等に関する相談の実態を把握することを目的としている。

(2) 調査の種類と対象者

調査	調査名	対象者
1	身体障害者・難病患者実態調査	令和4年8月1日現在、区内在住の18歳以上の身体障害者手帳所持者および難病患者福祉手当受給者
2	知的障害者実態調査	令和4年8月1日現在、区内在住の18歳以上の愛の手帳所持者
3	精神障害者保健福祉に関する実態調査	令和4年8月1日現在、区内在住の18歳以上の精神障害者保健福祉手帳所持者および自立支援医療(精神通院)受給者
4	子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査	令和4年8月1日現在、区内に在住する0歳から18歳(高校3年生の学年)までの子のうち、以下に該当する子を持つ保護者 【内訳】 ①障害福祉サービス等受給者証取得児 ②障害者手帳(身体、知的、精神)取得児 ③特別支援教室・通級指導学級在籍児

(3) 対象者の抽出数と実施方法

対象者数(母集団)の中から一部を抽出して調査する標本調査では、対象者全員に行う調査と比べ、回答結果に誤差が生じることがあり、それを標本誤差と言う。

本調査では、一般的に許容される最大標本誤差±5.0%の範囲内に収めるために必要なサンプル数を確保できるよう、対象者数に対して以下の配布数を設定した。

調査の種類	対象者数 (8月1日現在)	配布数	実施方法
身体障害者・難病患者実態調査	3,367	1,084	・無作為抽出 ・郵送配布・回収のアンケート調査
知的障害者実態調査	271	271	・悉皆調査 ・郵送配布・回収のアンケート調査
精神障害者保健福祉に関する実態調査	1,734	1,400	・無作為抽出 ・郵送配布・回収のアンケート調査
子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査	745	745	・悉皆調査 ・対象者の①、②は郵送配布・回収、③は学校を通じた配布、郵送回収のアンケート調査

※なお身体障害者・難病患者実態調査、知的障害者実態調査、精神障害者保健福祉に関する実態調査の抽出にあたって、重複して手帳及び受給者証を所持している場合は、対象者数が少ない調査に優先して振り分けを行った。
※督促を兼ねた礼状はがきを各1回送付した。(子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査の対象者③を除く)

(4) 調査の期間

令和4年9月14日（水）から令和4年10月11日（火）

(5) 配布数と回収結果

調査	調査の種類	配布数	有効回収数	有効回収率
1	身体障害者・難病患者実態調査	1,084	668	61.6%
2	知的障害者実態調査	271	162	59.8%
3	精神障害者保健福祉に関する実態調査	1,400	643	45.9%
4	子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査	745	393	52.8%
	合計	3,500	1,866	53.3%

身体障害者・難病患者実態調査及び精神障害者保健福祉に関する実態調査は、無作為抽出による【標本調査】を実施した。また、知的障害者実態調査は必要サンプル数を満たすため、対象者全員へ配布する【悉皆調査】で実施した。

配布数に対する有効回収率は、身体障害者・難病患者実態調査は有効回収率 61.6%、知的障害者実態調査は 59.8%、精神障害者保健福祉に関する実態調査は 45.9%となっている。

子どもの育ちや発達の相談に関する調査は、【悉皆調査】を実施した。

子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査の配布数に対する有効回収率は 52.8%となっている。

2 各調査の概要

(1) 身体障害者・難病患者実態調査

項目	問番号	質問	ページ
A 本人について	問1	回答者	27
	問2(1)	性別	28
	問2(2)	年齢	29
	問3	居住地域	30
	問4	世帯状況	31
	問4-1	同居者の続柄	32
	問5	持っている手帳(等級)・医療受給者証の種類	33
	問5-1	障害の種類	36
	問6	高次脳機能障害の診断の有無	38
	問7	介護保険サービスの利用状況	38
B 住まいについて	問8	住居形態	39
	問9	住宅設備改善費の認知度・利用状況	40
	問10	今後の暮らしの希望	41
C 日常生活の中での 介助について	問11(1)	食事	42
	問11(2)	家事	43
	問11(3)	トイレ	44
	問11(4)	着替え	45
	問11(5)	入浴	46
	問11(6)	寝返り	46
	問11(7)	家の中を移動	47
	問11(8)	外出	48
	問11(9)	日常の買い物	49
	問11(10)	薬の管理	50
	問11-1	日常的な介助者	52
	問11-2	(家族・親族の回答)日常的な介助者の年齢	54
	問11-3	介助を受ける時間数	55
D 相談について	問12	相談したい暮らしの困りごと(現在)	56
	問13	将来の不安	58
	問14	困りごとの相談先	62
	問15(1)	中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況	66
	問15(2)	基幹相談支援センターの認知度・利用状況	68
	問16	区の相談窓口・機関への希望	71
	E 障害福祉サービス について	問17	利用している障害福祉サービス
問18		障害福祉サービス支給量のニーズ充足度	75
問19		サービス利用での困りごと	78
問20		福祉サービスの情報入手先	80
F リハビリ・医療について	問21	機能回復訓練(リハビリ)の実施状況	83
	問22	日常的に必要としている医療的ケア	84
G 就労・経済状況 について	問23	就労の状況	88
	問23-1	仕事の内容	90
	問23-2	現在の仕事を探した方法	92
	問23-3	就労先で何かしらの配慮がされているか	94
	問23-4	今後の就労意向	96
	問24	障害のある人が働くために必要な環境	97
	問25	年収	99

項目	問番号	質問	ページ
H 社会参加・文化余暇 活動の状況について	問 26	外出目的(外出先)	100
	問 27	地域(町会など)が行うイベントの参加状況	102
	問 28	参加したい文化・芸術・余暇活動	103
	問 29	外出や社会参加の困りごと・妨げになっていること	105
I 権利擁護 について	問 30	成年後見制度の内容の認知状況	107
	問 31	成年後見制度の利用意向	109
	問 31-1	利用したいと思わない理由	112
	問 32	法人後見制度の利用意向	114
	問 33	権利擁護支援事業の内容の認知状況	116
	問 34	権利擁護支援事業の利用意向	117
J 障害等の理解 について	問 35	障害や障害者、難病や難病患者に対する区民の理解度	119
	問 36	差別を感じたことはあるか	121
	問 37	東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無	123
	問 38	障害等への理解の普及に必要なこと	125
	問 39	障害者差別解消法の認知状況	127
	問 40	役所・会社・お店に求める合理的配慮	128
	問 41	「虐待通報・相談窓口」の認知状況	131
K 防災について	問 42	災害時の避難場所を決めているか	132
	問 43	災害時に援助してくれる人がいるか	133
	問 44	災害時に不安なこと	134
	問 45	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況	137
	問 45-1	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供に同意していない 主な理由	139
L 感染症の影響について	問 46	新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと	140
M 今後の区の取組 について	問 47	中央区の施策・サービスの満足度	142
	問 48	中央区(行政)への意見・要望(自由回答)	144

(2) 知的障害者実態調査

項目	問番号	質問	ページ
A 本人について	問1	回答者	27
	問2(1)	性別	28
	問2(2)	年齢	29
	問3	居住地域	30
	問4	世帯状況	31
	問4-1	同居者の続柄	32
	問5	持っている手帳(等級)・医療受給者証の種類	33
B 住まいについて	問6	介護保険サービスの利用状況	38
	問7	住居形態	39
C 日常生活の中での 介助について	問8	今後の暮らしの希望	41
	問9(1)	食事	42
	問9(2)	家事	43
	問9(3)	トイレ	44
	問9(4)	着替え	45
	問9(5)	入浴	46
	問9(6)	寝返り	46
	問9(7)	家の中の移動	47
	問9(8)	外出	48
	問9(9)	日常の買い物	49
	問9(10)	お金の管理	51
	問9(11)	薬の管理	50
D 相談について	問9-1	日常的な介助者	52
	問9-2	(家族・親族の回答) 日常的な介助者の年齢	54
	問9-3	介助を受ける時間数	55
	問10	相談したい暮らしの困りごと(現在)	56
	問11	将来の不安	58
	問12	困りごとの相談先	62
	問13(1)	中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況	66
問13(2)	基幹相談支援センターの認知度・利用状況	68	
E 障害福祉サービス について	問14	区の相談窓口・機関への希望	71
	問15	利用している障害福祉サービス	73
	問16	障害福祉サービス支給量のニーズ充足度	75
	問17	サービス利用での困りごと	78
F 医療について	問18	福祉サービスの情報入手先	80
	問19	日常的に必要なとしている医療的ケア	84
G 就労・経済状況 について	問20	就労の状況	88
	問20-1	仕事の内容	90
	問20-2	現在の仕事を探した方法	92
	問20-3	就労先で何かしらの配慮がされているか	94
	問20-4	今後の就労意向	96
	問21	障害のある人が働くために必要な環境	97
	問22	年収	99
H 社会参加・文化余暇 活動の状況について	問23	外出目的(外出先)	100
	問24	地域(町会など)が行うイベントの参加状況	102
	問25	参加したい文化・芸術・余暇活動	103
	問26	外出や社会参加の困りごと・妨げになっていること	105
I 権利擁護について	問27	成年後見制度の内容の認知状況	107
	問28	成年後見制度の利用意向	109
	問28-1	利用したいと思わない理由	112
	問29	法人後見制度の利用意向	114
	問30	権利擁護支援事業の内容の認知状況	116
	問31	権利擁護支援事業の利用意向	117

第1部 調査の概要

項目	問番号	質問	ページ
J 障害等の理解 について	問 32	障害や障害者に対する区民の理解度	119
	問 33	差別を感じたことはあるか	121
	問 34	東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無	123
	問 35	障害等への理解の普及に必要なこと	125
	問 36	障害者差別解消法の認知状況	127
	問 37	役所・会社・お店に求める合理的配慮	128
	問 38	「虐待通報・相談窓口」の認知状況	131
K 防災について	問 39	災害時の避難場所を決めているか	132
	問 40	災害時に援助してくれる人がいるか	133
	問 41	災害時に不安なこと	134
	問 42	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況	137
	問 42-1	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供に同意していない 主な理由	139
L 感染症の影響について	問 43	新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと	140
M 今後の区取組 について	問 44	中央区の施策・サービスの満足度	142
	問 45	中央区(行政)への意見・要望(自由回答)	144

(3) 精神障害者保健福祉に関する実態調査

項目	問番号	質問	ページ
A 本人について	問1	回答者	27
	問2(1)	性別	28
	問2(2)	年齢	29
	問3	居住地域	30
	問4	世帯状況	31
	問4-1	同居者の続柄	32
	問5	持っている手帳(等級)・医療受給者証の種類	33
	問5-1	疾患の種類	37
	問6	介護保険サービスの利用状況	38
B 住まいについて	問7	住居形態	39
	問8	今後の暮らしの希望	41
C 日常生活の中での 介助について	問9(1)	食事のしたくや後片付け	42
	問9(2)	掃除・洗濯	43
	問9(3)	日常の買い物	49
	問9(4)	身だしなみ	45
	問9(5)	お金の管理	51
	問9(6)	薬の管理(決まった時間に飲むなど)	50
	問9(7)	銀行、郵便局などの利用	51
	問9(8)	バス・電車などの利用	48
	問9-1	日常的な支援者	52
	問9-2	(家族・親族の回答のうち)日常的な支援者の年齢	54
D 相談について	問10	相談したい暮らしの困りごと(現在)	56
	問11	将来の不安	58
	問12	困りごとの相談先	62
	問13(1)	中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況	66
	問13(2)	基幹相談支援センターの認知度・利用状況	68
	問13(3)	中央区精神障害者地域活動支援センター(ポケット中央)の認知度・利用意向	70
	問14	区の相談窓口・機関への希望	71
		問15	利用している障害福祉サービス
E 障害福祉サービス について	問16	障害福祉サービス支給量のニーズ充足度	75
	問17	サービス利用での困りごと	78
	問18	福祉サービスの情報入手先	80
		問19	通院・入院状況
F 医療について	問19-1	通院・往診の回数	85
	問19-2	医療機関の種類	86
	問19-3	主治医からの説明の有無	86
	問19-4	病状が悪化しないようコントロールできているか	87
	問19-5	区内で適切な医療を受けられているか	87
		問20	就労状況
G 就労・経済状況 について	問20-1	仕事の内容	90
	問20-2	現在の仕事を探した方法	92
	問20-3	就労先で何かしらの配慮がされているか	94
	問20-4	今後の就労意向	96
	問21	障害のある人が働くために必要な環境	97
	問22	年収	99
		問23	外出目的(外出先)
H 社会参加・文化余暇 活動の状況について	問24	地域(町会など)が行うイベントの参加状況	102
	問25	参加したい文化・芸術・余暇活動	103
	問26	外出や社会参加の困りごと・妨げになっていること	105

第1部 調査の概要

項目	問番号	質問	ページ
I 権利擁護について	問 27	成年後見制度の内容の認知状況	107
	問 28	成年後見制度の利用意向	109
	問 28-1	利用したいと思わない理由	112
	問 29	法人後見制度の利用意向	114
	問 30	権利擁護支援事業の内容の認知状況	116
	問 31	権利擁護支援事業の利用意向	117
J 障害等の理解について	問 32	障害や障害者に対する区民の理解度	119
	問 33	差別を感じたことはあるか	121
	問 34	東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無	123
	問 35	障害等への理解の普及に必要なこと	125
	問 36	障害者差別解消法の認知状況	127
	問 37	役所・会社・お店に求める合理的配慮	128
	問 38	「虐待通報・相談窓口」の認知状況	131
K 防災について	問 39	災害時の避難場所を決めているか	132
	問 40	災害時に援助してくれる人がいるか	133
	問 41	災害時に不安なこと	134
	問 42	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況	137
	問 42-1	「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供に同意していない主な理由	139
L 感染症の影響について	問 43	新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと	140
M 今後の区の実組について	問 44	中央区の施策・サービスの満足度	142
	問 45	中央区(行政)への意見・要望(自由回答)	144

(4) 子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査

項目	問番号	質問	ページ
A お子さんと家族の状況 について	問1	回答者(主たる養育者)	154
	問2	居住地域	154
	問3(1)	お子さんの性別	155
	問3(2)	お子さんの年齢	155
	問4	お子さんと同居している家族	156
B 通園・通学の状況 について	問5	通園・通学・通所をしているか	157
	問5-1	通園・通学・通所先	158
	問5-2	通園・通学・通所に付添いが必要か	159
	問5-3	保育所・幼稚園・学校などが終わった後に過ごしている場所	160
C 育ちや発達の状況 について	問6(1)	子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無 言葉の遅れ	161
	問6(2)	運動面での遅れ	
	問6(3)	性格	
	問6(4)	心理的に不安定	
	問6(5)	行動面	
	問6(6)	友達関係	
	問6(7)	学習面	
	問6(8)	進級・進学	
	問6(9)	通園・通学先との関係	
	問6(10)	他人の気持ちが推測できない	
	問6(11)	その他	
	問6-1	最初に不安や疑問を感じた時期	168
	問6-2	不安や疑問を感じたきっかけ	169
	問7	相談の経験の有無	170
	問7-1	相談の効果	177
	問8	育ちや発達についての診断の有無	179
	問8-1	診断名	180
	問8-2(1)	診断を受けた時期	181
	問8-2(2)	診断を受けた場所	181
	問9	障害者手帳、障害福祉サービス受給者証の有無(障害の程度)	182
	問9-1	身体障害者手帳に記載されている障害の種類	184
	問10	日常的に医療的ケアを必要としているか	185
問10-1	必要としている医療的ケアの種類	186	
問10-2	移動能力の程度	187	
D サービスの利用状況 について	問11	福祉サービス・支援の認知度、利用状況	202
	問11-1	福祉サービス・支援を利用していない理由	206
	問11-2	拡充してほしい福祉サービス・支援	207
	問12	福祉サービス・支援を利用する上で困っていること	209
	問13	医療保険制度による在宅サービスの利用状況	210
	問14	切れ目のない一貫した支援をどう思うか	211
	問15	「育ちのサポートカルテ」の活用状況	213
	問15-1	「育ちのサポートカルテ」を知ったきっかけ	215
	問15-2	「育ちのサポートカルテ」を活用していない理由	217
	E 主たる養育者の状況 について	問16	主たる養育者の年齢
問17		主たる養育者の健康状態	220
問18		主たる養育者の就労状況	221
問18-1		主たる養育者の就労形態	221
F 相談について	問19	主たる養育者自身の困りごとや不安に思っていること	222
	問20	近所に頼れる人がいるか	223
	問21	区の相談窓口・機関への希望	223
	問22	専門家に支援してほしいと思うこと	224

項目	問番号	質問	ページ
G 子どもの育ち等への理解	問 23	近所の人からの理解	225
	問 24	主たる養育者が望む地域のあり方	225
	問 25	東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無	226
	問 26	障害等への理解の普及に必要なこと	227
H 子どもの将来について	問 27	お子さんの将来の働き方の希望	228
	問 28	障害のある人が働くために必要な環境	229
I 感染症の影響について	問 29	新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと	230
J 今後の区の取組について	問 30	育ちや支援を必要とする子どもへの施策・サービスの満足度	231
	問 31	優先すべき施策	232
	問 32	中央区(行政)への意見・要望(自由回答)	237

(5) 図表の見方

- a. 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体的場合はN (Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- b. %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)がある。
- c. 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがある。
- d. 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されている。
- e. 令和元年度(前回調査)との比較では、選択肢が一部異なる設問もある。
- f. クロス集計表の表側(年齢、居住地、世帯状況等)での未回答や、障害の種別等の重複する方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。また、表頭(設問の選択肢)の未回答や、「その他」、「無回答」を非表示にしている。

第2章 項目別概要

1 項目別概要（障害者・難病患者の実態調査）

(1) 本人について(p. 27)

回答者は、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「本人(身体：86.8%、精神：90.0%)」、知的障害者は「父母(45.1%)」が最も多い。(身体・難病：問1、知的：問1、精神：問1)

年齢は、身体障害者・難病患者は「75歳以上(36.4%)」、知的障害者は「20歳～29歳(24.1%)」、精神障害者等は「40歳～49歳(26.6%)」が最も多い。(身体・難病：問2(2)、知的：問2(2)、精神：問2(2))

居住地域は、いずれの障害も「月島地域(身体・難病：48.2%、知的：51.2%、精神：46.5%)」が最も多い。(身体・難病：問3、知的：問3、精神：問3)

世帯状況は、いずれの障害も「同居している(身体・難病：69.8%、知的：59.3%、精神：61.7%)」が最も多い。(身体・難病：問4、知的：問4、精神：問4)

同居者の続柄をみると、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「配偶者(身体・難病：75.1%、精神：57.2%)」、知的障害者は「母(90.6%)」が多い。(身体・難病：問4-1、知的：問4-1、精神：問4-1)

身体障害者・難病患者で身体障害者手帳所持者の障害の程度は「1級(39.9%)」、障害の種類は「下肢機能障害(28.1%)」が最も多い。なお、「難病などの医療費等助成制度の医療受給者証または医療券」は41.5%となっている。(身体・難病：問5、問5-1)

知的障害者で愛の手帳所持者の障害程度は「4度(43.9%)」が最も多い。(知的：問5)

精神障害者等で精神保健福祉手帳所持者の障害の程度は「3級(47.9%)」、罹患している疾患は「うつ病(29.4%)」が最も多い。(精神：問5、問5-1)

介護保険サービスの利用状況(40歳以上)で「利用している」は、身体障害者・難病患者では25.8%、知的障害者では14.1%、精神障害者等では14.8%である。(身体・難病：問7、知的：問6、精神：問6)

(2) 住まいについて(p. 39)

住居形態は、いずれの障害も「持家(マンションなどを含む)(身体・難病：58.4%、知的：28.4%、精神：44.3%)」が最も多い。(身体・難病：問8、知的：問7、精神：問7)

今後の暮らしの希望は、いずれの障害も「家族と一緒に暮らしたい(身体・難病：63.5%、知的：34.0%、精神：49.3%)」が最も多く、次いで知的障害者では「障害のある人が入所する施設で暮らしたい」、「障害のある人たちやお世話してくれる人と一緒に暮らしたい(グループホームなど)」が19.1%、精神障害者等では「独立して一人で暮らしたい、結婚して家庭を持ちたい(17.3%)」などとなっている。(身体・難病：問10、知的：問8、精神：問8)

(3) 日常生活の中での介助について (p. 42)

身体障害者・難病患者に対して10の項目について、手助けの必要性をたずねた。“家事”“入浴”“外出”“日常の買い物”の4項目で「手助けが必要」の回答が1割を超えている。(身体・難病：問11)

知的障害者に対して11の項目について、手助けの必要性をたずねた。「手助けが必要」の回答は、“お金の管理”で5割、“家事”と“薬の管理”で4割、“外出”と“日常の買い物”で3割を超えている。(知的：問9)

精神障害者等に対して8項目について、手助けの必要性をたずねた。“食事のしたくや後片付け”“掃除・洗濯”“日常の買い物”“お金の管理”の4項目で「手助けが必要」の回答が1割を超えている。(精神：問9)

日常的な介助者は、身体障害者・難病患者と精神障害者等では「配偶者(身体・難病：38.6%、精神：29.9%)」、知的障害者では「母(37.6%)」が最も多い。(身体・難病：問11-1、知的：問9-1、精神：問9-1)

家族・親族等の介助者(支援者)の年齢は、身体障害者・難病患者では「60歳代(28.2%)」、知的障害者と精神障害者等では「50歳代(知的：35.3%、精神：23.9%)」が最も多い。(身体・難病：問11-2、知的：問9-2)

(4) 相談について (p. 56)

① 困りごと・相談先

現在の暮らしの困りごとは、身体障害者・難病患者と知的障害者は「特に困っていることはない(身体・難病：47.0%、知的：34.0%)」が最も多い。次いで、身体障害者・難病患者では「健康・医療のこと(22.8%)」、知的障害者では「お金のこと(26.5%)」などとなっている。精神障害者等では「お金のこと(42.5%)」が最も多く、次いで「健康・医療のこと(34.7%)」などとなっている。(身体・難病：問12、知的：問10、精神：問10)

将来の不安は、身体障害者・難病患者は「高齢になった時のこと(35.8%)」、知的障害者は「親が亡くなった後の生活のこと(56.2%)」、精神障害者等は「十分な収入があるか(45.9%)」が最も多い。(身体・難病：問13、知的：問11、精神：問11)

困りごとの相談先は、いずれの障害も「家族・友人・知人(身体・難病：87.0%、知的：71.0%、精神：75.9%)」が最も多い。(身体・難病：問14、知的：問12、精神：問12)

② 相談支援機関の認知度・利用状況と相談窓口・機関への希望

中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況は、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>が、身体障害・難病患者では34.9%、知的障害者では71.6%、精神障害者等では40.4%となっている。(身体・難病：問15(1)、知的：問13(1)、精神：問13(1))

基幹相談支援センターの認知度・利用状況は、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>が、身体障害・難病患者では18.0%、知的障害者では51.3%、精神障害者等では13.4%となっている。(身体・難病：問15(2)、知的：問13(2)、精神：問

13(2))

精神障害者等の中央区精神障害者地域活動支援センター(ポケット中央)の認知度・利用意向は、「利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>が、28.9%である。(精神：問13(3))

区の相談窓口・機関への希望は、いずれの障害も「相談・支援の窓口が身近にあること(身体・難病：54.3%、知的：53.7%、精神：57.9%)」が最も多く、次いで「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてもらえること(身体・難病：49.7%、知的：51.2%、精神：52.3%)」などとなっている。(身体・難病：問16、知的：問14、精神：問14)

(5) 障害福祉サービスについて(p.73)

利用している障害福祉サービスは、いずれの障害も「利用していない(身体・難病：69.8%、知的：23.5%、精神：68.0%)」が最も多い。それ以外では、身体障害者・難病患者は、「ホームヘルプ、外出時の介助など(9.1%)」が最も多く、次いで、「リハビリテーションや日常生活に関する相談など(8.5%)」などである。知的障害者は、「働くための支援など(22.2%)」が最も多く、次いで「グループホーム(21.0%)」などである。精神障害者等は、「働くための支援など(9.5%)」が最も多く、次いで「ホームヘルプ、外出時の介助など(6.1%)」などである。(身体・難病：問17、知的：問15、精神：問15)

障害福祉サービス支給量のニーズ充足度は、いずれの障害も「十分である(身体・難病：35.2%、知的：47.8%、精神：43.9%)」が「足りない(身体・難病：11.5%、知的：6.1%、精神：10.5%)」を上回っている。

支給量が「足りない」と回答した人の不足している障害福祉サービスは、身体障害者・難病患者は、「ホームヘルプ、外出時の介助など(15.8%)」が最も多い。知的障害者は、「ショートステイ(42.9%)」、「常に介助が必要な人に対して施設での日常生活の支援など(42.9%)」が最も多い。精神障害者等は、「ポケット中央での日中の居場所の提供など(16.7%)」が最も多い。(身体・難病：問18②、知的：問16②、精神：問16②)

サービス利用での困りごとは、身体障害者・難病患者は、「特に困りごと、不便なことはない(43.7%)」が最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない(18.6%)」などとなっている。知的障害者は、「特に困りごと、不便なことはない(36.4%)」が最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない(17.3%)」などとなっている。精神障害者等は、「サービスに関する情報が少ない(28.5%)」が最も多く、次いで「特に困りごと、不便なことはない(28.3%)」などとなっている。(身体・難病：問19、知的：問17、精神：問17)

福祉サービスの情報入手先は、いずれの障害も「区のおしらせ(身体・難病：38.5%、知的：38.3%、精神：28.0%)」が最も多い。次いで、身体障害者・難病患者は「区のホームページ(13.2%)」、知的障害者は「福祉センター(20.4%)」、精神障害者等は「病院・診療所(23.0%)」などとなっている。(身体・難病：問20、知的：問18、精神：問18)

(6) リハビリ・医療について (p. 83)

身体障害者・難病患者の機能回復訓練（リハビリ）の実施状況は、「機能回復訓練（リハビリ）を行っていない」が 68.3%、「行っている」が 20.5%となっている。機能回復訓練の内容は、「理学療法(13.9%)」が最も多い。(身体・難病：問 21)

身体障害者・難病患者と知的障害者の日常的な医療的ケアについては、「必要としている(身体・難病：19.8%、知的：17.9%)」、「必要としていない(身体・難病：67.8%、知的：65.4%)」となっている。(身体・難病：問 22、知的：問 19)

精神障害者等の通院・入院の状況については、「定期的に通院している(85.1%)」が最も多く、通院・往診の回数は、「1か月に1回程度(51.5%)」が最も多い。(精神：問 19、問 19-1、問 19-5)

(7) 就労・経済状況について (p. 88)

就労状況として、身体障害者・難病患者では 40.9%、知的障害者では 61.7%、精神障害者等では 49.6%が「働いている」と回答した。(身体・難病：問 23、知的：問 20、精神：問 20)

仕事の内容は、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「常勤の会社員(一般雇用)(身体・難病：38.5%、精神：38.6%)」が最も多く、知的障害者は「就労継続支援(A型・B型)事業所など(38.0%)」が最も多い。(身体・難病：問 23-1、知的：問 20-1、精神：問 20-1)

就労先での配慮については、身体障害者・難病患者は「特に配慮はされていない(37.4%)」が最も多く、次いで「健康状態(通院など)への配慮がある(29.3%)」が多い。知的障害者は、「仕事内容への配慮がある(67.0%)」が最も多く、次いで「働く場(環境)に配慮がある(55.0%)」が多い。精神障害者等は「健康状態(通院など)への配慮がある(34.5%)」が最も多く、次いで「特に配慮はされていない(31.7%)」が多い。(身体・難病：問 23-3、知的：問 20-3、精神：問 20-3)

障害のある人が働くために必要な環境については、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「健康状態にあわせた働き方ができること(身体・難病：55.1%、精神：65.2%)」、知的障害者は「一人ひとりにあった仕事や働く場が作られること(50.0%)」が最も多い。(身体・難病：問 24、知的：問 21、精神：問 21)

年収は、いずれの障害も「収入なし(身体・難病：33.7%、知的：35.2%、精神：36.5%)」が最も多い。(身体・難病：問 25、知的：問 22、精神：問 22)

(8) 社会参加・文化余暇活動の状況について (p. 100)

外出目的(外出先)は、身体障害者・難病患者は「医療機関への受診(通院)(74.1%)」が最も多く、次いで「買い物(74.0%)」などである。知的障害者と精神障害者等は「買い物(知的：61.7%、精神：79.0%)」が最も多く、次いで「医療機関への受診(通院)(知的：54.9%、精神：77.1%)」などとなっている。(身体・難病：問 26、知的：問 23、精神：問 23)

地域(町会など)主催イベントの参加状況は、いずれの障害も「参加したことはない(身体・難病：60.9%、知的：50.6%、精神：70.5%)」が最も多く、次いで「町会などのお祭り(身体・難病：27.4%、知的：37.0%、精神：19.6%)」などである。(身体・難病：問 27、知的：問 24、精神：問 24)

参加したい文化・芸術・余暇活動は、身体障害者・難病患者と精神障害者等は、「買い物、映画、コンサートなど(身体・難病：38.6%、精神：42.0%)」が最も多く、次いで「旅行(身体・難病：35.9%、

精神：35.1%)」などとなっている。知的障害者は「旅行(42.6%)」が最も多く、次いで「買い物、映画、コンサートなど(35.8%)」などとなっている。(身体・難病：問28、知的：問25、精神：問25)

文化・芸術・余暇活動参加の妨げになっていることは、いずれの障害も「特にない(身体・難病：32.2%、知的：27.2%、精神：29.5%)」、「新型コロナウイルス感染症の感染の不安(身体・難病：31.4%、知的：27.8%、精神：28.6%)」が上位1位、2位となっている。それ以外では、身体障害者・難病患者は「道路の段差や駅などの階段が不便(26.5%)」、知的障害者は「トイレが心配(20.4%)」、精神障害者等は「経済的理由(24.0%)」が多い。(身体・難病：問29、知的：問26、精神：問26)

(9) 権利擁護について(p.107)

成年後見制度の内容について、「よく知っている」と「名前・制度についてはおおよそ知っている」を合わせた<知っている>は、身体障害者・難病患者では36.2%、知的障害者では37.7%、精神障害者等では30.2%である。(身体・難病：問30、知的：問27、精神：問27)

成年後見制度利用の意向について、「既に利用している」と「今後利用したい」の合計は、身体障害者・難病患者では10.9%、知的障害者では28.4%、精神障害者等では10.5%である。(身体・難病：問31、知的：問28、精神：問28)

成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人の理由は、いずれの障害も「家族(親・親族)がまだ元気だから(身体・難病：58.2%、知的：58.8%、精神：34.6%)」が最も多い。次いで、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「他人に生活やお金の管理をしてほしくないから(身体・難病：10.5%、精神：19.0%)」、知的障害者は「費用の負担があるから(11.8%)」などとなっている。(身体・難病：問31-1、知的：問28-1、精神：問28-1)

法人後見の利用意向について、「既に利用している」と「今後利用したい」の合計は、身体障害者・難病患者では8.2%、知的障害者では17.2%、精神障害者等では10.6%である。(身体・難病：問32、知的：問29、精神：問29)

(10) 障害者等への区民の理解度について(p.119)

区民の理解度について、「とても理解されている」と「ある程度理解されている」を合計した<理解されている>は、身体障害者・難病患者では33.8%、知的障害者では37.6%、精神障害者等では25.2%である。(身体・難病：問35、知的：問32、精神：問32)

差別を感じた経験は、「よくある」と「時々ある」を合計した<ある>は、身体障害者・難病患者では17.5%、知的障害者では59.9%、精神障害者等では36.5%である。(身体・難病：問36、知的：問33、精神：問33)

東京2020大会開催による障害等への理解の変化の有無をたずねた。いずれの障害も「変化は感じなかった(身体・難病：67.8%、知的：61.7%、精神：74.3%)」が最も多い。それ以外では、いずれの障害も「外出や移動する時に感じた(身体・難病：11.2%、知的：9.3%、精神：8.1%)」が最も多い。(身体・難病：問37、知的：問34、精神：問34)

障害者差別の解消を推進するために必要なことでは、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「学校や生涯学習などで障害や難病についての教育を行うこと(身体・難病：36.8%、精神：37.6%)」、知的障害者は「わからない(31.5%)」が最も多く、次いで、身体障害者・難病患者は「わからない

(27.7%)」、知的障害者は「学校や生涯学習などで障害や難病に関する教育を行うこと(30.9%)」、精神障害者等は「障害者の一般就労を進めること(32.7%)」などとなっている。(身体・難病：問38、知的：問35、精神：問35)

合理的配慮として求めたいことは、身体障害者・難病患者と知的障害者は「困っているときは、どうしてほしいか聞いてから、対応してほしい(身体・難病：33.7%、知的：45.7%)」が最も多く、次いで、身体障害者・難病患者は「疲れたときやリラックスしたいときに使えるスペースを設けてほしい(27.4%)」、知的障害者は「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかけてほしい(34.0%)」などとなっている。精神障害者等は「疲れたときやリラックスしたいときに使えるスペースを設けてほしい(34.8%)」が最も多く、次いで「困っているときは、どうしてほしいか聞いてから、対応してほしい(32.0%)」などとなっている。(身体・難病：問40、知的：問37、精神：問37)

(11) 災害時の対策について(p.132)

災害時の避難場所を決めているかをたずねた。いずれの障害も「自宅に留まる(身体・難病：49.4%、知的：32.7%、精神：41.2%)」が最も多い。(身体・難病：問41、知的：問38、精神：問38)

災害時の援助者がいる人は、身体障害者・難病患者は70.2%、知的障害者は82.7%、精神障害者等は55.4%である。(身体・難病：問42、知的：問39、精神：問39)

災害時の不安なことは、いずれの障害も「避難するときに適切に行動や移動ができるか(身体・難病：43.9%、知的：50.0%、精神：42.8%)」が最も多い。次いで、身体障害者・難病患者と精神障害者等は「必要な医療的ケアを受けることができるか(身体・難病：42.8%、精神：38.3%)」、知的障害者は「周りの人から助けてもらえるか(42.6%)」などとなっている。(身体・難病：問44、知的：問41、精神：問41)

「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況は、身体障害者・難病患者では「同意している(13.5%)」、「同意していない(26.5%)」、知的障害者では「同意している(24.7%)」、「同意していない(18.5%)」、精神障害者等は「同意している(5.1%)」、「同意していない(22.9%)」などとなっている。また、情報提供に同意していない人に、その理由をたずねた。身体障害者・難病患者と精神障害者等は「一人で行動できるため(身体・難病：47.5%、精神：40.8%)」が最も多く、知的障害者は「手助けしてくれる人がいるため(40.0%)」が最も多い。(身体・難病：問45、問45-1、知的：問42、問42-1、精神：問42、問42-1)

(12) 感染症の影響について(p.140)

新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたことでは、いずれの障害も「外出の機会が減った(身体・難病：63.0%、知的：56.2%、精神：62.5%)」が最も多く、次いで身体障害者・難病患者と精神障害者等は「人と話す機会が減った(身体・難病：45.1%、精神：47.6%)」、知的障害者は「趣味活動や社会参加の頻度が減った(38.9%)」などとなっている。(身体・難病：問46、知的：問43、精神：問43)

(13) サービスの満足度について(p. 142)

中央区の施策・サービスの満足度は、「大変満足」と「やや満足」を合計した＜満足＞は、身体障害者・難病患者では66.2%、知的障害者では66.7%、精神障害者等では61.2%である。(身体・難病：問47、知的：問44、精神：問44)

2 項目別概要（子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査）**(1) お子さんと家族の状況について(p. 154)**

回答者は「母親(86.5%)」、「父親(11.7%)」である。(子ども：問1)

居住地域は、「月島地域(48.6%)」が最も多い。(子ども：問2)

お子さんの性別は、「男性(74.3%)」と「女性(25.2%)」である。(子ども：問3(1))

お子さんの年齢は、未就学児(「0歳～2歳(1.3%)」と「3歳～5歳(7.1%)」)を合わせると1割未満、小学生(「6歳～8歳(40.2%)」と「9歳～11歳(25.2%)」)を合わせると6割台、中学生「12歳～14歳(13.5%)」、高校生「15歳～17歳(11.5%)」が1割台である。(子ども：問3(2))

お子さんと同居している家族は「母親(97.2%)」、「父親(88.0%)」、「兄弟姉妹(65.1%)」である。(子ども：問4)

(2) 通園・通学の状況について(p. 157)

「通園・通学・通所している」子どもは97.2%ある。(子ども：問5)

「通園・通学・通所している」と回答した人の通園・通学・通所先は、「公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)(42.1%)」が最も多く、次いで「公立小学校(通常の学級に在籍)(18.8%)」、「特別支援学校小学部(7.9%)」などとなっている。(子ども：問5-1)

「通園・通学・通所している」と回答した人で通園・通学・通所に付き添いが「必要」な人は、28.0%となっている。(子ども：問5-2)

「通園・通学・通所している」と回答した人で、保育所・幼稚園・学校などが終わった後に過ごしている場所は、「ほとんど自宅にいる(62.3%)」が最も多く、次いで「放課後等デイサービス(区内の事業所)(17.5%)」、「プレディ(10.7%)」などとなっている。(子ども：問5-3)

(3) 育ちや発達の状況について(p. 161)**① 気になることや心配なこと、不安や疑問を感じた時期、きっかけ**

子どもの育ちや発達で気になることまたは心配なことが「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせると、380人(96.7%)が＜気になることまたは心配なことがある＞と回答している。

気になることまたは心配なことが「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせた＜気になることまたは心配なことがある人＞は、就学前では「言葉の遅れ(93.9%)」、「運動面での遅れ(93.9%)」が最も多く、次いで「進級・進学(84.8%)」、などとなっている。小学生では「行動面(82.9%)」が最も多く、次いで「性格(80.2%)」、「友達関係(75.4%)」などとなっている。中学

生では「学習面(78.0%)」が最も多く、次いで「行動面(74.0%)」、「性格(68.0%)」、「他人の気持ち
が推測できない(68.0%)」などとなっている。高校生では「進級・進学(90.2%)」が最も多く、次い
で「学習面(87.8%)」、「言葉の遅れ(78.0%)」、「性格(78.0%)」、「友達関係(78.0%)」などとなってい
る。(子ども：問6)

最初に不安や疑問を感じた時期は、「0歳～3歳未満(50.3%)」が最も多く、次いで「3歳～就学前
(32.4%)」、「小学校1～3年(13.2%)」などとなっている。8割以上が就学前に不安や疑問を感じてい
る。(子ども：問6-1)

不安や疑問を感じたきっかけは、「父親や母親が気づいた(47.9%)」が最も多く、次いで「保育所
保育士・幼稚園教諭などに指摘された(15.8%)」、「出産前後に、医療機関などで指摘された(11.6%)」
などとなっている。(子ども：問6-2)

② 相談の経験、効果

「現在相談している」または「過去に相談していた」をあわせた〈相談経験あり〉について誰(ど
こ)に相談しているかをみると、相談した人は「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(88.3%)」が最
も多く、次いで「配偶者(87.0%)」、「祖父母・兄弟などの親族(67.7%)」などとなっている。相談機
関は「医療機関(69.2%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センター ゆりのき(56.2%)」、「教
育センター(45.8%)」などとなっている。(子ども：問7)

〈相談経験あり〉の人に、相談の効果をたずねたところ、相談した人・相談機関ともに「具体的
な対応方法を考えることができた」、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」の回答が多い。(子
ども：問7-1)

③ 育ちや発達についての診断

子どもの育ちや発達について、診断を「受けた」は64.6%である。(子ども：問8)

診断名は、「自閉症スペクトラム、広汎性発達障害、ASD、アスペルガー」が60件(23.6%)で
最も多く、次いで「ADHD、多動、ADD」が44件(17.3%)、「知的障害、発達遅滞(発達障害との重複
を含む)」が35件(13.8%)などとなっている。(子ども：問8-1)

診断を受けた時期は「6歳～8歳(31.9%)」が最も多く、次いで「3歳～5歳(30.3%)」、「0歳～2
歳(26.8%)」などとなっている。(子ども：問8-2)

持っている障害者手帳または受給者証は、「持っていない(48.9%)」が最も多く、それ以外では、
「愛の手帳(24.7%)」が最も多く、次いで、「身体障害者手帳(15.0%)」、「障害福祉サービス受給者
証(14.0%)」などとなっている。(子ども：問9)

④ 医療的ケア

日常的に何らかの医療的ケアを「必要としている」子どもは35人(8.9%)で「痰などの吸引」と
「ネブライザー」がいずれも12人(34.3%)、「経管栄養(経鼻、胃ろう、腸ろう含む)」が11人(31.4%)
などとなっている。(子ども：問10、問10-1)

医療的ケアを必要としている子どもの移動能力は、「ひとりで歩けない(車椅子(バギー)を使
用し、介助が必要)」が14人(40.0%)で最も多い。(子ども：問10-2)

(4) サービスの利用状況について(p. 202)

① サービスの利用状況

福祉サービスについて、「知っている、利用している」と「知っているが、利用していない」をあわせて<認知度>、「知っている利用している」と回答した<利用状況>をたずねた。<認知度>では、「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」が71.5%で最も多く、次いで「保育所等訪問支援(49.9%)」などとなっている。<利用状況>では、「放課後等デイサービス(27.0%)」が最も多く、次いで「児童発達支援(24.2%)」、「保育所等訪問支援(10.9%)」などとなっている。(子ども：問11)

福祉サービス・支援を利用していない理由は、「必要がないため(49.0%)」が最も多く、それ以外では「サービス・支援を知らなかったため(24.0%)」が最も多く、次いで「利用方法がわからない・知らなかったため(18.8%)」などとなっている。(子ども：問11-1)

福祉サービス・支援の支給量のニーズ充足度は、「十分である(27.5%)」、「足りない(26.4%)」などとなっている。支給量が「足りない」と回答した人の不足している福祉サービス・支援は、「放課後等デイサービス(48.9%)」が最も多く、次いで「児童発達支援(38.3%)」、「移動支援事業(19.1%)」などとなっている。(子ども：問11-2)

福祉サービス・支援を利用する上で困っていることは、「特に困ったことはない(35.9%)」が最も多く、それ以外では「サービス・支援の情報が入手しにくい(30.5%)」が最も多く、次いで「条件が合わなく利用したいサービス・支援が使えない(26.7%)」、「利用方法がわかりにくい(21.4%)」などとなっている。(子ども：問12)

医療保険制度による在宅サービスを利用している人は36人(9.2%)で、「訪問リハビリ(理学療法)」は26人(6.6%)、「訪問看護」は16人(4.1%)、「訪問診療」は10人(2.5%)が利用している。(子ども：問13)

② 切れ目のない支援

切れ目のない一貫した支援を目指す中央区の取り組みについて、「必要と思う・進めてほしい(85.5%)」が最も多く、8割を超えている。(子ども：問14)

「育ちのサポートカルテ」の活用状況は、「活用している(23.4%)」、「知らなかったが、今後活用を検討したい(32.8%)」、「知っているが、活用していない(18.6%)」、「知らなかったし、今後も活用しない(24.7%)」となっている。(子ども：問15)

「活用している」または「知っているが、活用していない」と回答した人の「育ちのサポートカルテ」を知ったきっかけは、「子ども発達支援センターの先生に勧められた(35.8%)」が最も多く、次いで「区施設等の掲示物を見た(14.5%)」、「子ども発達支援センターの講演会を通して知った(12.1%)」などとなっている。(子ども：問15-1)

「知っているが、活用していない」または「知らなかったし、今後も活用しない」と回答した人の育ちのサポートカルテを活用していない理由は、「特別な支援は必要ないから(30.0%)」が最も多く、次いで「申請や活用の方法がわからないから(15.3%)」などとなっている。(子ども：問15-2)

(5) 主たる養育者の状況について (p. 219)

主たる養育者の年齢は「40～49 歳(61.1%)」が最も多く、次いで「35～39 歳(18.3%)」、「50～59 歳(17.0%)」などとなっている。(子ども：問 16)

主たる養育者の健康状態は「よい(35.9%)」と「まあよい(19.8%)」をあわせた<よい>は 55.7%、「あまりよくない(12.7%)」と「よくない(1.3%)」をあわせた<よくない>は 14.0%である。(子ども：問 17)

主たる養育者の就労状況は「働いている(74.6%)」が「働いていない(25.2%)」よりも 49.4 ポイント高く、働いている人の就労形態は「正規雇用(正社員など)(52.6%)」が最も多い。(子ども：問 18、問 18-1)

(6) 相談について (p. 222)

主たる養育者が困っていること、不安に思っていることは「子どもの進学・就職・将来の生活に関すること(79.6%)」が最も多く、次いで「子どもの対人関係・集団生活に関すること(56.0%)」、「子どもの育ちや発達に関すること(54.2%)」などとなっている。(子ども：問 19)

近所の人で、生活のことやお子さんのことで頼れる人がいるかをたずねたところ、「いる(37.9%)」は「いない(61.1%)」よりも 23.2 ポイント低くなっている。(子ども：問 20)

相談窓口で相談しやすくなるために必要なことは、「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてくれること(66.2%)」が最も多く、次いで「相談・支援の窓口が身近にあること(64.9%)」、「相談の予約を取りやすくすること(45.3%)」などとなっている。(子ども：問 21)

育ちや発達に関する専門機関や医療機関にどのような支援を希望するかたずねたところ、「相談や診断後の継続的なフォロー(58.3%)」が最も多く、次いで「専門性に基づいた具体的な助言(51.1%)」、「わかりやすい説明や助言(48.1%)」などとなっている。(子ども：問 22)

(7) 子どもの育ち等への理解について (p. 225)

近所の人に、お子さんの育ちや発達のことについて理解されていると「感じる」が 40.7%、「感じない」が 56.7%となっている。「感じない」が「感じる」よりも 16.0 ポイント高くなっている。(子ども：問 23)

主たる養育者が望む地域のあり方は「子どもの特性や障害に理解がある(64.4%)」が最も多く、次いで「子どもに対して温かい声かけがある(59.0%)」、「災害時の助け合いがある(51.1%)」などとなっている。(子ども：問 24)

東京 2020 大会開催によるお子さんの育ちや発達への理解の変化の有無をたずねた。「変化は感じなかった(82.2%)」が最も多く、それ以外では「身近な地域の中で感じた(6.6%)」が最も多く、次いで「外出や移動する時に感じた(5.6%)」、「スポーツや趣味活動の中で感じた(3.8%)」などとなっている。(子ども：問 25)

障害等への理解の普及に必要なことは、「学校等や生涯学習で障害や難病に関しての教育を行うこと(57.8%)」が最も多く、次いで「ダイバーシティ(多様性)の取組を推進すること(44.5%)」、「障害者の一般就労を進めること(39.4%)」などとなっている。(子ども：問 26)

(8) 子どもの将来について (p. 228)

お子さんの将来の働き方の希望では、「会社やお店などで働く（一般就労）（60.8%）」が最も多く、次いで「わからない（19.3%）」、「その他（10.2%）」などとなっている。（子ども：問 27）

障害のある人が働くために必要な環境については、「一人一人にあった仕事や働く場が作られること（73.5%）」が最も多く、次いで「仕事に慣れた後も、困った時に支援を受けられる制度があること（62.3%）」、「職場や地域の人たちが障害などのある人を理解し、配慮していること（59.0%）」などとなっている。（子ども：問 28）

(9) 感染症の影響について (p. 230)

新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたことでは、「外出の機会が減った（55.0%）」が最も多く、次いで「人と話す機会が減った（39.7%）」、「子どもが通園・登校できなかった（39.2%）」などとなっている。（子ども：問 29）

(10) 今後の区の取組について (p. 231)

中央区で実施している育ちに支援を必要とする子ども達に対する施策・サービスについての満足度は、「大変満足（13.2%）」と「やや満足（47.6%）」をあわせた＜満足＞は 60.8%、「やや不満（28.5%）」と「非常に不満（8.4%）」をあわせた＜不満＞は 36.9%で、＜満足＞は＜不満＞よりも 23.9 ポイント高くなっている。（子ども：問 30）

子どもの育ちや発達に関する問題を解決するために、優先すべき施策（体制づくり）は、「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制（54.7%）」が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者と連携・協力して解決する相談支援体制（44.8%）」、「発達に関する支援が途切れることのないよう継続して一貫した支援を行う体制（37.7%）」などとなっている。（子ども：問 31）

第 2 部 調査の結果

<図表の見方>

- a. 回答は、それぞれの質問の回答者数を基数とした百分率(%)で示している。それぞれの質問の回答者数は、全体の場合はN (Number of case)、それ以外の場合にはnと表記している。
- b. %は小数点以下第2位を四捨五入し、小数点以下第1位までを表記している。従って、回答の合計が必ずしも100.0%にならない場合(例えば99.9%、100.1%)がある。
- c. 回答者が2つ以上回答することのできる質問(複数回答)については、%の合計は100%にならないことがある。
- d. 本文及びグラフ中の設問文ならびに選択肢の表現は一部省略されている。
- e. 令和元年度(前回調査)との比較では、選択肢が一部異なる設問もある。
- f. クロス集計表の表側(年齢、居住地、世帯状況等)での未回答や、障害の種別等の重複する方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。また、表頭(設問の選択肢)の未回答や、「その他」、「無回答」を非表示にしている。

第1章 障害者・難病患者の実態調査

1 本人について

(1) 回答者

身体・難病：問1、知的：問1、精神：問1

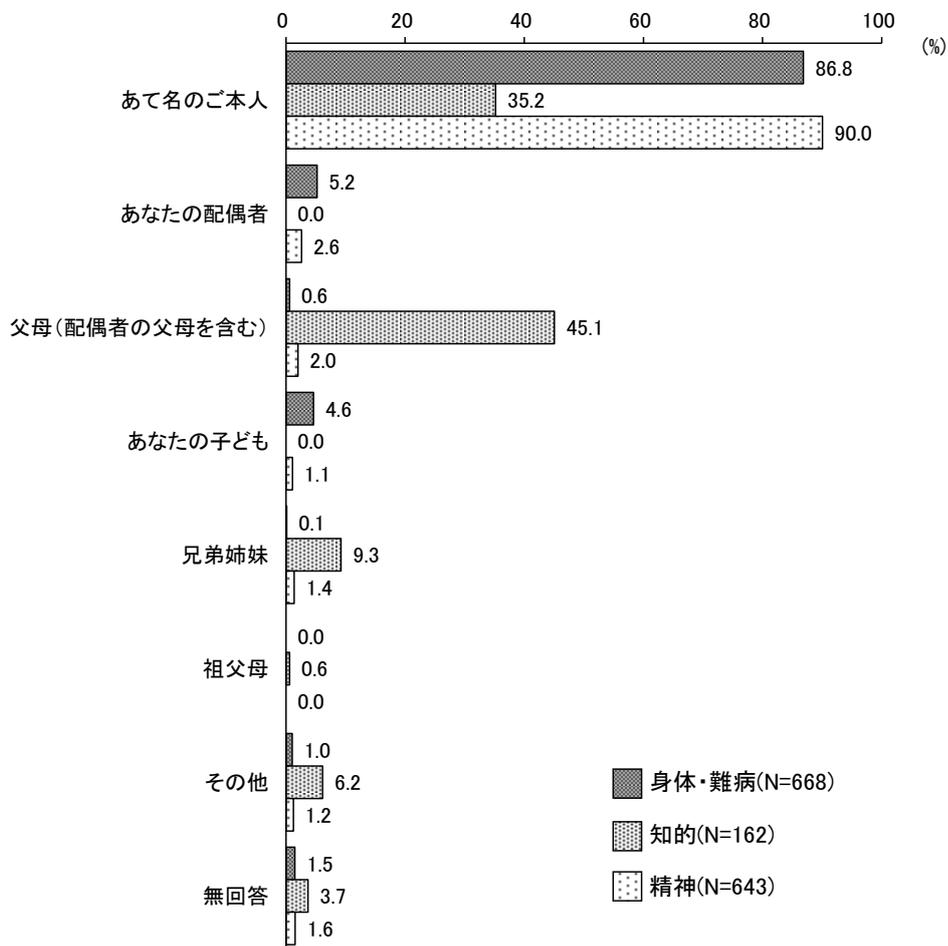
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、この調査の回答者をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「あなた（あて名のご本人）（86.8%）」が最も多く、次いで「あなたの配偶者（5.2%）」、「あなたの子ども（4.6%）」などとなっている。

知的障害者は、「あなたの父母（配偶者の父母を含む）（45.1%）」が最も多く、次いで「あなた（あて名のご本人）（35.2%）」、「あなたの兄弟姉妹（9.3%）」などとなっている。

精神障害者等は、「あなた（あて名のご本人）（90.0%）」が最も多く、次いで「あなたの配偶者（2.6%）」、「あなたの父母（配偶者の父母を含む）（2.0%）」などとなっている。（図1-1-1）

図1-1-1 回答者（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等）
<全体>



(2) 性別・年齢

① 性別

身体・難病：問2(1)、知的：問2(1)、精神：問2(1)

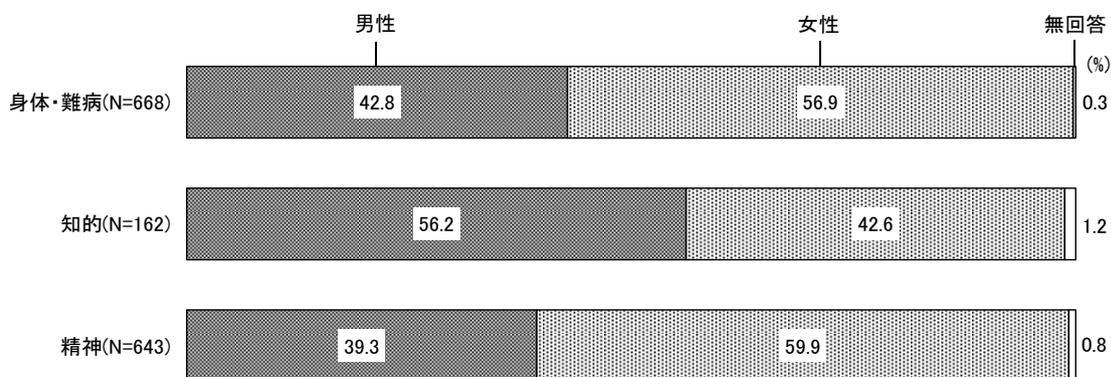
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、性別をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「男性(42.8%)」、「女性(56.9%)」である。

知的障害者は、「男性(56.2%)」、「女性(42.6%)」である。

精神障害者等は、「男性(39.3%)」、「女性(59.9%)」である。(図1-1-2)

図1-1-2 性別(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<全体>



② 年齢

身体・難病：問2(2)、知的：問2(2)、精神：問2(2)

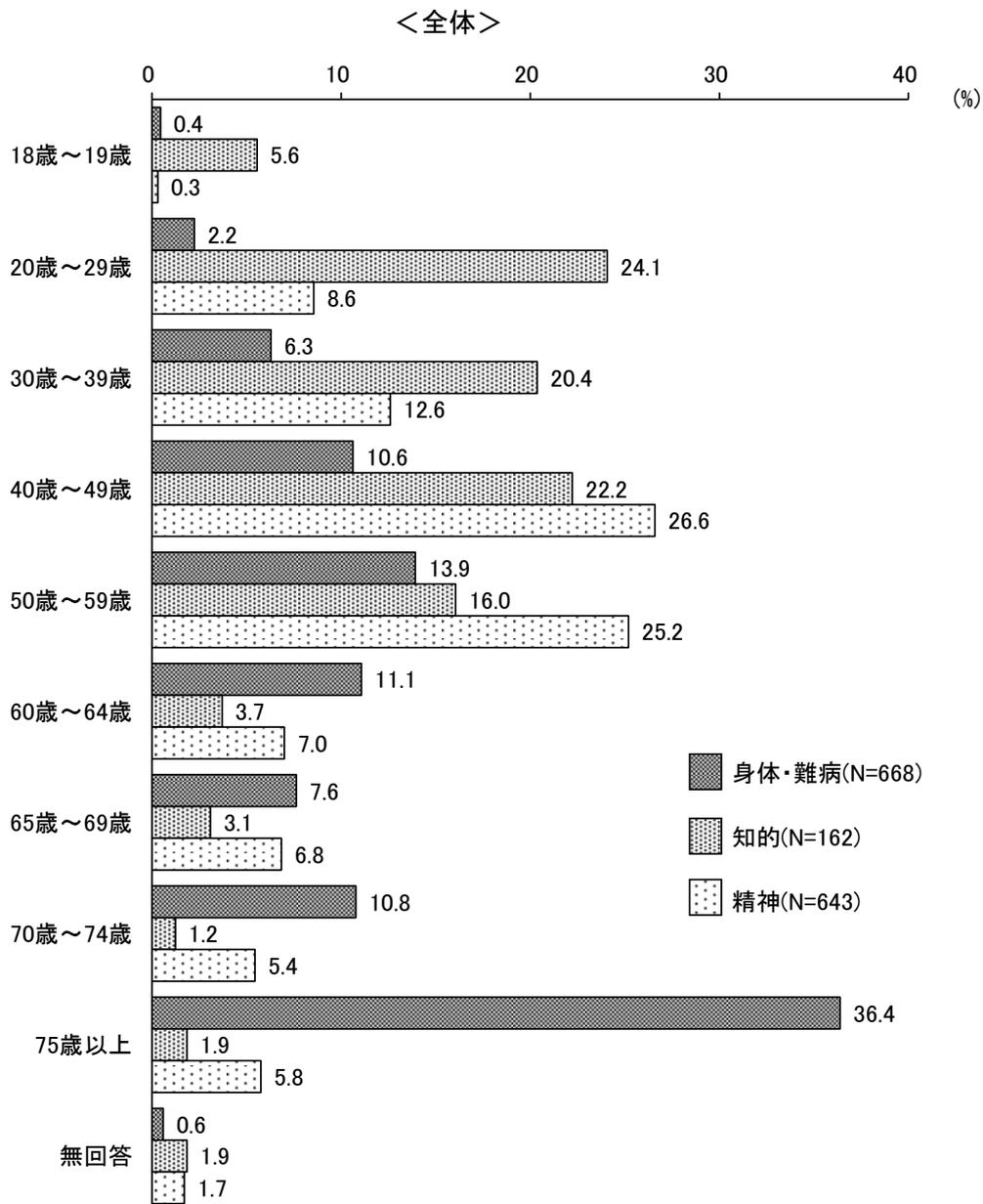
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、年齢をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「75歳以上(36.4%)」が最も多く、次いで「50歳～59歳(13.9%)」、「60歳～64歳(11.1%)」、「70歳～74歳(10.8%)」「40歳～49歳(10.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「20歳～29歳(24.1%)」が最も多く、次いで「40歳～49歳(22.2%)」、「30歳～39歳(20.4%)」、「50歳～59歳(16.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「40歳～49歳(26.6%)」が最も多く、次いで「50歳～59歳(25.2%)」、「30歳～39歳(12.6%)」などとなっている。(図1-1-3)

図1-1-3 年齢(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(3) 居住地域

身体・難病：問3、知的：問3、精神：問3

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、居住している地域をたずねた。

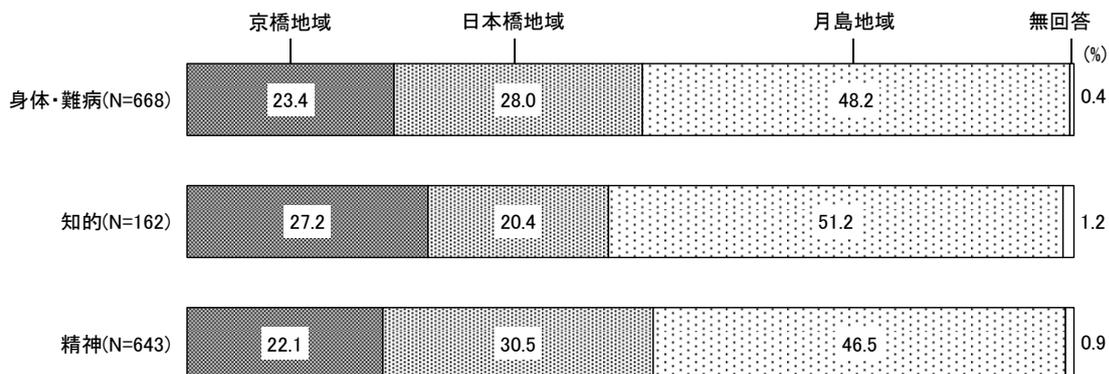
身体障害者・難病患者は、「月島地域(48.2%)」が最も多く、次いで「日本橋地域(28.0%)」、「京橋地域(23.4%)」となっている。

知的障害者は、「月島地域(51.2%)」が最も多く、次いで「京橋地域(27.2%)」、「日本橋地域(20.4%)」となっている。

精神障害者等は、「月島地域(46.5%)」が最も多く、次いで「日本橋地域(30.5%)」、「京橋地域(22.1%)」となっている。(図1-1-4)

図1-1-4 居住地域(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



(4) 世帯状況

身体・難病：問4、知的：問4、精神：問4

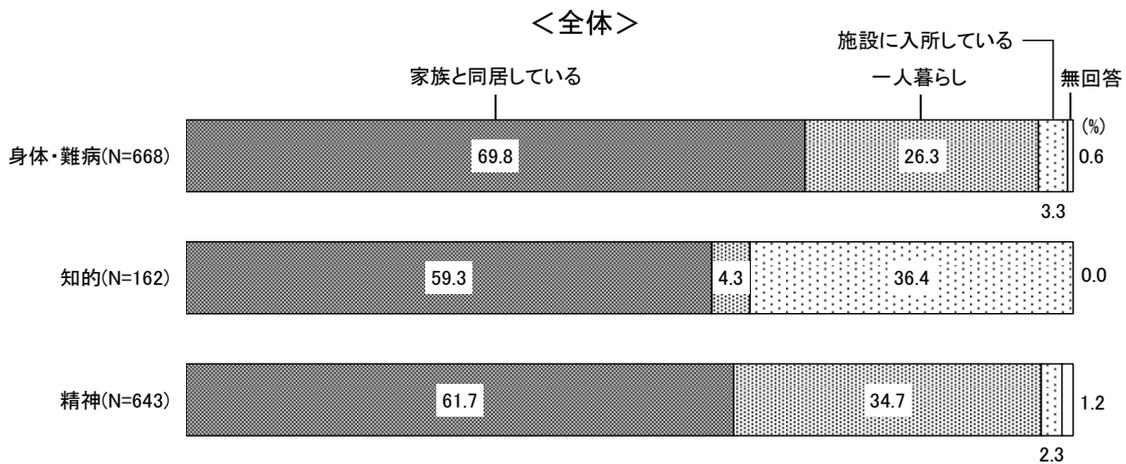
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、世帯状況をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「家族と同居している(69.8%)」が最も多く、次いで「一人暮らし(26.3%)」、「施設に入所している(グループホームを含む)(3.3%)」となっている。

知的障害者は、「家族と同居している(59.3%)」が最も多く、次いで「施設に入所している(グループホームを含む)(36.4%)」、「一人暮らし(4.3%)」となっている。

精神障害者等は、「家族と同居している(61.7%)」が最も多く、次いで「一人暮らし(34.7%)」、「施設に入所している(グループホームを含む)(2.3%)」となっている。(図1-1-5)

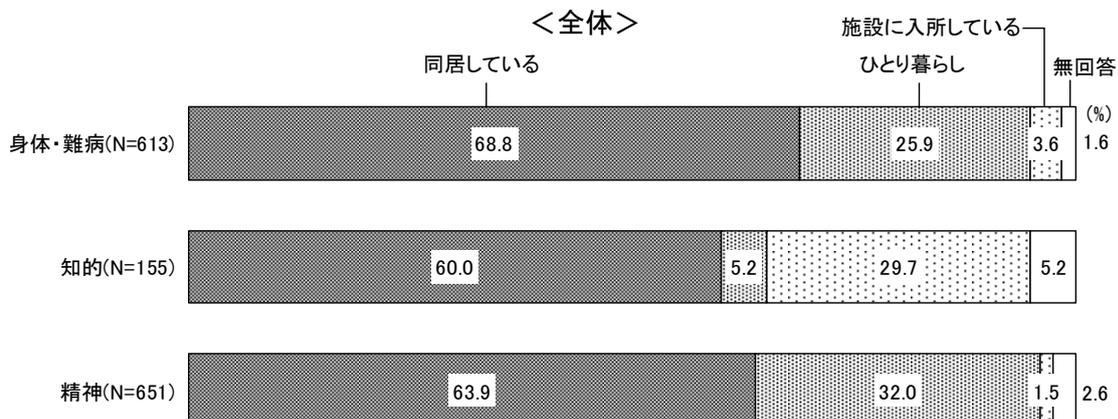
図1-1-5 世帯状況(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、知的障害者では「無回答」の割合がなくなり、「施設に入所している」は29.7%から36.4%と6.7ポイント高くなっている。身体障害者・難病患者、精神障害者等は、同様な傾向を示している。(図1-1-6)

図1-1-6 【令和元年度調査】同居者(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



① 同居者の続柄

身体・難病：付問 4-1、知的：付問 4-1、精神：問 4-1

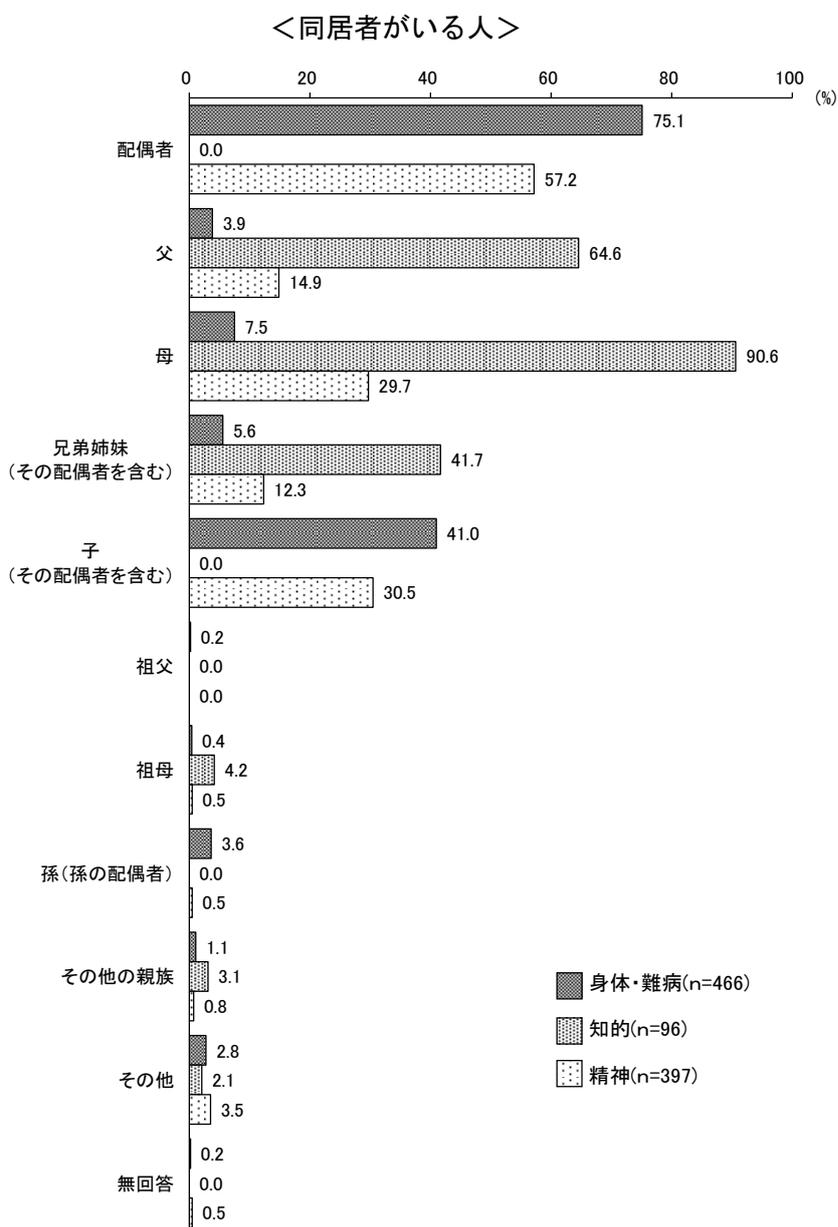
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、同居者がいる人に同居者の続柄をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「配偶者(75.1%)」が最も多く、次いで「子(その配偶者を含む)(41.0%)」、「母(7.5%)」、「兄弟姉妹(その配偶者を含む)(5.6%)」、「父(3.9%)」などとなっている。

知的障害者は、「母(90.6%)」が最も多く、次いで「父(64.6%)」、「兄弟姉妹(その配偶者を含む)(41.7%)」などとなっている。一方、「配偶者」、「子」は0.0%となっている

精神障害者等は、「配偶者(57.2%)」が最も多く、次いで「子(その配偶者を含む)(30.5%)」、「母(29.7%)」、「父(14.9%)」、「兄弟姉妹(その配偶者を含む)(12.3%)」などとなっている。(図 1-1-7)

図 1-1-7 同居者の続柄(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(5) 持っている手帳・医療受給者証の種類

身体・難病：問5、知的：問5、精神：問5

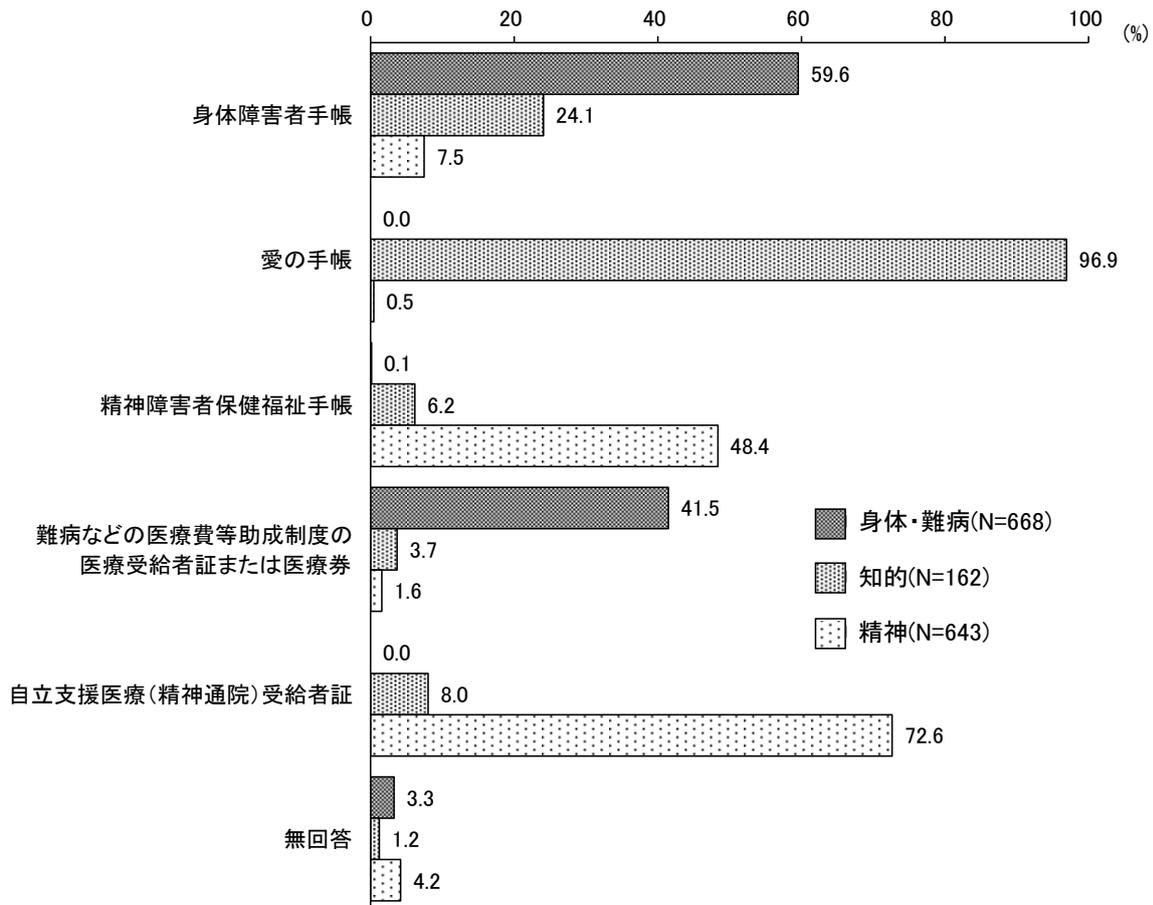
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、持っている手帳または医療受給者証の種類をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「身体障害者手帳(59.6%)」が最も多く、次いで「難病などの医療費等助成制度の医療受給者証または医療券(41.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「愛の手帳(96.9%)」が最も多く、次いで「身体障害者手帳(24.1%)」、「自立支援医療(精神通院)受給者証(8.0%)」、「精神障害者保健福祉手帳(6.2%)」などとなっている。

精神障害者等は、「自立支援医療(精神通院)受給者証(72.6%)」が最も多く、次いで「精神障害者保健福祉手帳(48.4%)」、「身体障害者手帳(7.5%)」などとなっている。(図1-1-8)

図1-1-8 持っている手帳・医療受給者証の種類
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)
<全体>



① 障害の程度（級・度）

身体・難病：問5①、知的：問5②、精神：問5③

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、身体障害者手帳、愛の手帳、精神障害者保健福祉手帳を持っている人に障害の程度（級・度）をたずねた。

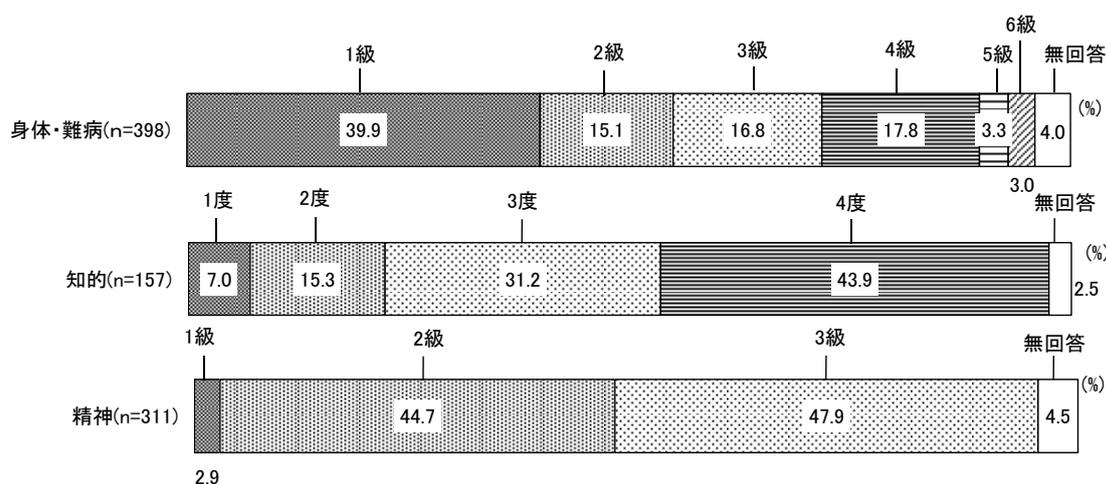
身体障害者・難病患者は、「1級(39.9%)」が最も多く、次いで「4級(17.8%)」、「3級(16.8%)」、「2級(15.1%)」などとなっている。

知的障害者は、「4度(43.9%)」が最も多く、次いで「3度(31.2%)」、「2度(15.3%)」、「1度(7.0%)」となっている。

精神障害者等は、「3級(47.9%)」が最も多く、次いで「2級(44.7%)」、「1級(2.9%)」となっている。(図1-1-9)

図1-1-9 障害の程度(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<手帳を持っている人>

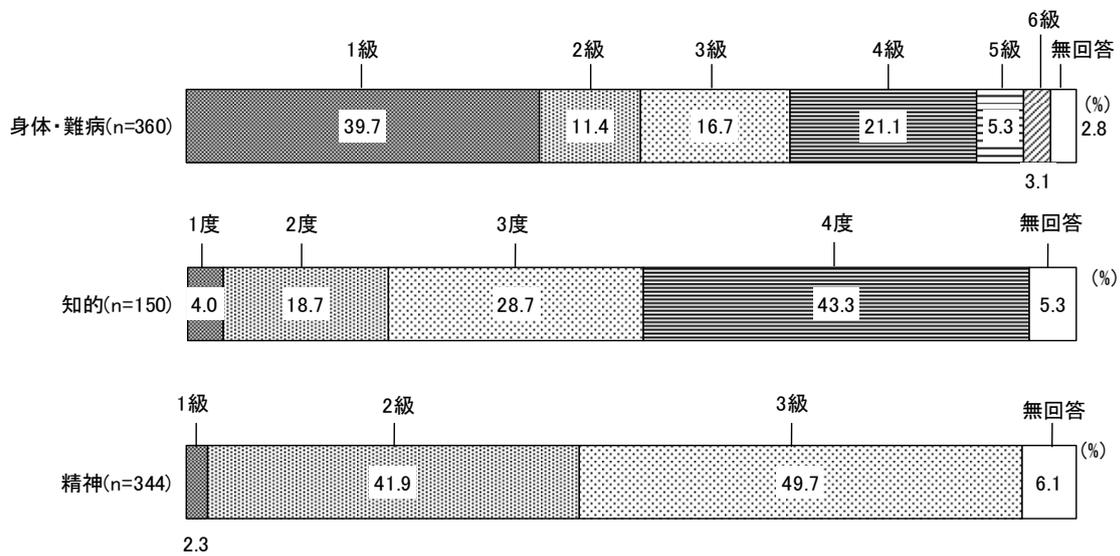


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、全体では大きな変化は見られないが、身体障害者・難病患者では、「2級」は11.4%から15.1%と3.7ポイント高く、「4級」は21.1%から17.8%と3.3ポイント低くなっている。

知的障害者では、「1度」は4.0%から7.0%と3.0ポイント高く、「2度」は18.7%から15.3%と3.4ポイント低くなっている。(図1-1-10)

図1-1-10 【令和元年度調査】障害の程度
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<手帳を持っている人>



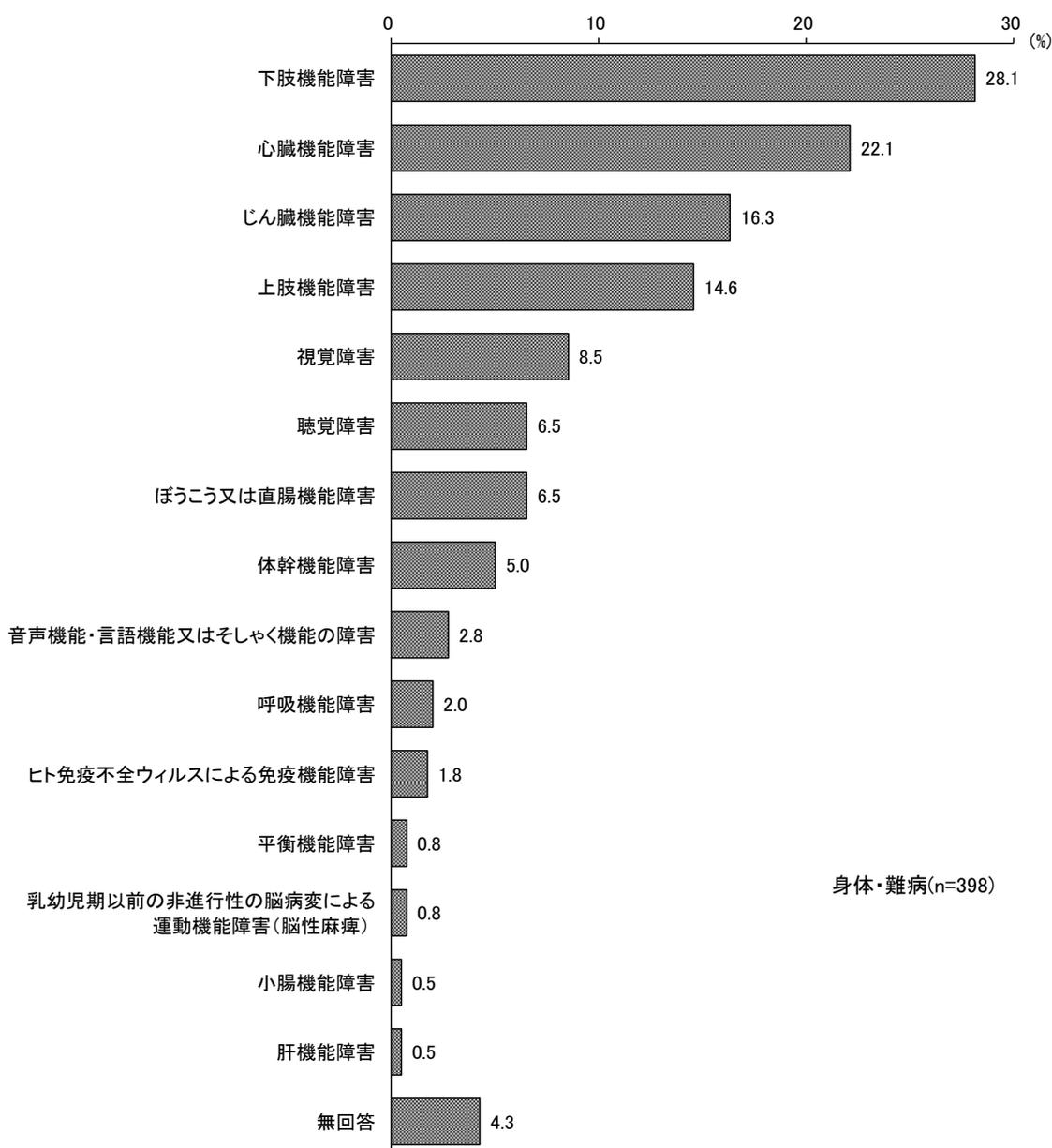
② 身体障害者手帳の障害の種類

身体・難病：付問 5-1

身体障害者・難病患者（身体障害者手帳所持者）に障害の種類をたずねた。

「下肢機能障害(28.1%)」が最も多く、次いで「心臓機能障害(22.1%)」、「じん臓機能障害(16.3%)」、「上肢機能障害(14.6%)」などとなっている。(図 1-1-11)

図 1-1-11 障害の種類(身体障害者・難病患者：複数回答)
 <身体障害者手帳を持っている人>



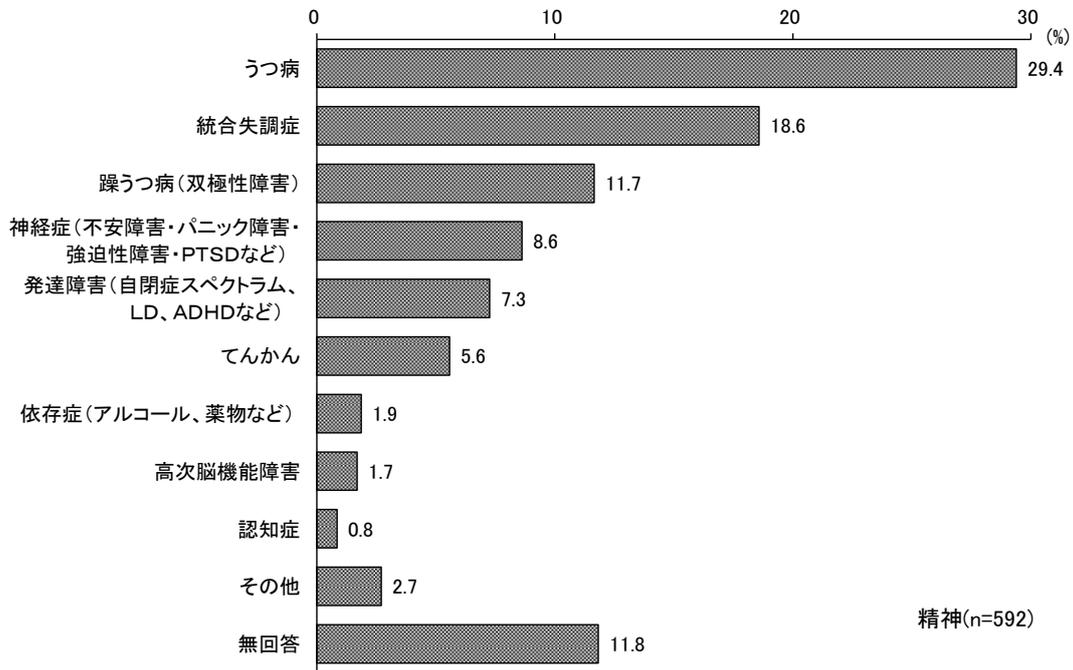
③ 精神疾患の種類

精神：付問 5-1

精神障害者等に疾患の種類をたずねた。

「うつ病(29.4%)」が最も多く、次いで「統合失調症(18.6%)」、「躁うつ病(双極性障害)(11.7%)」などとなっている。(図 1-1-12)

図 1-1-12 疾患の種類(精神障害者等)
 <精神障害者保健福祉手帳等を持っている人>



(6) 高次脳機能障害の診断の有無

身体・難病：問6

身体障害者・難病患者に高次脳機能障害の診断の有無をたずねた。

「受けている(4.6%)」、「受けていない(93.3%)」である。(図1-1-13)

図1-1-13 高次脳機能障害の診断の有無(身体障害者・難病患者)

<全体>



(7) 介護保険サービスの利用状況

身体・難病：問7、知的：問6、精神：問6

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、介護保険サービスの利用状況をたずねた。
身体障害者・難病患者(40歳以上)は、「利用している(25.8%)」、「利用していない(71.7%)」である。

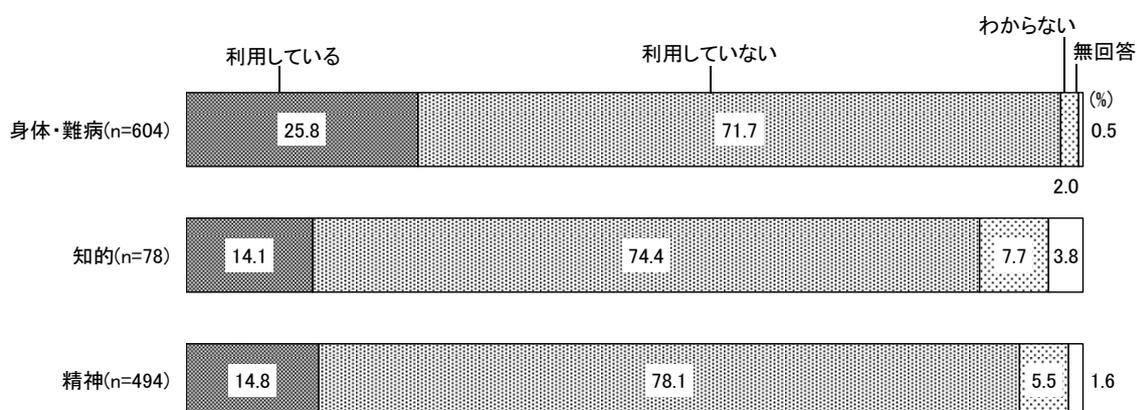
知的障害者(40歳以上)は、「利用している(14.1%)」、「利用していない(74.4%)」である。

精神障害者等(40歳以上)は、「利用している(14.8%)」、「利用していない(78.1%)」である。

(図1-1-14)

図1-1-14 介護保険サービスの利用状況(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<40歳以上>



2 住まいについて

(1) 住居形態

身体・難病：問8、知的：問7、精神：問7

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、住居形態をたずねた。

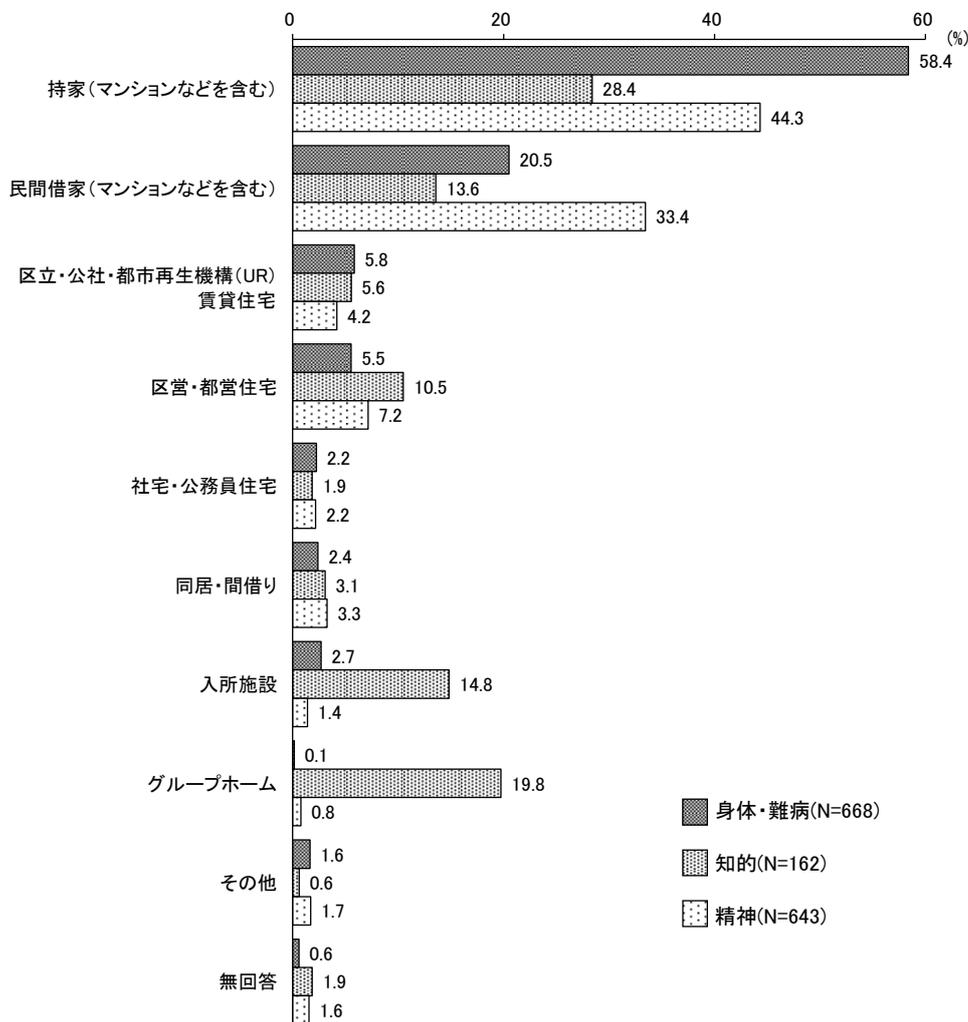
身体障害者・難病患者は、「持家（マンションなどを含む）（58.4%）」が最も多く、次いで「民間借家（マンションなどを含む）（20.5%）」、「区立・公社・都市再生機構（UR）賃貸住宅（5.8%）」、「区営・都営住宅（5.5%）」などとなっている。

知的障害者は、「持家（マンションなどを含む）（28.4%）」が最も多く、次いで「グループホーム（19.8%）」、「入所施設（14.8%）」、「民間借家（マンションなどを含む）（13.6%）」、「区営・都営住宅（10.5%）」などとなっている。

精神障害者等は、「持家（マンションなどを含む）（44.3%）」が最も多く、次いで「民間借家（マンションなどを含む）（33.4%）」、「区営・都営住宅（7.2%）」、「区立・公社・都市再生機構（UR）賃貸住宅（4.2%）」などとなっている。（図1-2-1）

図1-2-1 住居形態（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等）

<全体>



(2) 住宅設備改善費の認知度・利用状況

身体・難病：問9

身体障害者・難病患者に、住宅設備改善費の認知度・利用状況をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「知っているが、利用したことがある(13.3%)」、「知っているが、利用したことはない(39.7%)」、「知らない(46.3%)」である。「知っているが、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、53.0%となっている。(図1-2-2)

図1-2-2 住宅設備改修費の認知度・利用状況(身体障害者・難病患者)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っているが、利用したことがある」は9.0%から13.3%と4.4ポイント高く、「知っているが、利用したことはない」は26.9%から39.7%と12.8ポイント高くなり、「知っているが、利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、25.9%から53.0%と17.1ポイント高くなっている。(図1-2-3)

図1-2-3 【令和元年度調査】住宅設備改修費の認知度・利用状況
(身体障害者・難病患者)



(3) 今後の暮らしの希望

身体・難病：問10、知的：問8、精神：問8

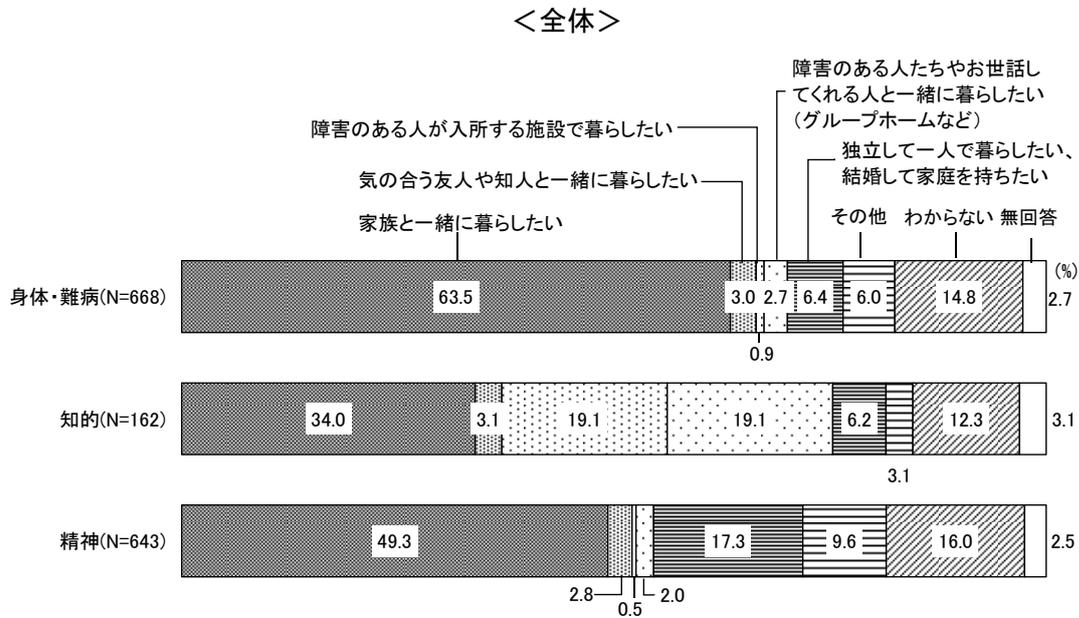
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、今後の暮らしの希望をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「家族と一緒に暮らしたい(63.5%)」が最も多く、次いで「わからない(14.8%)」、「独立して一人で暮らしたい、結婚して家庭を持ちたい(6.4%)」などとなっている。

知的障害者は、「家族と一緒に暮らしたい(34.0%)」が最も多く、次いで「障害のある人が入所する施設で暮らしたい(19.1%)」、「障害のある人たちやお世話してくれる人と一緒に暮らしたい(グループホームなど)(19.1%)」、「わからない(12.3%)」などとなっている。

精神障害者等は、「家族と一緒に暮らしたい(49.3%)」が最も多く、次いで「独立して一人で暮らしたい、結婚して家庭を持ちたい(17.3%)」、「わからない(16.0%)」などとなっている。(図1-2-4)

図1-2-4 今後の暮らしの希望(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



3 日常生活の中での介助について

(1) 日常生活の行動に関する支援の状況

身体・難病：問11、知的：問9、精神：問9

ア 食事をとる／食事のしたくや後片付け

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で食事をとることができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人でできる(82.9%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人でできる(6.9%)」、「少し手助けが必要(3.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人でできる(67.3%)」が最も多く、次いで「少し手助けが必要(11.1%)」、「手助けが必要(9.9%)」などとなっている。(図1-3-1)

精神障害者等に、自分ひとりで食事の支度や後片付けをすることができるかたずねた。

精神障害者等は、「一人でできる(52.6%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(31.7%)」などとなっている。(図1-3-2)

図1-3-1 食事をとる(身体障害者・難病患者、知的障害者)

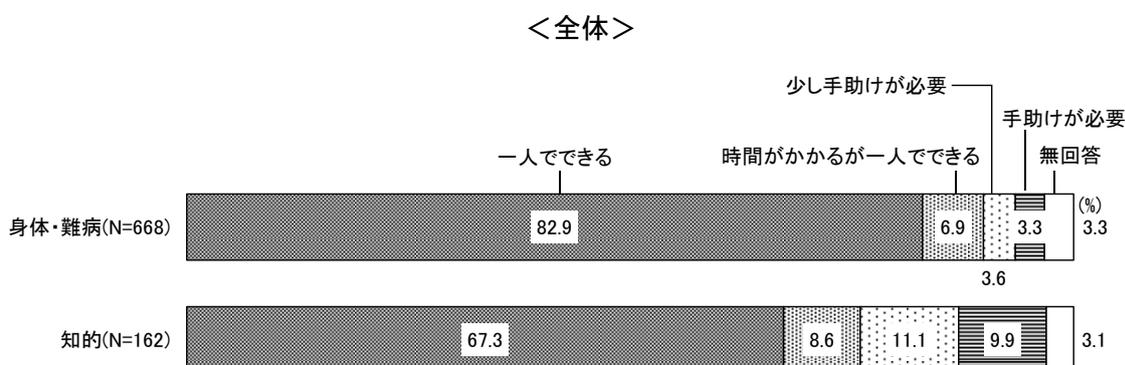


図1-3-2 食事のしたくや後片付け(精神障害者等)



イ 家事をする／調理、掃除、洗濯

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で家事（調理、掃除、洗濯）をすることができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人でできる(62.4%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(15.4%)」などとなっている。

知的障害者は、「手助けが必要(48.1%)」が最も多く、次いで「一人でできる(20.4%)」などとなっている。(図1-3-3)

精神障害者等に、自分ひとりで掃除・洗濯をすることができるかたずねた。

精神障害者等は、「一人でできる(53.7%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(30.2%)」などとなっている。(図1-3-4)

図1-3-3 家事をする(身体障害者・難病患者、知的障害者)

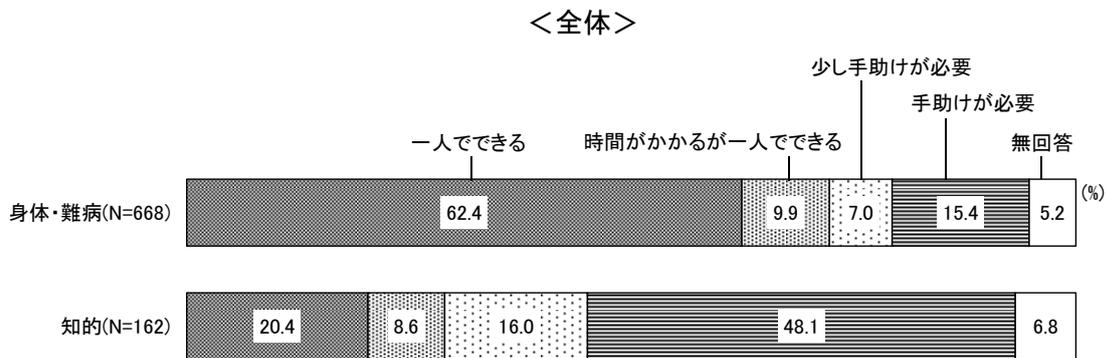
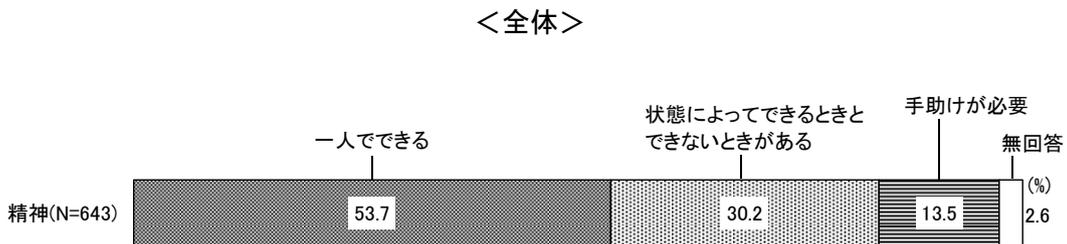


図1-3-4 掃除、洗濯(精神障害者等)



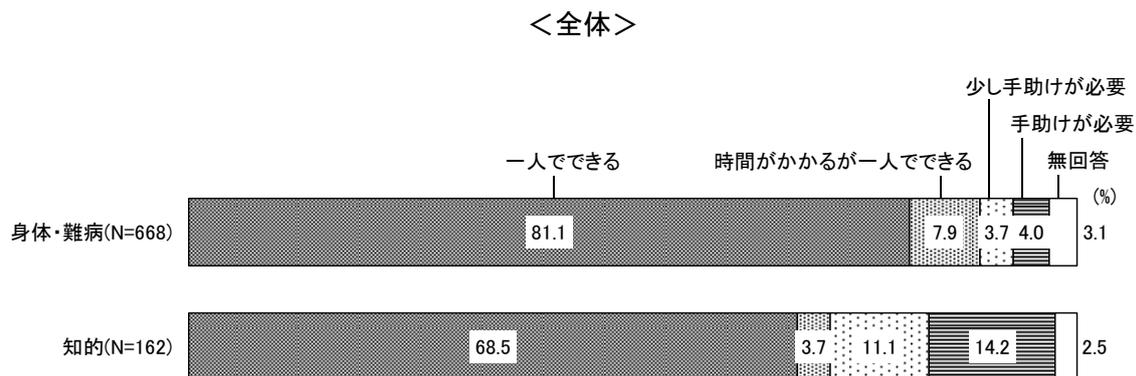
ウ トイレを使う

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人でトイレを使うことができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人でできる(81.1%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人でできる(7.9%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人でできる(68.5%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(14.2%)」などとなっている。(図 1-3-5)

図 1-3-5 トイレを使う(身体障害者・難病患者、知的障害者)



エ 着替えをする／身だしなみ

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で着替えをすることができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人で行える(76.3%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人で行える(9.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人で行える(67.9%)」が最も多く、次いで「少し手助けが必要(11.1%)」などとなっている。(図 1-3-6)

精神障害者等に、自分一人で身だしなみを整えることができるかたずねた。

精神障害者等は、「一人で行える(69.7%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(22.9%)」などとなっている。(図 1-3-7)

図 1-3-6 着替えをする(身体障害者・難病患者、知的障害者)

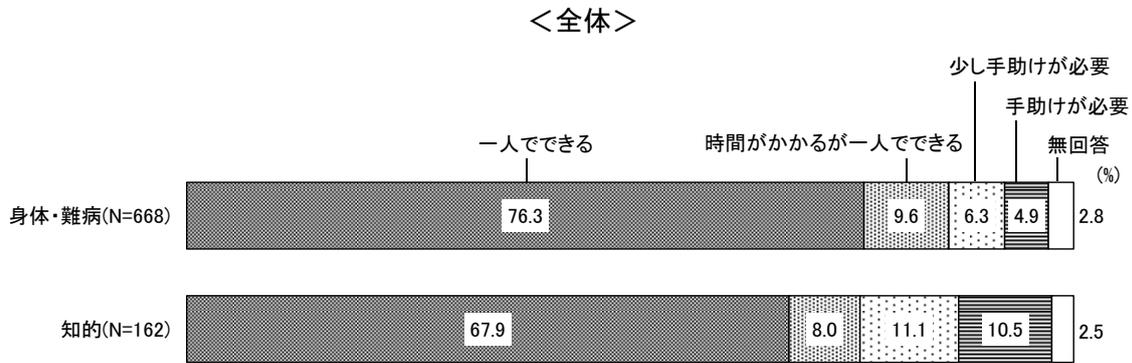


図 1-3-7 身だしなみ(精神障害者等)



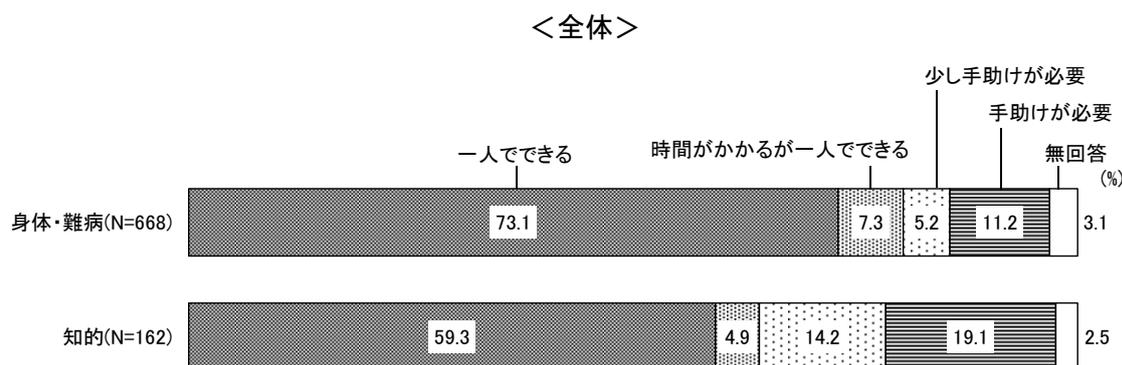
オ 入浴をする

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で入浴をすることができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人のできる(73.1%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(11.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人のできる(59.3%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(19.1%)」などとなっている。(図1-3-8)

図1-3-8 入浴をする(身体障害者・難病患者、知的障害者)



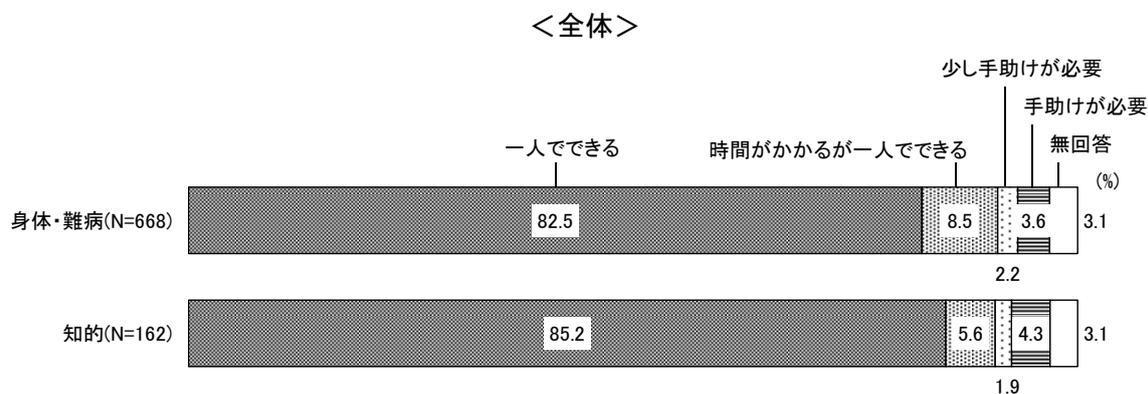
カ 寝返りをする

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で寝返りをするかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人のできる(82.5%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人のできる(8.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人のできる(85.2%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人のできる(5.6%)」などとなっている。(図1-3-9)

図1-3-9 寝返りをする(身体障害者・難病患者、知的障害者)

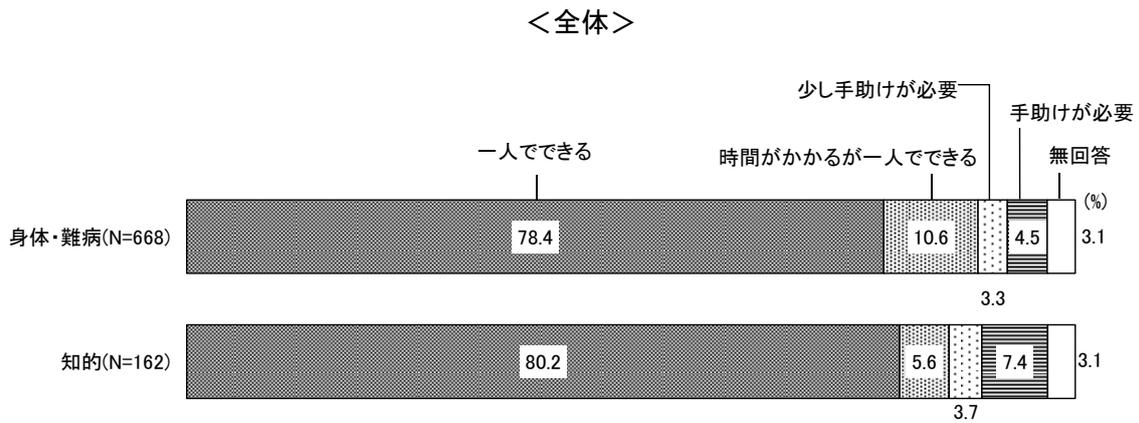


キ 家の中を移動する

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で家の中を移動することができるかたずねた。身体障害者・難病患者は、「一人のできる(78.4%)」が最も多く、次いで「時間がかかるが一人のできる(10.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人のできる(80.2%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(7.4%)」などとなっている。(図 1-3-10)

図 1-3-10 家の中を移動する(身体障害者・難病患者、知的障害者)



ク 外出する／バス・電車などの利用

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で外出することができるかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「一人のできる(65.7%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(15.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人のできる(48.1%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(30.9%)」などとなっている。(図 1-3-11)

精神障害者等に、自分一人でバス・電車などの利用をできるかたずねた。

「一人のできる(69.1%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(19.9%)」などとなっている。(図 1-3-12)

図 1-3-11 外出する(身体障害者・難病患者、知的障害者)

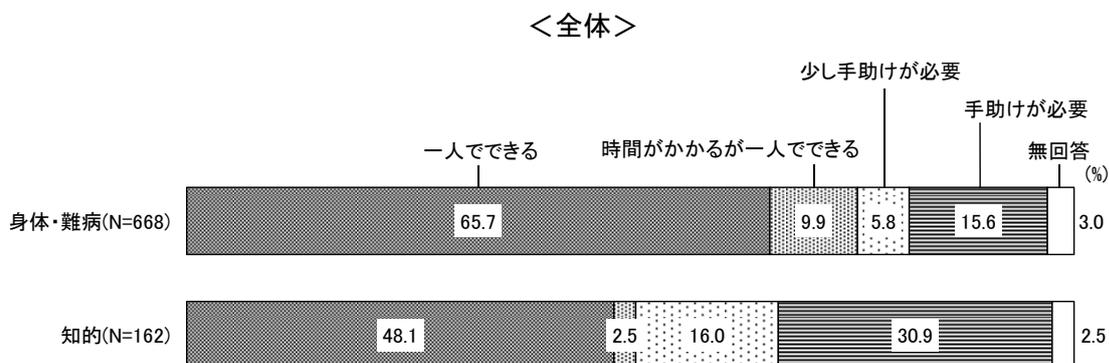
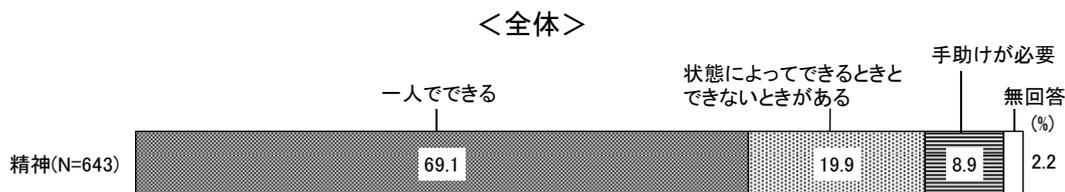


図 1-3-12 バス・電車などの利用(精神障害者等)



ケ 日常の買い物

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で日常の買い物をすることができるかたずねた。身体障害者・難病患者は、「一人でできる(63.6%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(15.6%)」などとなっている。

知的障害者は、「手助けが必要(37.0%)」が最も多く、次いで「一人でできる(36.4%)」などとなっている。(図 1-3-13)

精神障害者等に、自分一人で日常の買い物をできるかたずねた。

精神障害者等は、「一人でできる(62.4%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(24.9%)」などとなっている。(図 1-3-14)

図 1-3-13 日常の買い物(身体障害者・難病患者、知的障害者)

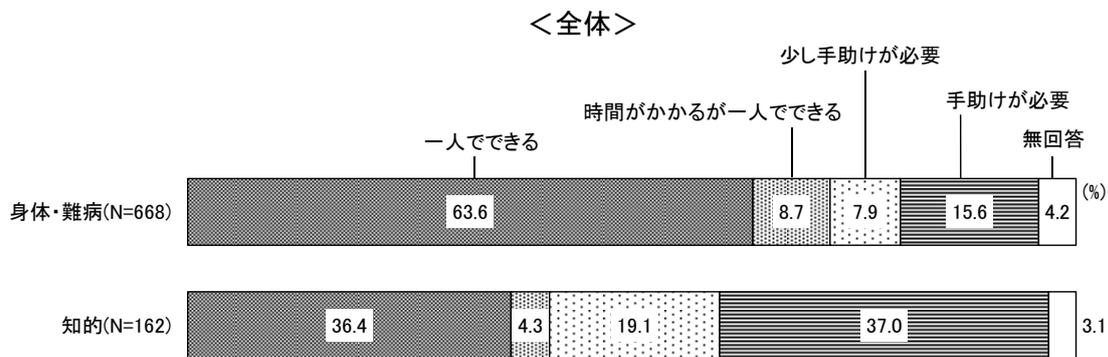
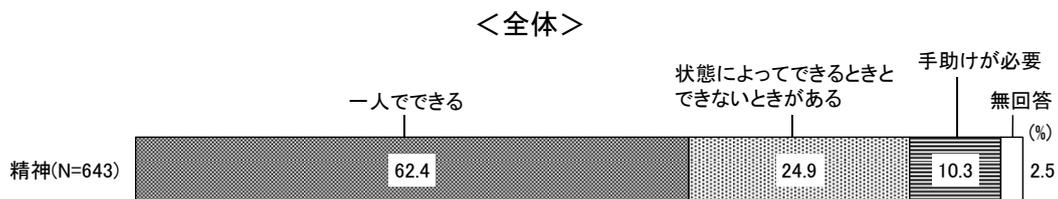


図 1-3-14 日常の買い物(精神障害者等)



コ 薬の管理／薬の管理(決まった時間に飲むなど)

身体障害者・難病患者と知的障害者に、自分一人で薬の管理をすることができるかたずねた。
 身体障害者・難病患者は、「一人のできる(76.5%)」が最も多く、次いで「手助けが必要(9.3%)」
 などとなっている。

知的障害者は、「手助けが必要(48.8%)」が最も多く、次いで「一人のできる(28.4%)」などとな
 っている。(図 1-3-15)

精神障害者等に、自分一人で薬の管理(決まった時間に飲むなど)をすることができるかたずねた。
 精神障害者等は、「一人のできる(72.3%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとでき
 ないときがある(16.8%)」などとなっている。(図 1-3-16)

図 1-3-15 薬の管理(身体障害者・難病患者、知的障害者)

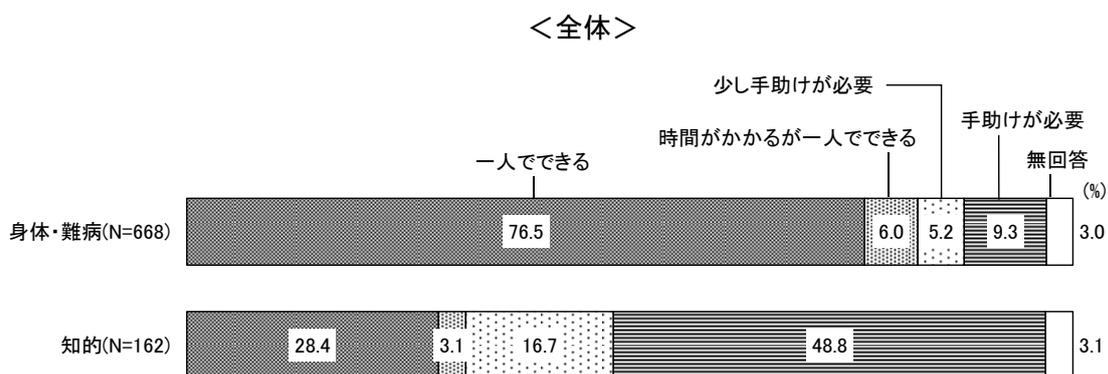


図 1-3-16 薬の管理(決まった時間に飲むなど)(精神障害者等)



サ お金の管理

知的障害者と精神障害者等に、自分一人でお金の管理をすることができるかたずねた。

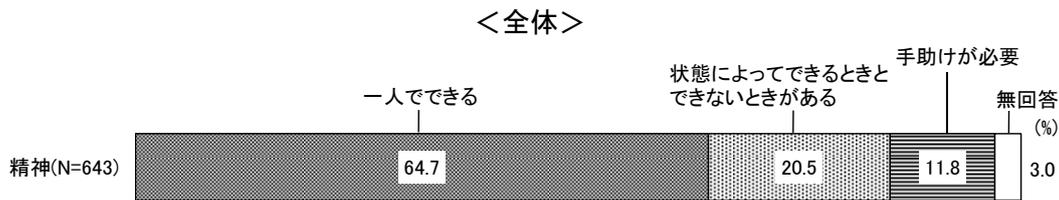
知的障害者は、「手助けが必要(55.6%)」が最も多く、次いで「少し手助けが必要(19.8%)」となっている。(図 1-3-17)

精神障害者等は、「一人のできる(64.7%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(20.5%)」などとなっている。(図 1-3-18)

図 1-3-17 お金の管理(知的障害者)



図 1-3-18 お金の管理(精神障害者等)

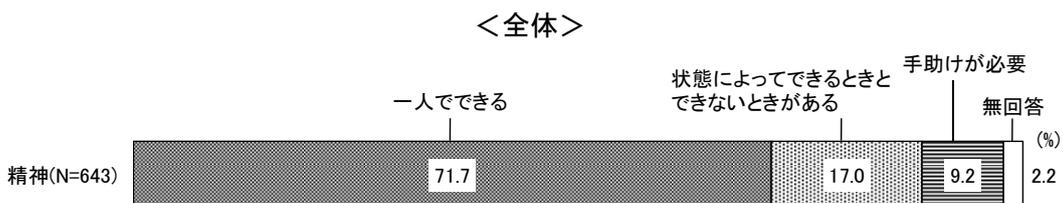


シ 銀行、郵便局などの利用

精神障害者等に、自分一人で銀行、郵便局などの利用をすることができるかたずねた。

「一人のできる(71.7%)」が最も多く、次いで「状態によってできるときとできないときがある(17.0%)」などとなっている。(図 1-3-19)

図 1-3-19 銀行、郵便局などの利用(精神障害者等)



① 日常的な介助者(支援者)

身体・難病：付問 11-1、知的：問 9-1、精神：問 9-1

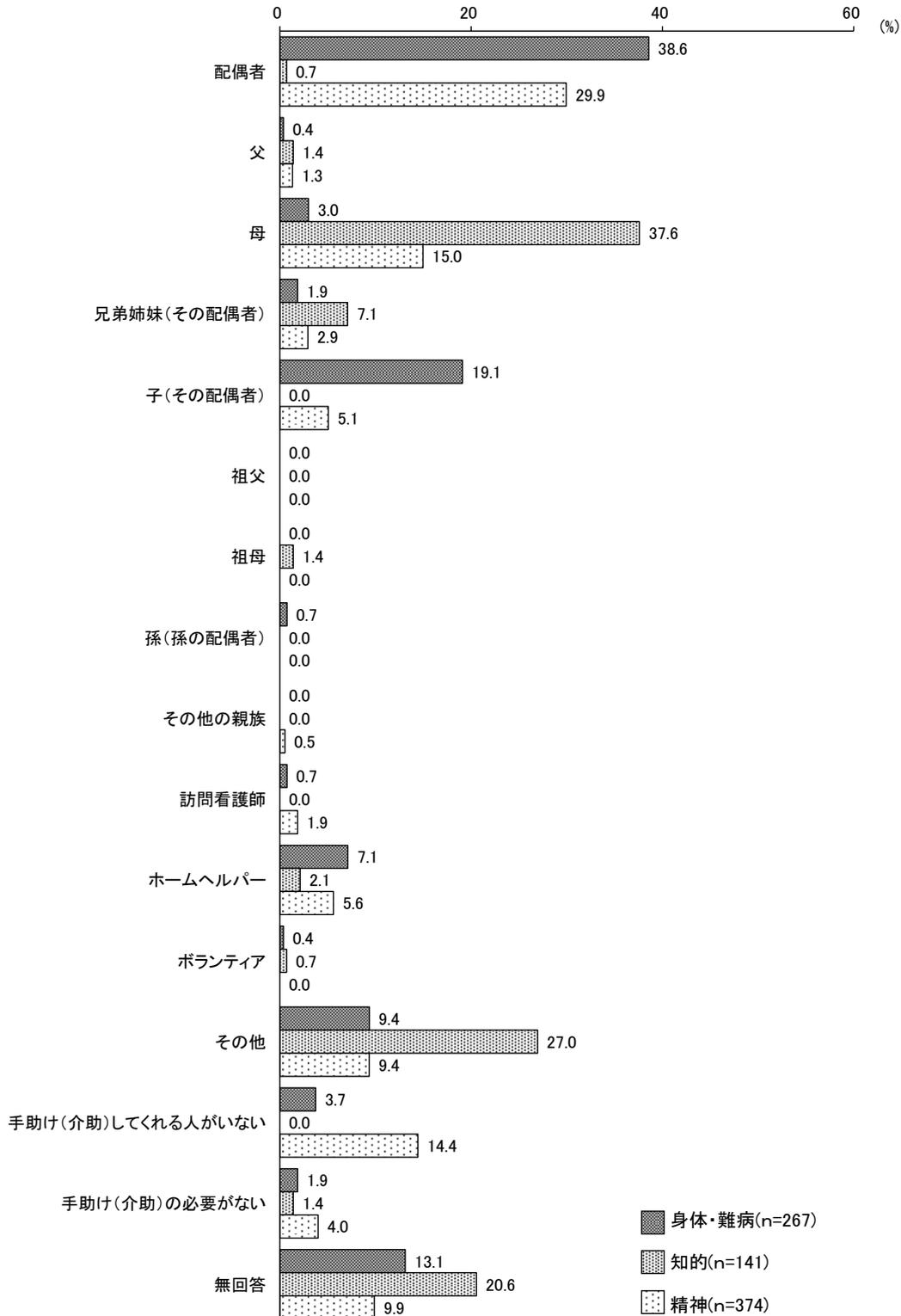
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、日常的に支援している人についてたずねた。

身体障害者・難病患者は、「配偶者(38.6%)」が最も多く、次いで「子(その配偶者)(19.1%)」、「その他(9.4%)」、「ホームヘルパー(7.1%)」などとなっている。「その他」の内容は、「友人・知人」、「施設の職員」などとなっている。

知的障害者は、「母(37.6%)」が最も多く、次いで「その他(27.0%)」、「兄弟姉妹(その配偶者)(7.1%)」などとなっている。「その他」の内容は、「施設やグループホームの職員」などとなっている。

精神障害者等は、「配偶者(29.9%)」が最も多く、次いで「母(15.0%)」、「支援してくれる人がいない(14.4%)」などとなっている。(図 1-3-20)

図 1-3-20 日常的な介助者・支援者
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
 <日常生活の動作で手助けが必要な人>



② 家族・親族等の介助者(支援者)の年齢

身体・難病：付問 11-2、知的：問 9-2、精神：問 9-2

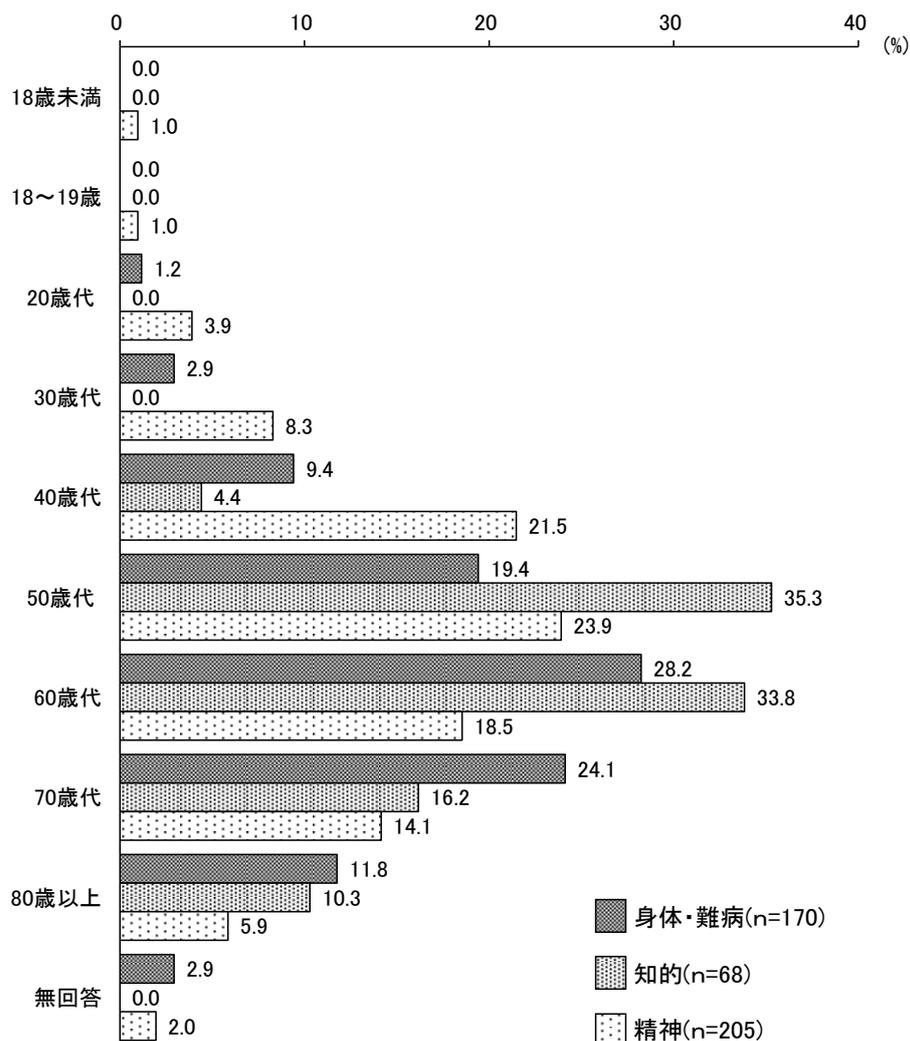
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、日常的に支援している家族・親族等の介助者の年齢をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「60歳代(28.2%)」が最も多く、次いで「70歳代(24.1%)」、「50歳代(19.4%)」、「80歳以上(11.8%)」などとなっている。

知的障害者は、「50歳代(35.3%)」が最も多く、次いで「60歳代(33.8%)」、「70歳代(16.2%)」、「80歳以上(10.3%)」などとなっている。

精神障害者等は、「50歳代(23.9%)」が最も多く、次いで「40歳代(21.5%)」、「60歳代(18.5%)」、「70歳代(14.1%)」などとなっている。(図 1-3-21)

図 1-3-21 家族・親族等の介助者・支援者の年齢
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<日常生活の動作で手助けが必要な人>



③ 一日に直接介助を受ける時間

身体・難病：付問 11-3、知的：問 9-3

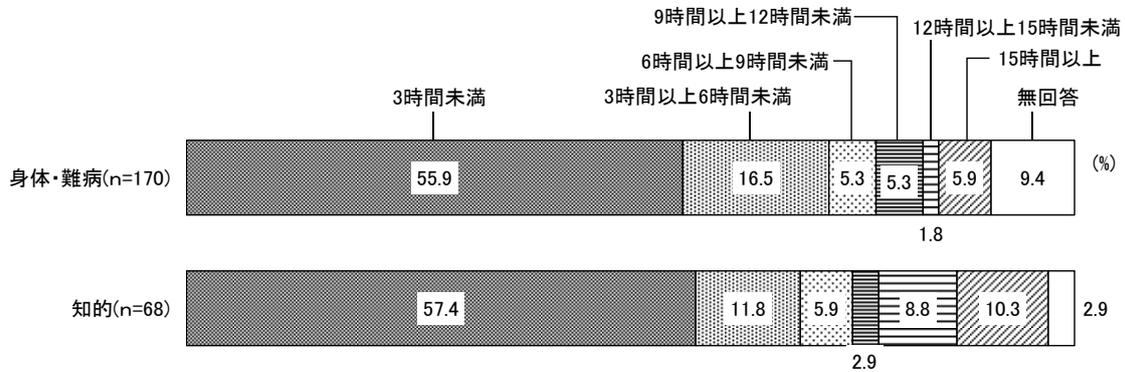
身体障害者・難病患者と知的障害者に、一日に直接介助を受ける時間をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「3 時間未満 (55.9%)」が最も多く、次いで「3 時間以上 6 時間未満 (16.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「3 時間未満 (57.4%)」が最も多く、次いで「3 時間以上 6 時間未満 (11.8%)」、「15 時間以上 (10.3%)」、「12 時間以上 15 時間未満 (8.8%)」などとなっている。(図 1-3-22)

図 1-3-22 一日に直接介助を受ける時間(身体障害者・難病患者、知的障害者)

<日常生活の動作で手助けが必要な人>



4 相談について

(1) 現在の暮らしの困りごと

身体・難病：問12、知的：問10、精神：問10

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、現在の暮らしの中で困っていることがあるかをたずねた。

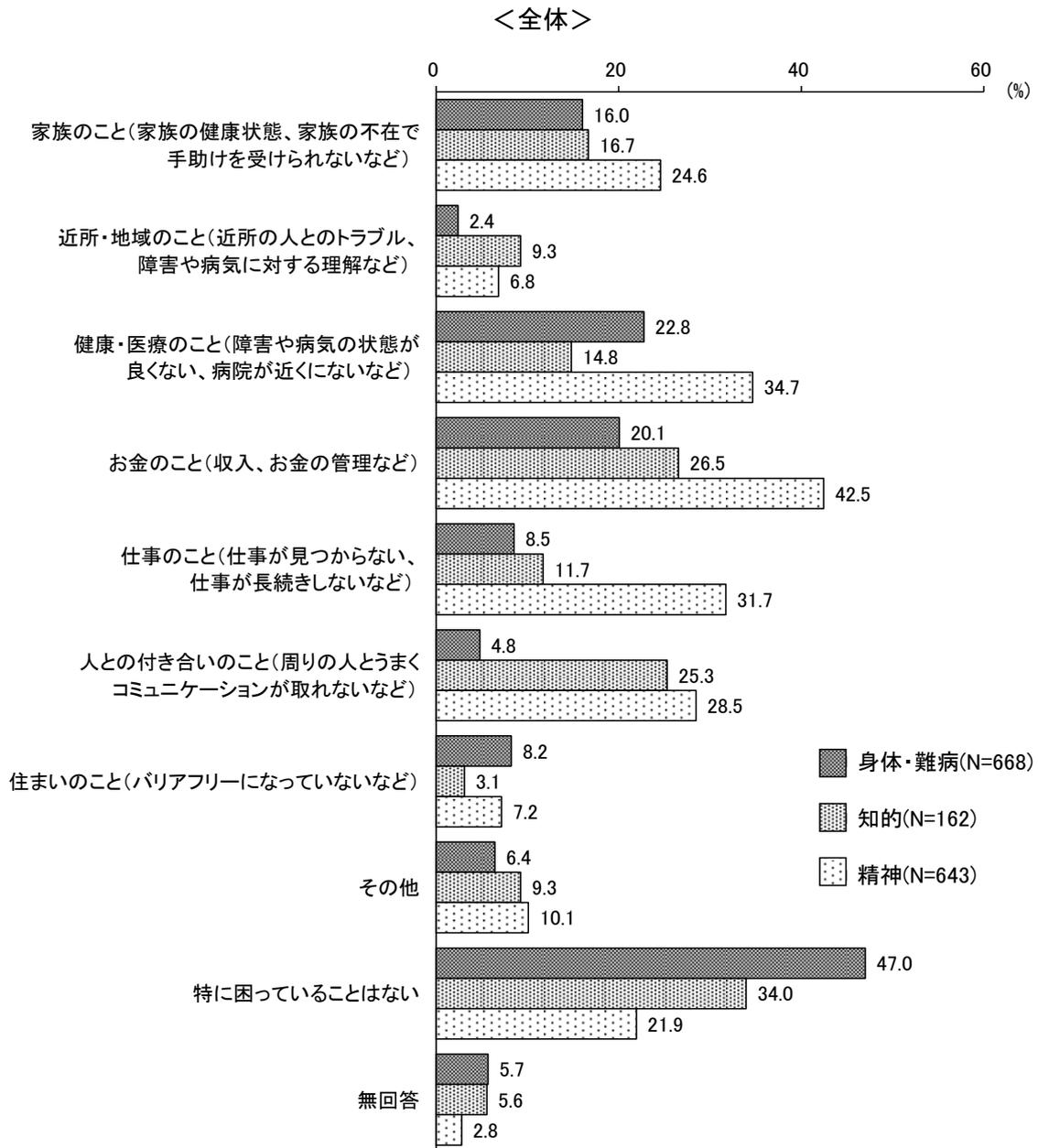
身体障害者・難病患者は、「特に困っていることはない(47.0%)」が最も多く、次いで「健康・医療のこと(障害や病気の状態が良くない、病院が近くにないなど)(22.8%)」、「お金のこと(収入、お金の管理など)(20.1%)」などとなっている。

知的障害者は、「特に困っていることはない(34.0%)」が最も多く、次いで「お金のこと(収入、お金の管理など)(26.5%)」、「人との付き合いのこと(周りの人とうまくコミュニケーションが取れないなど)(25.3%)」、「家族のこと(家族の健康状態、家族の不在で手助けを受けられないなど)(16.7%)」などとなっている。

精神障害者等は、「お金のこと(収入、お金の管理など)(42.5%)」が最も多く、次いで「健康・医療のこと(障害や病気の状態が良くない、病院が近くにないなど)(34.7%)」、「仕事のこと(仕事が見つからない、仕事が長続きしないなど)(31.7%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「コミュニケーションがとりにくい」、「住まいのこと」、「年金生活での生活費」など、知的障害者は「意思疎通が困難」、「自分以外にも介護が必要な家族がいること」など、精神障害者等は「家族や周りの理解」、「住まいのこと」などとなっている。(図1-4-1)

図 1-4-1 現在の暮らしの困りごと
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(2) 将来の不安

身体・難病：問13、知的：問11、精神：問11

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、将来の不安をたずねた。

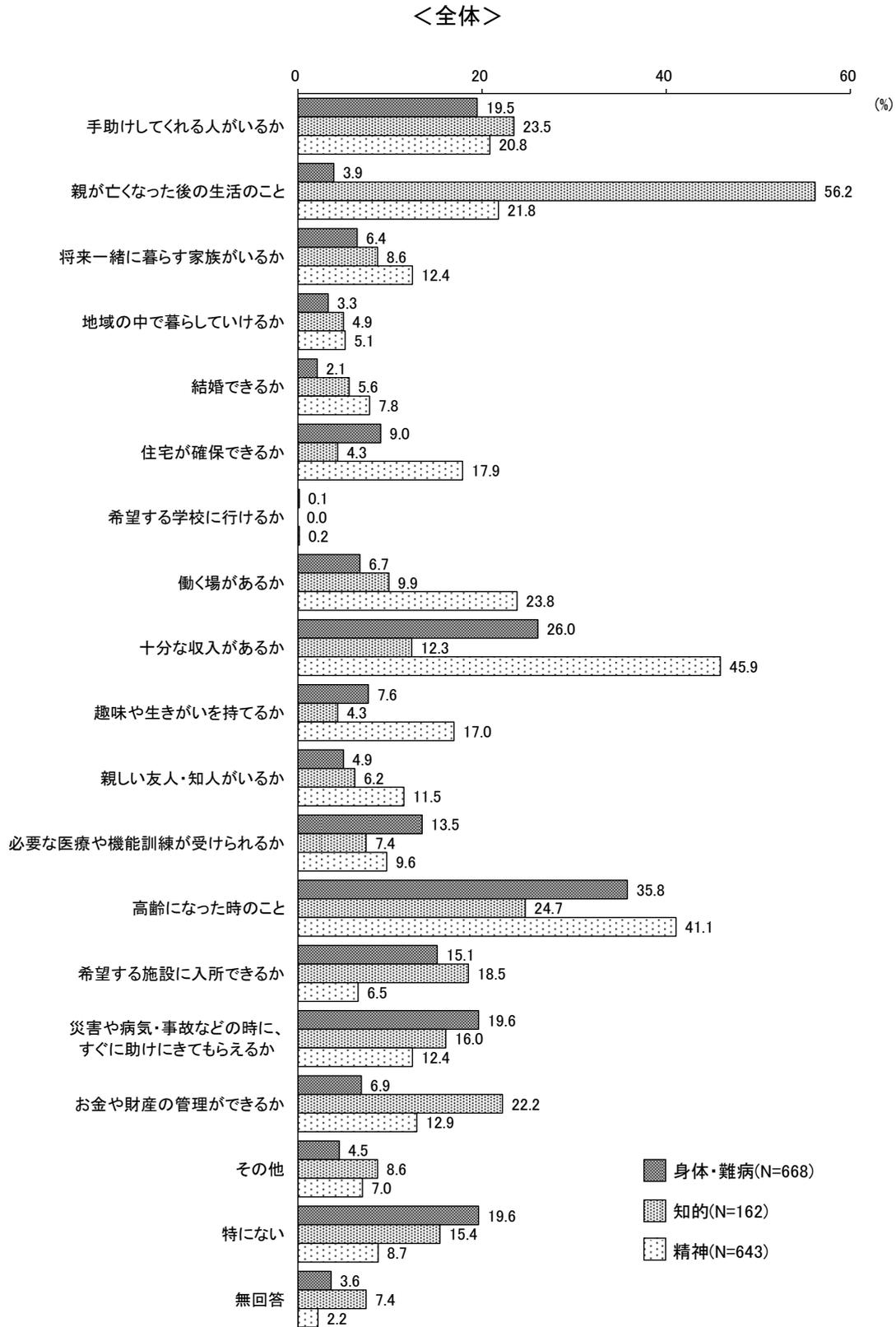
身体障害者・難病患者は、「高齢になった時のこと(35.8%)」が最も多く、次いで「十分な収入があるか(26.0%)」、「災害や病気・事故などの時に、すぐに助けにきてもらえるか(19.6%)」、「特にない(19.6%)」、「手助けしてくれる人がいるか(19.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「親が亡くなった後の生活のこと(56.2%)」が最も多く、次いで「高齢になった時のこと(24.7%)」、「手助けしてくれる人がいるか(23.5%)」、「お金や財産の管理ができるか(22.2%)」などとなっている。

精神障害者等は、「十分な収入があるか(45.9%)」が最も多く、次いで「高齢になった時のこと(41.1%)」、「働く場があるか(23.8%)」、「親が亡くなった後の生活のこと(21.8%)」、「手助けしてくれる人がいるか(20.8%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「病気の悪化」、「身体機能の低下」など、知的障害者は「施設でいつまで過ごせるか」、「成年後見人が自分より先に死亡すること」など、精神障害者等は「病気の悪化」、「入院時の手続き」などとなっている。(図1-4-2)

図1-4-2 将来の不安(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、身体障害者・難病患者では、同様な傾向を示している。

知的障害者では、「高齢になった時のこと」は29.0%から24.7%と4.3ポイント低くなっている。また、上位第3位が「手助けしてくれる人がいるか」に変わっている。

精神障害者等では、上位第2位までは変わらないものの、「十分な収入があるか」は51.8%から45.9%と5.9ポイント低く、「高齢になった時のこと」は49.6%から41.4%と8.2ポイント低くなっている。また、上位第3位が「働く場があるか」に変わっている。(表1-4-1)

表1-4-1 将来の不安(上位3項目)

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>

【身体障害者・難病患者】

(%)

	令和4年度 身体・難病(N=668)	令和元年度 身体・難病(N=613)
第1位	高齢になった時のこと 35.8	高齢になった時のこと 35.7
第2位	十分な収入があるか 26.0	十分な収入があるか 25.8
第3位	災害や病気・事故などの時に、すぐに助けにきてもらえるか 19.6	災害や病気・事故などの時に、すぐに助けにきてもらえるか 21.5

【知的障害者】

(%)

	令和4年度 知的(N=162)	令和元年度 知的(N=155)
第1位	親が亡くなった後の生活のこと 56.2	親が亡くなった後の生活のこと 56.8
第2位	高齢になった時のこと 24.7	高齢になった時のこと 29.0
第3位	手助けしてくれる人がいるか 23.5	お金や財産の管理ができるか 27.1

【精神障害者等】

(%)

	令和4年度 精神(N=643)	令和元年度 精神(N=651)
第1位	十分な収入があるか 45.9	十分な収入があるか 51.8
第2位	高齢になった時のこと 41.4	高齢になった時のこと 49.6
第3位	働く場があるか 23.8	親が亡くなった後の生活のこと 27.6

【世帯状況別】

世帯状況別に将来の不安をみると、身体障害者・難病患者は、同居している人、ひとり暮らしの人では「高齢になった時のこと(同居している人:35.6%、ひとり暮らしの人:40.3%)」が最も多く、次いで「十分な収入があるか(同居している人:25.3%、ひとり暮らしの人:30.7%)」となっている。施設に入所している人は「特にない(50.0%)」が最も多くなっている。

知的障害者は、同居している人、施設に入所している人では「親が亡くなった後の生活のこと(同居している人:74.0%、施設に入所している人:32.2%)」が最も多くなっている。ひとり暮らしの人は「住宅が確保できるか」、「働く場があるか」、「高齢になった時のこと」が42.9%の同率で最も多くなっている。

精神障害者等は、同居している人、ひとり暮らしの人では「十分な収入があるか(同居している人:47.6%、ひとり暮らしの人:45.3%)」が最も多く、次いで「高齢になった時のこと(同居している人:42.1%、ひとり暮らしの人:42.1%)」となっている。施設に入所している人は「特にない(40.0%)」が最も多くなっている。(表 1-4-2)

表 1-4-2 将来の不安

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

＜全体、世帯状況別＞

【身体障害者・難病患者】

		同居している(n=466)		ひとり暮らし(n=176)		施設に入所している (グループホームを含む)(n=22)	
第1位	高齢になった時のこと	35.6	高齢になった時のこと	40.3	特にない	50.0	
第2位	十分な収入があるか	25.3	十分な収入があるか	30.7	手助けしてくれる人がいるか	9.1 (同率)	
					親しい友人・知人がいるか		
					希望する施設に入所できるか		
					お金や財産の管理ができるか		

【知的障害者】

		同居している(n=96)		ひとり暮らし(n=7)		施設に入所している (グループホームを含む)(n=59)		
第1位	親が亡くなった後の生活のこと	74.0	住宅が確保できるか	42.9 (同率)	親が亡くなった後の生活のこと	32.2		
			働く場があるか					
			高齢になった時のこと					
第2位	手助けしてくれる人がいるか	29.2	将来一緒に暮らす家族が	28.6 (同率)	高齢になった時のこと	23.7		
	お金や財産の管理ができるか	(同率)	いるか			特にない	(同率)	
			お金や財産の管理ができるか					
			特にない					

【精神障害者等】

		同居している(n=397)		ひとり暮らし(n=223)		施設に入所している (グループホームを含む)(n=15)	
第1位	十分な収入があるか	47.6	十分な収入があるか	45.3	特にない	40.0	
第2位	高齢になった時のこと	42.1	高齢になった時のこと	42.1	その他	20.0	

(3) 困りごとの相談先

身体・難病：問14、知的：問12、精神：問12

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、困りごとの相談先をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「家族・友人・知人(87.0%)」が最も多く、次いで「病院・診療所(24.6%)」、「区役所・保健所・福祉センターなど(16.9%)」などとなっている。

知的障害者は、「家族・友人・知人(71.0%)」が最も多く、次いで「区役所・保健所・福祉センターなど(32.7%)」、「中央区障害者就労支援センター(21.0%)」などとなっている。

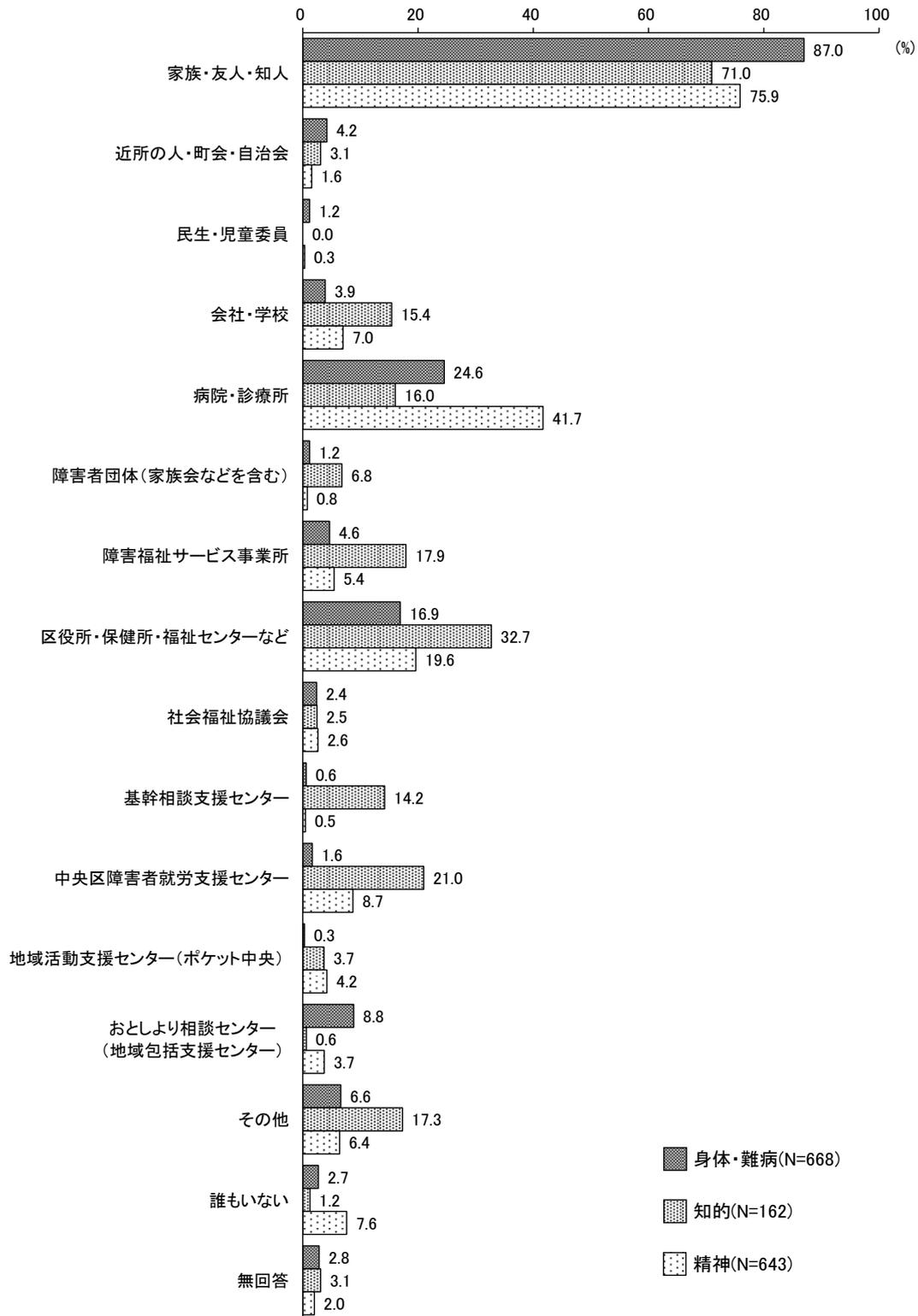
精神障害者等は、「家族・友人・知人(75.9%)」が最も多く、次いで「病院・診療所(41.7%)」、「区役所・保健所・福祉センターなど(19.6%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「ケアマネジャー」、「施設の職員」、「インターネット」など、知的障害者は「施設・グループホームの職員」など、精神障害者等は「ケアマネジャー」、「カウンセラー」、「警察・交番」、「成年後見人」などとなっている。(図1-4-3)

図1-4-3 困りごとの相談先

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、上位3項目は、身体障害者・難病患者、精神障害者等とともに、同様な傾向がみられる。(表 1-4-3)

表 1-4-3 困りごとの相談先
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>

【身体障害者・難病患者】

(%)

	令和4年度 身体・難病(N=668)	令和元年度 身体・難病(N=613)
第1位	家族・友人・知人 87.0	家族・友人・知人 83.5
第2位	病院・診療所 24.6	病院・診療所 26.6
第3位	区役所・保健所・福祉センターなど 16.9	区役所・保健所・福祉センターなど 14.4

【知的障害者】

(%)

	令和4年度 知的(N=162)	令和元年度 知的(N=155)
第1位	家族・友人・知人 71.0	家族・友人・知人 76.1
第2位	区役所・保健所・福祉センターなど 32.7	区役所・保健所・福祉センターなど 29.7
第3位	中央区障害者就労支援センター 21.0	中央区障害者就労支援センター 22.6

【精神障害者等】

(%)

	令和4年度 精神(N=643)	令和元年度 精神(N=651)
第1位	家族・友人・知人 75.9	家族・友人・知人 74.3
第2位	病院・診療所 41.7	病院・診療所 41.5
第3位	区役所・保健所・福祉センターなど 19.6	区役所・保健所・福祉センターなど 22.4

【世帯状況別】

世帯状況別に困りごとの相談先をみると、知的障害者のひとり暮らしの人は「区役所・保健所・福祉センターなど(71.4%)」が最も多くなっているが、それ以外では「家族・友人・知人」が最も多くなっている。

また、身体障害者・難病患者（施設に入所している以外）と精神障害者等は「病院・診療所」が上位第2位となっている。（表1-4-4）

表1-4-4 困りごとの相談先

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体、世帯状況別>

【身体障害者・難病患者】

		(%)		
	同居している(n=466)	ひとり暮らし(n=176)	施設に入所している (グループホームを含む)(n=22)	
第1位	家族・友人・知人 90.6	家族・友人・知人 80.7	家族・友人・知人	68.2
第2位	病院・診療所 27.5	病院・診療所 19.3	その他	18.2

【知的障害者】

		(%)		
	同居している(n=96)	ひとり暮らし(n=7)	施設に入所している (グループホームを含む)(n=59)	
第1位	家族・友人・知人 83.3	区役所・保健所・福祉センター など 71.4	家族・友人・知人	52.5
第2位	区役所・保健所・福祉 センターなど 28.1	家族・友人・知人 57.1	その他	39.0

【精神障害者等】

		(%)		
	同居している(n=397)	ひとり暮らし(n=223)	施設に入所している (グループホームを含む)(n=15)	
第1位	家族・友人・知人 84.1	家族・友人・知人 64.1	家族・友人・知人	66.7
第2位	病院・診療所 44.1	病院・診療所 38.6	病院・診療所 その他	33.3 (同率)

(4) 相談支援機関の認知度・利用状況

① 中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況

身体・難病：問 15(1)、知的：問 13(1)、精神：問 13(1)

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、中央区障害者就労支援センターの認知度・利用状況をたずねた。

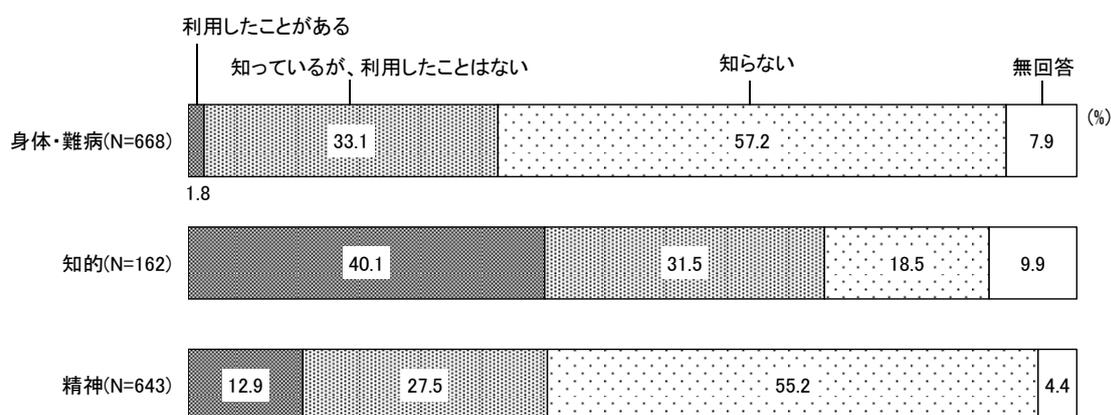
身体障害者・難病患者は、「知っていて利用したことがある(1.8%)」、「知っているが、利用したことはない(33.1%)」、「知らない(57.2%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、34.9%となっている。

知的障害者は、「知っていて利用したことがある(40.1%)」、「知っているが、利用したことはない(31.5%)」、「知らない(18.5%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、71.6%で3障害では最も多い。

精神障害者等は、「知っていて利用したことがある(12.9%)」、「知っているが、利用したことはない(27.5%)」、「知らない(55.2%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、40.4%となっている。(図 1-4-4)

図 1-4-4 中央区障害者就労支援センターの認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>

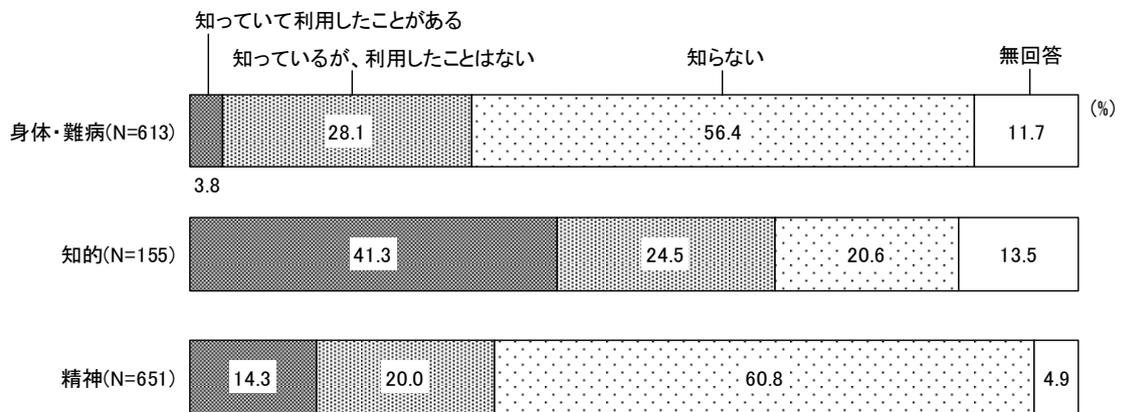


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っている利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、身体障害者・難病患者では31.9%から34.9%と3.0ポイント高く、知的障害では65.8%から71.6%と5.8ポイント高く、精神障害者等では34.3%から40.4%と6.1ポイント高くなっている。(図1-4-5)

図1-4-5 【令和元年度調査】中央区障害者就労支援センターの認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



② 基幹相談支援センターの認知度・利用状況

身体・難病：問 15(2)、知的：問 13(2)、精神：問 13(2)

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、基幹相談支援センターの認知度・利用状況をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「知っていて利用したことがある(1.8%)」、「知っているが、利用したことはない(16.2%)」、「知らない(74.0%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、18.0%となっている。

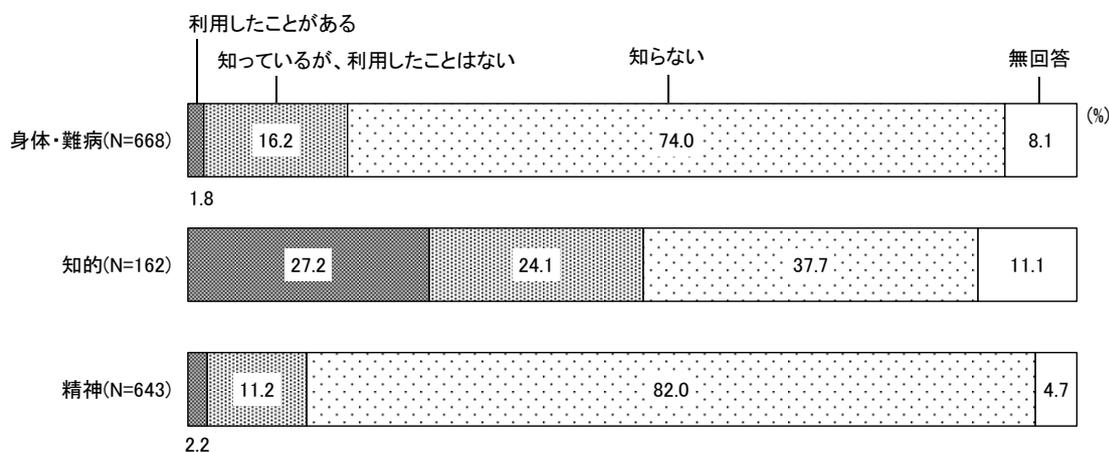
知的障害者は、「知っていて利用したことがある(27.2%)」、「知っているが、利用したことはない(24.1%)」、「知らない(37.7%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、51.3%で3障害では最も多い。

精神障害者等は、「知っていて利用したことがある(2.2%)」、「知っているが、利用したことはない(11.2%)」、「知らない(82.0%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、13.4%となっている。(図 1-4-6)

図 1-4-6 基幹相談支援センターの認知度・利用状況

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>

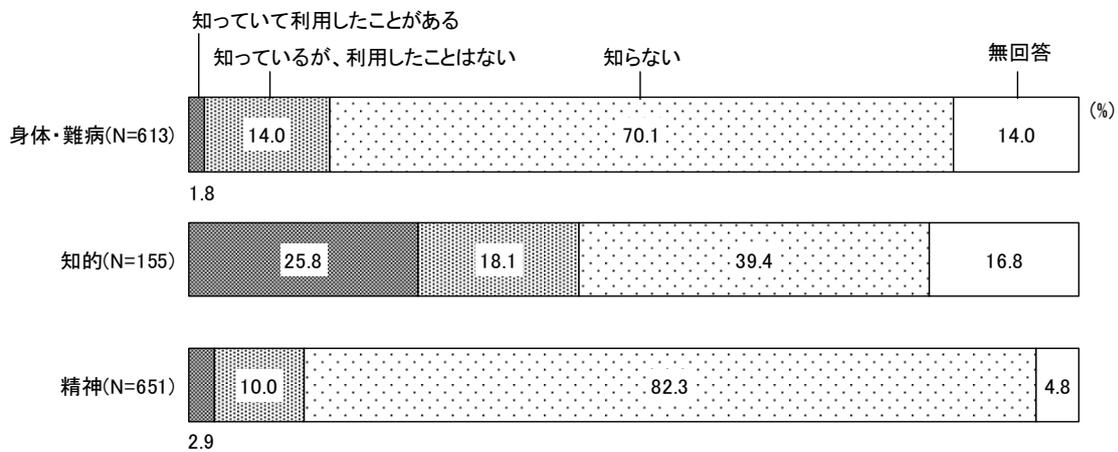


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っている利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、身体障害者・難病患者では15.8%から18.0%と2.2ポイント高く、知的障害では43.9%から51.3%と7.4ポイント高く、精神障害者等では12.9%から13.4%と0.5ポイント高くなっている。(図1-4-7)

図1-4-7 【令和元年度調査】基幹相談支援センターの認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



③ 中央区精神障害者地域活動支援センター（ポケット中央）の認知度・利用意向
精神：問13(3)

精神障害者等に、中央区精神障害者地域活動支援センター（ポケット中央）の認知度・利用意向をたずねた。

「知っていて利用したことがある(10.7%)」、「知っているが、利用したことはない(18.2%)」、「知らない(66.3%)」となっている。「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、28.9%となっている。(図1-4-8)

図1-4-8 中央区精神障害者地域活動支援センター（ポケット中央）の認知度・利用意向(精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っていて利用したことがある」と「知っているが、利用したことはない」を合計した<知っている>は、ほぼ同数であった。(図1-4-9)

図1-4-9 【令和元年度調査】中央区精神障害者地域活動支援センター（ポケット中央）の認知状況(精神障害者等)



(5) 区の相談窓口・機関への希望**身体・難病：問16、知的：問14、精神：問14**

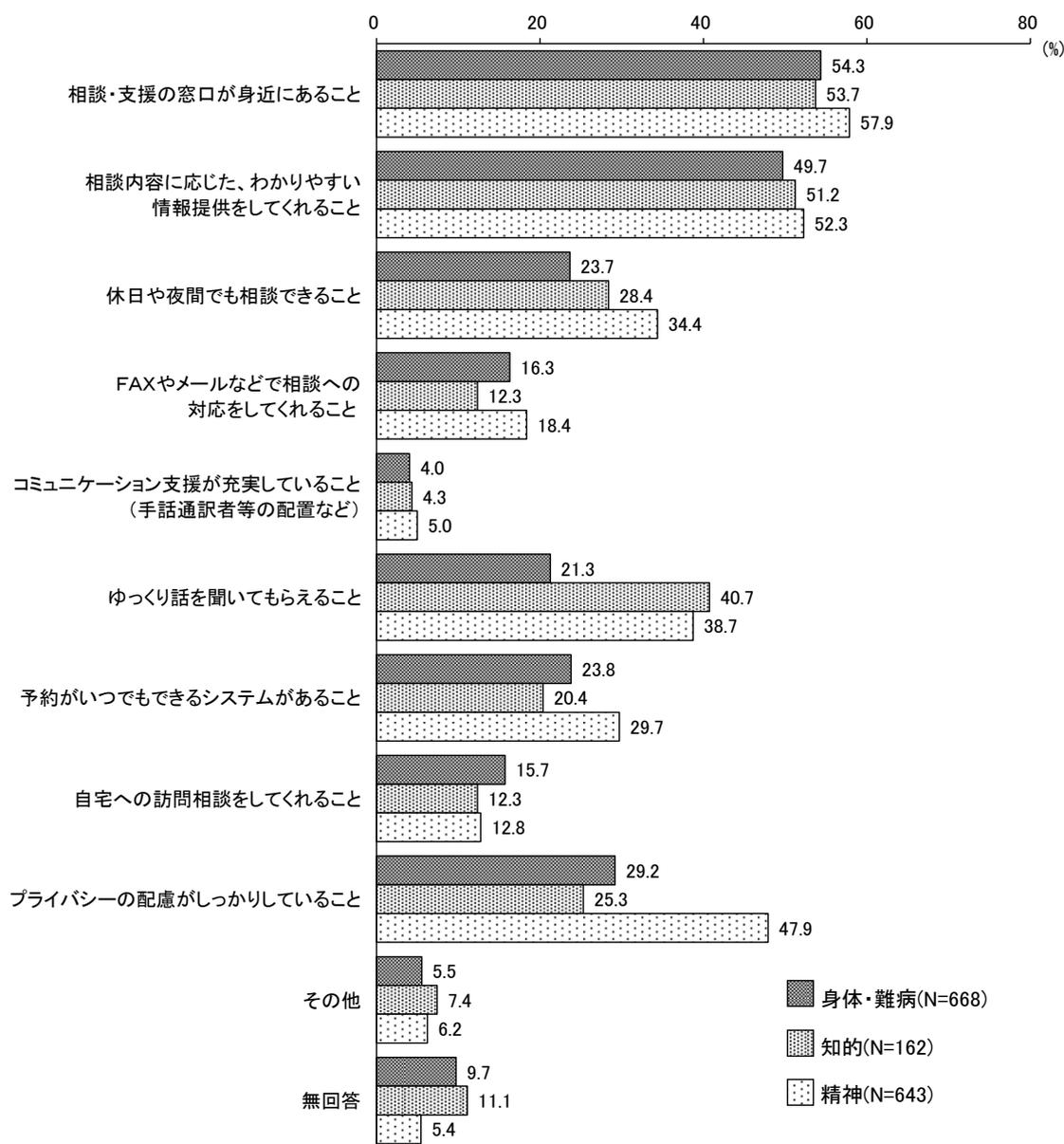
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、区の相談窓口・機関への希望をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「相談・支援の窓口が身近にあること(54.3%)」が最も多く、次いで「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてもらえること(49.7%)」、「プライバシーの配慮がしっかりしていること(29.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「相談・支援の窓口が身近にあること(53.7%)」が最も多く、次いで「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてもらえること(51.2%)」、「ゆっくり話を聞いてもらえること(40.7%)」などとなっている。

精神障害者等は、「相談・支援の窓口が身近にあること(57.9%)」が最も多く、次いで「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてもらえること(52.3%)」、「プライバシーの配慮がしっかりしていること(47.9%)」などとなっている。(図1-4-10)

図 1-4-10 区の相談窓口・機関への希望
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)
 <全体>



5 障害福祉サービスについて

(1) 利用している障害福祉サービス

身体・難病：問 17、知的：問 15、精神：問 15

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、利用しているサービスをたずねた。

身体障害者・難病患者、精神障害者等は「利用していない」が最も多くなっている。

身体障害者・難病患者は、「利用していない(69.8%)」以外では、「ホームヘルプ、外出時の介助など(居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援)(9.1%)」が最も多く、次いで、「リハビリテーションや日常生活に関する相談など(自立訓練・機能訓練、生活訓練)(8.5%)」、「義手・車いすなどの購入・修理費への費用支給(補装具費支給)(6.0%)」などとなっている。

知的障害者は、「利用していない(23.5%)」以外では、「働くための支援など(就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援)(22.2%)」が最も多く、次いで「グループホーム(共同生活援助)(21.0%)」、「サービス等利用計画の作成、地域生活に向けた相談など(相談支援事業)(17.3%)」、「ホームヘルプ、外出時の介助など(居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援)(16.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「利用していない(68.0%)」以外では、「働くための支援など(就労移行支援、就労継続支援、就労定着支援)(9.5%)」が最も多く、次いで、「ホームヘルプ、外出時の介助など(居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援)(6.1%)」、「その他(5.6%)」、「リハビリテーションや日常生活に関する相談など(自立訓練・機能訓練、生活訓練)(4.0%)」などとなっている。(図 1-5-1、1-5-2)

図 1-5-1 利用している障害福祉サービス（利用の有無）
（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答）

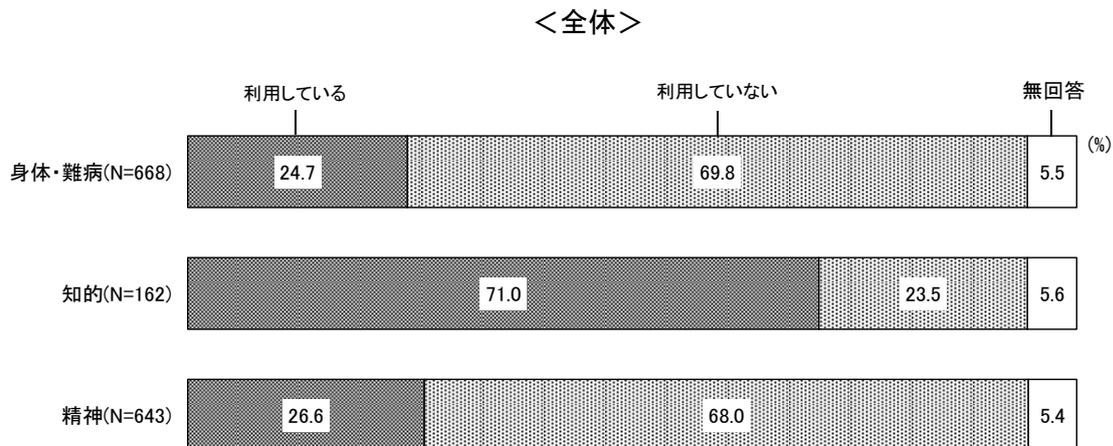
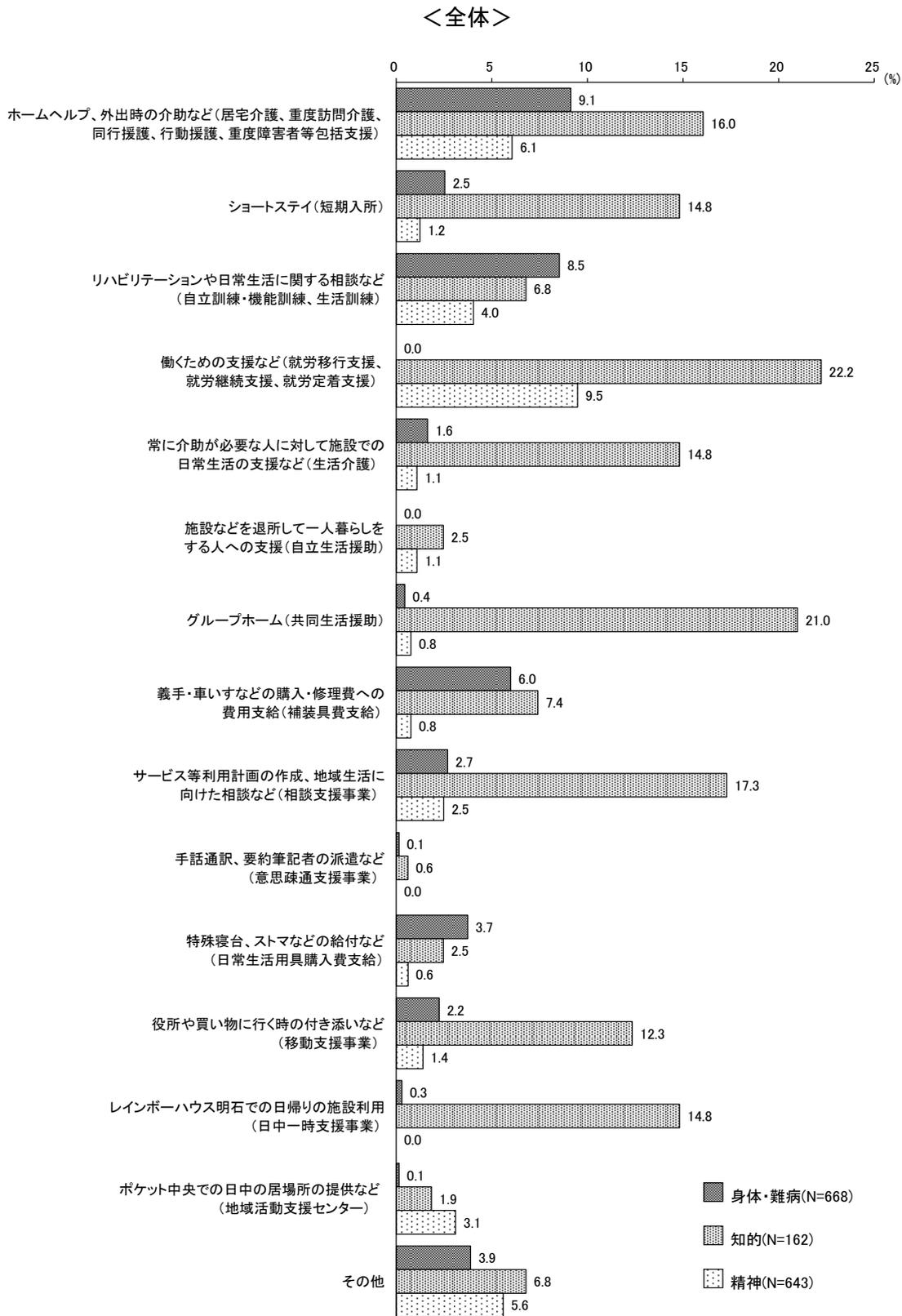


図 1-5-2 利用している障害福祉サービス
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



※ 「利用していない」「無回答」は非表示。

(2) 障害福祉サービス支給量のニーズ充足度

身体・難病：問18、知的：問16、精神：問16

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、障害福祉サービスを利用していると回答した人に障害福祉サービス支給量のニーズ充足度をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「十分である(35.2%)」、「足りない(11.5%)」などとなっている。

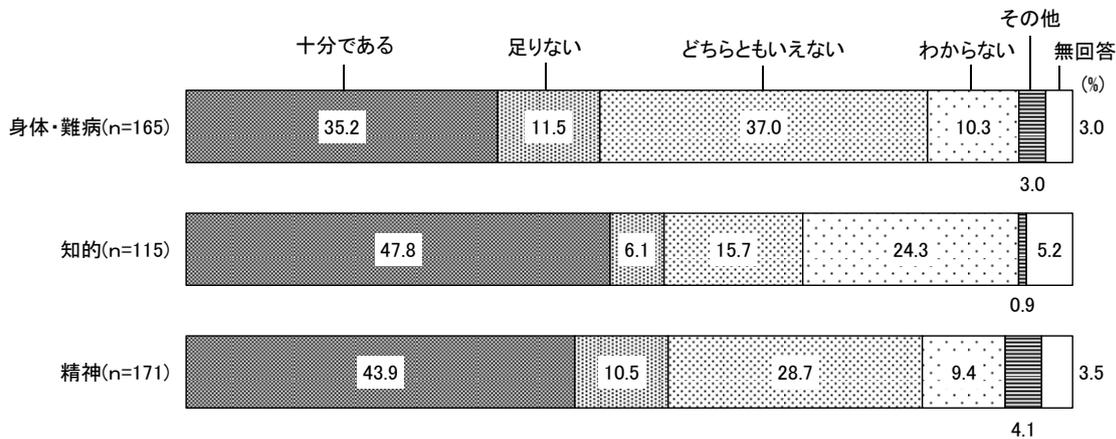
知的障害者は、「十分である(47.8%)」、「足りない(6.1%)」などとなっている。

精神障害者等は、「十分である(43.9%)」、「足りない(10.5%)」などとなっている。(図1-5-3)

図1-5-3 障害福祉サービス支給量のニーズ充足度

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<障害福祉サービスを利用している人>



① 不足している障害福祉サービス

身体・難病：問 18②、知的：問 16②、精神：問 16②（※2. 足りない）

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等の障害福祉サービス利用者で、サービス支給量のニーズ充足度について、支給量が足りないと回答した人に、不足している障害福祉サービスをたずねた。

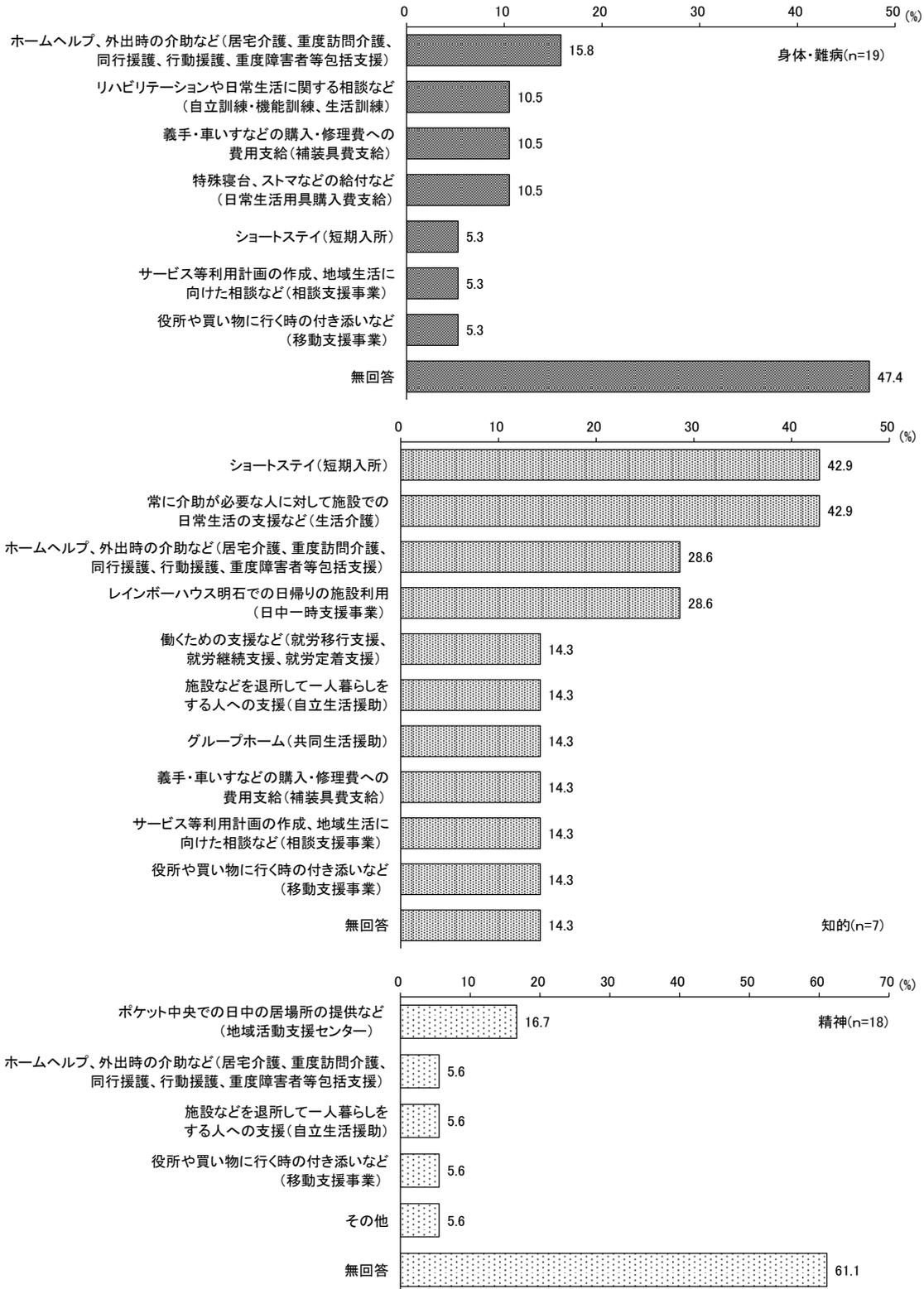
身体障害者・難病患者は、「ホームヘルプ、外出時の介助など（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援）（15.8%）」が最も多く、次いで「リハビリテーションや日常生活に関する相談など（自立訓練・機能訓練、生活訓練）（10.5%）」、「義手・車いすなどの購入・修理費への費用支給（補装具費支給）（10.5%）」、「特殊寝台、ストマなどの給付など（日常生活用具購入費支給）（10.5%）」などとなっている。

知的障害者は、「ショートステイ（短期入所）（42.9%）」、「常に介助が必要な人に対して施設での日常生活の支援など（生活介護）（42.9%）」が最も多く、次いで、「ホームヘルプ、外出時の介助など（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援）（28.6%）」、「レインボーハウス明石での日帰りの施設利用（日中一時支援事業）（28.6%）」などとなっている。

精神障害者等は、「ポケット中央での日中の居場所の提供など（地域活動支援センター）（16.7%）」が最も多く、次いで「ホームヘルプ、外出時の介助など（居宅介護、重度訪問介護、同行援護、行動援護、重度障害者等包括支援）（5.6%）」、「施設などを退所して一人暮らしをする人への支援（自立生活援助）（5.6%）」、「役所や買い物に行く時の付き添いなど（移動支援事業）（5.6%）」、「その他（5.6%）」となっている。（図 1-5-4）

図 1-5-4 不足している障害福祉サービス
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<支給量が足りないと感じた人>



(3) サービス利用での困りごと

身体・難病：問19、知的：問17、精神：問17

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、サービス利用での困りごとをたずねた。

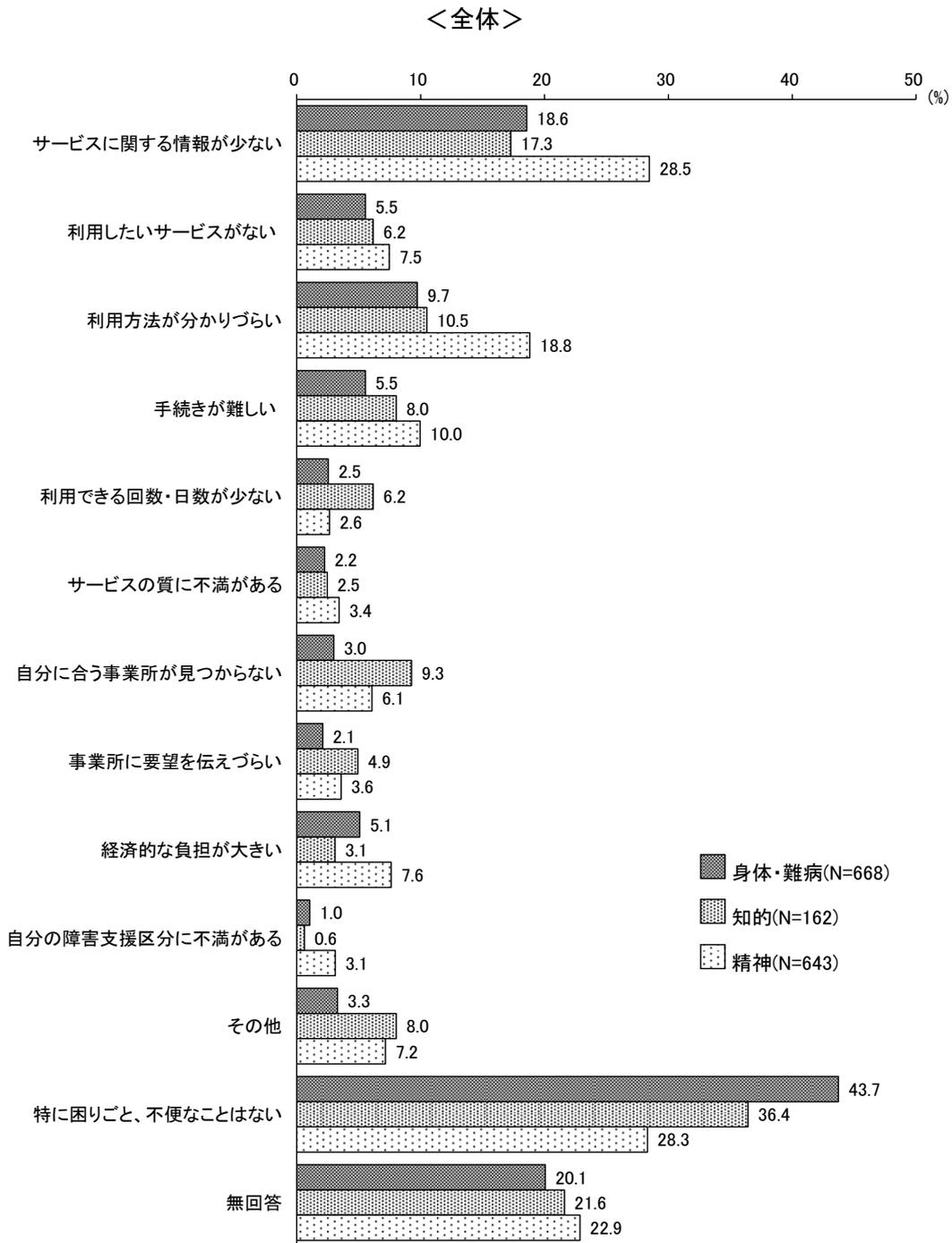
身体障害者・難病患者は、「特に困りごと、不便なことはない(43.7%)」が最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない(18.6%)」、「利用方法が分かりづらい(9.7%)」などとなっている。

知的障害者は、「特に困りごと、不便なことはない(36.4%)」が最も多く、次いで「サービスに関する情報が少ない(17.3%)」、「利用方法が分かりづらい(10.5%)」などとなっている。

精神障害者等は、「サービスに関する情報が少ない(28.5%)」が最も多く、次いで「特に困りごと、不便なことはない(28.3%)」、「利用方法が分かりづらい(18.8%)」、「手続きが難しい(10.0%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「文書が点字ではない」、「難病で困っても使えるサービスがない」など、知的障害者は「サービスの予約をとりにくい」など、精神障害者等は「サービスに関する知識不足」などとなっている。(図1-5-5)

図 1-5-5 サービス利用での困りごと
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(4) 福祉サービスの情報入手先

身体・難病：問 20、知的：問 18、精神：問 18

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、福祉サービスの情報入手先をたずねた。身体障害者・難病患者は、「区のおしらせ(38.5%)」が最も多く、次いで「区のホームページ(13.2%)」、「病院・診療所(12.6%)」などとなっている。「特にない」は22.5%である。

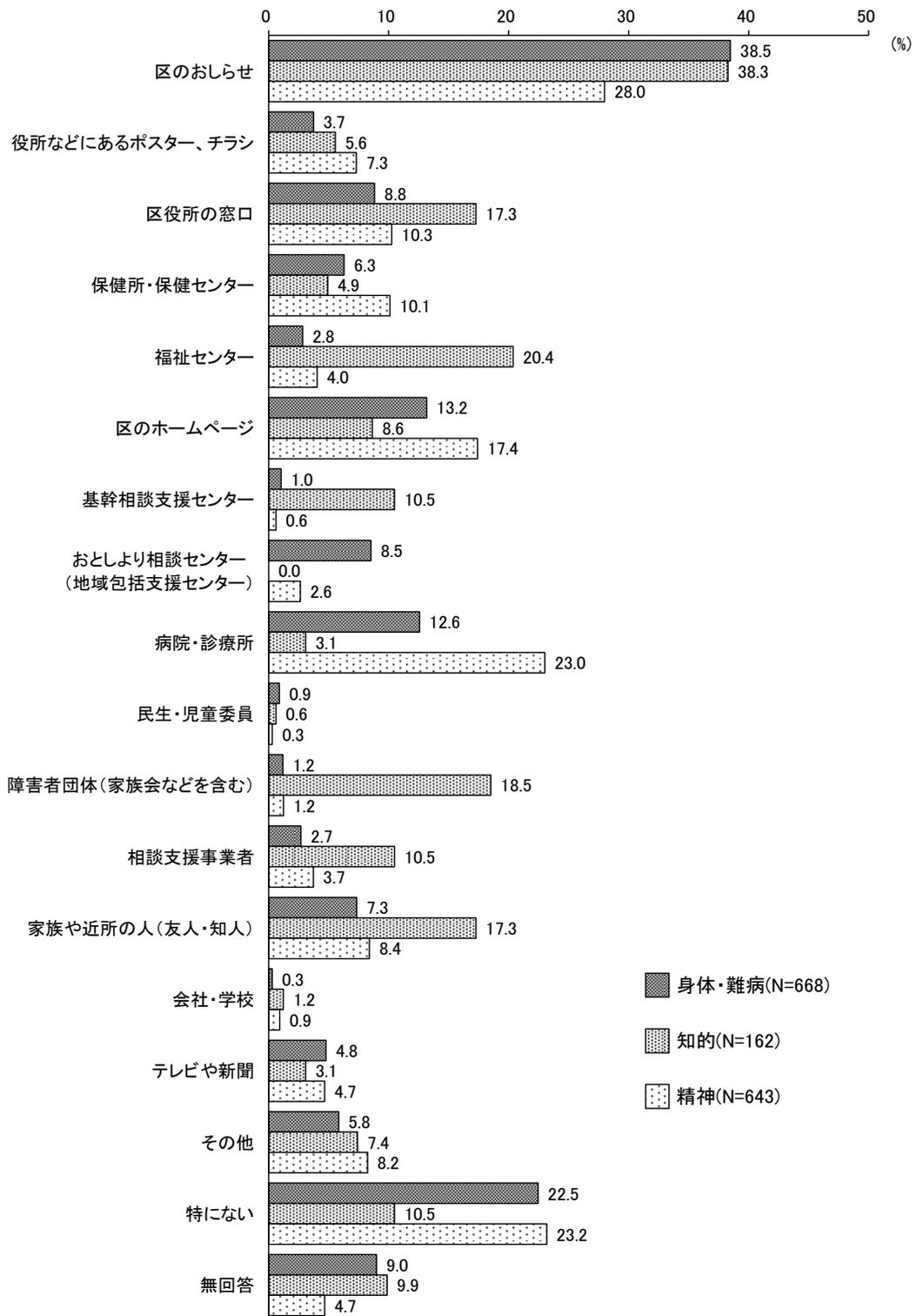
知的障害者は、「区のおしらせ(38.3%)」が最も多く、次いで「福祉センター(20.4%)」、「障害者団体(家族会などを含む)(18.5%)」、「区役所の窓口(17.3%)」、「家族や近所の人(友人・知人)(17.3%)」などとなっている。「特にない」は10.5%である。

精神障害者等は、「区のおしらせ(28.0%)」が最も多く、次いで「病院・診療所(23.0%)」、「区のホームページ(17.4%)」などとなっている。「特にない」は23.2%である。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「ケアマネジャー」、「障害者団体のホームページ」、「サービス事業所」など、知的障害者は「施設・グループホーム」など、精神障害者等は「インターネット」、「施設の職員」「地域の掲示板・回覧板」などとなっている。(図 1-5-6)

図 1-5-6 福祉サービスの情報入手先
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>



令和元年度調査との比較

令和4年度調査は、令和元年度調査の選択肢が異なるため、参考比較となる。

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「特になし」以外の項目では、3障害ともに上位第1位は、令和元年度調査は「区の広報紙」、令和4年度調査は、「区のおしらせ」となっている。なお、「区の広報紙」、「区のおしらせ」は同一のものを指すものである。

知的障害者では、「障害者団体（家族会などを含む）」が第3位に変わっている。（表1-5-1）

表1-5-1 福祉サービスの情報入手先

（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答）

<全体>

【身体障害者・難病患者】

(%)

	令和4年度 身体・難病(N=668)	令和元年度 身体・難病(N=613)
第1位	区のおしらせ 38.5	区の広報紙 43.7
第2位	区のホームページ 13.2	インターネット 13.2
第3位	病院・診療所 12.6	テレビや新聞 9.6

【知的障害者】

(%)

	令和4年度 知的(N=162)	令和元年度 知的(N=155)
第1位	区のおしらせ 38.3	区の広報紙 26.5
第2位	福祉センター 20.4	障害者団体(家族会などを含む) 24.5
第3位	障害者団体(家族会などを含む) 18.5	相談支援事業者 18.1

【精神障害者等】

(%)

	令和4年度 精神(N=643)	令和元年度 精神(N=651)
第1位	区のおしらせ 28.0	区の広報紙 26.9
第2位	病院・診療所 23.0	インターネット 17.5
第3位	区のホームページ 17.4	保健所・保健センター 11.1

6 リハビリ・医療について

(1) 機能回復訓練（リハビリ）の実施状況

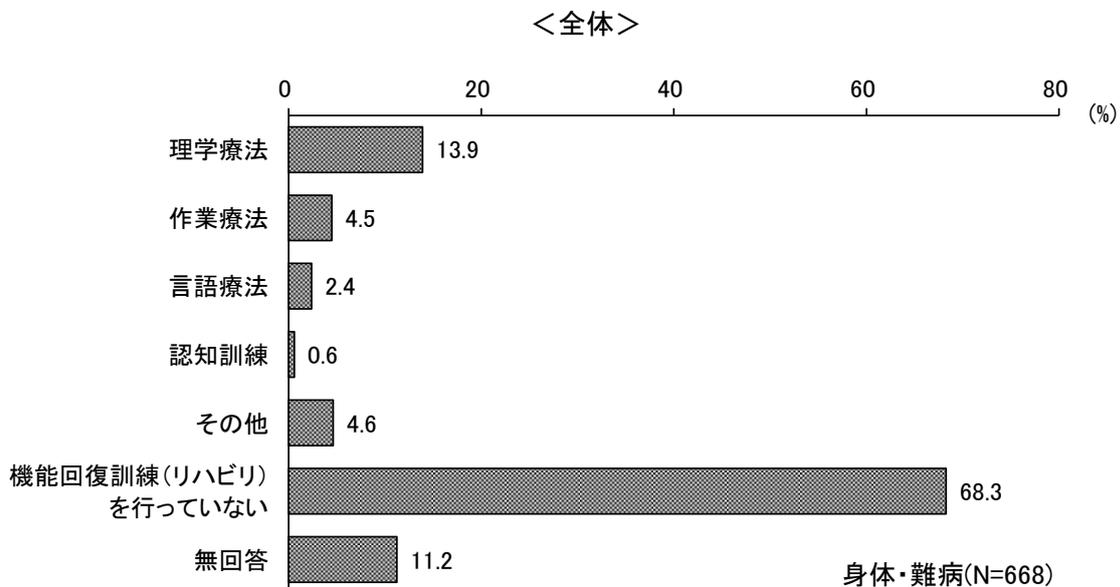
身体・難病：問21

身体障害者・難病患者に、機能回復訓練（リハビリ）の実施状況をたずねた。

「機能回復訓練（リハビリ）を行っていない」は68.3%となっている。また、「機能回復訓練（リハビリ）を行っていない(68.3%)」と「無回答(11.2%)」を除いた「行っている」は20.5%となっている。

機能回復訓練の内容は、「理学療法(13.9%)」、「その他(4.6%)」、「作業療法(4.5%)」などとなっている。(図1-6-1)

図1-6-1 機能回復訓練（リハビリ）の実施状況(身体障害者・難病患者)



(2) 日常的に必要としている医療的ケア

身体・難病：問 22、知的：問 19

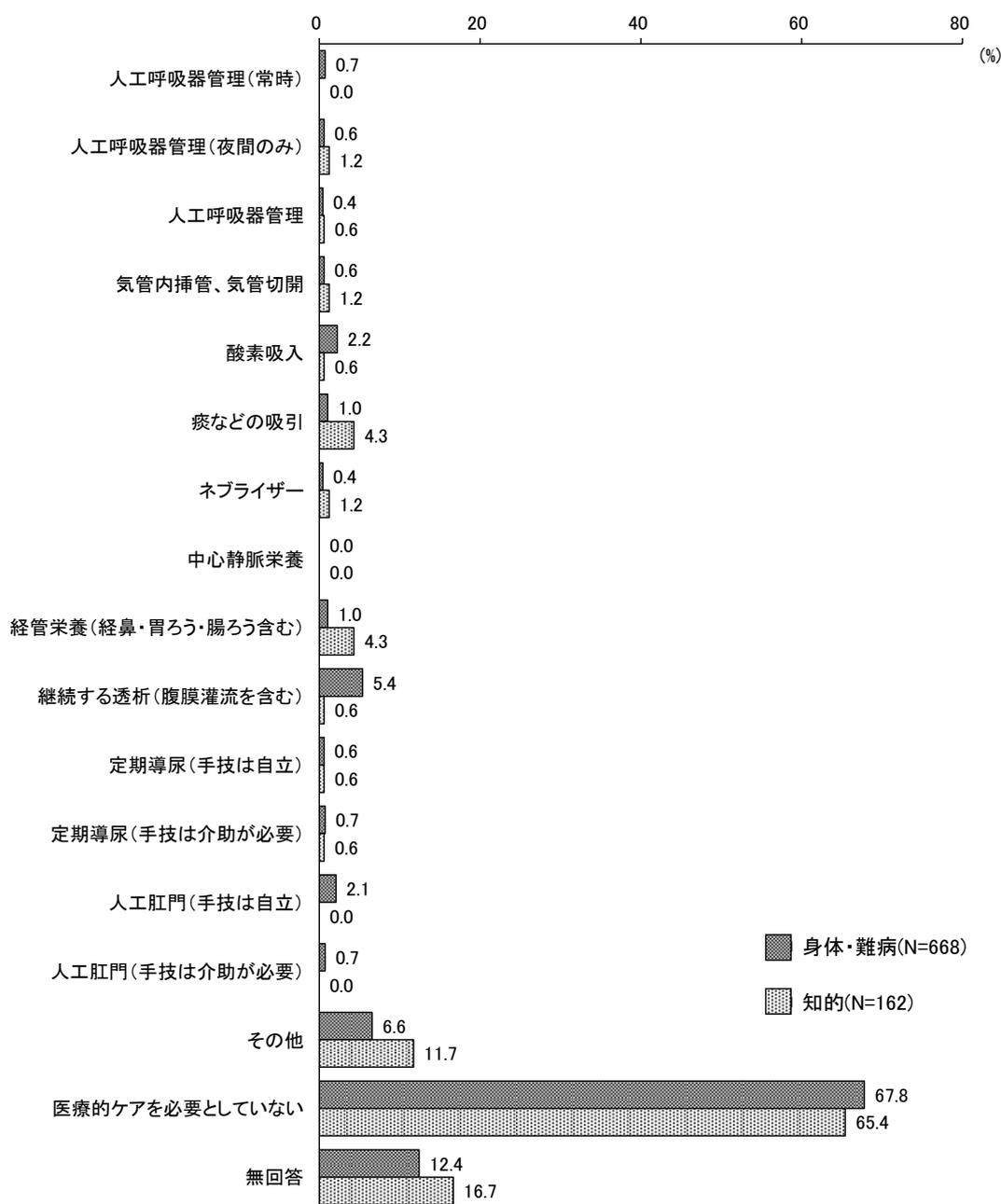
身体障害者・難病患者と知的障害者に、日常的に医療的ケアを必要としているかをたずねた。

「医療的ケアを必要としていない」は、身体障害者・難病患者が 67.8%、知的障害者が 65.4%となっている。

また、「医療的ケアを必要としていない」と「無回答」を除いた「必要としている」は、身体・難病が 19.8%、知的障害者は 17.9%となっている。(図 1-6-2)

図 1-6-2 日常的に必要としている医療的ケア(身体障害者・難病患者、知的障害者)

<全体>



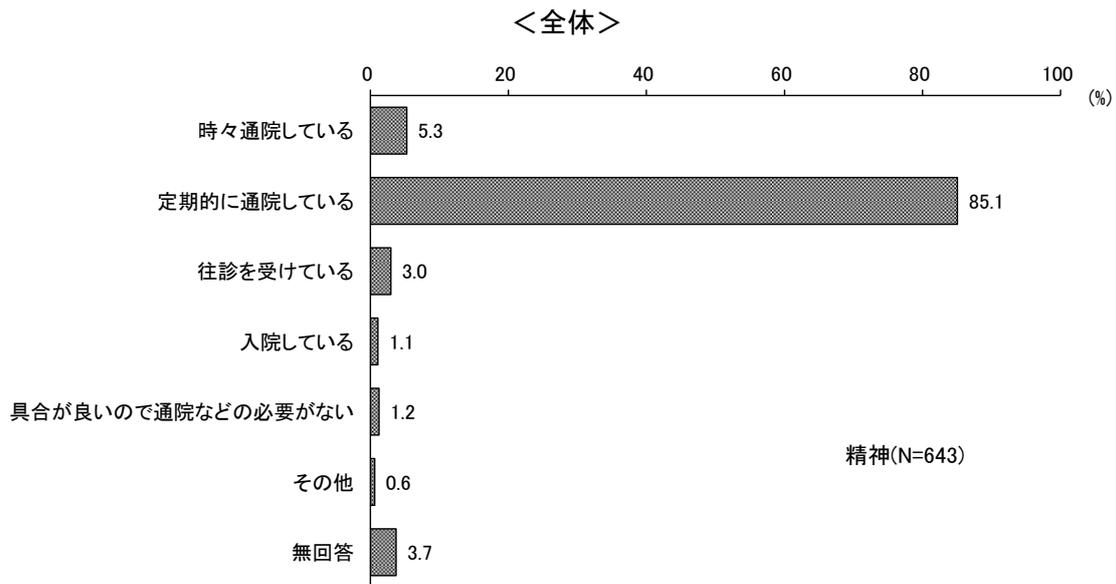
(3) 通院・入院状況

精神：問19

精神障害者等に、現在の通院・入院の状況をたずねた。

「定期的に通院している(85.1%)」が最も多く、次いで「時々通院している(5.3%)」、「往診を受けている(3.0%)」などとなっている。(図1-6-3)

図1-6-3 通院・入院状況(精神障害者等)



① 通院・往診の回数

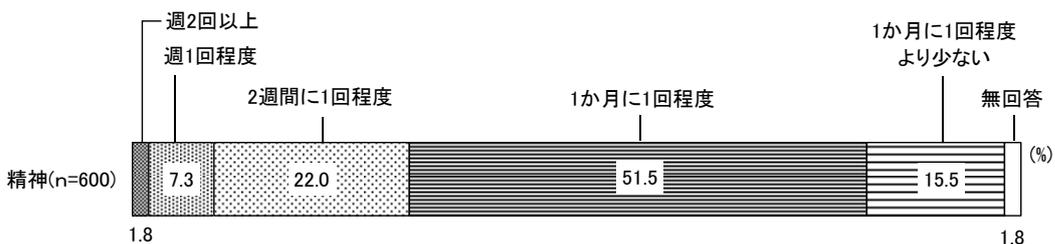
精神：問19-1

精神障害者等で、「時々通院している」、「定期的に通院している」、「往診を受けている」と回答した人に、通院・往診の回数をたずねた。

精神障害者等は、「1か月に1回程度(51.5%)」が最も多く、次いで「2週間に1回程度(22.0%)」、「1か月に1回程度より少ない(15.5%)」などとなっている。(図1-6-4)

図1-6-4 通院・往診の回数(精神障害者等)

<通院している人・往診を受けている人>



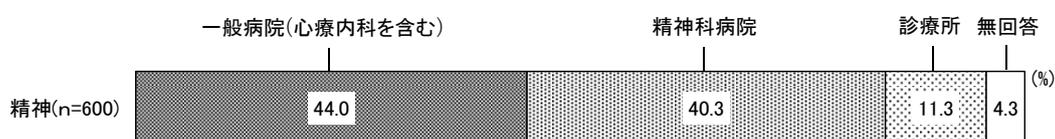
② 医療機関の種類

精神：問 19-2

精神障害者等で、「時々通院している」、「定期的に通院している」、「往診を受けている」と回答した人に、医療機関の種類をたずねた。

精神障害者等は、「一般病院(心療内科を含む)(44.0%)」が最も多く、次いで「精神科病院(40.3%)」、「診療所(11.3%)」などとなっている。(図 1-6-5)

図 1-6-5 医療機関の種類(精神障害者等)
 <通院している人・往診を受けている人>



③ 主治医からの説明の有無

精神：問 19-3

精神障害者等で、「時々通院している」、「定期的に通院している」、「往診を受けている」と回答した人に、主治医からの説明の有無をたずねた。

精神障害者等は、「受けた(88.0%)」、「受けなかった(8.8%)」である。(図 1-6-6)

図 1-6-6 主治医からの説明の有無(精神障害者等)
 <通院している人・往診を受けている人>



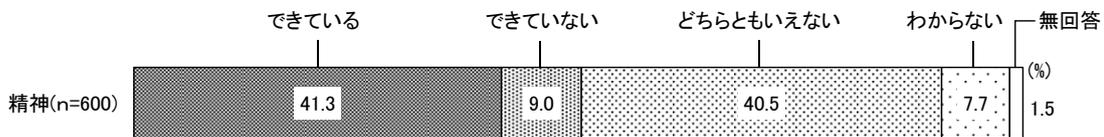
④ 症状のコントロール

精神：問 19-4

精神障害者等で、「時々通院している」、「定期的に通院している」、「往診を受けている」と回答した人に、症状が悪化しないように、自分でコントロールできているかをたずねた。

精神障害者等は、「できている(41.3%)」が最も多く、次いで「どちらともいえない(40.5%)」、「できていない(9.0%)」、「わからない(7.7%)」となっている。(図 1-6-7)

図 1-6-7 症状のコントロール(精神障害者等)
 <通院している人・往診を受けている人>



⑤ 区内で適切な医療を受けられているか

精神：問 19-5

精神障害者等で、「時々通院している」、「定期的に通院している」、「往診を受けている」と回答した人に、区内で適切な医療を受けられているかをたずねた。

「受けられている(63.8%)」、「受けられていない(30.7%)」である。(図 1-6-8)

図 1-6-8 区内で適切な医療を受けられているか(精神障害者等)
 <通院している人・往診を受けている人>



7 就労・経済状況について

(1) 就労状況

身体・難病：問 23、知的：問 20、精神：問 20

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、就労状況をたずねた。

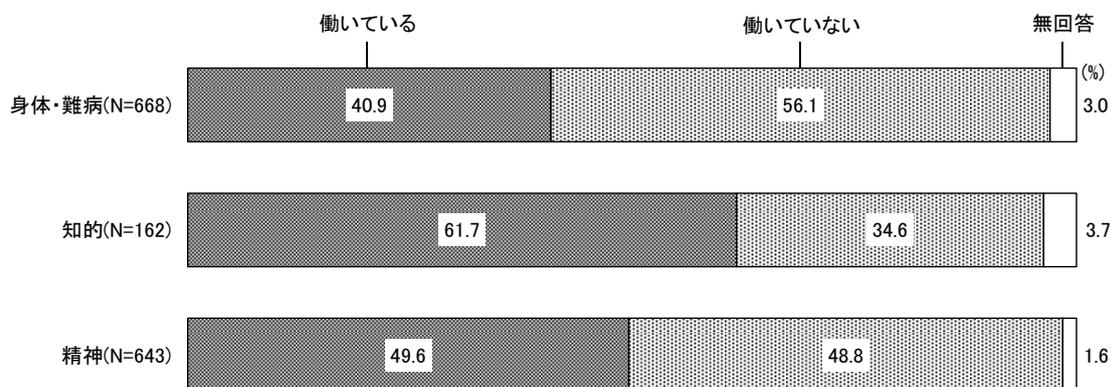
身体障害者・難病患者は、「働いている(40.9%)」、「働いていない(56.1%)」である。

知的障害者は、「働いている(61.7%)」、「働いていない(34.6%)」である。

精神障害者等は、「働いている(49.6%)」、「働いていない(48.8%)」である。(図 1-7-1)

図 1-7-1 就労状況(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



【年代別】

年代別に身体障害者・難病患者の就労状況をみると、20歳から59歳までは「働いている」が6割以上となっている。特に30歳～39歳、40歳～49歳は8割半ばとなっている。また、60歳～64歳では55.4%、65歳～74歳では30.1%、75歳～84歳では14.8%と、高齢になっても「働いている」人が見られる。

年代別に知的障害者の就労状況をみると、85歳以上を除いた全ての年代で「働いている」の回答が見られ、特に65歳～74歳は「働いている」が71.4%で、身体障害者・難病や精神障害者等の同年代よりも40～50ポイント高くなっている。

年代別に精神障害者等の就労状況をみると、全ての年代で「働いている」の回答が見られる。

30歳～39歳は「働いている」が72.8%で最も多くなっている。(表1-7-1)

表1-7-1 就労状況(身体障害者・難病患者知的障害者、知的障害者、精神障害者等)

<全体、年代別>

(上段:人、下段:%)

	身体障害者・難病患者			知的障害者			精神障害者等						
	働いている	働いていない	無回答	働いている	働いていない	無回答	働いている	働いていない	無回答				
全体	(N=668) 100.0	273 40.9	375 56.1	20 3.0	(N=162) 100.0	100 61.7	56 34.6	6 3.7	(N=643) 100.0	319 49.6	314 48.8	10 1.6	
年代別	18歳～19歳	(n=3) 100.0	0 0.0	3 100.0	0 0.0	(n=9) 100.0	2 22.2	7 77.8	0 0.0	(n=2) 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0
	20歳～29歳	(n=15) 100.0	10 66.7	5 33.3	0 0.0	(n=39) 100.0	22 56.4	17 43.6	0 0.0	(n=55) 100.0	37 67.3	18 32.7	0 0.0
	30歳～39歳	(n=42) 100.0	36 85.7	6 14.3	0 0.0	(n=33) 100.0	27 81.8	6 18.2	0 0.0	(n=81) 100.0	59 72.8	21 25.9	1 1.2
	40歳～49歳	(n=71) 100.0	61 85.9	10 14.1	0 0.0	(n=36) 100.0	27 75.0	7 19.4	2 5.6	(n=171) 100.0	99 57.9	71 41.5	1 0.6
	50歳～59歳	(n=93) 100.0	63 67.7	28 30.1	2 2.2	(n=26) 100.0	12 46.2	12 46.2	2 7.7	(n=162) 100.0	82 50.6	79 48.8	1 0.6
	60歳～64歳	(n=74) 100.0	41 55.4	31 41.9	2 2.7	(n=6) 100.0	3 50.0	3 50.0	0 0.0	(n=45) 100.0	17 37.8	27 60.0	1 2.2
	65歳～74歳	(n=123) 100.0	37 30.1	84 68.3	2 1.6	(n=7) 100.0	5 71.4	1 14.3	1 14.3	(n=79) 100.0	17 21.5	60 75.9	2 2.5
	75歳～84歳	(n=155) 100.0	23 14.8	123 79.4	9 5.8	(n=3) 100.0	1 33.3	2 66.7	0 0.0	(n=29) 100.0	2 6.9	25 86.2	2 6.9
	85歳以上	(n=88) 100.0	2 2.3	81 92.0	5 5.7	(n=0) 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	(n=8) 100.0	2 25.0	4 50.0	2 25.0

① 仕事の内容

身体・難病：付問 23-1、知的：付問 20-1、精神：付問 20-1

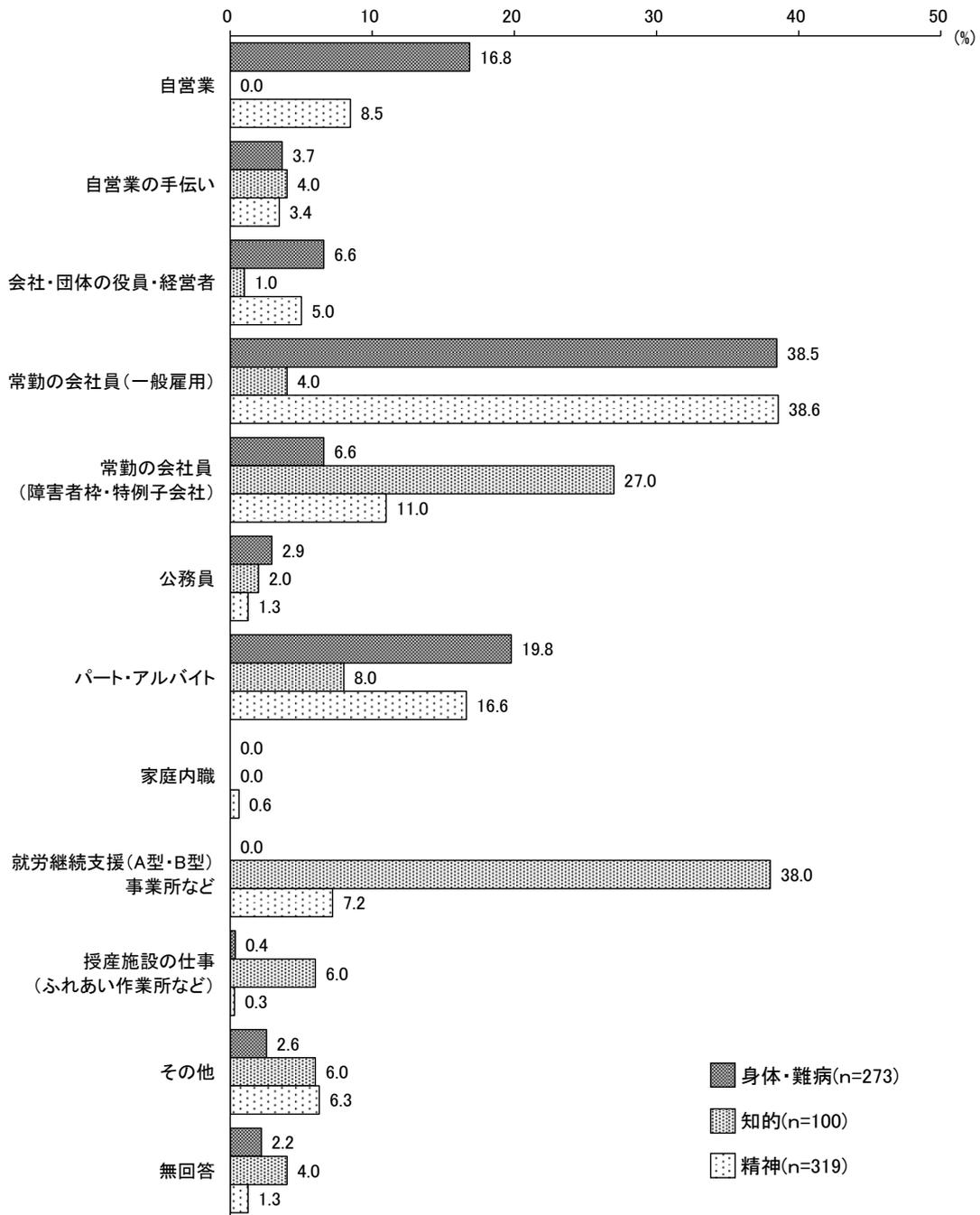
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、「働いている」と回答した人に仕事の内容をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「常勤の会社員（一般雇用）（38.5%）」が最も多く、次いで「パート・アルバイト（19.8%）」、「自営業（16.8%）」などとなっている。

知的障害者は、「就労継続支援（A型・B型）事業所など（38.0%）」が最も多く、次いで「常勤の会社員（障害者枠・特例子会社）（27.0%）」、「パート・アルバイト（8.0%）」などとなっている。

精神障害者等は、「常勤の会社員（一般雇用）（38.6%）」が最も多く、次いで「パート・アルバイト（16.6%）」、「常勤の会社員（障害者枠・特例子会社）（11.0%）」などとなっている。（図 1-7-2）

図 1-7-2 仕事の内容(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
 <働いている人>



② 現在の仕事を探した方法

身体・難病：付問 23-2、知的：付問 20-2、精神：付問 20-2

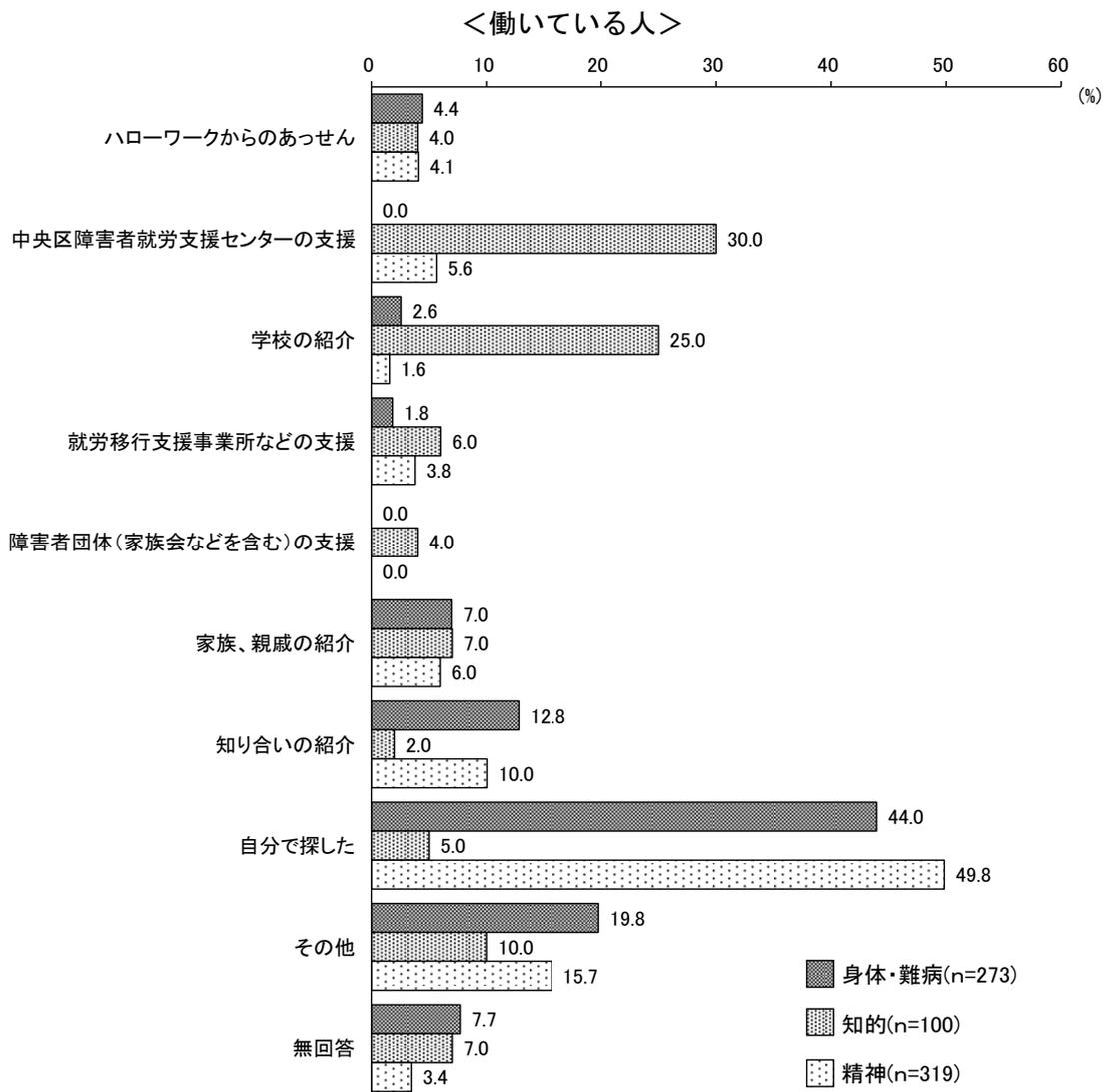
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、「働いている」と回答した人に現在の仕事を探した方法をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「自分で探した(44.0%)」が最も多く、次いで「その他(19.8%)」、「知り合いの紹介(12.8%)」などとなっている。「その他」の内容は、「自営業、障害者となる前から働いている」、「転職支援会社」などとなっている。

知的障害者は、「中央区障害者就労支援センターの支援(30.0%)」が最も多く、次いで「学校の紹介(25.0%)」、「その他(10.0%)」、「家族、親戚の紹介(7.0%)」などとなっている。「その他」の内容は、「入所施設からの紹介」、「家業の手伝い」などとなっている。

精神障害者等は、「自分で探した(49.8%)」が最も多く、次いで「その他(15.7%)」、「知り合いの紹介(10.0%)」などとなっている。「その他」の内容は、「人材紹介会社」、「家業」、「以前から勤めている」、「職場復帰」などとなっている。(図 1-7-3)

図 1-7-3 現在の仕事を探した方法(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、身体障害者・難病患者と精神障害者等では、上位第1位は変わらないものの、第2位が「その他」、第3位が「知り合いの紹介」と変わっている。また、精神障害者等では、「自分で探した」は43.1%から49.8%と6.7ポイント高くなっている。

知的障害者では、「中央区障害者就労支援センターの支援」は25.7%から30.0%と4.3ポイント高く、「学校の紹介」は19.8%から25.0%と5.2ポイント高くなっている。また、上位第3位が「その他」に変わっている。(表1-7-2)

表1-7-2 現在の仕事を探した方法
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<働いている人>

【身体障害者・難病患者】

(%)

	令和4年度 身体・難病(n=273)	令和元年度 身体・難病(n=238)
第1位	自分で探した 44.0	自分で探した 47.5
第2位	その他 19.8	知り合いの紹介 10.9
第3位	知り合いの紹介 12.8	ハローワークからのあっせん 家族、親戚の紹介 } 6.7 (同率)

【知的障害者】

(%)

	令和4年度 知的(n=100)	令和元年度 知的(n=101)
第1位	中央区障害者就労支援センターの支援 30.0	中央区障害者就労支援センターの支援 25.7
第2位	学校の紹介 25.0	学校の紹介 19.8
第3位	その他 10.0	就労移行支援事業所などの支援 10.9

【精神障害者等】

(%)

	令和4年度 精神(n=319)	令和元年度 精神(n=318)
第1位	自分で探した 49.8	自分で探した 43.1
第2位	その他 15.7	知り合いの紹介 9.7
第3位	知り合いの紹介 10.0	ハローワークからのあっせん 7.2

③ 就労先で何かしらの配慮がされているか

身体・難病：付問 23-3、知的：付問 20-3、精神：付問 20-3

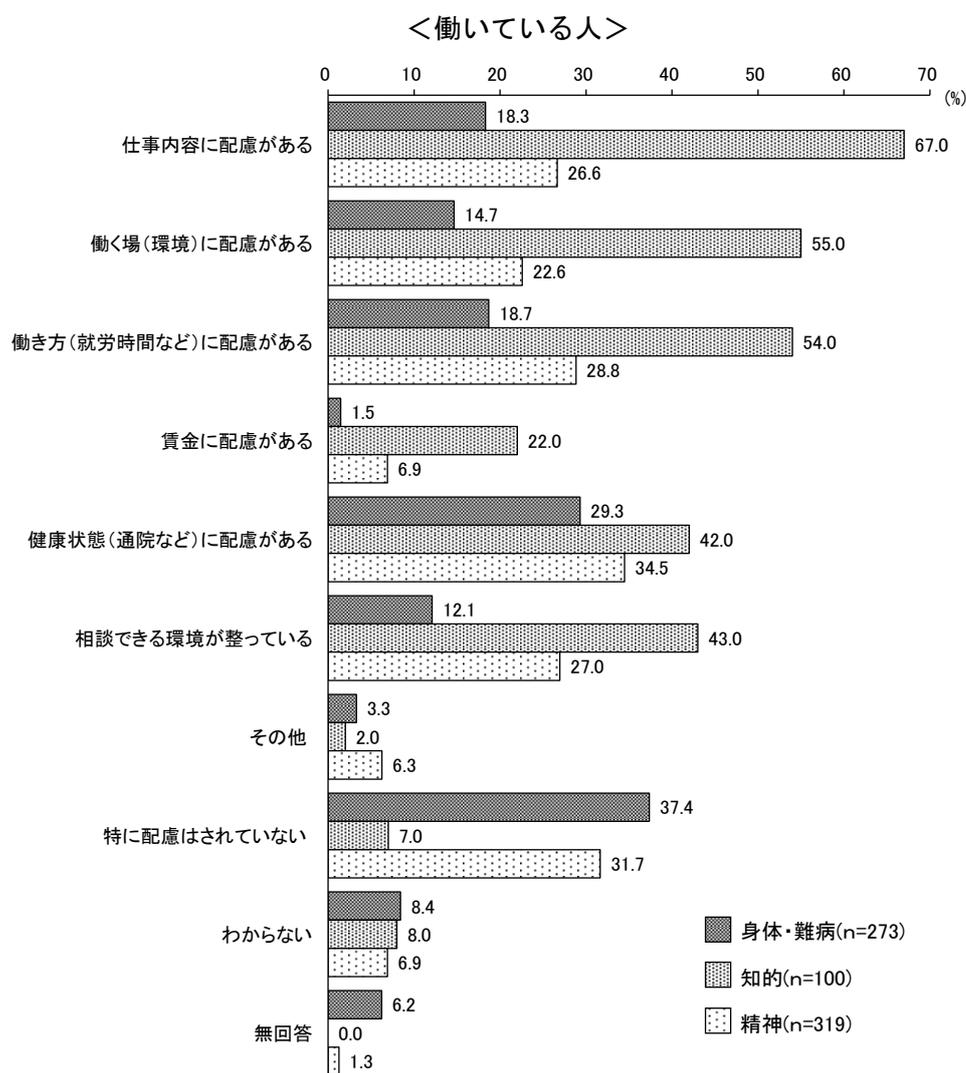
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で「働いている」と回答した人に、就労先で何かしらの配慮がされているかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「特に配慮はされていない(37.4%)」が最も多く、次いで「健康状態（通院など）に配慮がある(29.3%)」、「働き方（就労時間など）に配慮がある(18.7%)」、「仕事内容に配慮がある(18.3%)」などとなっている。

知的障害者は、「仕事内容に配慮がある(67.0%)」が最も多く、次いで「働く場（環境）に配慮がある(55.0%)」、「働き方（就労時間など）に配慮がある(54.0%)」、「相談できる環境が整っている(43.0%)」、「健康状態（通院など）に配慮がある(42.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「健康状態（通院など）に配慮がある(34.5%)」が最も多く、次いで「特に配慮はされていない(31.7%)」、「働き方（就労時間など）に配慮がある(28.8%)」、「相談できる環境が整っている(27.0%)」、「仕事内容に配慮がある(26.6%)」などとなっている。（図 1-7-4）

図 1-7-4 就労先で何かしらの配慮がされているか
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



【現在の暮らしの困りごと】

ここでは、就労先での配慮の状況を「配慮されている」、「特に配慮はされていない」、「わからない」の3つに分けて、「特に配慮はされていない」の現在の暮らしの困りごとにおける「仕事のこと（仕事が見つからない、仕事が長続きしないなど）」について分析する。

身体障害者・難病患者の「特に配慮はされていない」では、「仕事のこと（仕事が見つからない、仕事が長続きしないなど）」は8.8%となっている。

知的障害者は、「特に配慮はされていない」の母数が少なく、配慮の有無による違いはあまり見られない。

精神障害者等の「特に配慮はされていない」では、「仕事のこと（仕事が見つからない、仕事が長続きしないなど）」は36.6%と、2番目に多い項目となっている。（表1-7-3）

表1-7-3 現在の暮らしの困りごと
（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答）

＜全体、就労先での配慮の有無別＞

（上段：人、下段：%）

		な い な ど	家 族 の 不 在 で （ 手 助 け の 健 受 け ら れ 、	家 族 の こ と （ 家 族 の 健 康 状 態 、	理 解 な ら ず	の ト ラ ブ ル な ど	近 所 ・ 地 域 の こ と （ 近 所 に 対 し	に な ら な い な ど	の 健 康 ・ 医 療 の こ と （ 障 害 や 病 気	な お 金 の こ と （ 収 入 、 お 金 の 管 理	い し ま の こ と （ 長 続 き し な い な ど	が 取 ら な い な ど	人 と の ま く い の こ と （ 周 り の	な ま い の こ と （ バ リ ア フ リ ー	そ の 他	特 に 困 っ て い る こ と は な い	無 回 答
身体障害者・難病患者 ＜全体＞	(N=668) 100.0	107 16.0	16 2.4	152 22.8	134 20.1	57 8.5	32 4.8	55 8.2	43 6.4	314 47.0	38 5.7						
就 労 先 で の 有 無 別	配慮されている (n=132) 100.0	27 20.5	3 2.3	38 28.8	31 23.5	13 9.8	7 5.3	13 9.8	7 5.3	13 9.8	4 3.0						
	特に配慮はされてい ない (n=102) 100.0	9 8.8	1 1.0	17 16.7	19 18.6	9 8.8	5 4.9	3 2.9	5 4.9	59 57.8	4 3.9						
	わからない (n=23) 100.0	4 17.4	1 4.3	4 17.4	5 21.7	3 13.0	2 8.7	0 0.0	1 4.3	9 39.1	2 8.7						
知的障害者 ＜全体＞	(N=162) 100.0	27 16.7	15 9.3	24 14.8	43 26.5	19 11.7	41 25.3	5 3.1	15 9.3	55 34.0	9 5.6						
就 労 先 で の 有 無 別	配慮されている (n=85) 100.0	9 10.6	7 8.2	12 14.1	22 25.9	11 12.9	21 24.7	2 2.4	8 9.4	37 43.5	3 3.5						
	特に配慮はされてい ない (n=7) 100.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0	2 28.6	0 0.0	3 42.9	0 0.0	0 0.0	3 42.9	0 0.0						
	わからない (n=8) 100.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	2 25.0	3 37.5	0 0.0						
精神障害者等 ＜全体＞	(N=643) 100.0	158 24.6	44 6.8	223 34.7	273 42.5	204 31.7	183 28.5	46 7.2	65 10.1	141 21.9	18 2.8						
就 労 先 で の 有 無 別	配慮されている (n=192) 100.0	45 23.4	9 4.7	63 32.8	76 39.6	50 26.0	47 24.5	12 6.3	15 7.8	51 26.6	3 1.6						
	特に配慮はされてい ない (n=101) 100.0	27 26.7	4 4.0	35 34.7	49 48.5	37 36.6	30 29.7	5 5.0	6 5.9	21 20.8	0 0.0						
	わからない (n=22) 100.0	4 18.2	0 0.0	5 22.7	13 59.1	9 40.9	6 27.3	0 0.0	2 9.1	6 27.3	0 0.0						

④ 今後の就労意向

身体・難病：付問 23-4、知的：付問 20-4、精神：付問 20-4

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で「働いていない」と回答した人に、今後の就労意向をたずねた。

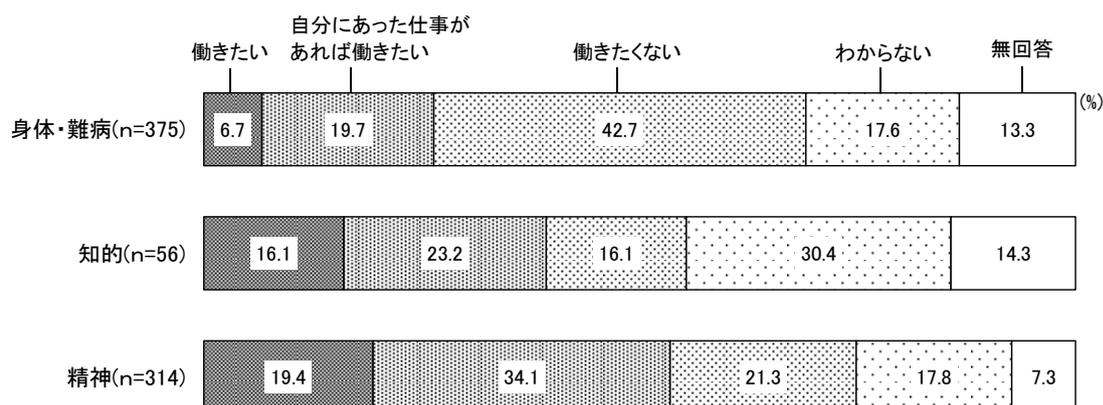
身体障害者・難病患者は、「働きたくない(42.7%)」が最も多く、次いで「自分にあった仕事があれば働きたい(19.7%)」、「わからない(17.6%)」、「働きたい(6.7%)」となっている。

知的障害者は、「わからない(30.4%)」が最も多く、次いで「自分にあった仕事があれば働きたい(23.2%)」、「働きたい(16.1%)」、「働きたくない(16.1%)」となっている。

精神障害者等は、「自分にあった仕事があれば働きたい(34.1%)」が最も多く、次いで「働きたくない(21.3%)」、「働きたい(19.4%)」、「わからない(17.8%)」となっている。(図 1-7-5)

図 1-7-5 今後の就労意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<働いていない人>



(2) 障害のある人が働くために必要な環境

身体・難病：問 24、知的：問 21、精神：問 21

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、障害のある人が働くために必要な環境についてたずねた。

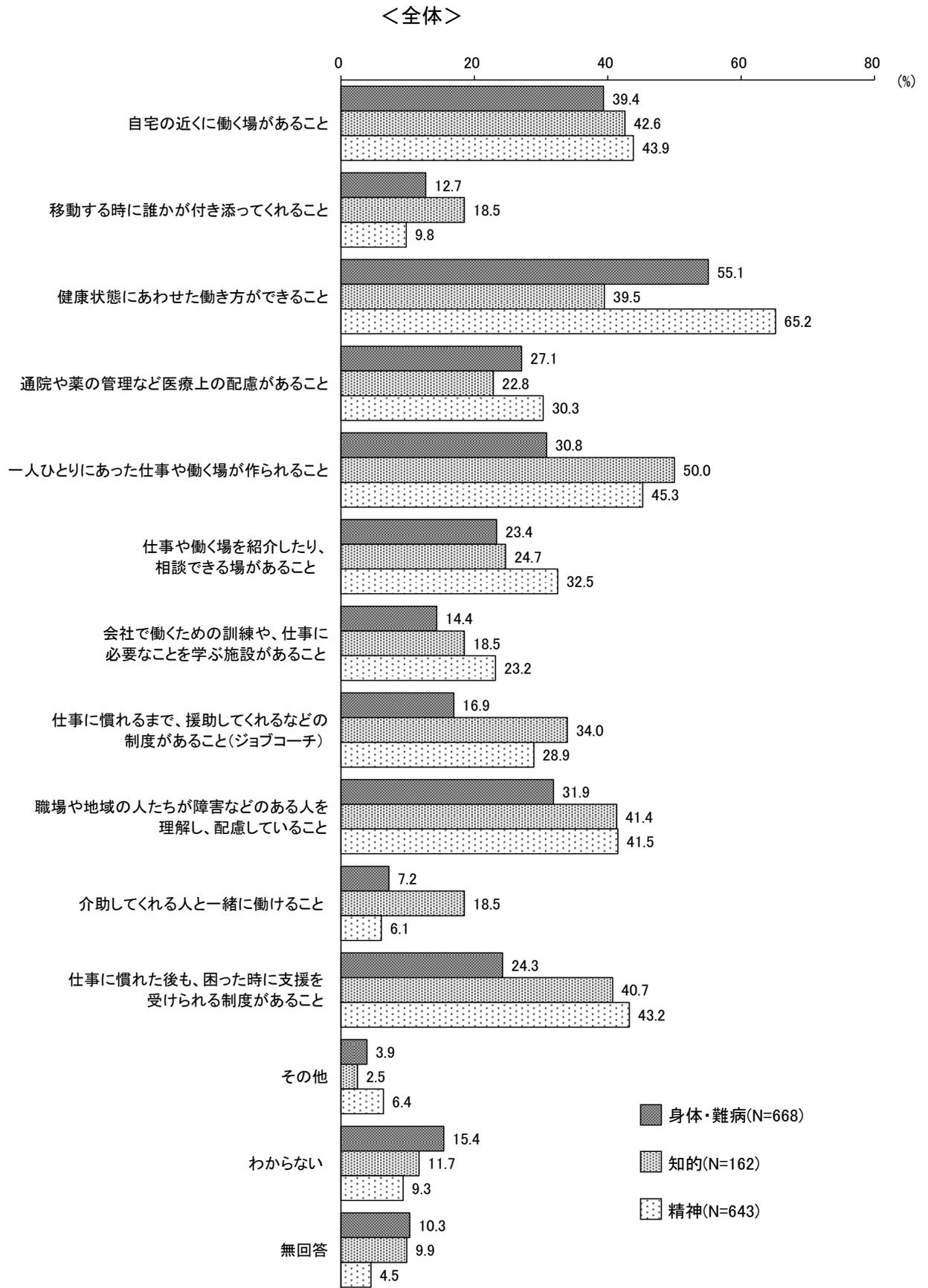
身体障害者・難病患者は、「健康状態にあわせた働き方ができること(55.1%)」が最も多く、次いで「自宅の近くに働く場があること(39.4%)」、「職場や地域の人たちが障害などのある人を理解し、配慮していること(31.9%)」、「一人ひとりにあった仕事や働く場が作られること(30.8%)」などとなっている。

知的障害者は、「一人ひとりにあった仕事や働く場が作られること(50.0%)」が最も多く、次いで「自宅の近くに働く場があること(42.6%)」、「職場や地域の人たちが障害などのある人を理解し、配慮していること(41.4%)」、「仕事に慣れた後も、困った時に支援を受けられる制度があること(40.7%)」、「健康状態にあわせた働き方ができること(39.5%)」などとなっている。

精神障害者等は、「健康状態にあわせた働き方ができること(65.2%)」が最も多く、次いで「一人ひとりにあった仕事や働く場が作られること(45.3%)」、「自宅の近くに働く場があること(43.9%)」、「仕事に慣れた後も、困った時に支援を受けられる制度があること(43.2%)」などとなっている。

(図 1-7-6)

図 1-7-6 障害のある人が働くために必要な環境
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(3) 年収

身体・難病：問 25、知的：問 22、精神：問 22

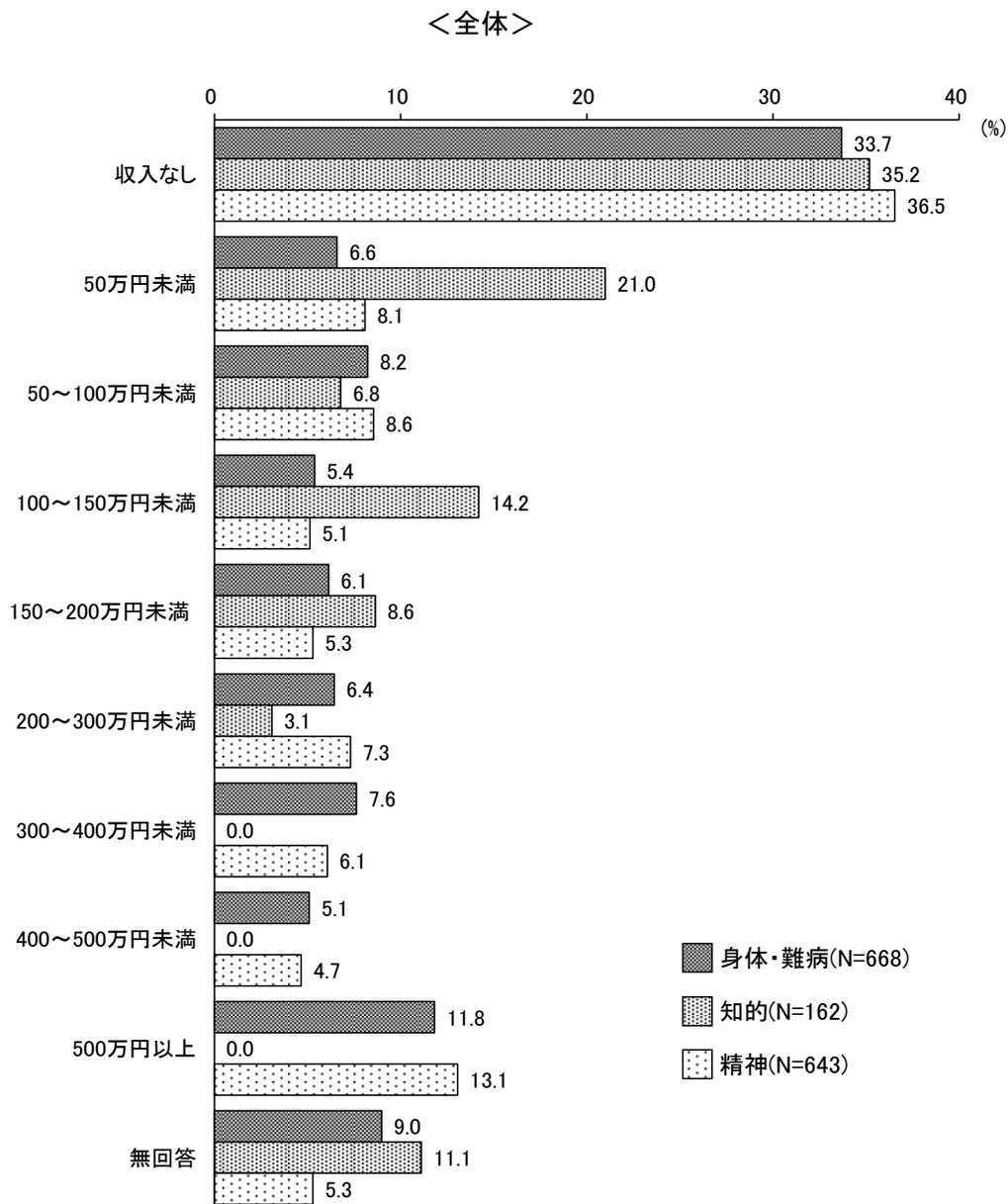
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、年収（※生活保護費、年金・手当、家族からの仕送り・小遣いなどは除く）をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「収入なし(33.7%)」が最も多く、次いで「500万円以上(11.8%)」、「50～100万円未満(8.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「収入なし(35.2%)」が最も多く、次いで「50万円未満(21.0%)」、「100～150万円未満(14.2%)」などとなっている。

精神障害者等は、「収入なし(36.5%)」が最も多く、次いで「500万円以上(13.1%)」、「50～100万円未満(8.6%)」、「50万円未満(8.1%)」などとなっている。(図 1-7-7)

図 1-7-7 年収(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



8 社会参加・文化余暇活動の状況について

(1) 外出目的（外出先）

身体・難病：問 26、知的：問 23、精神：問 23

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、外出目的をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「医療機関への受診（通院）（74.1%）」が最も多く、次いで「買い物（74.0%）」、「散歩（49.3%）」、「友人・知人と会う（45.2%）」などとなっている。

知的障害者は、「買い物（61.7%）」が最も多く、次いで「医療機関への受診（通院）（54.9%）」、「散歩（50.0%）」、「通勤（39.5%）」などとなっている。

精神障害者等は、「買い物（79.0%）」が最も多く、次いで「医療機関への受診（通院）（77.1%）」、「散歩（49.3%）」、「友人・知人と会う（38.4%）」、「通勤（37.3%）」などとなっている。

なお、「通所」と回答した人の具体的な通い先の主な内容は、以下の通りである。

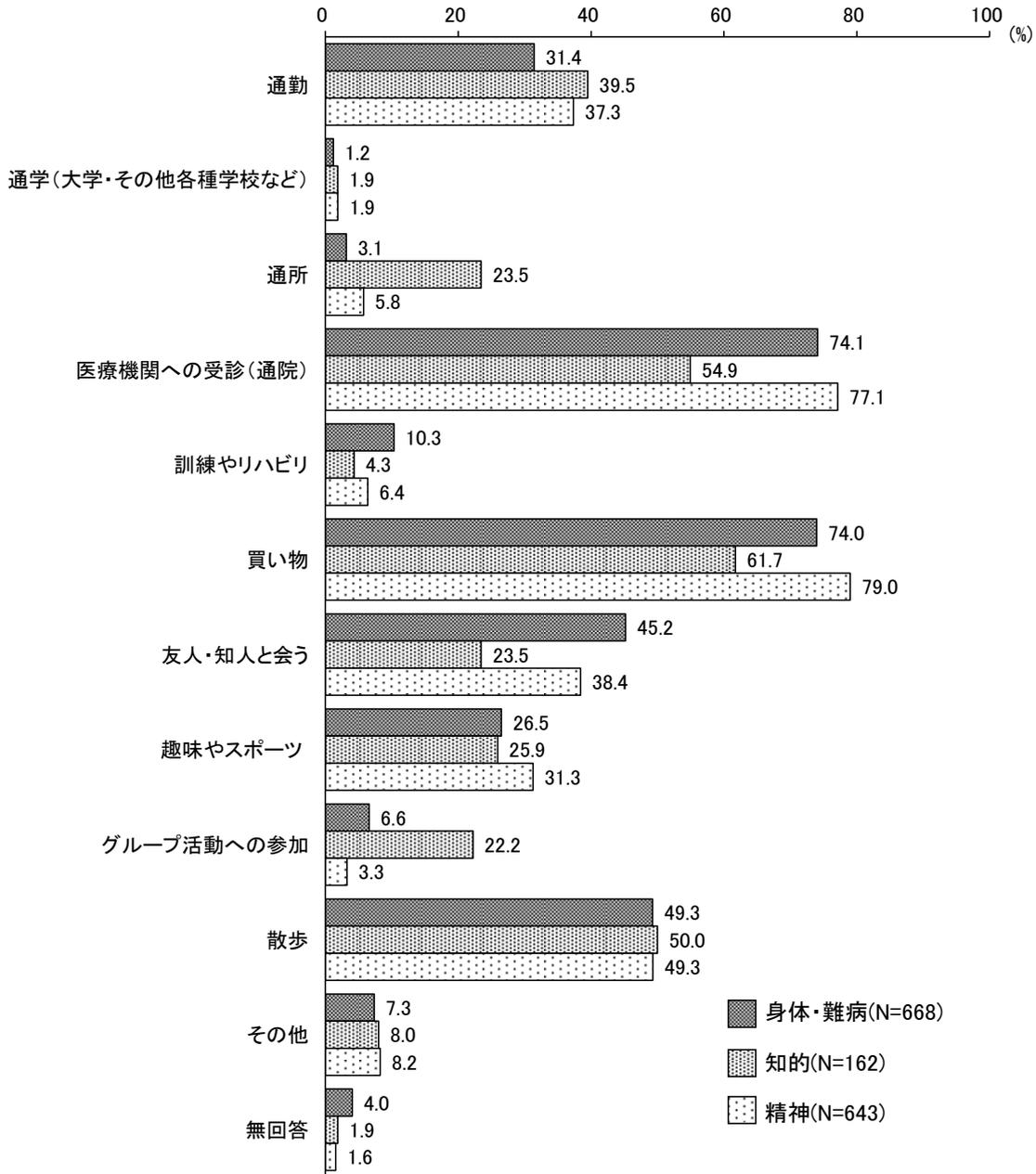
身体障害者・難病患者は「デイサービス」、「敬老館シニアセンター」など、知的障害者は「作業所」、「生活介護」、「デイサービス」など、精神障害者等は「就労支援事業所（A型・B型）」、「就労継続支援」、「就労移行支援」、「ポケット中央」、「デイサービス」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「子どもや孫の送迎」、「親の介護」、「家族や親族と会う」など、知的障害者は「外泊・一時帰宅」、「外食」など、精神障害者等は「子どもや孫の送迎」、「親の世話や介護」、「美容院」などとなっている。（図 1-8-1）

図1-8-1 外出目的（外出先）

（身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答）

<全体>



(2) 地域（町会など）主催イベントの参加状況

身体・難病：問 27、知的：問 24、精神：問 24

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、地域（町会など）主催イベントの参加状況をたずねた。

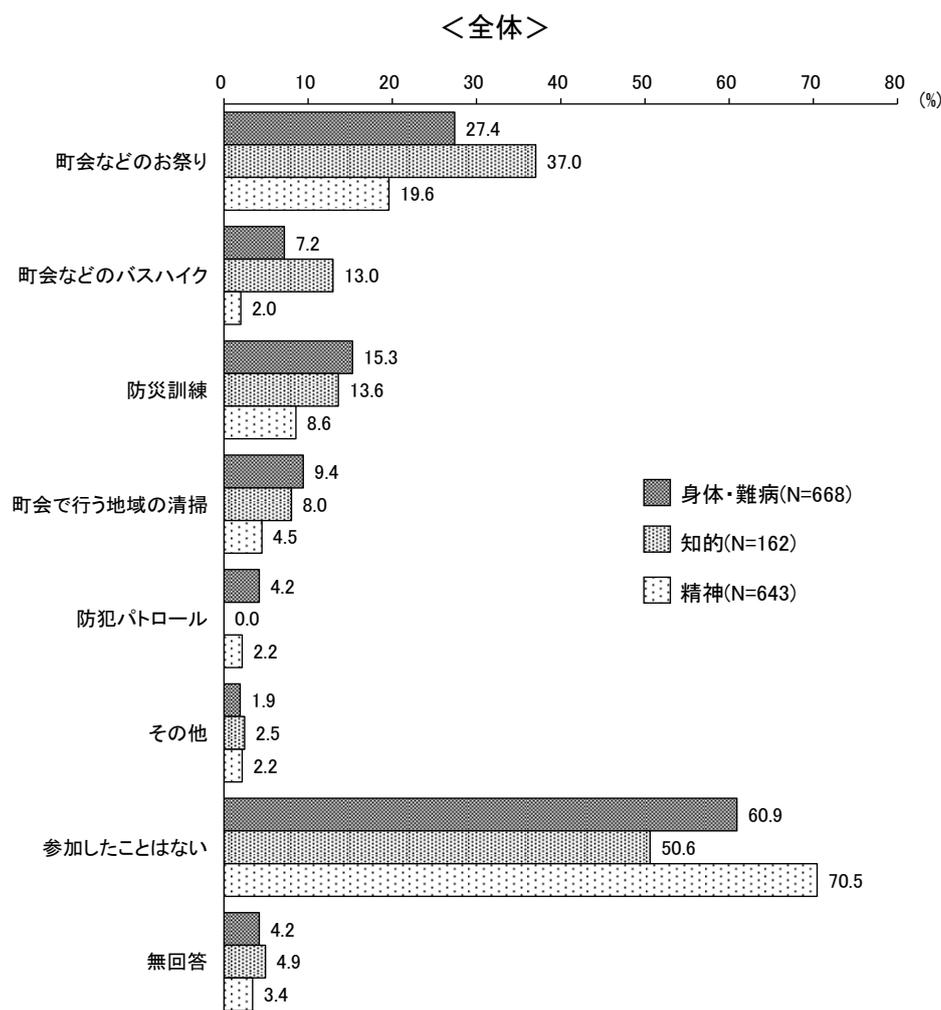
なお、身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等いずれも「参加したことはない」が最も多くなっている。

身体障害者・難病患者は、「参加したことはない(60.9%)」以外では、「町会などのお祭り(27.4%)」が最も多く、次いで「防災訓練(15.3%)」、「町会で行う地域の清掃(9.4%)」などとなっている。

知的障害者は、「参加したことはない(50.6%)」以外では、「町会などのお祭り(37.0%)」が最も多く、次いで「防災訓練(13.6%)」、「町会などのバスハイク(13.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「参加したことはない(70.5%)」以外では、「町会などのお祭り(19.6%)」が最も多く、次いで「防災訓練(8.6%)」、「町会で行う地域の清掃(4.5%)」などとなっている。(図 1-8-2)

図 1-8-2 地域（町会など）主催イベントの参加状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(3) 参加したい文化・芸術・余暇活動

身体・難病：問 28、知的：問 25、精神：問 25

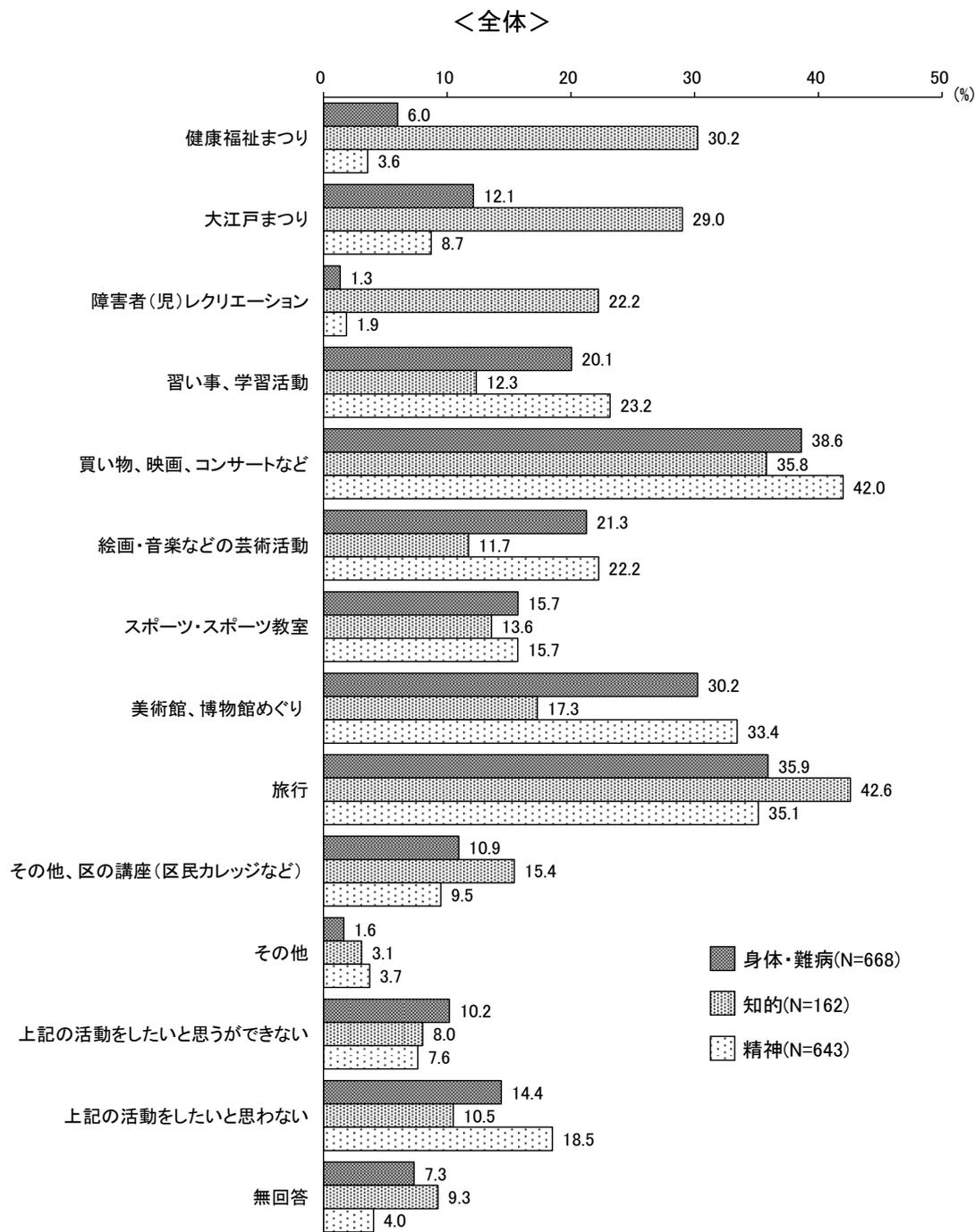
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、参加したい文化・芸術・余暇活動をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「買い物、映画、コンサートなど(38.6%)」が最も多く、次いで「旅行(35.9%)」、「美術館、博物館めぐり(30.2%)」、「絵画・音楽などの芸術活動(21.3%)」、「習い事、学習活動(20.1%)」などとなっている。

知的障害者は、「旅行(42.6%)」が最も多く、次いで「買い物、映画、コンサートなど(35.8%)」、「健康福祉まつり(30.2%)」、「大江戸まつり(29.0%)」、「障害者（児）レクリエーション(22.2%)」などとなっている。

精神障害者等は、「買い物、映画、コンサートなど(42.0%)」が最も多く、次いで「旅行(35.1%)」、「美術館、博物館めぐり(33.4%)」、「習い事、学習活動(23.2%)」、「絵画・音楽などの芸術活動(22.2%)」などとなっている。(図 1-8-3)

図 1-8-3 参加したい文化・芸術・余暇活
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(4) 文化・芸術・余暇活動参加の妨げになっていること

身体・難病：問 29、知的：問 26、精神：問 26

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、文化・芸術・余暇活動参加の妨げになっていることをたずねた。

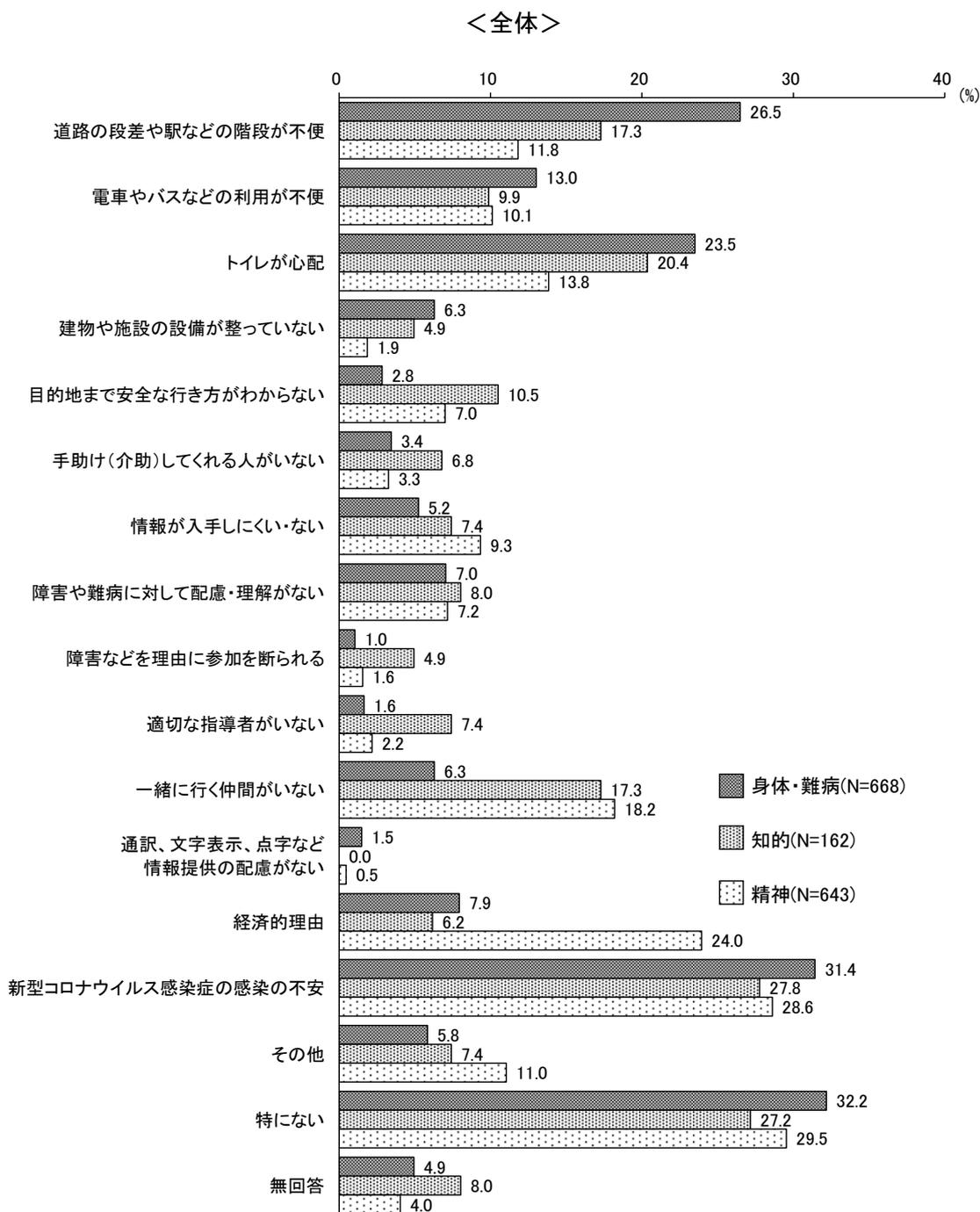
身体障害者・難病患者、精神障害者等は「特にない」が最も多くなっている。

身体障害者・難病患者は、「特にない(32.2%)」以外では、「新型コロナウイルス感染症の感染の不安(31.4%)」が最も多く、次いで「道路の段差や駅などの階段が不便(26.5%)」、「トイレが心配(23.5%)」などとなっている。なお、「その他(5.8%)」の内容は、「体調の問題」、「体力がない」、「介助者の交通費」、「街中に腰掛ける場所がない」などとなっている。

知的障害者は、「新型コロナウイルス感染症の感染の不安(27.8%)」が最も多く、次いで「特にない(27.2%)」、「トイレが心配(20.4%)」、「道路の段差や駅などの階段が不便(17.3%)」、「一緒に行く仲間がいない(17.3%)」などとなっている。なお、「その他(7.4%)」の内容は、「介助者がいないとどこにもいけない」、「周囲に敏感」などとなっている。

精神障害者等は、「特にない(29.5%)」以外では、「新型コロナウイルス感染症の感染の不安(28.6%)」が最も多く、次いで「経済的理由(24.0%)」、「一緒に行く仲間がいない(18.2%)」などとなっている。なお、「その他(11.0%)」の内容は、「人が怖い」、「コミュニケーションが苦手」、「体調・病気が不安定」、「時間がない」などとなっている。(図 1-8-4)

図 1-8-4 文化・芸術・余暇活動参加の妨げになっていること
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



9 権利擁護について

(1) 成年後見制度の内容の認知状況

身体・難病：問 30、知的：問 27、精神：問 27

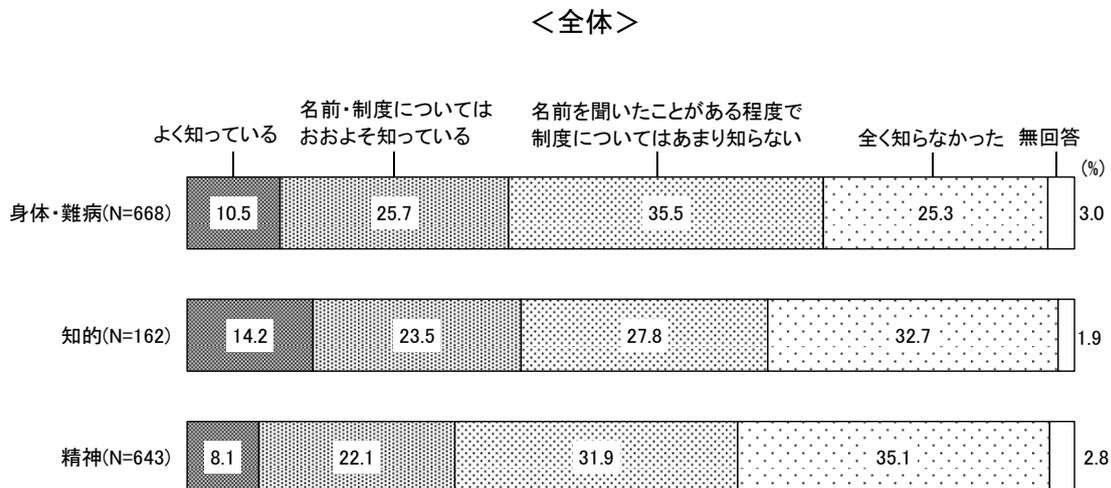
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、成年後見制度の内容を知っているかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「よく知っている(10.5%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(25.7%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(35.5%)」、「全く知らない(25.3%)」となっている。

知的障害者は、「よく知っている(14.2%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(23.5%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(27.8%)」、「全く知らなかった(32.7%)」となっている。

精神障害者等は、「よく知っている(8.1%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(22.1%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(31.9%)」、「全く知らない(35.1%)」となっている。(図 1-9-1)

図 1-9-1 成年後見制度の内容の認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

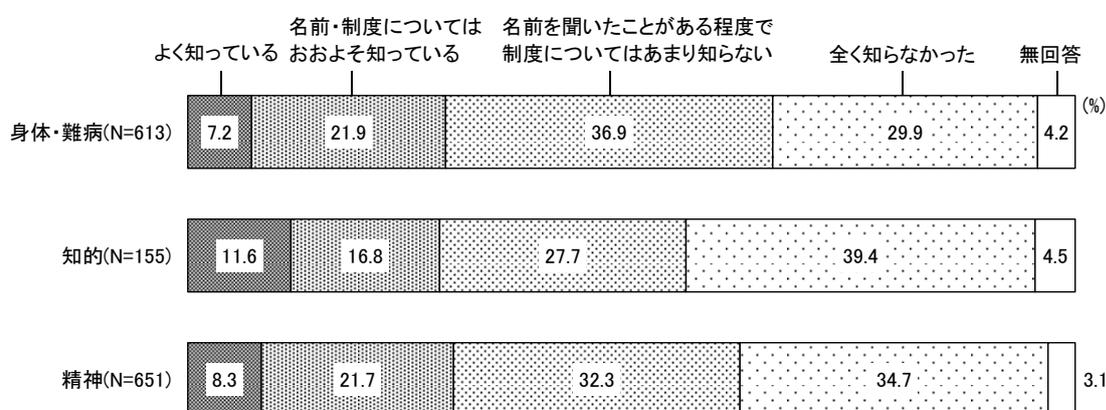


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「よく知っている」と「名前・制度についてはおおよそ知っている」を合計した<知っている>は、身体障害者・難病では21.9%から36.2%と7.1ポイント高く、知的障害者では28.4%から37.7%と9.3ポイント高く、精神障害者等では30.0%から30.2%とほぼ同数となっている。(図1-9-2)

図1-9-2 【令和元年度調査】成年後見制度の内容の認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



(2) 成年後見制度の利用意向

身体・難病：問 31、知的：問 28、精神：問 28

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、成年後見制度の利用意向をたずねた。

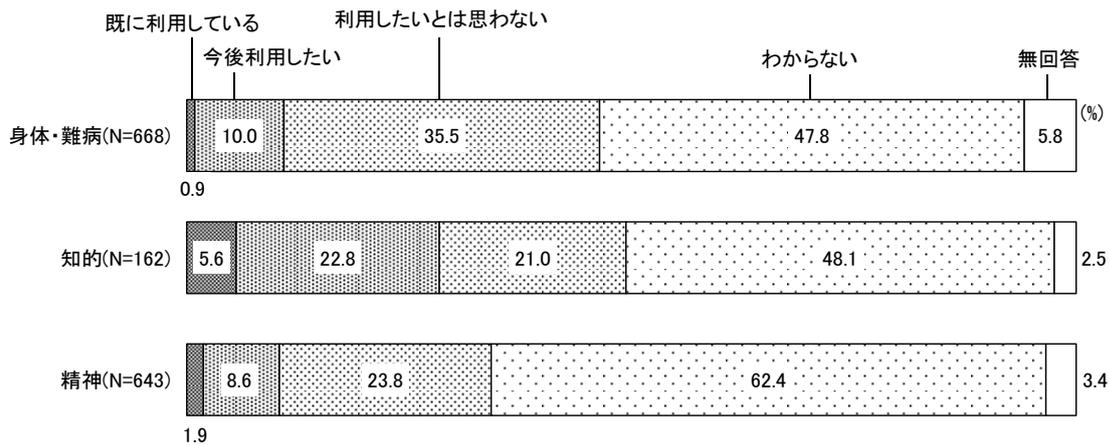
身体障害者・難病患者は、「既に利用している(0.9%)」、「今後利用したい(10.0%)」、「利用したいとは思わない(35.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「既に利用している(5.6%)」、「今後利用したい(22.8%)」、「利用したいとは思わない(21.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「既に利用している(1.9%)」、「今後利用したい(8.6%)」、「利用したいとは思わない(23.8%)」などとなっている。(図 1-9-3)

図 1-9-3 成年後見制度の利用意向
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

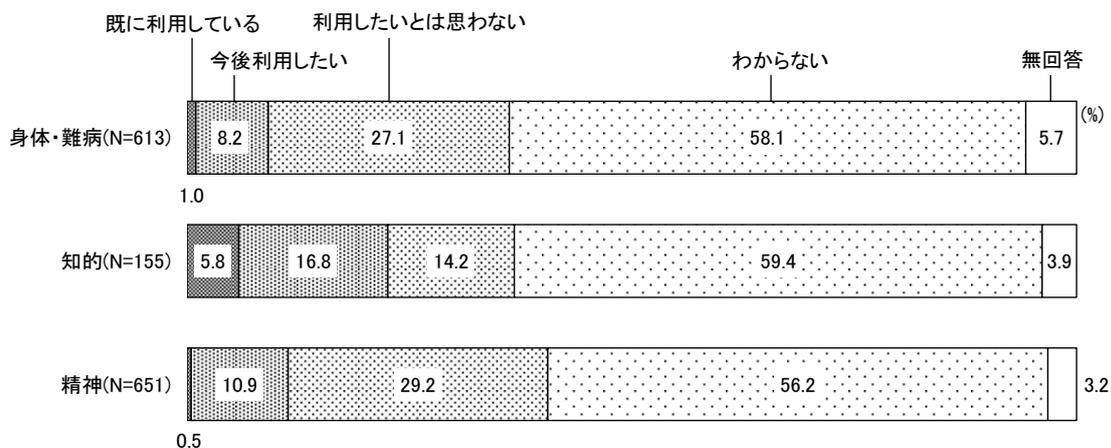
<全体>



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「今後利用したい」は、身体障害者・難病患者では8.2%から10.0%と1.8ポイント高く、知的障害者では16.8%から22.8%と6.0ポイント高く、精神障害者等では10.9%から8.6%と2.3ポイント低くなっている。(図1-9-4)

図1-9-4 【令和元年度調査】成年後見制度利用の意向
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<全体>



【将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)】

ここでは、将来の不安として「金銭や財産などの管理ができるか」と回答した人について、成年後見制度の利用意向を分析する。

身体障害者・難病患者は、「わからない(56.5%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(21.7%)」、「利用したいとは思わない(15.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「わからない(58.3%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(27.8%)」などとなっている。なお、「既に利用している」は0.0%となっている。

精神障害者等は、「わからない(67.5%)」が最も多く、次いで「利用したいとは思わない(15.7%)」、「今後利用したい(12.0%)」などとなっている。(表 1-9-1)

【介助者の年齢別】

「今後利用したい」割合を介助者の年齢別にみると、身体障害者・難病患者は「～30歳代(28.6%)」が多く、知的障害者は「60歳以上(26.8%)」、「40・50歳代(25.9%)」が多く、精神障害者等は「40・50歳代(11.8%)」が多くなっている。(表 1-9-1)

表 1-9-1 成年後見制度の利用意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

＜全体、将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)、家族介助者等の年齢＞

		(上段:人、下段:%)				
		既に 利用 して いる	今 後 利 用 し たい	思 わ な い と は	わ か ら な い	無 回 答
身体障害者・難病患者 (N=668)		6	67	237	319	39
<全体>		100.0	0.9	10.0	35.5	47.8
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=46)	0	10	7	26	3
		100.0	0.0	21.7	15.2	56.5
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=7)	0	2	3	2	0
		100.0	0.0	28.6	42.9	28.6
	40・50歳代 (n=49)	1	3	19	21	5
		100.0	2.0	6.1	38.8	42.9
	60歳以上 (n=109)	0	13	40	51	5
		100.0	0.0	11.9	36.7	46.8
知的障害者 (N=162)		9	37	34	78	4
<全体>		100.0	5.6	22.8	21.0	48.1
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=36)	0	10	5	21	0
		100.0	0.0	27.8	13.9	58.3
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=0)	0	0	0	0	0
		100.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40・50歳代 (n=27)	0	7	6	14	0
		100.0	0.0	25.9	22.2	51.9
	60歳以上 (n=41)	2	11	8	19	1
		100.0	4.9	26.8	19.5	46.3
精神障害者等 (N=643)		4	64	124	436	15
<全体>		100.0	0.6	10.0	19.3	67.8
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=83)	1	10	13	56	3
		100.0	1.2	12.0	15.7	67.5
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=29)	0	0	7	22	0
		100.0	0.0	0.0	24.1	75.9
	40・50歳代 (n=93)	0	11	24	58	0
		100.0	0.0	11.8	25.8	62.4
	60歳以上 (n=79)	4	7	16	48	4
		100.0	5.1	8.9	20.3	60.8

① 成年後見制度を利用したいと思わない理由

身体・難病：付問 31-1、知的：付問 28-1、精神：付問 28-1

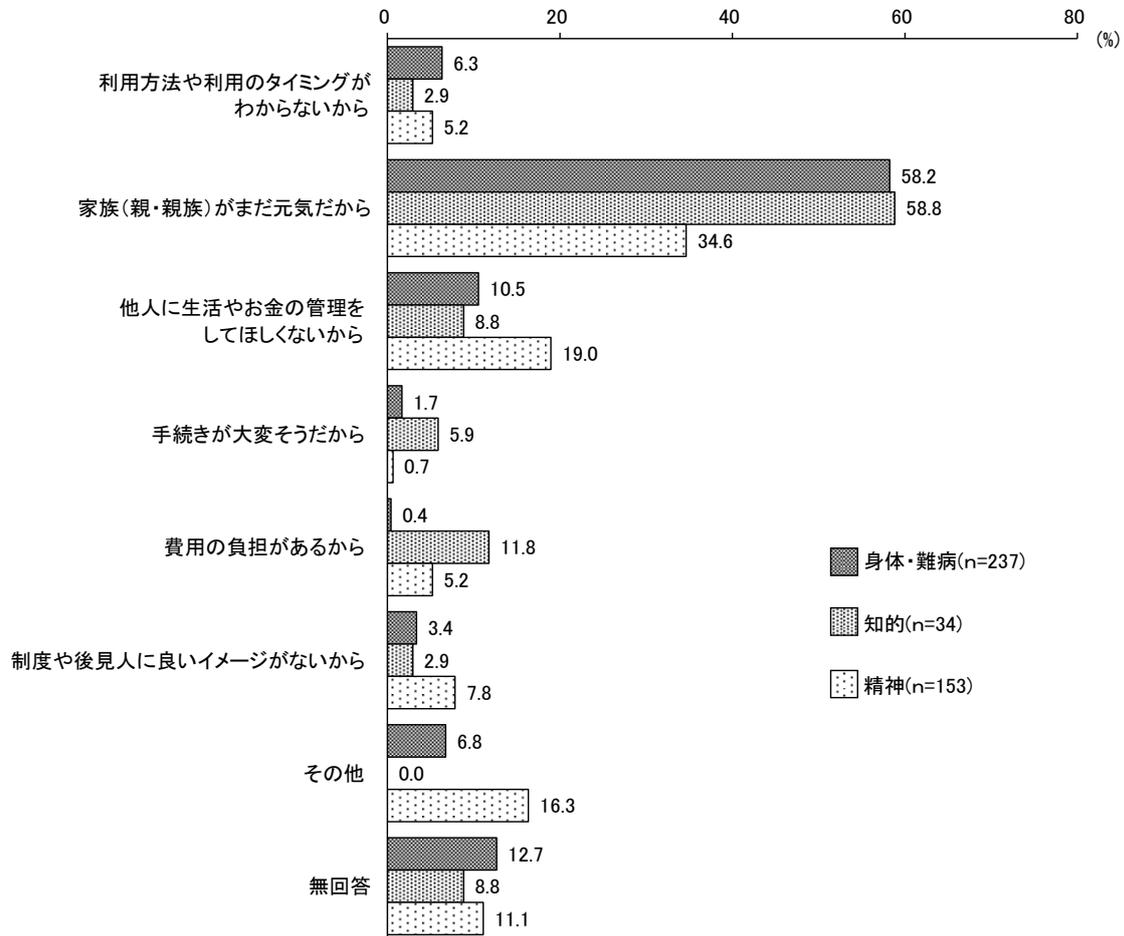
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等で、成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人に、利用したいと思わない理由をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「家族（親・親族）がまだ元気だから（58.2%）」が最も多く、次いで「他人に生活やお金の管理をしてほしくないから（10.5%）」、「その他（6.8%）」、「利用方法や利用のタイミングがわからないから（6.3%）」などとなっている。なお、「その他」の内容は、「子どもに任せる」、「財産がない」、「自由が奪われる」などとなっている。

知的障害者は、「家族（親・親族）がまだ元気だから（58.8%）」が最も多く、次いで「費用の負担があるから（11.8%）」、「他人に生活やお金の管理をしてほしくないから（8.8%）」などとなっている。

精神障害者等は、「家族（親・親族）がまだ元気だから（34.6%）」が最も多く、次いで「他人に生活やお金の管理をしてほしくないから（19.0%）」、「その他（16.3%）」、「制度や後見人に良いイメージがないから（7.8%）」などとなっている。なお、「その他」の内容は、「自分でできる」、「必要ない」、「メリット」を感じないからなどとなっている。（図 1-9-5）

図 1-9-5 成年後見制度を利用したいと思わない理由
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
 <成年後見制度を利用したいと思わないと回答した人>



(3) 法人後見の利用意向

身体・難病：問 32、知的：問 29、精神：問 29

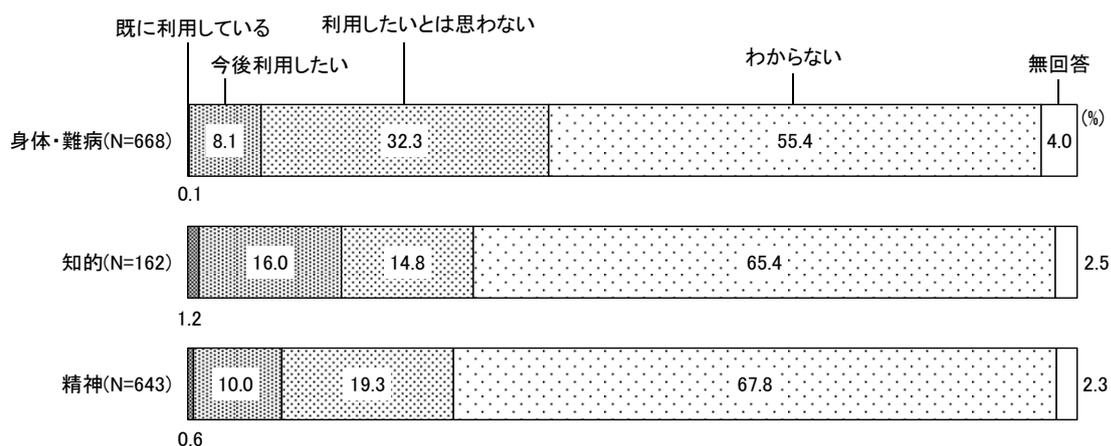
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、法人後見の利用意向をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「既に利用している(0.1%)」、「今後利用したい(8.1%)」、「利用したいとは思わない(32.3%)」などとなっている。

知的障害者は、「既に利用している(1.2%)」、「今後利用したい(16.0%)」、「利用したいとは思わない(14.8%)」などとなっている。

精神障害者等は、「既に利用している(0.6%)」、「今後利用したい(10.0%)」、「利用したいとは思わない(19.3%)」などとなっている。(図 1-9-6)

図 1-9-6 法人後見の利用意向
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
<全体>



【将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)】

ここでは、将来の不安として「金銭や財産などの管理ができるか」と回答した人について、法人後見の利用意向を分析する。

身体障害者・難病患者は、「わからない(60.9%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(21.7%)」、「利用したいとは思わない(15.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「わからない(72.2%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(19.4%)」などとなっている。

精神障害者等は、「わからない(71.1%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(16.9%)」、「利用したいとは思わない(10.8%)」などとなっている。(表 1-9-2)

【介助者の年齢別】

「今後利用したい」割合を介助者の年齢別にみると、身体障害者・難病患者は「60歳以上(11.9%)」が多く、知的障害者は「40・50歳代(22.2%)」が多く、精神障害者等は「40・50歳代(10.8%)」「60歳以上(10.1%)」が多くなっている。(表 1-9-2)

表 1-9-2 法人後見の利用意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

＜全体、将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)、介助者の年齢別＞

(上段:人、下段:%)

		既に 利用 して いる	今 後 利 用 し たい	思 用 わ な い た い と は	わ か ら な い	無 回 答	
身体障害者・難病患者 (N=668)		1	54	216	370	27	
＜全体＞		100.0	0.1	8.1	32.3	55.4	4.0
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=46)	0	10	7	28	1	
	100.0	0.0	21.7	15.2	60.9	2.2	
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=7)	0	0	2	5	0	
	100.0	0.0	0.0	28.6	71.4	0.0	
	40・50歳代 (n=49)	0	4	15	26	4	
	100.0	0.0	8.2	30.6	53.1	8.2	
	60歳以上 (n=109)	0	13	41	50	5	
	100.0	0.0	11.9	37.6	45.9	4.6	
知的障害者 (N=162)		2	26	24	106	4	
＜全体＞		100.0	1.2	16.0	14.8	65.4	2.5
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=36)	0	7	3	26	0	
	100.0	0.0	19.4	8.3	72.2	0.0	
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=0)	0	0	0	0	0	
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	40・50歳代 (n=27)	0	6	3	18	0	
	100.0	0.0	22.2	11.1	66.7	0.0	
	60歳以上 (n=41)	1	8	4	27	1	
	100.0	2.4	19.5	9.8	65.9	2.4	
精神障害者等 (N=643)		4	64	124	436	15	
＜全体＞		100.0	0.6	10.0	19.3	67.8	2.3
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=83)	0	14	9	59	1	
	100.0	0.0	16.9	10.8	71.1	1.2	
等家の 族年 介助 別者	～30歳代 (n=29)	0	2	2	25	0	
	100.0	0.0	6.9	6.9	86.2	0.0	
	40・50歳代 (n=93)	0	10	18	65	0	
	100.0	0.0	10.8	19.4	69.9	0.0	
	60歳以上 (n=79)	2	8	17	49	3	
	100.0	2.5	10.1	21.5	62.0	3.8	

(4) 権利擁護支援事業の内容の認知状況

身体・難病：問 33、知的：問 30、精神：問 30

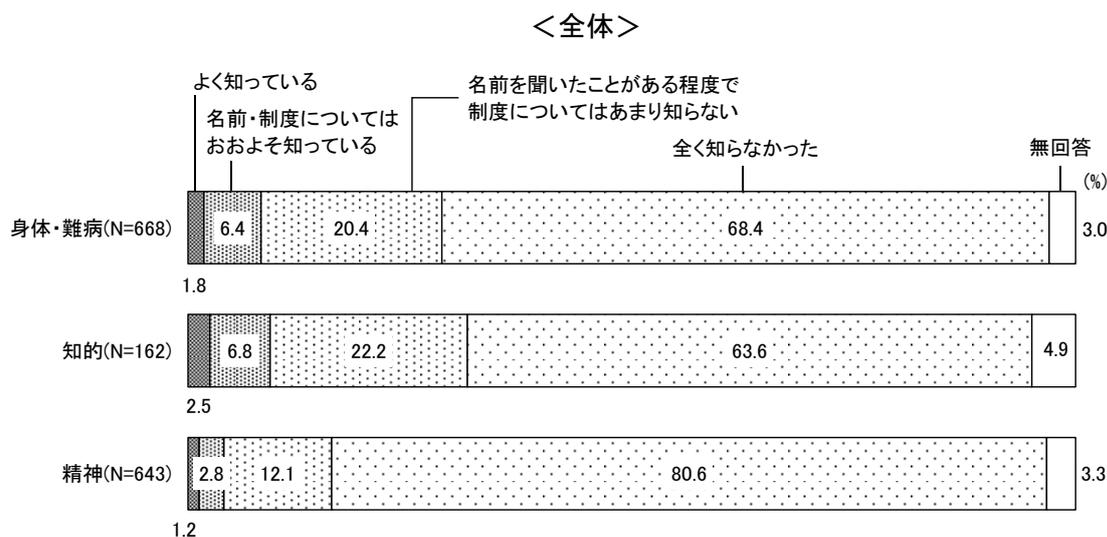
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、権利擁護支援事業の内容を知っているかたずねた。

身体障害者・難病患者は、「よく知っている(1.8%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(6.4%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(20.4%)」、「全く知らなかった(68.4%)」となっている。

知的障害者は、「よく知っている(2.5%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(6.8%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(22.2%)」、「全く知らなかった(63.6%)」となっている。

精神障害者等は、「よく知っている(1.2%)」、「名前・制度についてはおおよそ知っている(2.8%)」、「名前を聞いたことがある程度で制度についてはあまり知らない(12.1%)」、「全く知らなかった(80.6%)」となっている。(図 1-9-7)

図 1-9-7 権利擁護支援事業の内容の認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(5) 権利擁護支援事業の利用意向

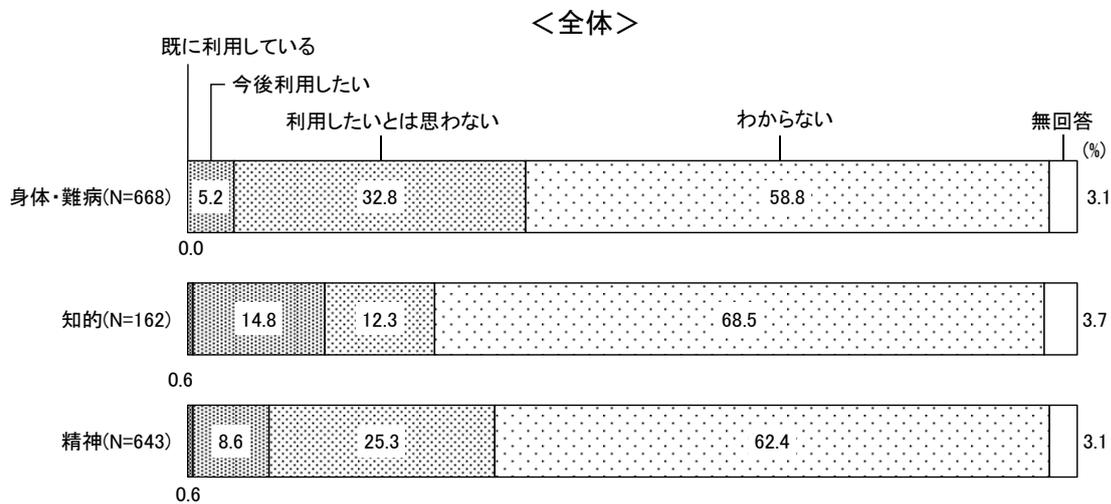
身体・難病：問 34、知的：問 31、精神：問 31

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、権利擁護支援事業の利用意向をたずねた。
 身体障害者・難病患者は、「既に利用している(0.0%)」、「今後利用したい(5.2%)」、「利用したいとは思わない(32.8%)」などとなっている。

知的障害者は、「既に利用している(0.6%)」、「今後利用したい(14.8%)」、「利用したいとは思わない(12.3%)」、「わからない(68.5%)」などとなっている。

精神障害者等は、「既に利用している(0.6%)」、「今後利用したい(8.6%)」、「利用したいとは思わない(25.3%)」などとなっている。(図 1-9-8)

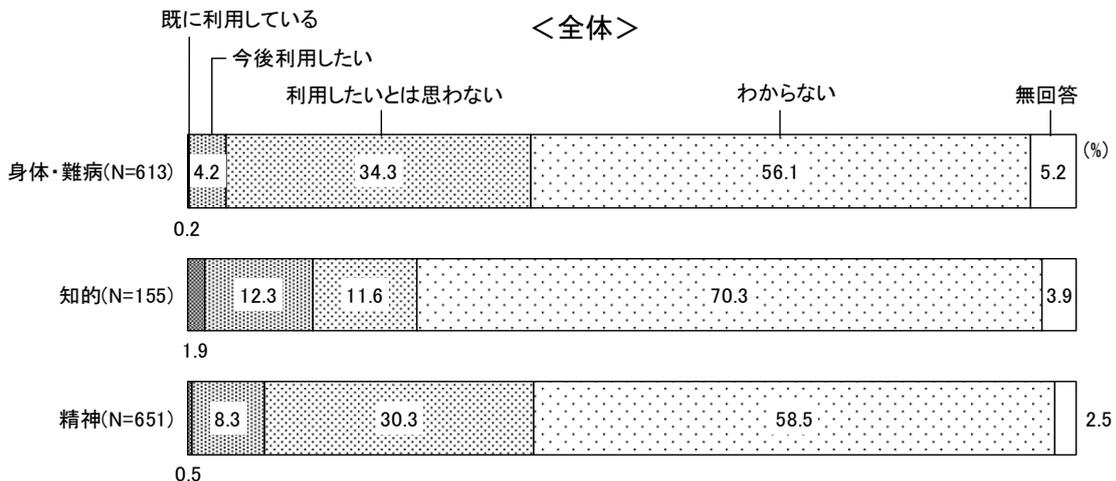
図 1-9-8 権利擁護支援事業の利用意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、同様な傾向を示している。(図 1-9-9)

図 1-9-9 【令和元年度調査】権利擁護支援事業の利用意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



【将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)】

ここでは、将来の不安として「金銭や財産などの管理ができるか」と回答した人について、権利擁護支援事業の利用意向を分析する。

身体障害者・難病患者は、「わからない(67.4%)」が最も多く、次いで「利用したいとは思わない(17.4%)」、「今後利用したい(15.2%)」などとなっている。

知的障害者は、「わからない(63.9%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(33.3%)」などとなっている。

精神障害者等は、「わからない(67.5%)」が最も多く、次いで「今後利用したい(15.7%)」、「利用したいとは思わない(13.3%)」などとなっている。(表 1-9-3)

【介助者の年齢別】

「今後利用したい」割合を介助者の年齢別にみると、身体障害者・難病患者は「～30歳代(14.3%)」が多く、知的障害者は「40・50歳代(25.9%)」「60歳以上(24.4%)」が多く、精神障害者等は「40・50歳代(11.8%)」が多くなっている。(表 1-9-3)

表 1-9-3 権利擁護支援事業の利用意向(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

＜全体、将来の不安(金銭や財産などの管理ができるか)、介助者の年齢別＞
(上段:人、下段:%)

		既に利用している	今後利用したい	利用したいとは思わない	わからない	無回答
身体障害者・難病患者 (N=668)		0	35	219	393	21
＜全体＞		100.0	5.2	32.8	58.8	3.1
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=46)	0	7	8	31	0
	100.0	0.0	15.2	17.4	67.4	0.0
等家の 族年介 助別者	～30歳代 (n=7)	0	1	3	3	0
	100.0	0.0	14.3	42.9	42.9	0.0
	40・50歳代 (n=49)	0	1	16	29	3
	100.0	0.0	2.0	32.7	59.2	6.1
	60歳以上 (n=109)	0	9	41	53	6
	100.0	0.0	8.3	37.6	48.6	5.5
知的障害者 (N=162)		1	24	20	111	6
＜全体＞		100.0	0.6	14.8	12.3	68.5
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=36)	0	12	1	23	0
	100.0	0.0	33.3	2.8	63.9	0.0
等家の 族年介 助別者	～30歳代 (n=0)	0	0	0	0	0
	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	40・50歳代 (n=27)	0	7	3	17	0
	100.0	0.0	25.9	11.1	63.0	0.0
	60歳以上 (n=41)	0	10	4	26	1
	100.0	0.0	24.4	9.8	63.4	2.4
精神障害者等 (N=643)		4	55	163	401	20
＜全体＞		100.0	0.6	8.6	25.3	62.4
将来の不安別	金銭や財産などの管理ができるか (n=83)	2	13	11	56	1
	100.0	2.4	15.7	13.3	67.5	1.2
等家の 族年介 助別者	～30歳代 (n=29)	0	1	5	22	1
	100.0	0.0	3.4	17.2	75.9	3.4
	40・50歳代 (n=93)	0	11	27	54	1
	100.0	0.0	11.8	29.0	58.1	1.1
	60歳以上 (n=79)	0	6	19	50	4
	100.0	0.0	7.6	24.1	63.3	5.1

10 障害者等への区民の理解度について

(1) 障害や障害者、難病や難病患者に対する区民の理解度

身体・難病：問 35、知的：問 32、精神：問 32

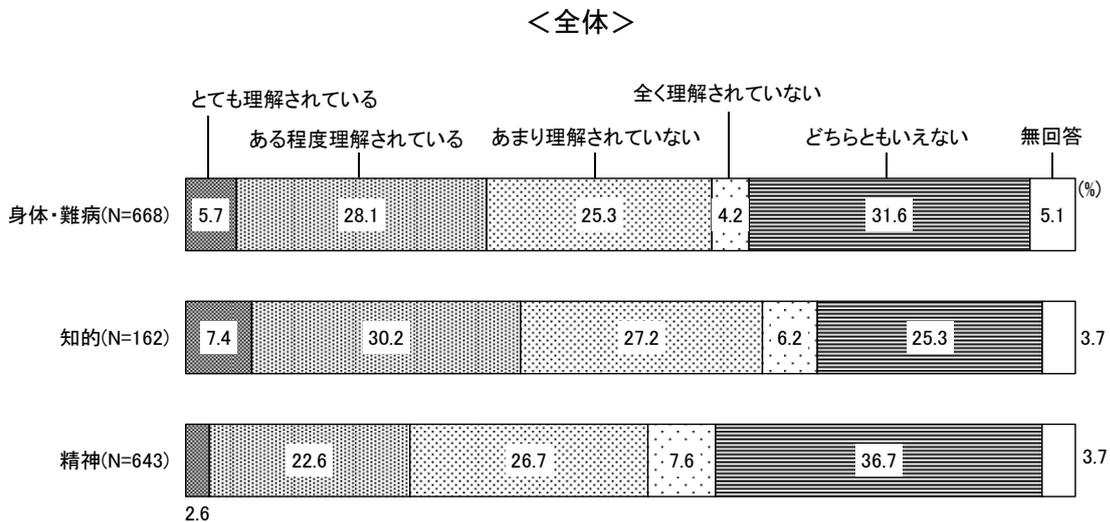
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、障害や障害者、難病や難病患者に対する区民の理解度をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「どちらともいえない(31.6%)」が最も多く、次いで「ある程度理解されている(28.1%)」、「あまり理解されていない(25.3%)」などとなっている。「とても理解されている」と「ある程度理解されている」を合計した<理解されている>は、33.8%である。

知的障害者は、「ある程度理解されている(30.2%)」が最も多く、次いで「あまり理解されていない(27.2%)」、「どちらともいえない(25.3%)」などとなっている。「とても理解されている」と「ある程度理解されている」を合計した<理解されている>は、37.6%である。

精神障害者等は、「どちらともいえない(36.7%)」が最も多く、次いで「あまり理解されていない(26.7%)」、「ある程度理解されている(22.6%)」などとなっている。「とても理解されている」と「ある程度理解されている」を合計した<理解されている>は、25.2%である。(図 1-10-1)

図 1-10-1 障害や障害者、難病や難病患者に対する区民の理解度
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

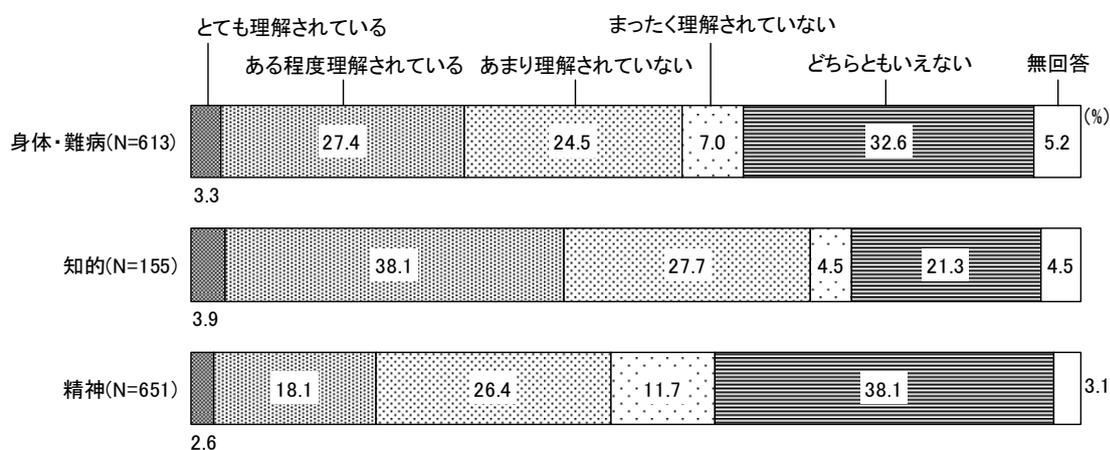


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「とても理解されている」と「ある程度理解されている」を合計した＜理解されている＞は、身体障害者・難病患者では30.7%から33.8%と3.1ポイント高く、知的障害者では42.0%から37.6%と4.4ポイント低く、精神障害者等では20.7%から25.2%と4.5ポイント高くなっている。(図1-10-2)

図1-10-2 【令和元年度調査】障害や障害者、難病・難病患者に対する区民の理解
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



(2) 差別を感じたことはあるか

身体・難病：問 36、知的：問 33、精神：問 33

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、障害があることで差別を感じたことはあるかをたずねた。

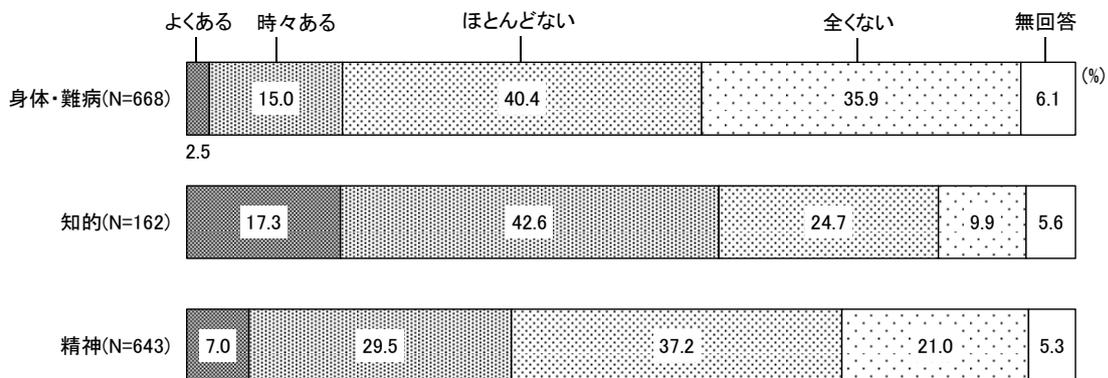
身体障害者・難病患者は、「ほとんどない(40.4%)」が最も多く、次いで「全くない(35.9%)」、「時々ある(15.0%)」などとなっている。「よくある」と「時々ある」を合計した〈ある〉は、17.5%である。

知的障害者は、「時々ある(42.6%)」が最も多く、次いで「ほとんどない(24.7%)」、「よくある(17.3%)」などとなっている。「よくある」と「時々ある」を合計した〈ある〉は、59.9%である。

精神障害者等は、「ほとんどない(37.2%)」が最も多く、次いで「時々ある(29.5%)」、「全くない(21.0%)」などとなっている。「よくある」と「時々ある」を合計した〈ある〉は、36.5%である。

(図 1-10-3)

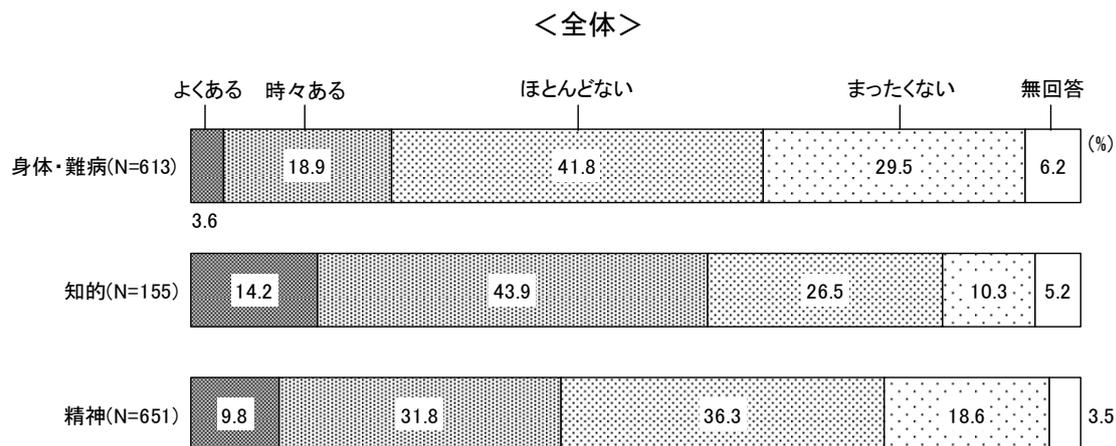
図 1-10-3 差別を感じたことはあるか
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)
〈全体〉



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「まったくない」は、身体障害者・難病患者では29.5%から35.9%と6.4ポイント高くなっている。(図1-10-4)

図1-10-4 【令和元年度調査】障害があることで差別を感じたり、嫌な思いをしたことがあるか
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(3) 東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無**身体・難病：問 37、知的：問 34、精神：問 34**

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無をたずねた。

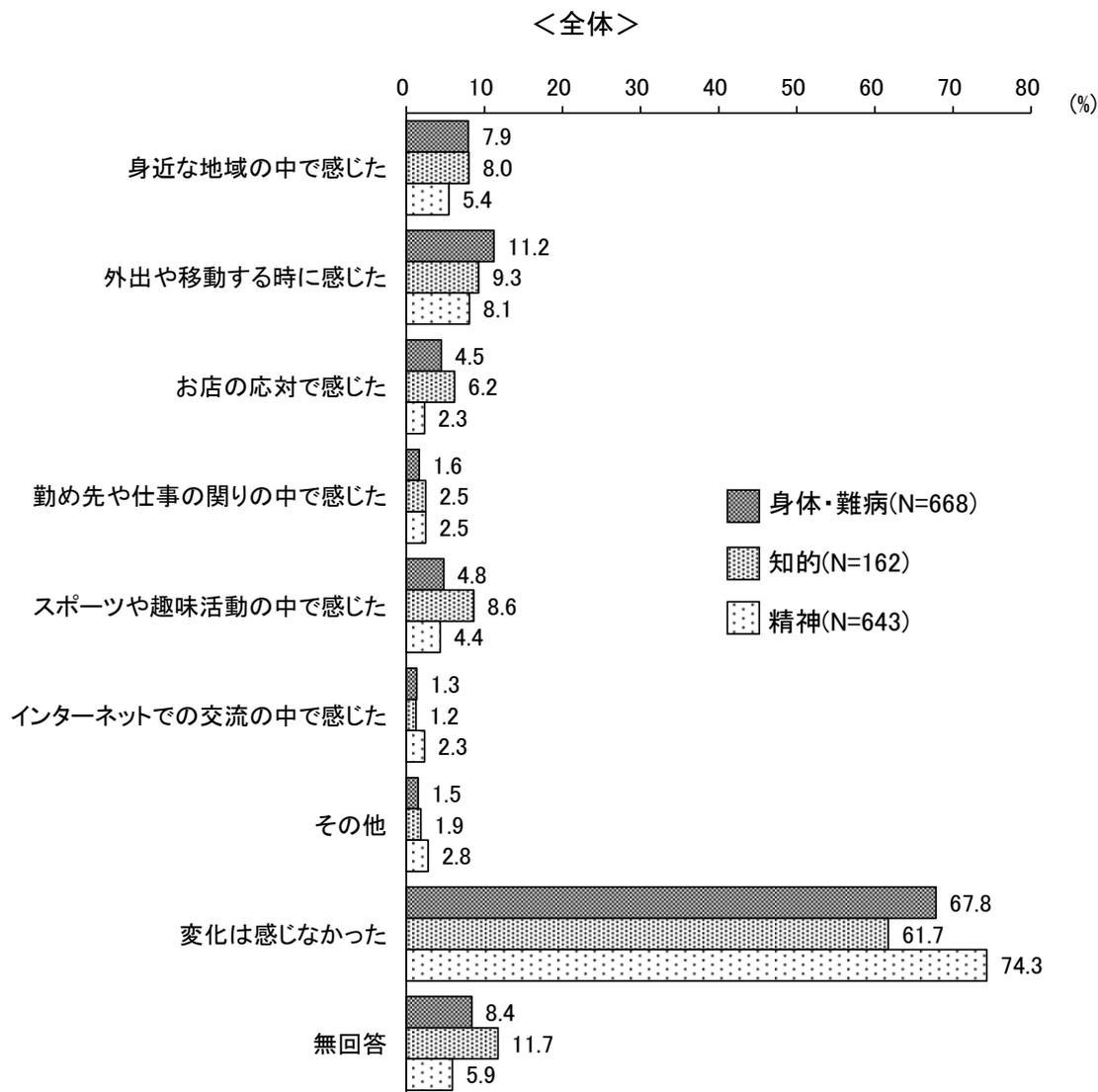
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等ともに「変化は感じなかった」が最も多くなっている。

身体障害者・難病患者は、「変化は感じなかった(67.8%)」以外では、「外出や移動する時に感じた(11.2%)」が最も多く、次いで「身近な地域の中で感じた(7.9%)」、「スポーツや趣味活動の中で感じた(4.8%)」、「お店の対応で感じた(4.5%)」などとなっている。

知的障害者は、「変化は感じなかった(61.7%)」以外では、「外出や移動する時に感じた(9.3%)」が最も多く、次いで「スポーツや趣味活動の中で感じた(8.6%)」、「身近な地域の中で感じた(8.0%)」、「お店の対応で感じた(6.2%)」などとなっている。

精神障害者等は、「変化は感じなかった(74.3%)」以外では、「外出や移動する時に感じた(8.1%)」が最も多く、次いで「身近な地域の中で感じた(5.4%)」、「スポーツや趣味活動の中で感じた(4.4%)」などとなっている。(図 1-10-5)

図 1-10-5 東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



(4) 障害者差別の解消を推進するために必要なこと**身体・難病：問 38、知的：問 35、精神：問 35**

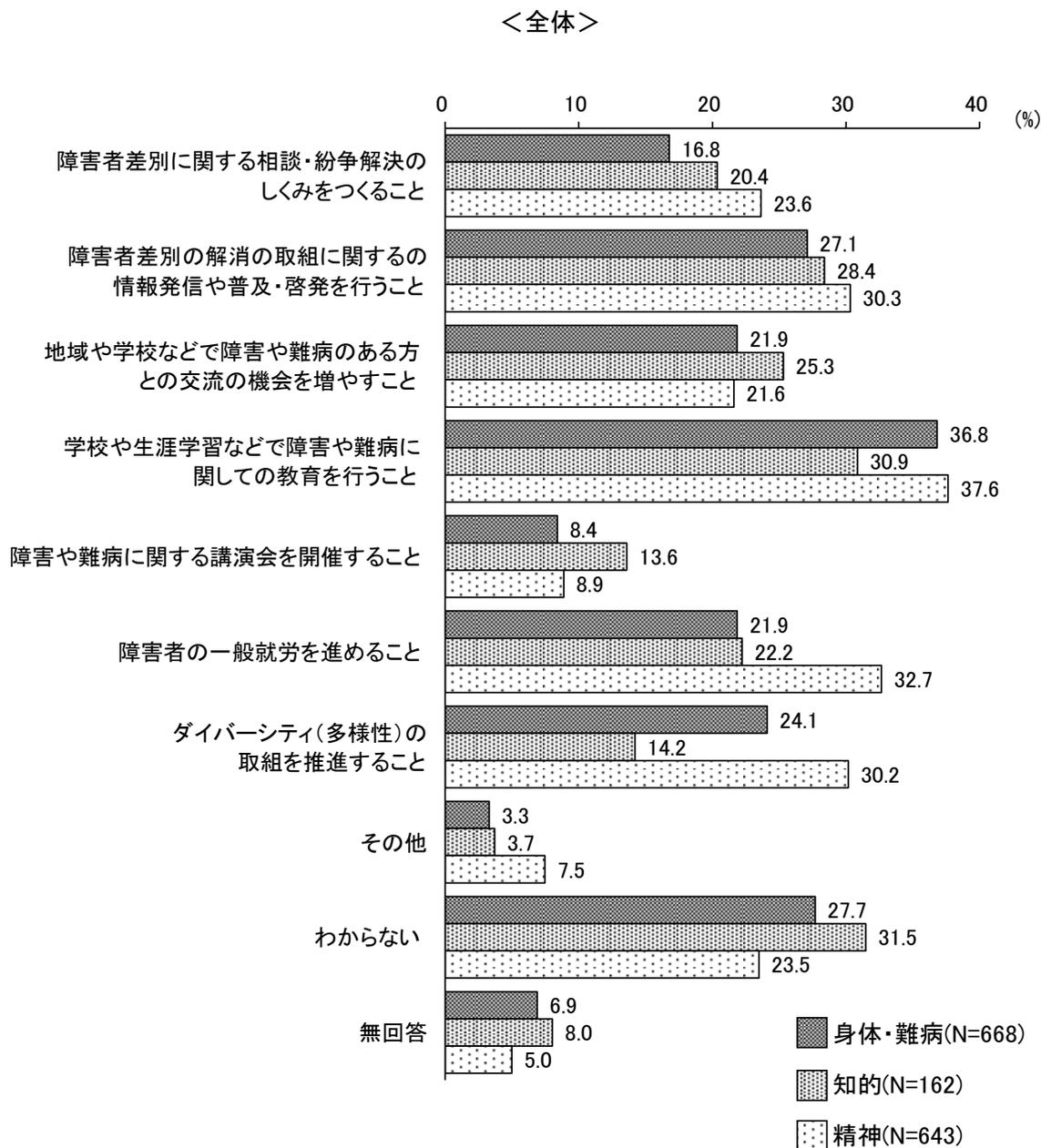
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、障害者差別の解消を推進するために必要なことをたずねた。

身体障害者・難病患者は、「学校や生涯学習などで障害や難病についての教育を行うこと(36.8%)」が最も多く、次いで「わからない(27.7%)」、「障害者差別の解消の取組に関する情報発信や普及・啓発を行うこと(27.1%)」などとなっている。

知的障害者は、「わからない(31.5%)」が最も多く、次いで「学校や生涯学習などで障害や難病についての教育を行うこと(30.9%)」、「障害者差別の解消の取組に関する情報発信や普及・啓発を行うこと(28.4%)」などとなっている。

精神障害者等は、「学校や生涯学習などで障害や難病についての教育を行うこと(37.6%)」が最も多く、次いで「障害者の一般就労を進めること(32.7%)」、「障害者差別の解消の取組に関する情報発信や普及・啓発を行うこと(30.3%)」、「ダイバーシティ(多様性)の取組を推進すること(30.2%)」などとなっている。(図 1-10-6)

図1-10-6 障害者差別の解消を推進するために必要なこと
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

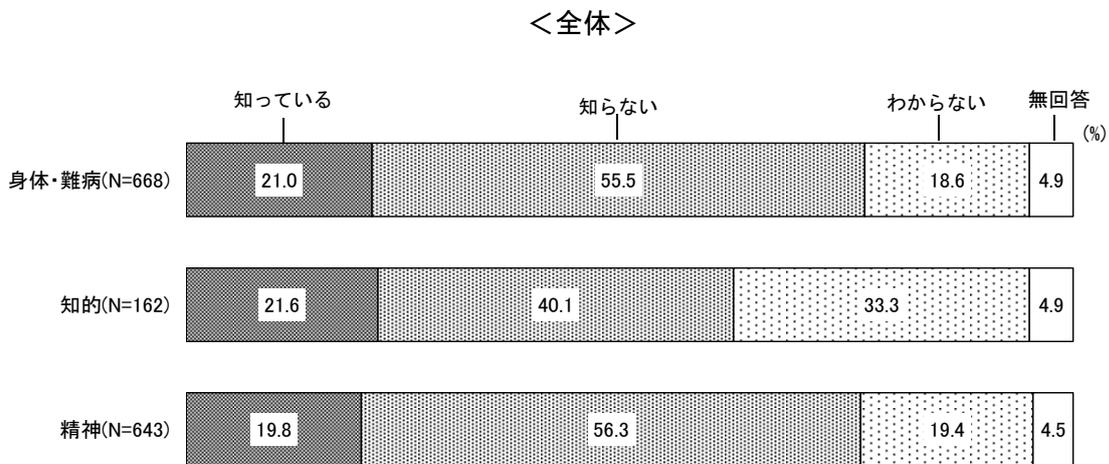


(5) 障害者差別解消法の認知状況

身体・難病：問 39、知的：問 36、精神：問 36

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、障害者差別解消法の認知状況をたずねた。身体障害者・難病患者は、「知っている(21.0%)」、「知らない(55.5%)」である。知的障害者は、「知っている(21.6%)」、「知らない(40.1%)」である。精神障害者等は「知っている(19.8%)」、「知らない(56.3%)」である。いずれの障害も、「知らない」が多くなっている。(図 1-10-7)

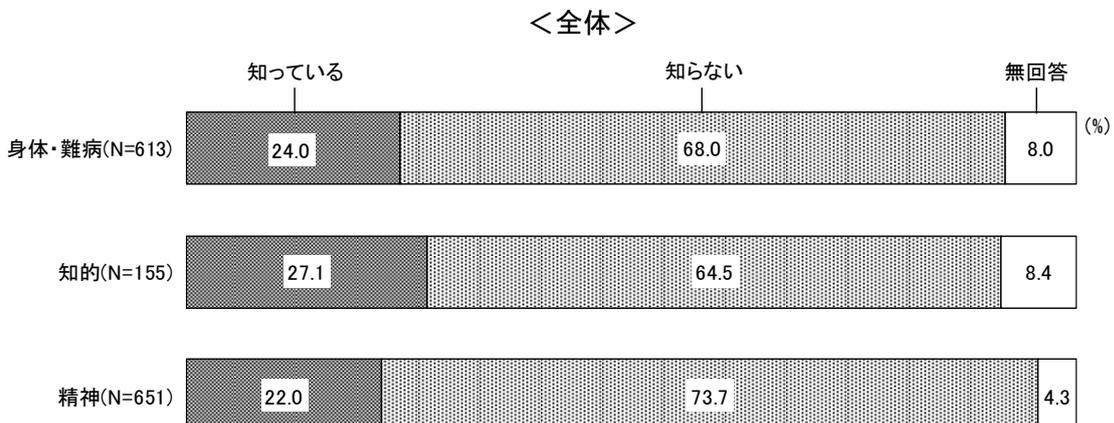
図 1-10-7 障害者差別解消法の認知状況(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っている」は、身体障害者・難病患者では24.0%から21.0%と3.0ポイント低く、知的障害者では27.1%から21.5%と5.5ポイント低く、精神障害者等では22.0%から19.6%と2.2ポイント低くなっている。(図 1-10-8)

図 1-10-8 【令和元年度調査】障害者差別解消法の認知状況(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(6) 役所・会社・お店に求める合理的配慮

身体・難病：問 40、知的：問 37、精神：問 37

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、役所、会社、お店などに対し、どのような合理的配慮を求めたいかをたずねた。

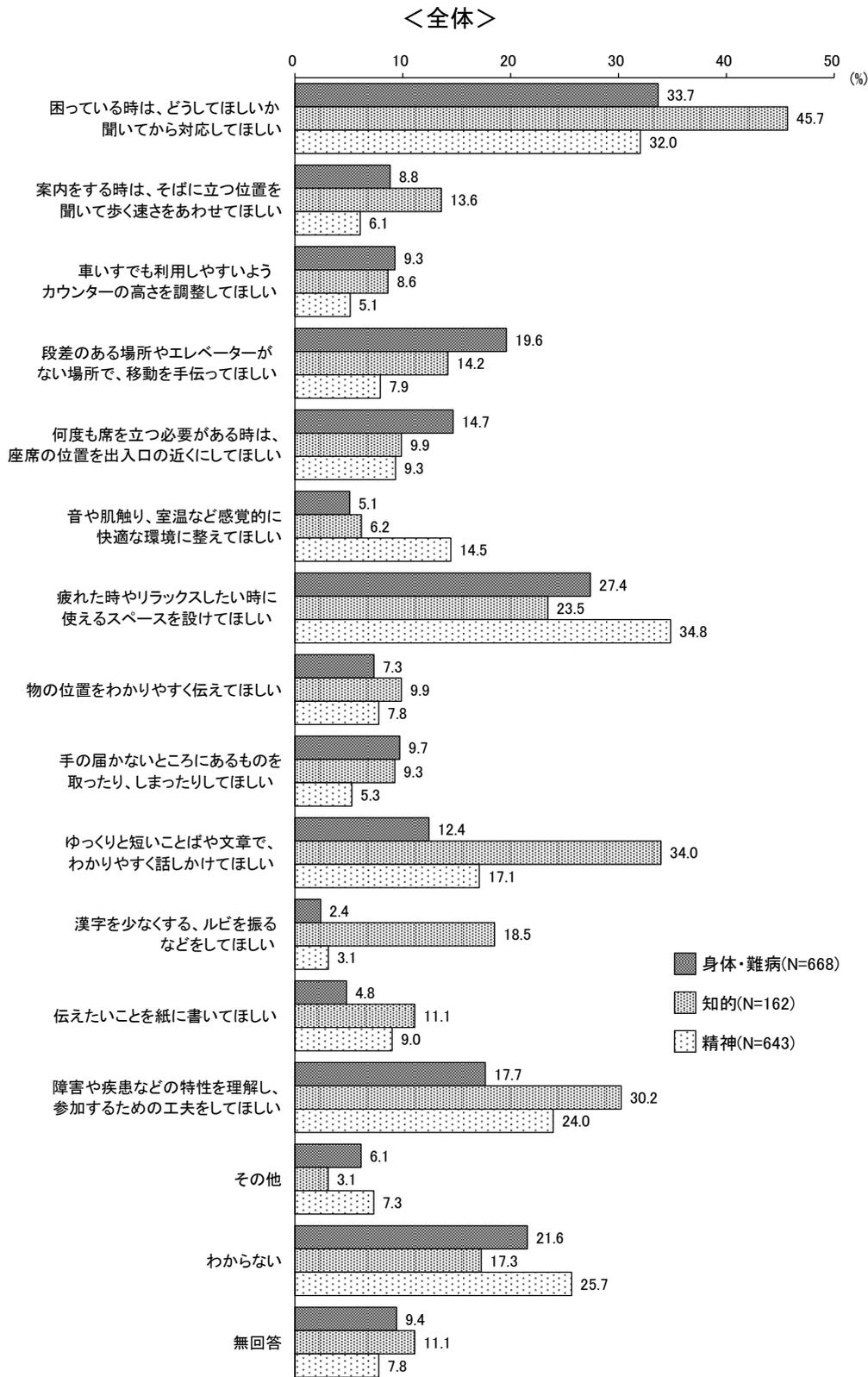
身体障害者・難病患者は、「困っている時は、どうしてほしいか聞いてから対応してほしい(33.7%)」が最も多く、次いで「疲れた時やリラックスしたい時に使えるスペースを設けてほしい(27.4%)」、「わからない(21.6%)」、「段差のある場所やエレベーターがない場所で、移動を手伝ってほしい(19.6%)」、「障害や疾患などの特性を理解し、参加するための工夫をしてほしい(17.7%)」などとなっている。

知的障害者は、「困っている時は、どうしてほしいか聞いてから対応してほしい(45.7%)」が最も多く、次いで「ゆっくりと短いことばや文章で、わかりやすく話しかけてほしい(34.0%)」、「障害や疾患などの特性を理解し、参加するための工夫をしてほしい(30.2%)」、「疲れた時やリラックスしたい時に使えるスペースを設けてほしい(23.5%)」、「漢字を少なくする、ルビを振るなどをしてほしい(18.5%)」などとなっている。

精神障害者等は、「疲れた時やリラックスしたい時に使えるスペースを設けてほしい(34.8%)」が最も多く、次いで「困っている時は、どうしてほしいか聞いてから対応してほしい(32.0%)」、「わからない(25.7%)」、「障害や疾患などの特性を理解し、参加するための工夫をしてほしい(24.0%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「椅子の設置」、「車いすへの配慮」「リモート対応」など、知的障害者は「ゆっくりと話してほしい」、「文字を大きく」など、精神障害者等は「障害や疾患の理解」、「複雑にならないようにゆっくり話してほしい」などとなっている。(図 1-10-9)

図表 1-10-9 役所・会社・お店に求める合理的配慮
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、身体障害者・難病患者と精神障害者等では、第1位、第2位の項目は変わらず、第3位は「わからない」に変わっている。

知的障害者では、令和元年度調査と同様な傾向を示している。(表1-10-1)

表1-10-1 合理的配慮が必要なこと(上位3項目)
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>

【身体障害者・難病患者】

		令和4年度 身体・難病(N=668)		令和元年度 身体・難病(N=613)	
第1位	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	33.7	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	27.4	
第2位	疲れたときやリラックスしたいときに 使えるスペースを設けてほしい	27.4	疲れたときやリラックスしたいときに 使えるスペースを設けてほしい	23.7	
第3位	わからない	21.6	障害や疾患などの特性を理解し、 参加するための工夫をしてほしい	13.9	

【知的障害者】

		令和4年度 知的(N=162)		令和元年度 知的(N=155)	
第1位	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	45.7	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	40.0	
第2位	ゆっくりと短いことばや文章で、 わかりやすく話しかけてほしい	34.0	ゆっくりと短いことばや文章で、 わかりやすく話しかけてほしい	32.9	
第3位	障害や疾患などの特性を理解し、 参加するための工夫をしてほしい	30.2	障害や疾患などの特性を理解し、 参加するための工夫をしてほしい	23.9	

【精神障害者等】

		令和4年度 精神(N=643)		令和元年度 精神(N=651)	
第1位	疲れたときやリラックスしたいときに 使えるスペースを設けてほしい	34.8	疲れたときやリラックスしたいときに 使えるスペースを設けてほしい	34.3	
第2位	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	32.0	困っているときは、どうしてほしいか 聞いてから、対応してほしい	32.1	
第3位	わからない	25.7	障害や疾患などの特性を理解し、 参加するための工夫をしてほしい	25.7	

(7) 「虐待通報・相談窓口」の認知状況

身体・難病：問 41、知的：問 38、精神：問 38

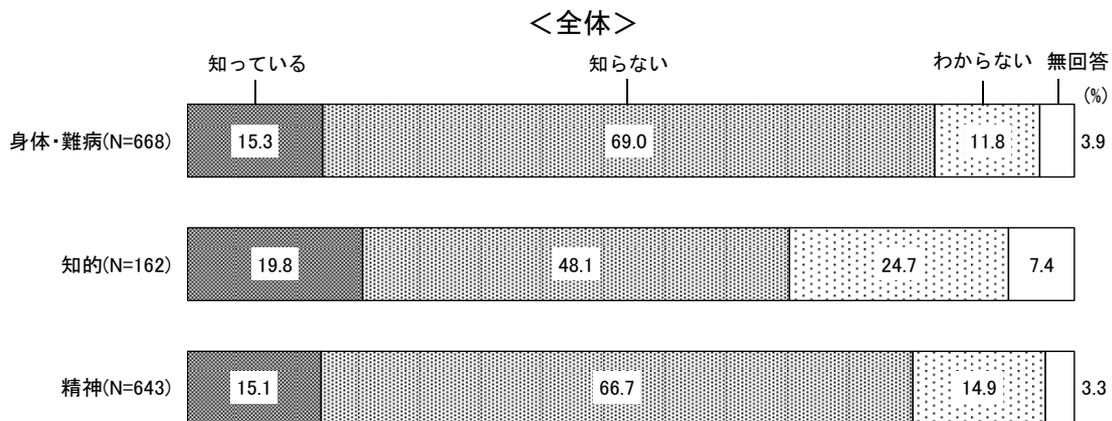
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、「虐待通報・相談窓口」の認知状況をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「知っている(15.3%)」、「知らない(69.0%)」である。

知的障害者は、「知っている(19.8%)」、「知らない(48.1%)」である。

精神障害者等は「知っている(15.1%)」、「知らない(66.7%)」である。(図 1-10-10)

図 1-10-10 「虐待通報・相談窓口」の認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

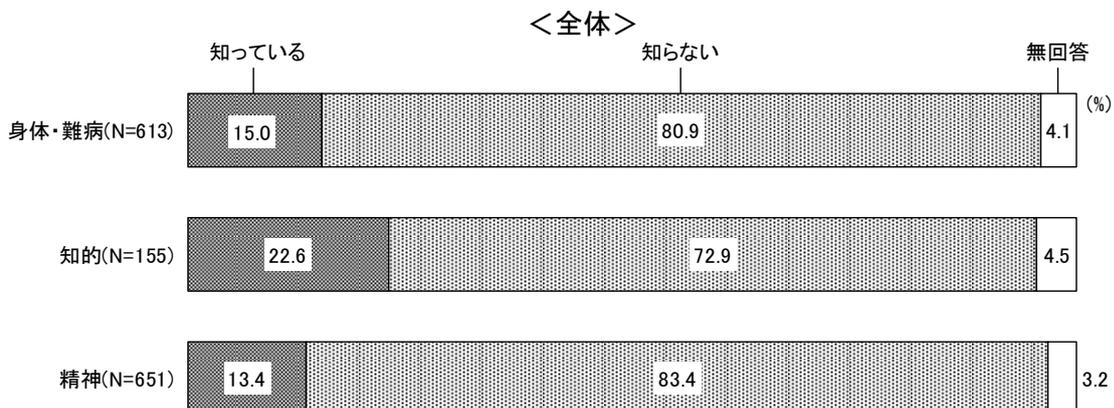


令和元年度調査との比較

令和4年度調査は、令和元年度調査の選択肢が異なるため、参考比較となる。

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「知っている」は、身体障害者・難病患者では15.0%から15.3%と0.3ポイント高く、知的障害者では22.6%から19.6%と2.8ポイント低く、精神障害者等では13.4%から15.1%と1.7ポイント高くなっている。(図 1-10-11)

図 1-10-11 【令和元年度調査】虐待通報・相談窓口の認知状況
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



11 災害時の対策について

(1) 災害時の避難場所を決めているか

身体・難病：問 42、知的：問 39、精神：問 39

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、災害時の避難場所を決めているかをたずねた。

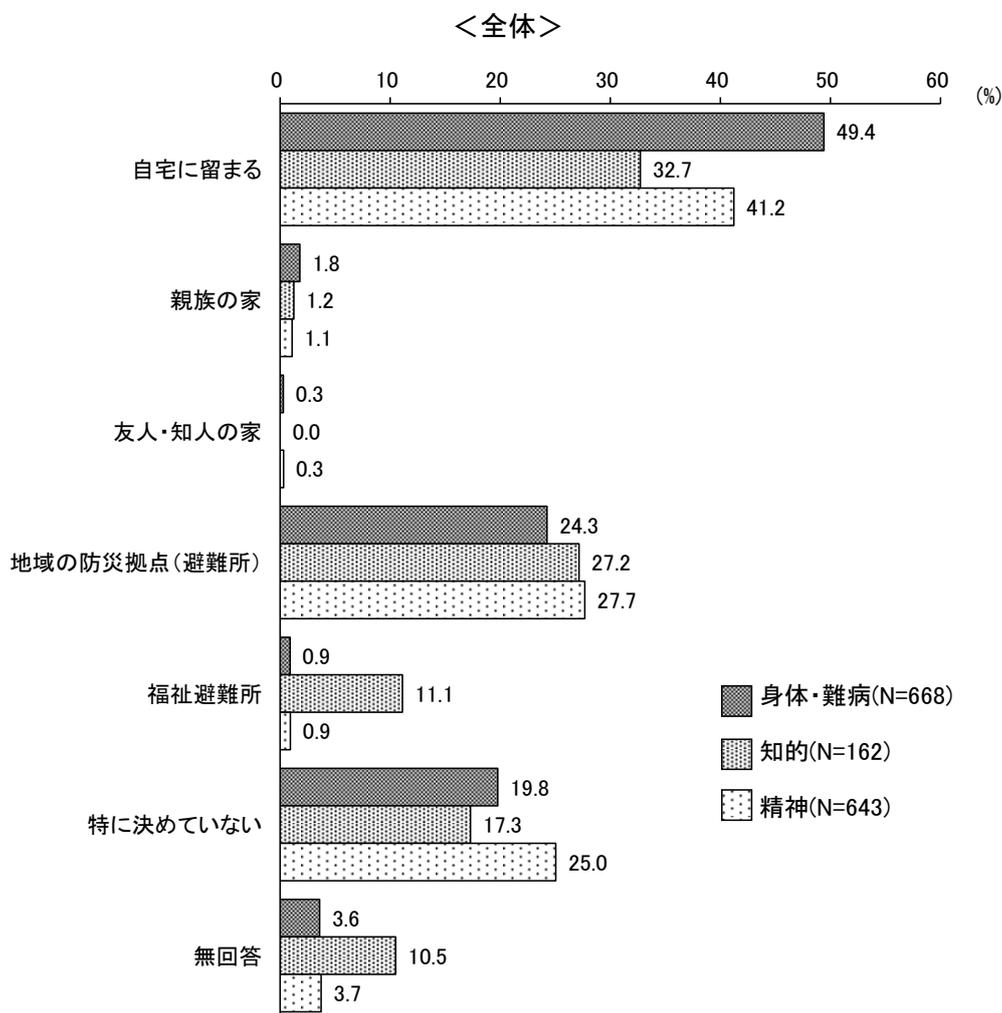
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者ともに「自宅に留まる」が最も多く、次いで「地域の防災拠点（避難所）」、「特に決めていない」となっている。

身体障害者・難病患者は、「自宅に留まる(49.4%)」、「地域の防災拠点（避難所）(24.3%)」、「特に決めていない(19.8%)」となっている。

知的障害者は、「自宅に留まる(32.7%)」、「地域の防災拠点（避難所）(27.2%)」、「特に決めていない(17.3%)」以外では、「福祉避難所(11.1%)」が多くなっている。

精神障害者等は、「自宅に留まる(41.2%)」、「地域の防災拠点（避難所）(27.7%)」、「特に決めていない(25.0%)」などとなっている。(図 1-11-1)

図 1-11-1 災害時の避難場所を決めているか
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(2) 災害時に援助してくれる人がいるか

身体・難病：問 43、知的：問 40、精神：問 40

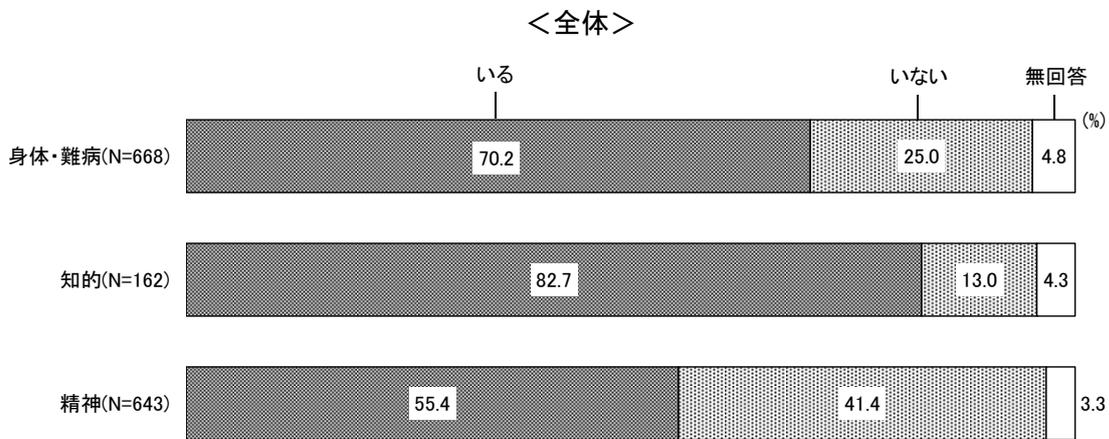
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、災害時に援助してくれる人がいるかをたずねた。

身体障害者・難病患者は、「いる(70.2%)」、「いない(25.0%)」である。

知的障害者は、「いる(82.7%)」、「いない(13.0%)」である。

精神障害者等は、「いる(55.4%)」、「いない(41.4%)」である。(図 1-11-2)

図 1-11-2 災害時に援助してくれる人がいるか
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

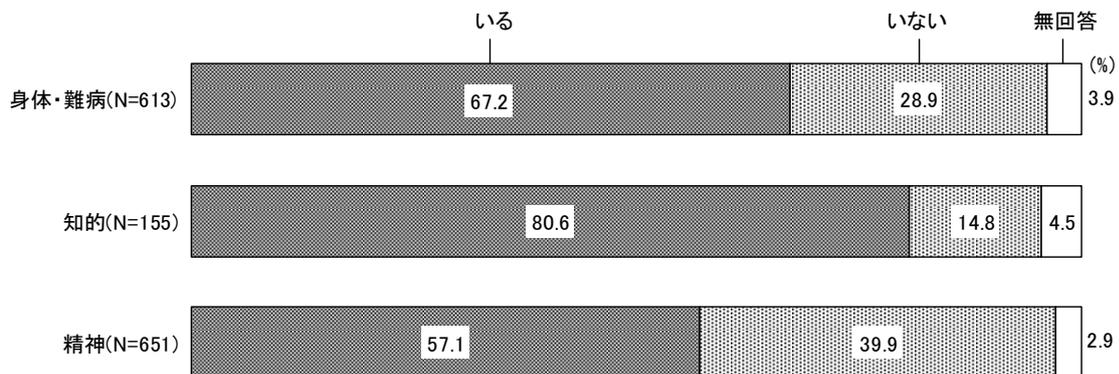


令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、同様な傾向を示している。(図 1-11-3)

図 1-11-3 【令和元年度調査】緊急時に援助してくれる家族または近所の人の有無
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

＜緊急時に一人で避難できないと回答した人＞



(3) 災害時の不安なこと

身体・難病：問 44、知的：問 41、精神：問 41

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、災害時の不安なことをたずねた。

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等ともに「避難する時に適切に行動や移動ができるか」が最も多くなっている。

身体障害者・難病患者は、「避難する時に適切に行動や移動ができるか(43.9%)」以外では、「必要な医療的ケアを受けることができるか(42.8%)」が最も多く、次いで「災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか(29.6%)」、「必要な介護、看護など支援を受けることができるか(22.5%)」、「周りの人から助けてもらえるか(20.7%)」などとなっている。

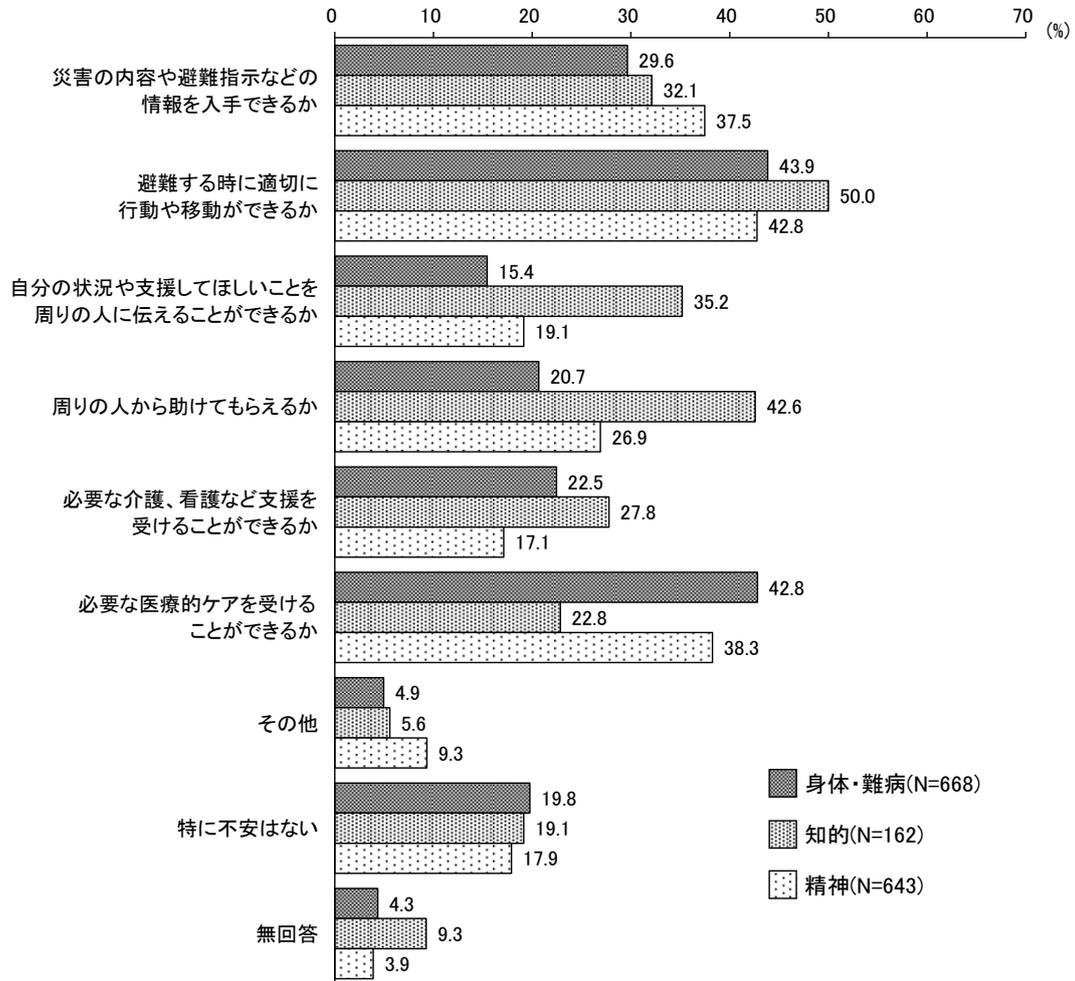
知的障害者は、「避難する時に適切に行動や移動ができるか(50.0%)」以外では、「周りの人から助けてもらえるか(42.6%)」、が最も多く、次いで「自分の状況や支援してほしいことを周りの人に伝えることができるか(35.2%)」、「災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか(32.1%)」などとなっている。

精神障害者等は、「避難する時に適切に行動や移動ができるか(42.8%)」以外では、「必要な医療的ケアを受けることができるか(38.3%)」が最も多く、次いで「災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか(37.5%)」、「周りの人から助けてもらえるか(26.9%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「薬を切らすこと」、「トイレの使用」など、知的障害者は「周囲の理解」、「パニック発作」「周りに迷惑をかけること」など、精神障害者等は「薬の確保」、「発作やパニック」、「ペットの世話」などとなっている。(図 1-11-4)

図 1-11-4 災害時の不安なこと
 (身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、上位3項目の傾向は、身体障害者・難病患者、精神障害者等では変わらず、知的障害の3位が「災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか」から「自分の状況や支援してほしいことを周りの人に伝えることができるか」に替わっている。(表1-11-1)

表1-11-1 災害時に不安を感じること(上位3位)
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等：複数回答)

<全体>

【身体障害者・難病患者】

(%)

	令和4年度 身体・難病(N=668)	令和元年度 身体・難病(N=613)
第1位	避難する時に適切に行動や移動ができるか 43.9	避難する時に適切に行動や移動ができるか 48.9
第2位	必要な医療的ケアを受けることができるか 42.8	災害時に、必要な医療的ケアを受けることができるか 42.4
第3位	災害の内容や避難指示等の情報を入手できるか 29.6	災害の内容や避難指示等の情報を入手できるか 32.8

【知的障害者】

(%)

	令和4年度 知的(N=162)	令和元年度 知的(N=155)
第1位	避難する時に適切に行動や移動ができるか 50.0	避難する時に適切に行動や移動ができるか 57.4
第2位	周りの人から助けられるか 42.6	周りの人から助けられるか 48.4
第3位	自分の状況や支援してほしいことを周りの人に伝えることができるか 35.2	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 43.9

【精神障害者等】

(%)

	令和4年度 精神(N=643)	令和元年度 精神(N=651)
第1位	避難する時に適切に行動や移動ができるか 42.8	避難する時に適切に行動や移動ができるか 46.4
第2位	必要な医療的ケアを受けることができるか 38.3	必要な医療的ケアを受けることができるか 38.9
第3位	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 37.5	災害の内容や避難指示などの情報を入手できるか 38.2

(4) 「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況

身体・難病：問 45、知的：問 42、精神：問 42

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況をたずねた。

身体障害者・難病患者は、「同意していない(26.5%)」が最も多く、次いで「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった(26.0%)」、「同意しているかわからない(22.0%)」、「同意している(13.5%)」などとなっている。

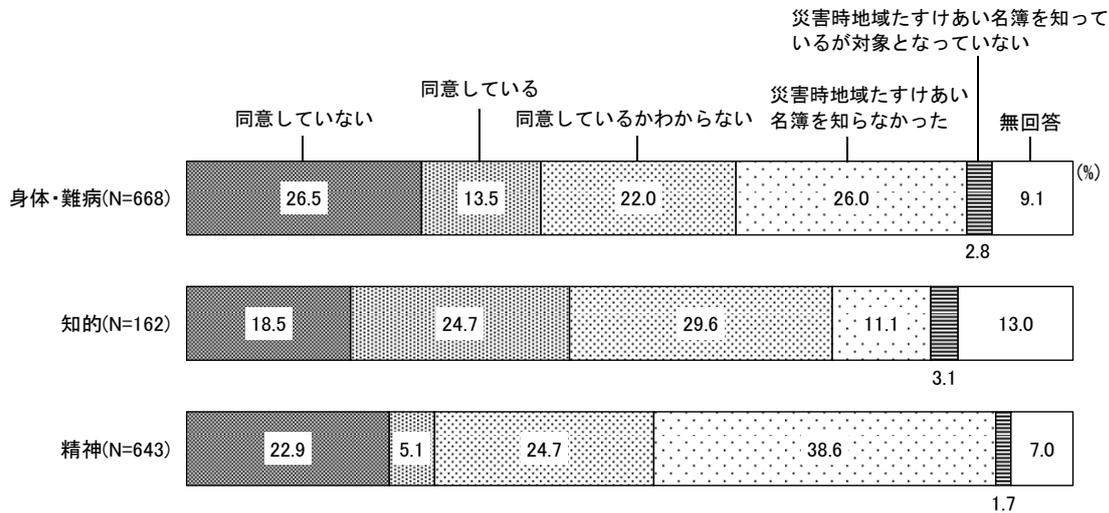
知的障害者は、「同意しているかわからない(29.6%)」が最も多く、次いで「同意している(24.7%)」、「同意していない(18.5%)」、「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった(11.1%)」などとなっている。

精神障害者等は、「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった(38.6%)」が最も多く、次いで「同意しているかわからない(24.7%)」、「同意していない(22.9%)」、「同意している(5.1%)」などとなっている。(図 1-11-5)

図 1-11-5 「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体>



【災害時地域たすけあい名簿の対象者】

ここでは、災害時地域たすけあい名簿の対象別に「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況を分析する。

身体障害者・難病患者は、名簿の対象者は170人で、「同意しているかわからない(30.0%)」が最も多くなっている。また、「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった」は12.9%となっている。

知的障害者は、名簿の対象者は35人で、「同意している(37.1%)」が最も多くなっている。また、「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった」は0.0%となっている

精神障害者等は、名簿の対象者は9人で、「同意していない(44.4%)」が最も多くなっている。また、「災害時地域たすけあい名簿を知らなかった」は11.1%となっている。(表1-11-2)

表1-11-2 「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供の同意状況

(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

<全体、災害時地域たすけあい名簿の対象者別>

(上段:人、下段:%)

		同意していない	同意している	同意しているかわからない	を災害時地域たすけあい名簿を知らなかった	を災害時地域たすけあい名簿を知らない	無回答	
身体障害者・難病患者 <全体>		(N=668) 100.0	177 26.5	90 13.5	147 22.0	174 26.0	19 2.8	61 9.1
対象者別の 名簿の	対象※	(n=170) 100.0	35 20.6	45 26.5	51 30.0	22 12.9	2 1.2	15 8.8
	対象外(肢体不自由4~6級、内部障害、難)	(n=450) 100.0	129 28.7	39 8.7	87 19.3	145 32.2	17 3.8	33 7.3
知的障害者 <全体>		(N=162) 100.0	30 18.5	40 24.7	48 29.6	18 11.1	5 3.1	21 13.0
対象者別の 名簿の	対象(1度・2度)	(n=35) 100.0	6 17.1	13 37.1	7 20.0	0 0.0	2 5.7	7 20.0
	対象外(3度・4度)	(n=118) 100.0	24 20.3	25 21.2	38 32.2	16 13.6	3 2.5	12 10.2
精神障害者等 <全体>		(N=643) 100.0	147 22.9	33 5.1	159 24.7	248 38.6	11 1.7	45 7.0
対象者別の 名簿の	対象(1級)	(n=9) 100.0	4 44.4	1 11.1	2 22.2	1 11.1	0 0.0	1 11.1
	対象外(2・3級、通院医療)	(n=569) 100.0	127 22.3	30 5.3	141 24.8	232 40.8	10 1.8	29 5.1

※身体障害者・難病患者での対象は、身体障害者手帳(第1種の記載があるもの)の所持者で、言語・視覚・聴覚障害の全等級、肢体不自由の1級~3級に該当する方である。

① 「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供に同意していない理由

身体・難病：付問 45-1、知的：付問 42-1、精神：付問 42-1

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、「災害時地域たすけあい名簿」に登録はしているが、情報提供に同意していない人に、その理由をたずねた。

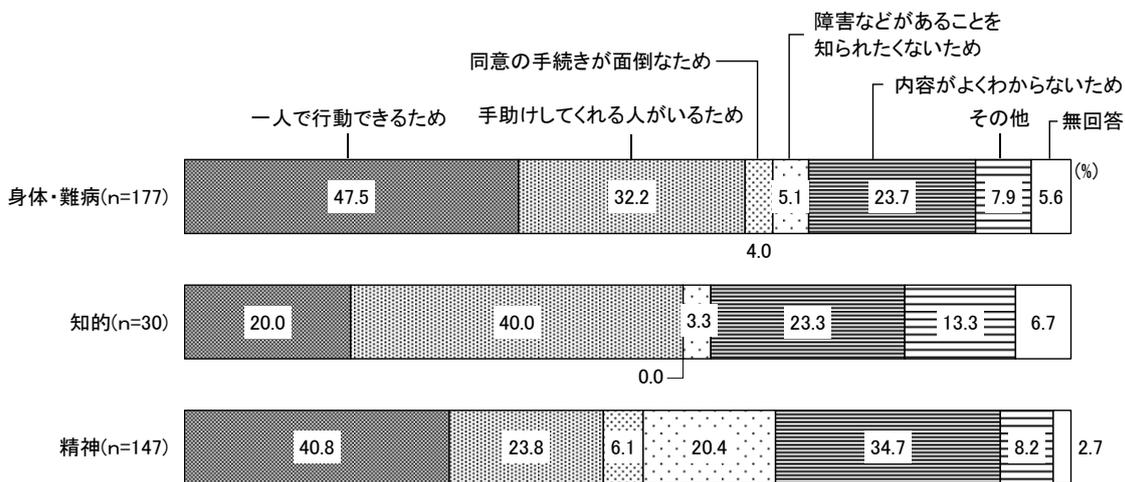
身体障害者・難病患者は、「一人で行動できるため(47.5%)」が最も多く、次いで「手助けしてくれる人がいるため(32.2%)」、「内容がよくわからないため(23.7%)」、「その他(7.9%)」などとなっている。

知的障害者は、「手助けしてくれる人がいるため(40.0%)」が最も多く、次いで「内容がよくわからないため(23.3%)」、「一人で行動できるため(20.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「一人で行動できるため(40.8%)」が最も多く、次いで「内容がよくわからないため(34.7%)」、「手助けしてくれる人がいるため(23.8%)」、「障害などがあることを知られたくないため(20.4%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「日常の交流がない」、「迷惑をかけたくない」、「名簿について知らなかった」など、知的障害者は「プライバシーの問題」など、精神障害者等は「個人情報の管理に不安」、「制度を知らなかった」などとなっている。(図 1-11-6)

図 1-11-6 「災害時地域たすけあい名簿」への情報提供に同意していない理由
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



12 感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと

身体・難病：問 46、知的：問 43、精神：問 43

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたことについてたずねた。

身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者ともに「外出の機会が減った」が最も多くなっている。

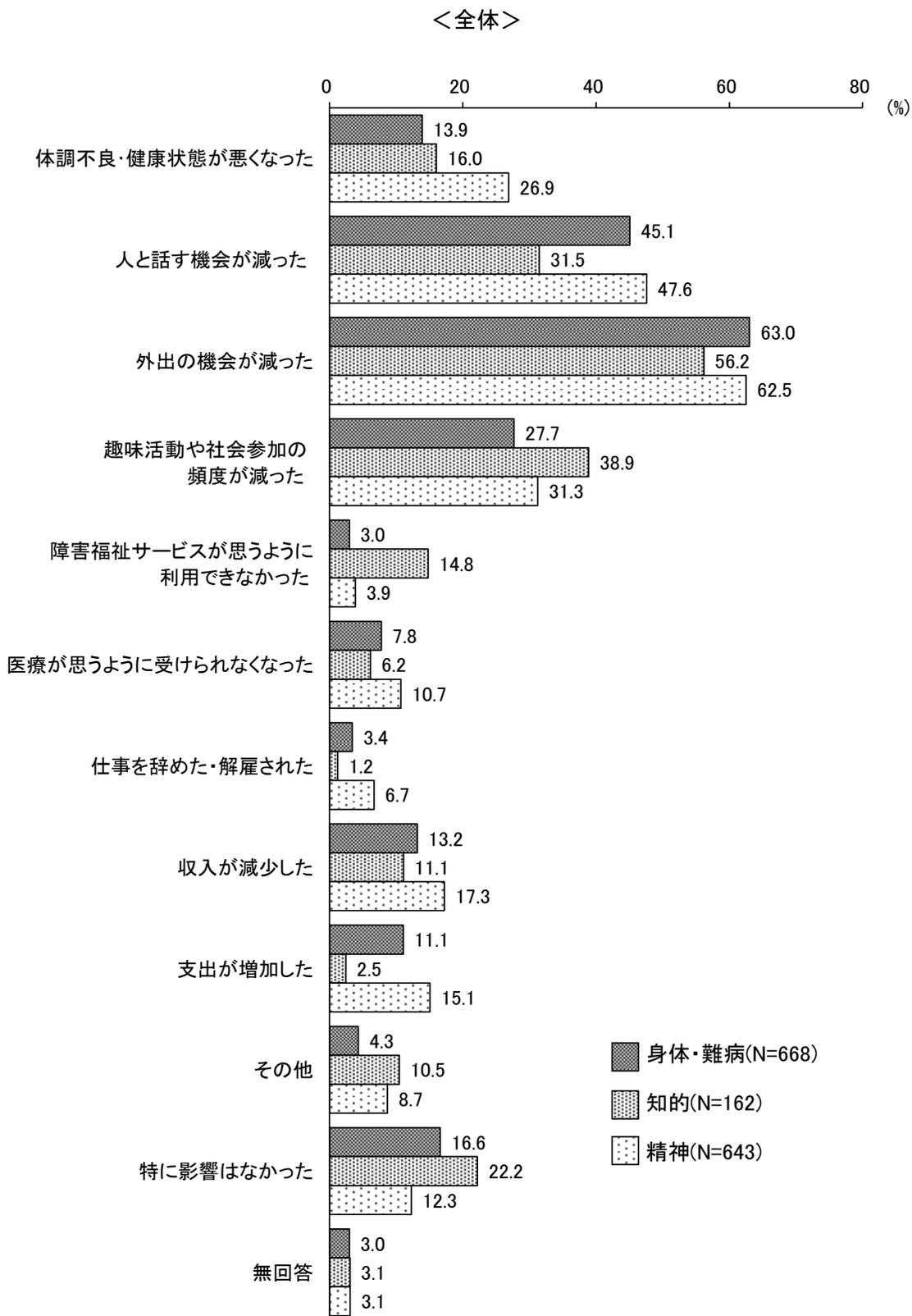
身体障害者・難病患者は、「外出の機会が減った(63.0%)」、次いで「人と話す機会が減った(45.1%)」、「趣味活動や社会参加の頻度が減った(27.7%)」、「特に影響はなかった(16.6%)」、「体調不良・健康状態が悪くなった(13.9%)」などとなっている。

知的障害者は、「外出の機会が減った(56.2%)」、次いで「趣味活動や社会参加の頻度が減った(38.9%)」、「人と話す機会が減った(31.5%)」、「特に影響はなかった(22.2%)」、「体調不良・健康状態が悪くなった(16.0%)」などとなっている。

精神障害者等は、「外出の機会が減った(62.5%)」、次いで「人と話す機会が減った(47.6%)」、「趣味活動や社会参加の頻度が減った(31.3%)」、「体調不良・健康状態が悪くなった(26.9%)」、「収入が減少した(17.3%)」などとなっている。

「その他」の内容は、身体障害者・難病患者は「精神的不安定」、「面会制限」など、知的障害者は「マスクをつけるルールを理解できず、周りから攻められた」、「感染した」など、精神障害者等は「人に関わらなくてよくなったので、楽になった」、「収入は減ったが、外出の機会も減ったので低収入でも暮らせた」、「感染への緊張感が続いた」、「アルコールの摂取量が増えた」などとなっている。(図 1-12-1)

図 1-12-1 新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



13 施策・サービスの満足度について

(1) 中央区の施策・サービスの満足度

身体・難病：問 47、知的：問 44、精神：問 44

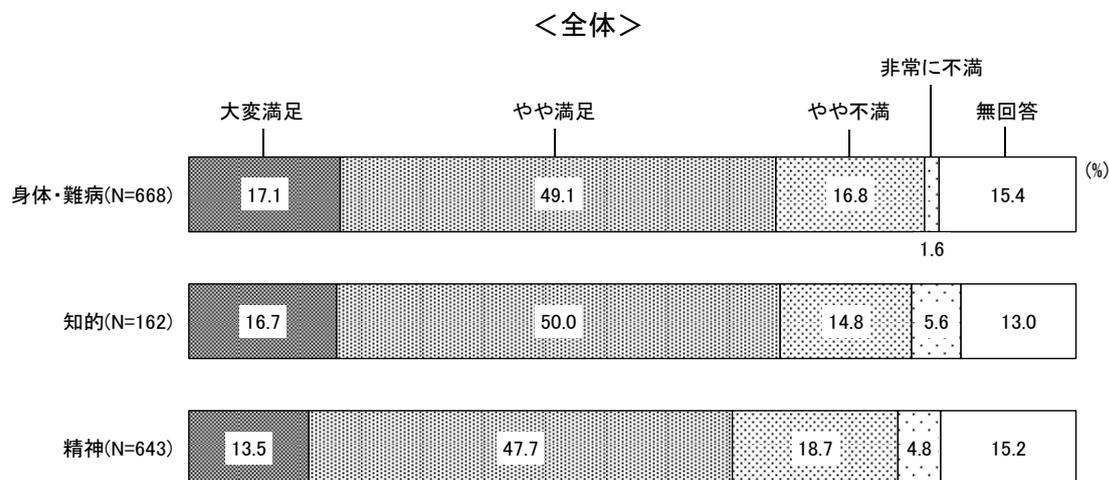
身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等に、中央区の障害者・難病患者を対象とした施策・サービスの満足度をたずねた。

身体障害者・難病患者は、身体障害者・難病患者は、「やや満足(49.1%)」が最も多く、次いで「大変満足(17.1%)」、「やや不満(16.8%)」などとなっている。「大変満足」と「やや満足」を合計した<満足>は66.2%である。

知的障害者は、「やや満足(50.0%)」が最も多く、次いで「大変満足(16.7%)」、「やや不満(14.8%)」などとなっている。「大変満足」と「やや満足」を合計した<満足>は66.7%である。

精神障害者等は、「やや満足(47.7%)」が最も多く、次いで「やや不満(18.7%)」、「大変満足(13.5%)」などとなっている。「大変満足」と「やや満足」を合計した<満足>は61.2%である。(図1-13-1)

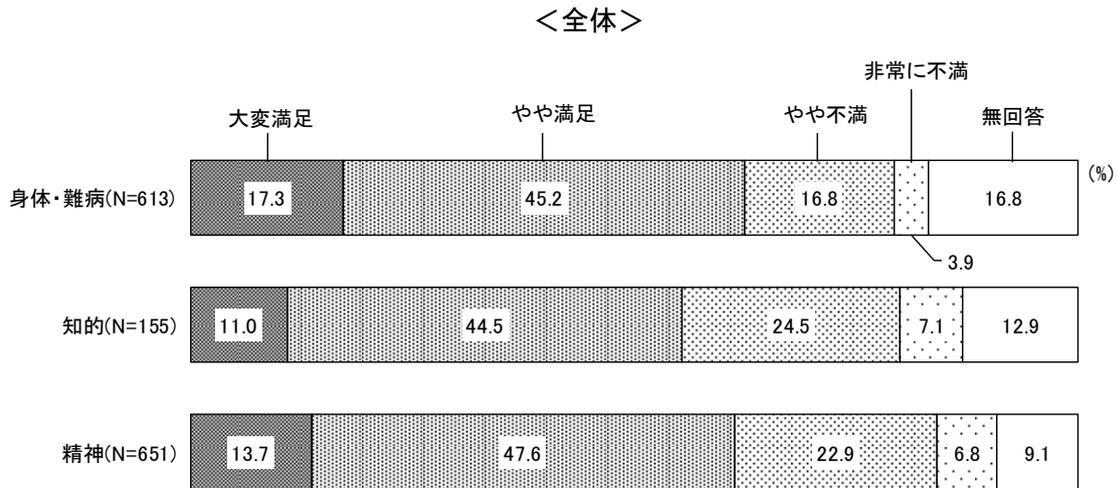
図1-13-1 中央区の施策・サービスの満足度
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



令和元年度調査との比較

令和元年度調査と令和4年度調査を比較すると、「大変満足」と「やや満足」を合計した「満足」は、精神障害者等では同様な傾向で、身体障害・難病患者では62.5%から66.2%と3.7ポイント高く、知的障害者では55.5%から66.7%と11.2ポイント高くなっている。(図1-13-2)

図1-13-2 【令和元年度調査】中央区の施策・サービスの満足度
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)



(2) 中央区（行政）への意見・要望（自由回答）

身体・難病：問 48、知的：問 45、精神：問 45

中央区(行政)への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、身体障害者・難病患者は 180 人から 218 件、知的障害者は 53 人から 104 件、精神障害者は 202 人から 273 件の記入があった。

(表 1-13-1)

表 1-13-1 中央区（行政）への意見・要望
(身体障害者・難病患者、知的障害者、精神障害者等)

項目	身体・難病 記入件数	知的 記入件数	精神 記入件数
住まい・地域	9	11	15
日常生活の支援	4	1	6
就労	3	4	10
経済状況・経済的な支援	23	3	21
社会参加・文化余暇活動	17	14	13
リハビリ・医療	3	5	6
障害福祉サービス	17	20	13
情報	12	5	28
相談・支援・制度	7	2	20
権利擁護	0	0	1
障害への理解・配慮	13	4	18
災害時の対策	2	0	3
サービスの満足度	12	0	7
将来の不安	4	7	4
家族への支援	1	0	3
関連分野の連携	3	0	2
認定・手続きなど	14	3	26
子どもへの支援	3	1	0
切れ目のない支援	1	2	0
感染症の影響	2	1	4
その他	19	4	22
アンケート	12	4	10
区・区職員の対応	8	1	9
お礼・謝意	18	7	22
特になし	11	5	10
計	218	104	273

主な意見は次のとおりである。

① 身体障害者・難病患者(218件)

(ア) 住まい・地域(9件)

- 中央区では高齢者が入所する施設が少なく、あったとしても高く、不安です。
- 社宅に住んでおり、定年後の住居確保が大変心配です。収入がなくなり少ない年金で都や区の住居も抽選で、高倍率で入居できる見込みがありません。住宅を増やしてほしいです。

(イ) 日常生活の支援(4件)

- 今のところ、なるべく自分で生活努力をしていますが、今後は手助けが必要だと思います。
- インターネット(携帯含む)等を教えてくれるコーナーを作してほしいです。

(ウ) 就労(3件)

- 難病患者の軽症者であっても通院し、薬は一生飲まなくてはならず、その為会社なども休む必要があったりします。そのような人に対して、職業の紹介をしてほしいです。
- 難病患者として自立している方だと思っていますが、長期や長時間の仕事はリスクが高くできません。シルバー人材で単発のお仕事をいただき、何とか生活を維持しております。

(エ) 経済状況・経済的な支援(23件)

- 現在、福祉タクシーか自動車燃料費の助成かどちらかしか選択できませんが、合算して年間40,000円にしてほしいです。
- 中高齢者に対して配慮ある対策(金銭的支援など)(入浴券や芸能鑑賞)が行われていて評価できます。
- 難病者への給付金支給や紙パンツの支給など経済的に助かっています。
- 後期高齢者医療被保険者証の保険が使えなくなり、自己負担割合が[3割になって]非常に困っています。

(オ) 社会参加・文化余暇活動(17件)

- 歩道の段差に困っています。車イスで上れません。
- バリアフリーが少ないです。
- 道に出てるのぼりや荷物で歩きにくいです。
- 駅にエレベーターやエスカレーターが無い場合、階段での上り下りがきついで、どうにかしてほしいです。障害者が駅を利用しにくく、外出ができません。

(カ) リハビリ・医療(3件)

- ショートステイでリハビリをやっていただける施設が少ないので増してほしいです。
- 透析のできる老人ホーム・施設が中央区ではないので非常に困っています。

(キ) 障害福祉サービス(17件)

- なぜ、難病だけで使用できるサービスは少ないのですか。
- 等級が同じでも個人・個人の障害には差があります。受けられるサービスも異なります。決められたサービスに当てはまらなければサービスを受けることができません。個人に合ったサービスを考えてほしいと思います。(本当に必要なサービスが受けられず日常不便を感じております。)
- 移動介護サービスの事業所が1つしかないので増やしてほしいです。

(ク) 情報(12件)

- 難病の方や内部障害のある方々が援助や配慮をお願いしたいヘルプマークが周りの人達に聞いてもあまり認知されていないので、情報を区のおしらせなどでもっと掲示してほしいです。
- 区営住宅や都営住宅に関する情報を、もう少しわかりやすく発信してほしいです。
- 行政の提供する福祉関係のサービス内容の概要(全体)についての情報が不明です。ケアマネジャーを通じての情報のみです。

(ケ) 相談・支援・制度(7件)

- 各窓口へ出向かなくても、訪問してくれて相談に乗ってほしいです。また、必要書類を届けてくれ説明してくれるとありがたいです。
- 年齢によって障害者手当がもらえない事に不満です。

(コ) 障害への理解・配慮(13件)

- 難病を患ってから15年経過しましたが、難病患者の認知や理解は15年前とほとんど変わっていない印象です。
- 障害者の目線での配慮(逆差別的な扱いではなく)や意見収集。
- 障害は、障がいと記載すべきでしょう。
- 役所の書類の文字を大きくしてください。同様に記入欄を大きくしてください。

(カ) 災害時の対策(2件)

- 直下地震で家族がいない場合、とり残される事を心配しています。

(シ) サービスの満足度(12件)

- きめ細かな行政の施策がとられていると思います。

(ス) 将来の不安(4件)

- 現時点ではなんとか自分自身で生活を行っていますが、日々寄る年波と体力の低下が心配です。特に下肢機能障害により行動力が衰え不安を感じます。

(セ) 家族への支援(1件)

- 長期入院の時、家族に小さい子どもがいると、見てもらえるサポートがこれといってありませんでした。

(ソ) 関連分野の連携(3件)

- ケアマネジャーの質に差があり、退院から在宅へのサービス計画をスムーズにできないケアマネジャーをよく見ます。妻の母の介護の手伝いをしていますが、ケアマネジャーがもっと良く制度を理解して、医療と福祉の取り次ぎができるようにしてほしいです。

(タ) 認定・手続きなど(14件)

- 難病申請がPCでできるようにしてほしいです。
- 様々な手続きを簡単にしてほしいです。
- 手続きの申請窓口の土日に開庁している日を設定してほしいです。

(チ) 子どもへの支援(3件)

- 高齢者に対するサービスを減らしても子どもにもう少し回してください。

(ツ) 切れ目のない支援(1件)

- 小学生までのリハビリなどは区で行っていただけでしたが、成長期にしっかりみてくれる場所がなく、体にアンバランスがでています。中学生～高校生も引き続き見ていただける場所があればよかったです。

(テ) 感染症の影響(2件)

- 子連れの難病患者という立場に立ったとき、保育サービスにかなり助けてもらわないとやっていけないことが沢山ありました。(現在進行形) また今年家族がコロナで全滅した時も、重症化しないか孤独で心配でした。

② 知的障害者(104件)

(ア) 住まい・地域(11件)

- 家賃が高いので一人暮らしがしづらいです。
- 施設に入所したくてもそもそもありません。レインボーハウス明石しかなく、障害者の区内入口は増えていて、数年前の保育所並みに少ないのに一向に増えません。
- 重度の人たちが入れるグループホームを作してほしい。

(イ) 日常生活の支援(1件)

- 日常生活で困ることは、衣替えなどの服の管理によって着ていく服装選びなどに困っています。買い置き品も何度も同じものを買ってしまったり、無くなって気づくことが多いです。様々な書類の書き方も今は母にやってもらっています。

(ウ) 就労(4件)

- 区役所および区の施設で知的障害者の就労を推進してほしいです。
- 就労にあたって、熱心に探してくれませんでした。

(エ) 経済状況・経済的な支援(3件)

- 健常者との賃金の格差がひどいです。

(オ) 社会参加・文化余暇活動(14件)

- 障害児(者)のレクリエーションは抽選で外れることが多い。全員が参加できることを希望します。
- 複合施設がもっと沢山あるとコミュニティーが広がる気がします。
- オリンピック・パラリンピック開催後、障害者向けのスポーツイベントなどが増えてありがたいと感じますが、1年間のうちで数回しかなく少なく思います。そして、障害者向けに大江戸スポーツクラブ(教室)ができていますが、1時間しかやらないようなので障害のある人が1時間だけで楽しむには短く感じます。もっと障害のある人達に分かりやすいイベントやその開催を知らせる(どんな人にも分かりやすい)方法を考える必要があると思います。

(カ) リハビリ・医療(5件)

- 障害児を世話している私自身75才、子どもは透析を受けていて、この先の不安は募ります。
- レインボーハウス明石に入所しているが、医療的ケアを必要としなくてはいけなくなったら、次に行く施設がないのが心配です。

(キ) 障害福祉サービス(20件)

- レインボーハウス明石の日中一時支援の内容の充実。
- レインボーハウス明石のように預かってくれる施設をもう一つ作ってほしいです。
- 他区に比べて非常に障害者施設が少なく、選ぶことすらできません。
- 土・日も過ごせる放課後等デイサービスのようなものを作ってほしいです。レインボーハウス明石は正直いっぱいになっているようで入れません。

(ク) 情報(5件)

- 本人が大人になってから中央区に来たので、どんな情報があるのか、区のHPを見ても文字ばかりで非常にわかりづらいです。情報発信の仕方を区役所のHPを刷新する等の検討をお願いします。
- 区内の地図をデジタルマップにし誰でも見やすくしてほしいです。

(ケ) 相談・支援・制度(2件)

- 区内に福祉サービス利用に対して相談する事業所がある事は、知っていますが、当事者の立場に立って話を聞いてくれる所は少なく、ありきたりの事を言われるので、ピアカウンセラー的な、当事者が同じ立場で向き合って、話を聞いていただけるような事業所を設立していただきたいと思います。

(コ) 障害への理解・配慮(4件)

- 障害を持った方への考え方や意識等・社会が変わって行く事を望みます。
- 障害者で雇用されてても、一緒に働いている人の理解がなく、言葉で傷つくことが多いです。

(サ) 将来の不安(7件)

- 知的障害者として、将来への不安があります。親の死後、自然災害や経済的な不安など、独りで安全に暮らしていけるのだろうか。入所施設が少なく、知的障害を専門とする人材の少なさも感じています。
- 障害者も高齢化してきています。それに対する施策がまだ不十分だと思います。(自分で意志疎通のできないものに対する施策)

(シ) 認定・手続きなど(3件)

- まだ中央区に転居し9ヶ月なのでサービスについてはよくわかりません。親が高齢のため、変わりに、様々な書類が理解できないのが不安です。頼むと、有料で手助けしてくれるとのことを教えてもらいました。

(ス) 子どもへの支援(1件)

- 晴海に新設される学校には、支援級の受入れの障害程度を幅広く(軽度ではなく重度位まで)してほしいです。結局障害のある人が身近にいないと障害者への理解は進まないのだから子どもの内から身近にいる環境にしてほしいです。

(セ) 切れ目のない支援(2件)

- 障害児の頃は利用できるサービスは多いが、大人になるとほぼ無くなり、障害年金等の情報も学校によって、情報提供が全くないこともあります。PTAや親同士の情報交換のみでした。

(ソ) 感染症の影響(1件)

- 偏見、差別なく障害者でも普通に受診できる病院をぜひ知りたいです。特にこのコロナ禍、発熱外来含め、障害者が利用できる医療機関の情報、対応できる病院が中央区内で利用できる所がぜひほしいです。

③ 精神障害者等 (273 件)**(ア) 住まい・地域 (15 件)**

- わがままかもしれませんが、症状を安定させるため住環境をあまり変えたくありません。ほぼ無職なので転居もままならないため、何らかの補助があると助かります。
- どんどん中央区に住むお金が上がり、このままここで住めなくなってしまうことが不安です。子ども世帯に住宅補助を中央区として行ってほしいです。中間層が一番大変です。
- 就労による収入が減り、かつ単身者のため安い賃料の住宅へ引っ越したくても審査が通らず引っ越せません。

(イ) 日常生活の支援 (6 件)

- 今は、家事代行サービスに登録して、家事を外注してなんとかやっています。家事とかを助けてくれるサービスがほしいです。
- 病院への通院等の付き添い介助があれば助かります。

(ウ) 就労 (10 件)

- 中央区障害者就労支援センターの就労定着支援を利用しています。月に1回会社訪問してくださり、体調のことや仕事のことで色々と心配してくださりました。
- とにかく働く場所への協力をしていただきたいです。
- 短時間、週10時間とからでも働ける所ができたらいなと思います。(就労継続支援A型とかで)

(エ) 経済状況・経済的な支援 (21 件)

- タクシー券がほしいです。(保健福祉手帳、2級で、通院しています)
- 医療費等、広く使えるように補助金を支給してもらいたいです。
- 精神障害2級にも手当を支援してほしいです(3級も)。生活が苦しいです。
- 江戸バスも無料で乗れるようにしてほしいです。

(オ) 社会参加・文化余暇活動 (13 件)

- 街や地下街を歩いていると、ちょっと休む椅子があると助かると思います。椅子を増やしてもらえると老人にも優しい世の中になるとと思います。
- 障害者が地域社会で活躍できる場所が増えてほしいです。
- 区内で障害者同士の情報交換の場など交流の場がもっと増えたらと思っています。今後ともよろしくお願い致します。

(カ) リハビリ・医療 (6 件)

- 自立支援医療(精神通院)について登録するのを医療機関・薬局ではなく、疾病自体を登録したほうが良いと思います。救急搬送などで、いつもの病院にかかることができず、制度を利用できないときもあるからです。
- 自立支援手続ができる中央区の病院をいくつか教えてほしいです。

(キ) 障害福祉サービス(13件)

- 障害に対するサービスが、住居場所等で偏在する事のないよう配慮いただきたいです。
- サービスの時間を増やしてほしいです。

(ク) 情報(28件)

- 情報発信をもっと積極的に行ってほしいです。
- がん患者への支援が充実しているが、それがあまり知られていないので、HPなどで分かりやすく書かれているといいなと思いました。
- どんなサービスや施策があるのかわかりやすく、親しみやすい方法で発信してほしいです。
- 福祉に関する情報を入手するのが手間で、自分から取得しに行く事はありません。医療機関などに、情報があると入手し易いので、それらにあるとうれしいです。
- ホームページを見やすくしてください。事前に知識を他の媒体で知っていないとたどり着けない情報が多いです。障害者向けのトップページなどを作って、新しいサービスやイベントなどを逐次お知らせ欄などにアップしてもらえると情報を取りこぼしません。

(ケ) 相談・支援・制度(20件)

- 自殺願望や希死念慮が強い時、いのちSOS等、24時間の電話相談のあるところに電話をかけたがどこもつながらなくてしんどかった。追いつめられた時に電話するのにつながってほしいです。
- 障害者が必要とする支援を、障害者からの要望や意見をよく聞いて行ってほしい。
- 受給者証、医療券、障害者手帳すべてをアプリにして、持ち歩かなくてもいいようにしてほしいです。
- 相談・支援の窓口が何か所かあるが、自分でどこに行けばよいのかわからないので、まずはどこに行けばよいのか知りたいと思います。

(コ) 権利擁護(1件)

- 「法人後見」「権利擁護支援事業」「障害者差別解消法」「虐待通報」「災害時地域たすけあい名簿」について知らなかったので、その他障害者への情報を含め広報誌等で頻繁に載せてほしいです。

(サ) 障害への理解・配慮(18件)

- グレーゾーンの子どもがおりますが、通級の先生はとても良いのですが、学校が他の児童への説明が不十分で偏見を持つ方が多いです。
- 区のホームページのレイアウト・デザインが2000年代的で、文字の大きさを拡大する。わかりやすく説明する。特に障害者(児)向け施策の広報は、ルビ振り、読み上げ機能をつけておいたほうが望ましいと思います。
- 精神障害の方の特性、他の方と変わらず日常生活が送れること、苦手なこと(大声など)など、障害を持たない方の理解が進むように啓蒙活動を継続していただきたいです。
- 障害者に優しい街になってほしいです。

(シ) 災害時の対策(3件)

- 災害時の薬の在庫がなくなった時、どこに連絡すれば良いかわかりません。

(ス) サービスの満足度(7件)

- 以前住んでいた地域よりも手厚くしていただいていると思います。
- 就労継続支援で就労支援センターを利用させていただきましたが、中央区はどの方も感じよく親切に対応していただき、次のステップへ進む心の支えにもなり大変感謝しています。

(セ) 将来の不安(3件)

- 現在は福祉のおかげで何とか生活できています。近い将来の不安は住居のことです。年齢や収入、保証人の問題で民間住宅に入居できなくなった時、行き場がないかもしれないと思っています。
- ひとり暮らしでの、病気、災害、老後のことなど、とても心配になりました。

(ソ) 家族への支援(4件)

- 自閉症児だが週に1度しか支援学級がなく、残り4日は学校へ通えず親の負担が大きく、私(母)が精神的に参ってしまいました。学童にも通えず、放課後等デイサービスにも入れず、1日中子に付き添いつつ、仕事もしなければならぬのでとても辛いです。

(タ) 関連分野の連携(2件)

- 個人的には質の高い医療と福祉サービス、就労などの連携をとっていただけるとありがたいです。

(チ) 認定・手続きなど(26件)

- 自立支援や手帳の発行までの時間がかかりすぎていると思います。
- 各種更新などの手続きを、オンラインで行えるようにしてほしいです。
- 窓口を利用するために仕事は休暇を取らなければなりません。窓口は土日、祝日や夜間も使えるようにしてほしいです。
- 動けない人に、役所に書類を取りに来いと言うのは、本当にストレスです。できないから手続きしたいのにその手続きをしに来いと言う。

(ツ) 感染症の影響(4件)

- 金銭面で苦しい時に助けてくれる制度が少ないです。(コロナに感染するのは1度だけじゃないのに、緊急小口資金の利用は1度のみはきついです。)
- コロナの影響で収入も減っているので、「自立支援医療受給証」は大変助っています。ありがとうございます。

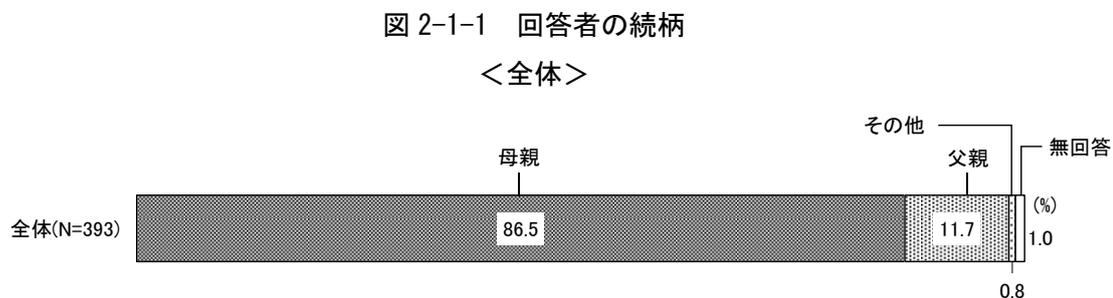
第2章 子どもの育ちや発達の相談に関する実態調査

1 お子さんと家族の状況について

(1) 回答者の続柄

子ども：問1

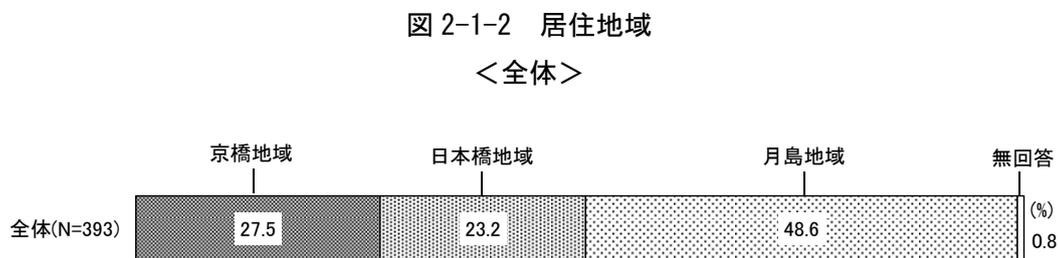
回答者の続柄は、「母親(86.5%)」が最も多く、次に「父親(11.7%)」、「その他(0.8%)」となっている。「その他(0.8%)」の内容は、「祖母」、「伯母」、「養母(祖母)」となっている。(図2-1-1)



(2) 居住地域

子ども：問2

居住地域は、「月島地域(48.6%)」が最も多く、次に「京橋地域(27.5%)」、「日本橋地域(23.2%)」となっている。(図2-1-2)

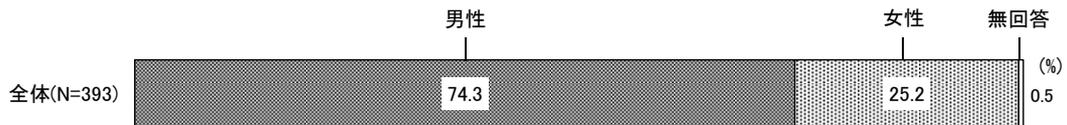


(3) お子さんの性別

子ども：問3(1)

性別は、「男性(74.3%)」、「女性(25.2%)」である。(図2-1-3)

図2-1-3 お子さんの性別
<全体>

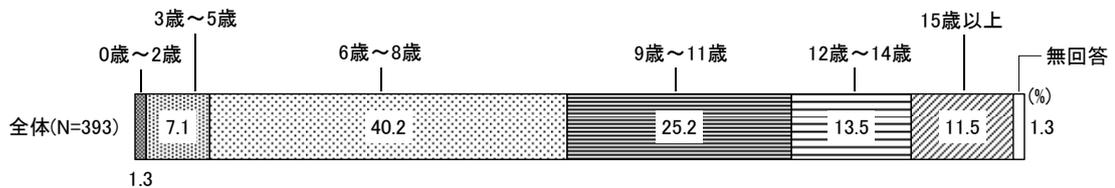


(4) お子さんの年齢

子ども：問3(2)

年齢は、「6歳～8歳(40.2%)」が最も多く、次に「9歳～11歳(25.2%)」、「12歳～14歳(13.5%)」などとなっている。(図2-1-4)

図2-1-4 お子さんの年齢
<全体>



(5) お子さんと同居している家族

子ども：問4

お子さんと同居している家族は、「母親(97.2%)」が最も多く、次に「父親(88.0%)」、「兄弟姉妹(65.1%)」などとなっている。(図2-1-5)

なお、回答結果をもとに整理した世帯類型は、「夫婦と子ども(84.5%)」が最も多く、次いで「ひとり親世帯(9.9%)」、「三世代世帯(2.3%)」などとなっている。(図2-1-6)

図2-1-5 お子さんと同居している家族（複数回答）

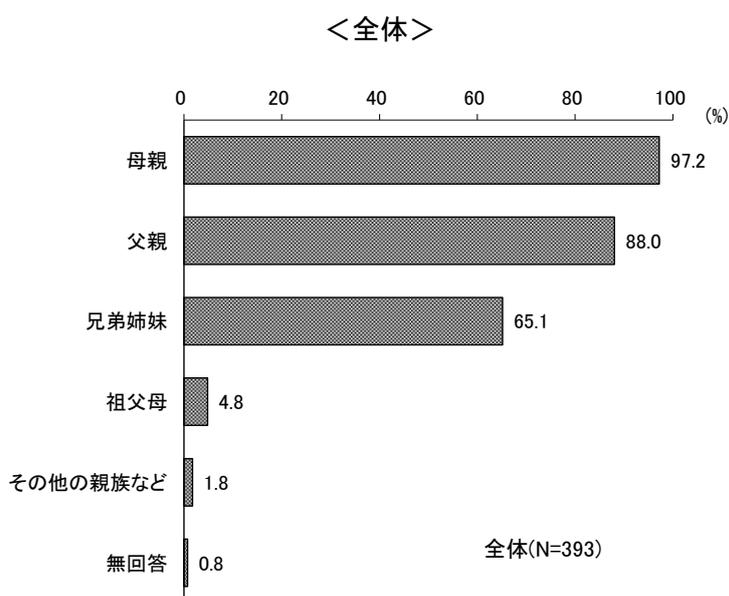
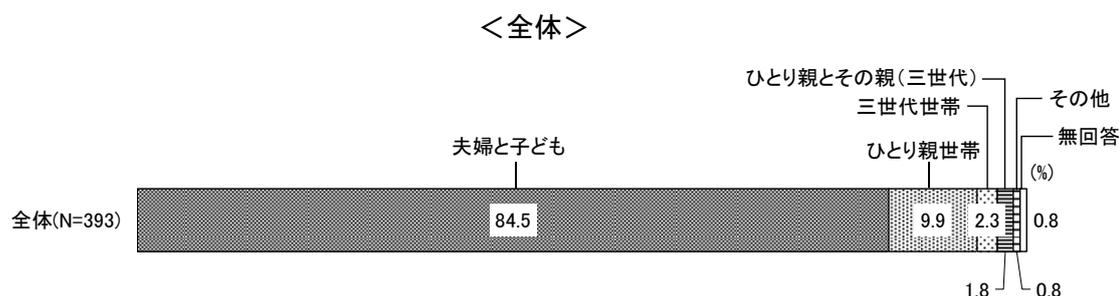


図2-1-6 世帯類型



2 通園・通学の状況について

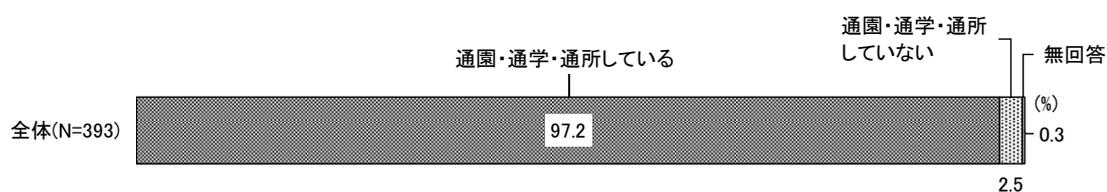
(1) 通園・通学・通所をしているか

子ども：問5

通園・通学・通所の状況は、「通園・通学・通所している(97.2%)」、「通園・通学・通所していない(2.5%)」である。(図 2-2-1)

図 2-2-1 通園・通学・通所をしているか

<全体>



(2) 通園・通学・通所先

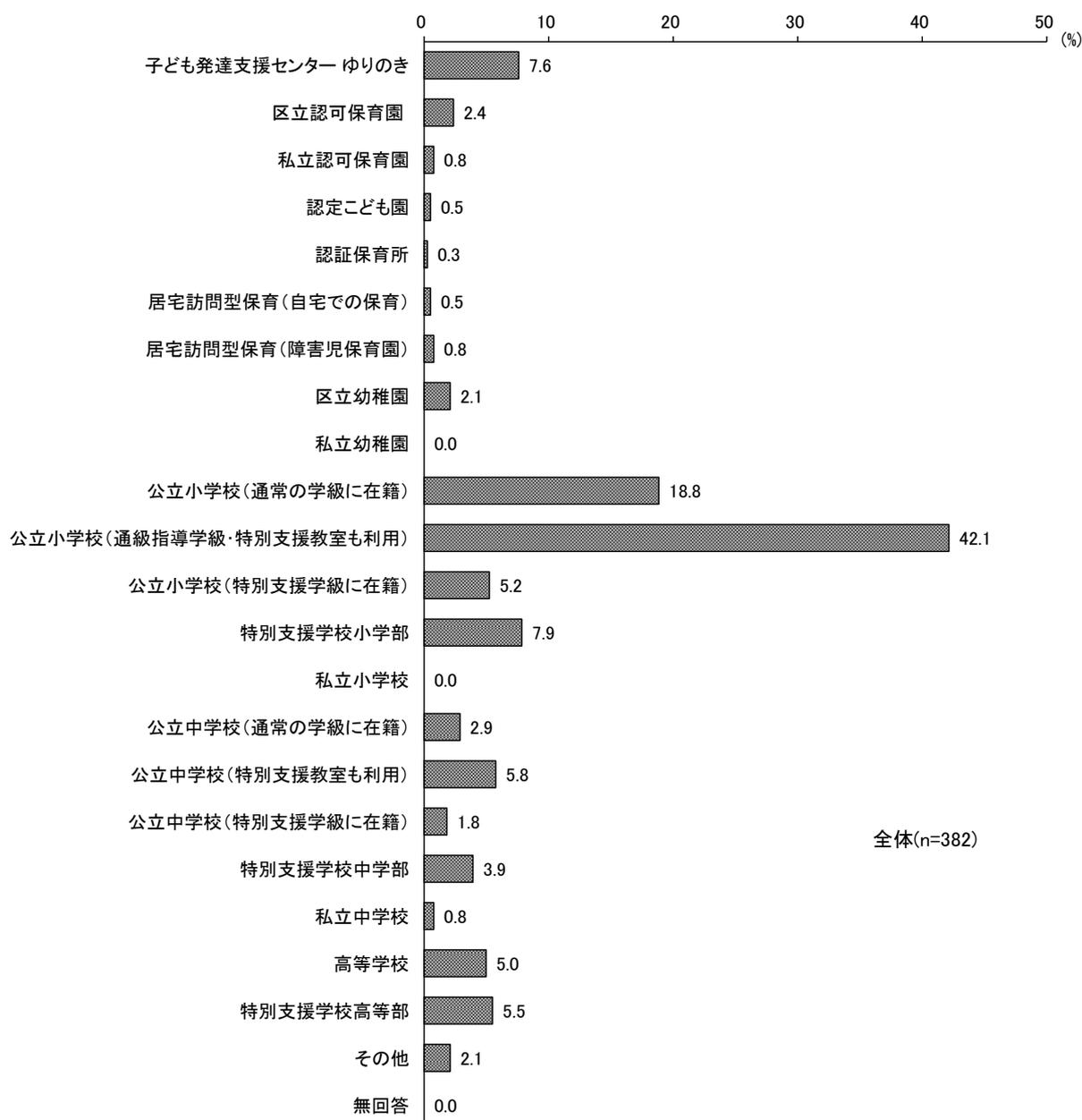
子ども：問5-1

「通園・通学・通所している」と回答した人に、通っている先をたずねた。

通園・通学・通所先は、「公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)(42.1%)」が最も多く、次いで「公立小学校(通常の学級に在籍)(18.8%)」、「特別支援学校小学部(7.9%)」などとなっている。

「その他(2.1%)」の内容は、「私立特別支援高等学校」、「児童発達支援所(通所)」、「民間療育」などとなっている。(図2-2-2)

図2-2-2 通園・通学・通所先(複数回答)
 <「通園・通学・通所している」と回答した人>



(3) 通園・通学・通所に付添いが必要か

子ども：問5-2

問5で通園・通学・通所していると回答した人に、付き添いが必要かたずねた。

「必要(28.0%)」、「不要(71.5%)」である。(図2-2-3)

図2-2-3 通園・通学・通所に付添いが必要か

<通園・通学・通所している人>



(4) 保育所・幼稚園・学校などが終わった後に過ごしている場所

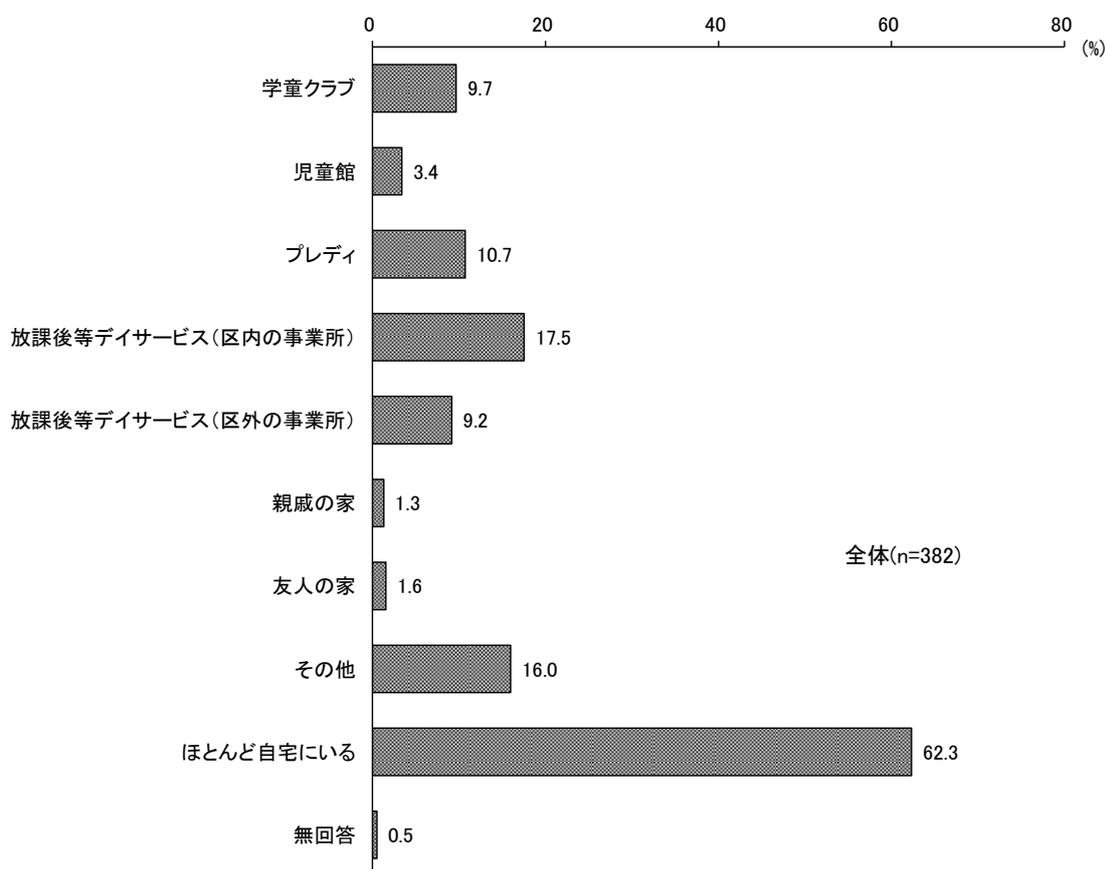
子ども：問5-3

問5で通園・通学・通所していると回答した人に、保育所・幼稚園・学校などが終わった後に過ごしている場所をたずねた。

「ほとんど自宅にいる(62.3%)」が最も多いが、それ以外では「放課後等デイサービス(区内の事業所)(17.5%)」、「プレディ(10.7%)」、「学童クラブ(9.7%)」などとなっている。

「その他(16.0%)」の内容は、「習い事」、「公園」、「児童発達支援の民間療育施設」などとなっている。(図2-2-4)

図2-2-4 保育所・幼稚園・学校などが終わった後に過ごしている場所
 <通園・通学・通所している人>



3 育ちや発達の状況について

(1) 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無

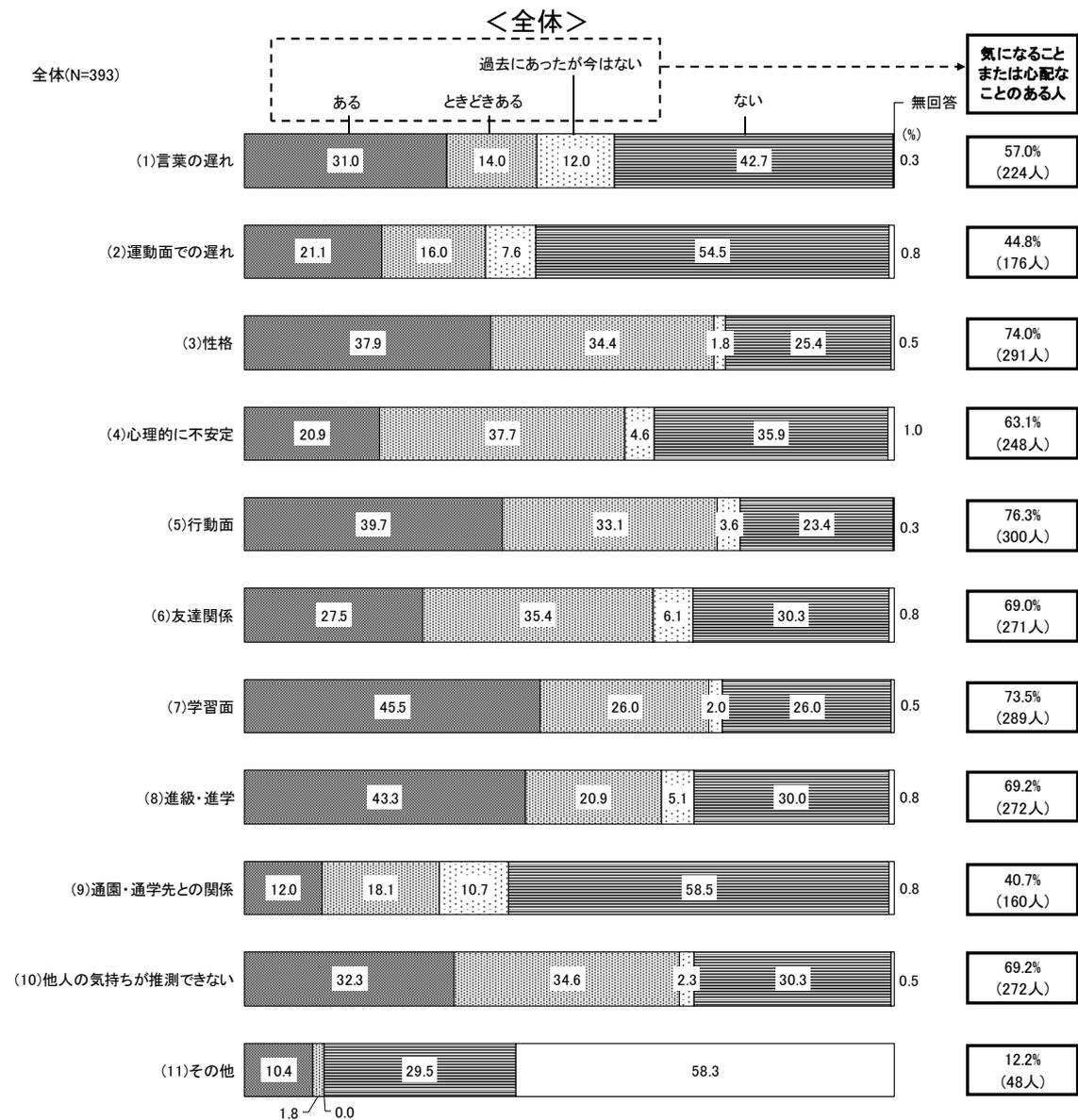
子ども：問6

① 回答者全体の分析

お子さんの育ちや発達について、気になることまたは心配なことについてたずねた。

「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせて「気になることまたは心配なことのある人」は、「行動面(76.3%)」が最も多く、次いで「性格(74.0%)」、「学習面(73.5%)」などとなっている。「その他(12.2%)」の内容は、「抑えるが効かない時がある」、「集団・多人数の状況が苦手」、「感覚過敏」などがあつた。(図2-3-1)

図2-3-1 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無



※気になることまたは心配なことのある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

② 気になることまたは心配なことのある人についての分析

ここでは、<気になることまたは心配なことのある人>（(1)～(11)の項目に1つでも「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」と回答した人）について、学齢別に分析する。

<気になることまたは心配なことのある人>は、全体で380人(96.7%)である。

学齢別にみると、就学前(0歳～5歳)は33人、小学生(6歳～11歳)は252人、中学生(12歳～14歳)は50人、高校生(15歳～17歳)は41人である。(表2-3-1)

表2-3-1 気になることまたは心配なことのある人
 <全体、学齢別：気になることまたは心配なことのある人>

		(人)	
		全体	気になることまたは 心配なことのある人 ※1
全体		393	380
学 齢 別 ※ 2	就学前(0歳～5歳)	33	33
	小学生(6歳～11歳)	257	252
	中学生(12歳～14歳)	53	50
	高校生(15歳～17歳)	45	41

※1 問6の(1)～(11)の項目に1つでも「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」と回答した人。

※2 就学前は、令和4年4月1日現在0歳～5歳の児童である。

小学生は、令和4年4月1日現在6歳～11歳の児童である。

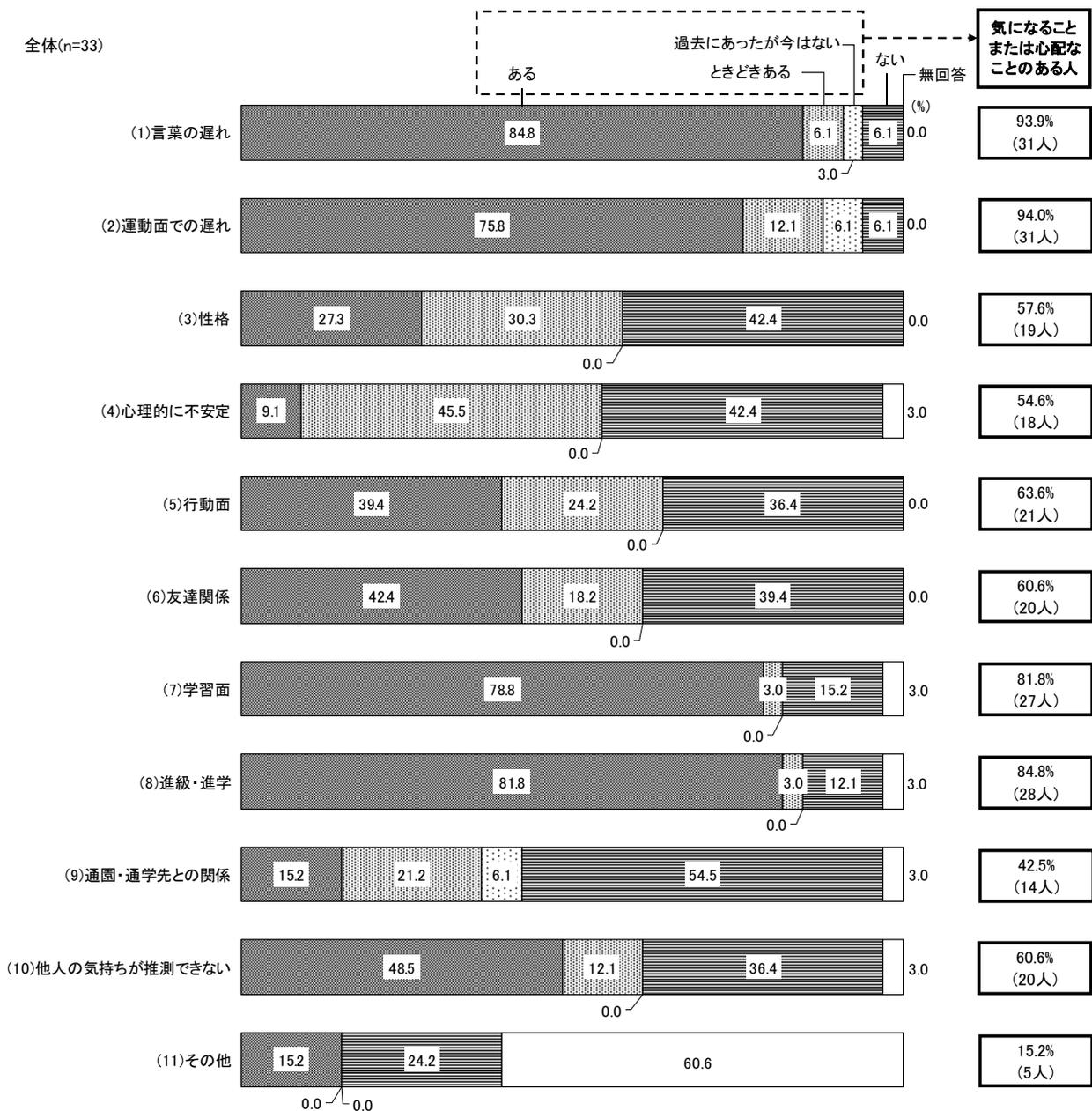
中学生は、令和4年4月1日現在12歳～14歳の児童である。

高校生は、令和4年4月1日現在15歳～17歳の児童である。

【学齢別：就学前】

就学前における「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせた＜気になることまたは心配なことのある人＞は、「言葉の遅れ(93.9%)」と「運動面での遅れ(93.9%)」が同率で最も多く、次いで「進級・進学(84.8%)」、「学習面(81.8%)」などとなっている。(図2-3-2)

図2-3-2 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無
 ＜就学前：気になることまたは心配なことのある人＞

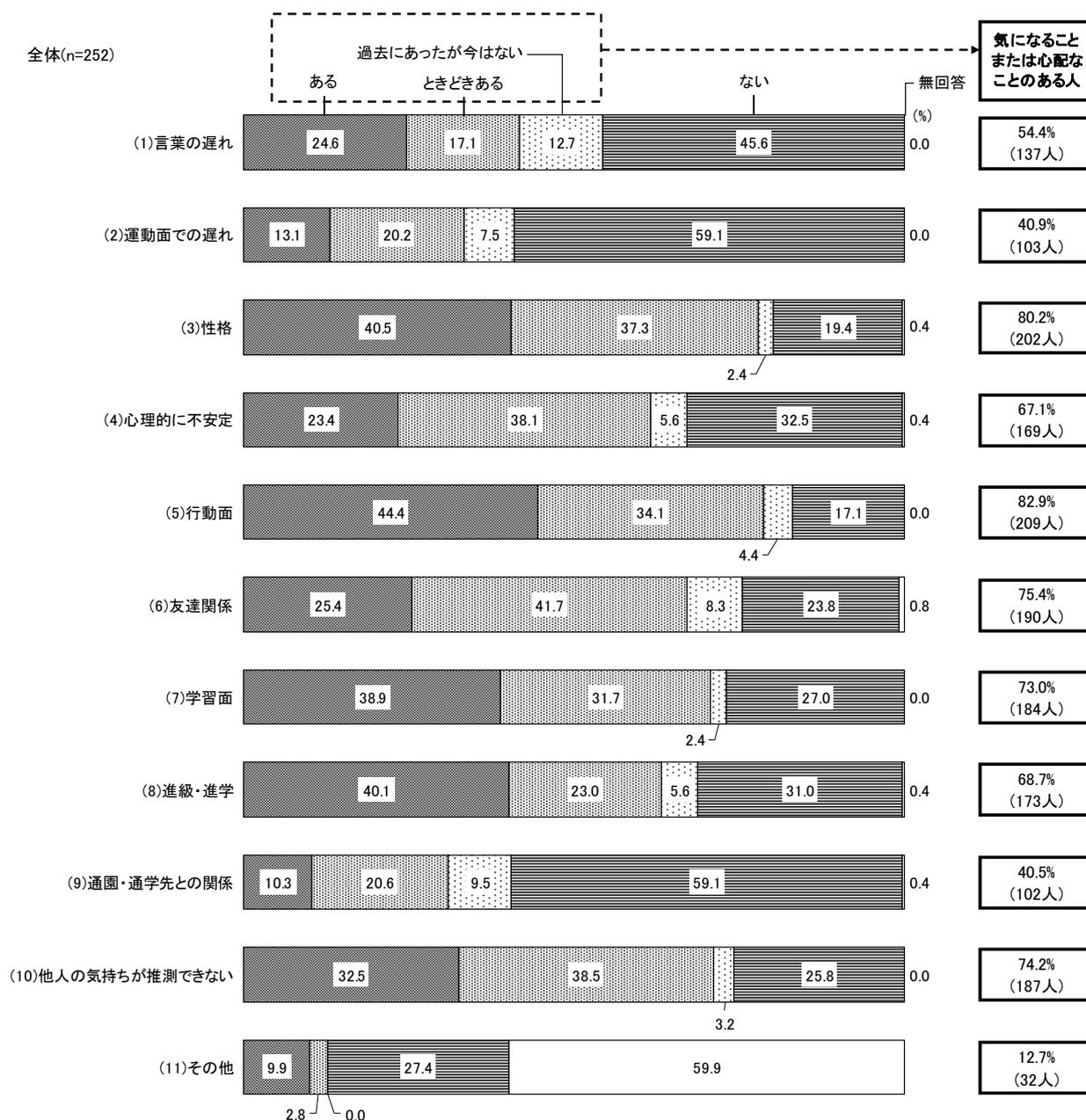


※気になることまたは心配なことのある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：小学生】

小学生における「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせた＜気になることまたは心配なことのある人＞は、「行動面(82.9%)」が最も多く、次いで「性格(80.2%)」、「友達関係(75.4%)」などとなっている。(図2-3-3)

図2-3-3 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無
 ＜小学生：気になることまたは心配なことのある人＞

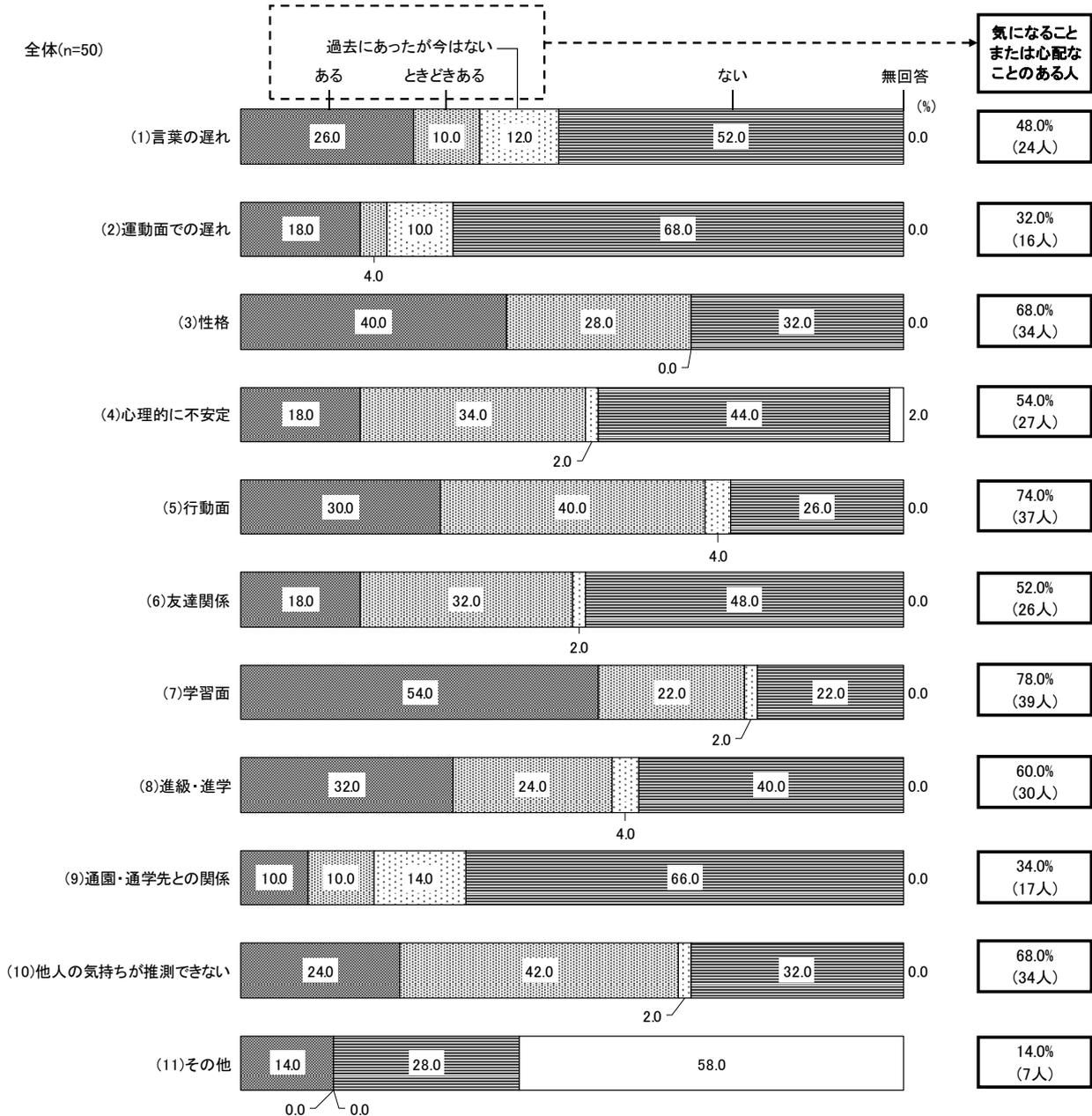


※気になることまたは心配なことのある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：中学生】

中学生における「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせた＜気になることまたは心配なことのある人＞は、「学習面(78.0%)」が最も多く、次いで「行動面(74.0%)」、「性格(68.0%)」、「他人の気持ちが推測できない(68.0%)」などとなっている。(図 2-3-4)

図 2-3-4 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無
 ＜中学生：気になることまたは心配なことのある人＞

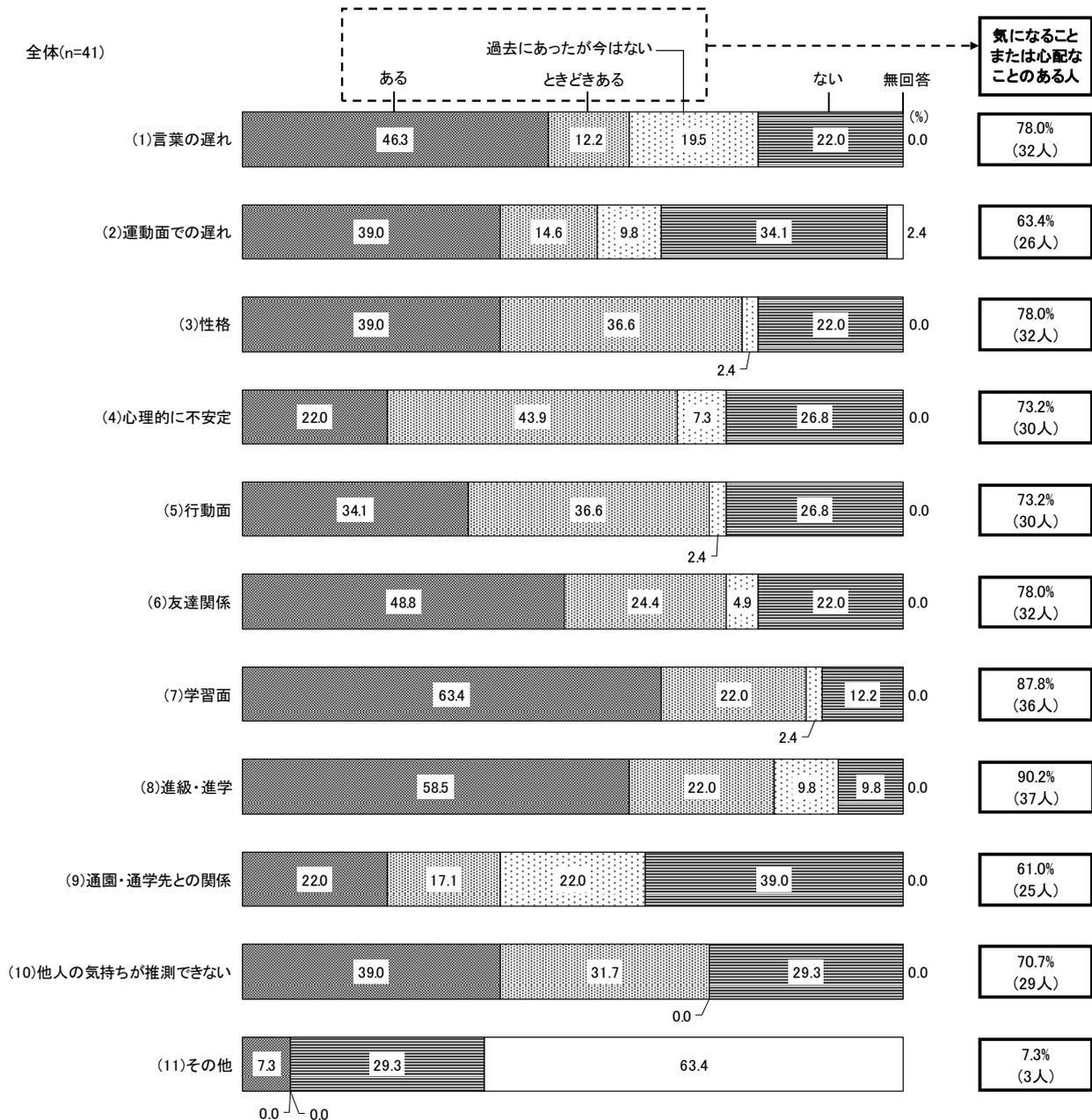


※気になることまたは心配なことのある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：高校生】

高校生における「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」をあわせた＜気になることまたは心配なことのある人＞は、「進級・進学(90.2%)」が最も多く、次いで「学習面(87.8%)」、「言葉の遅れ(78.0%)」、「性格(78.0%)」、「友達関係(78.0%)」などとなっている。(図 2-3-5)

図 2-3-5 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無
 ＜高校生：気になることまたは心配なことのある人＞



※気になることまたは心配なことのある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

表 2-3-2 子どもの育ちや発達で不安や疑問を感じた経験の有無のまとめ
 <全体、学齢別：気になることまたは心配なことのある人>

	全体 (N=393)	学齢別			
		就学前 (n=33)	小学生 (n=252)	中学生 (n=50)	高校生 (n=41)
(1) 言葉の遅れ	57.0% (224 人)	【1 位】 93.9% (31 人)	54.4% (137 人)	48.0% (24 人)	【3 位】 78.0% (32 人)
(2) 運動面での遅れ	44.8% (176 人)	【1 位】 93.9% (31 人)	40.9% (103 人)	32.0% (16 人)	63.4% (26 人)
(3) 性格	【2 位】 74.0% (291 人)	57.6% (19 人)	【2 位】 80.2% (202 人)	【3 位】 68.0% (34 人)	【3 位】 78.0% (32 人)
(4) 心理的に不安定	63.1% (248 人)	54.5% (18 人)	67.1% (169 人)	54.0% (27 人)	73.2% (30 人)
(5) 行動面	【1 位】 76.3% (300 人)	63.6% (21 人)	【1 位】 82.9% (209 人)	【2 位】 74.0% (37 人)	73.2% (30 人)
(6) 友達関係	69.0% (271 人)	60.6% (20 人)	【3 位】 75.4% (190 人)	52.0% (26 人)	【3 位】 78.0% (32 人)
(7) 学習面	【3 位】 73.5% (289 人)	81.8% (27 人)	73.0% (184 人)	【1 位】 78.0% (39 人)	【2 位】 87.8% (36 人)
(8) 進級・進学	69.2% (272 人)	【3 位】 84.8% (28 人)	68.7% (173 人)	60.0% (30 人)	【1 位】 90.2% (37 人)
(9) 通園・通学先との関係	40.7% (160 人)	42.4% (14 人)	40.5% (102 人)	34.0% (17 人)	61.0% (25 人)
(10) 他人の気持ちが推測できない	69.2% (272 人)	60.6% (20 人)	74.2% (187 人)	【3 位】 68.0% (34 人)	70.7% (29 人)
(11) その他	12.2% (48 人)	15.2% (5 人)	12.7% (32 人)	14.0% (7 人)	7.3% (3 人)

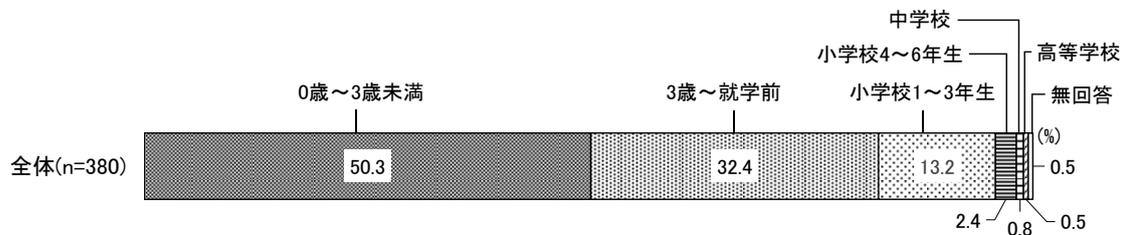
(2) 最初に不安や疑問を感じた時期

子ども：問6-1

問6の(1)～(11)の項目において、1つでも「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」と回答した<気になることまたは心配なことのある人>380人(全体393人のうち、問6の(1)～(11)の項目をすべて「ない」と回答した12人、無回答の1人を除いた全体の96.7%)に、最初に不安や疑問を感じた時期をたずねた。

最初に不安や疑問を感じた時期は、「0歳～3歳未満(50.3%)」が最も多く、次に「3歳～就学前(32.4%)」、「小学校1～3年生(13.2%)」などとなっている。「0歳～3歳未満」と「3歳～就学前」を合計すると82.7%となり、8割以上が就学前に不安や疑問を感じている。(図2-3-6)

図2-3-6 最初に不安や疑問を感じた時期
<気になることまたは心配なことのある人>



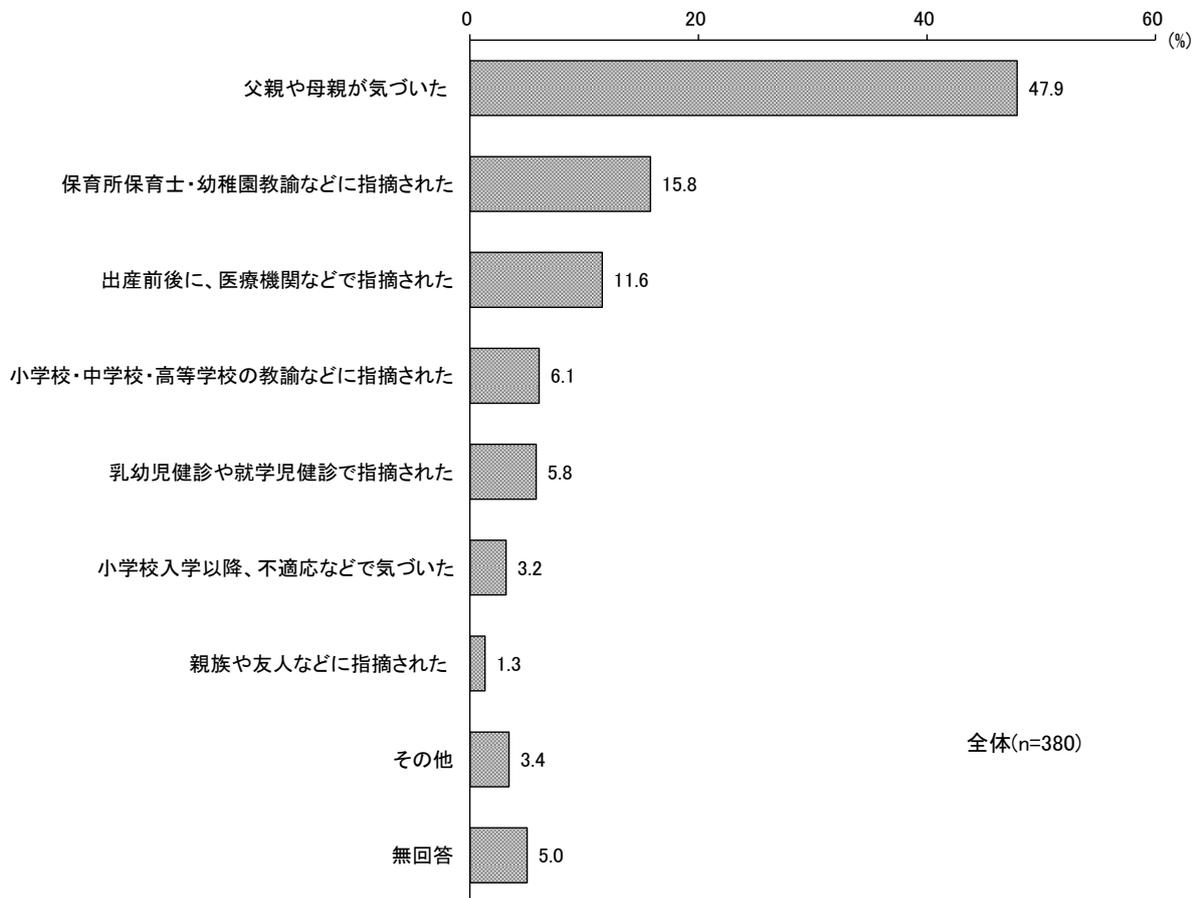
(3) 不安や疑問を感じたきっかけ

子ども：問6-2

問6の(1)～(11)の項目に、1つでも「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」と回答した人(気になることまたは心配なことのある人)に、不安や疑問を感じたきっかけをたずねた。

不安や疑問を感じたきっかけは、「父親や母親が気づいた(47.9%)」が最も多く、次いで「保育所保育士・幼稚園教諭などに指摘された(15.8%)」、「出産前後に、医療機関などで指摘された(11.6%)」などとなっている。(図2-3-7)

図2-3-7 不安や疑問を感じたきっかけ
 <気になることまたは心配なことのある人>



(4) 相談の経験の有無

子ども：問7

子どもの育ちや発達についての相談経験をたずねた。

「現在相談している」または「過去に相談していた」と回答した＜相談経験あり＞は388人である。

【回答者全体の分析】

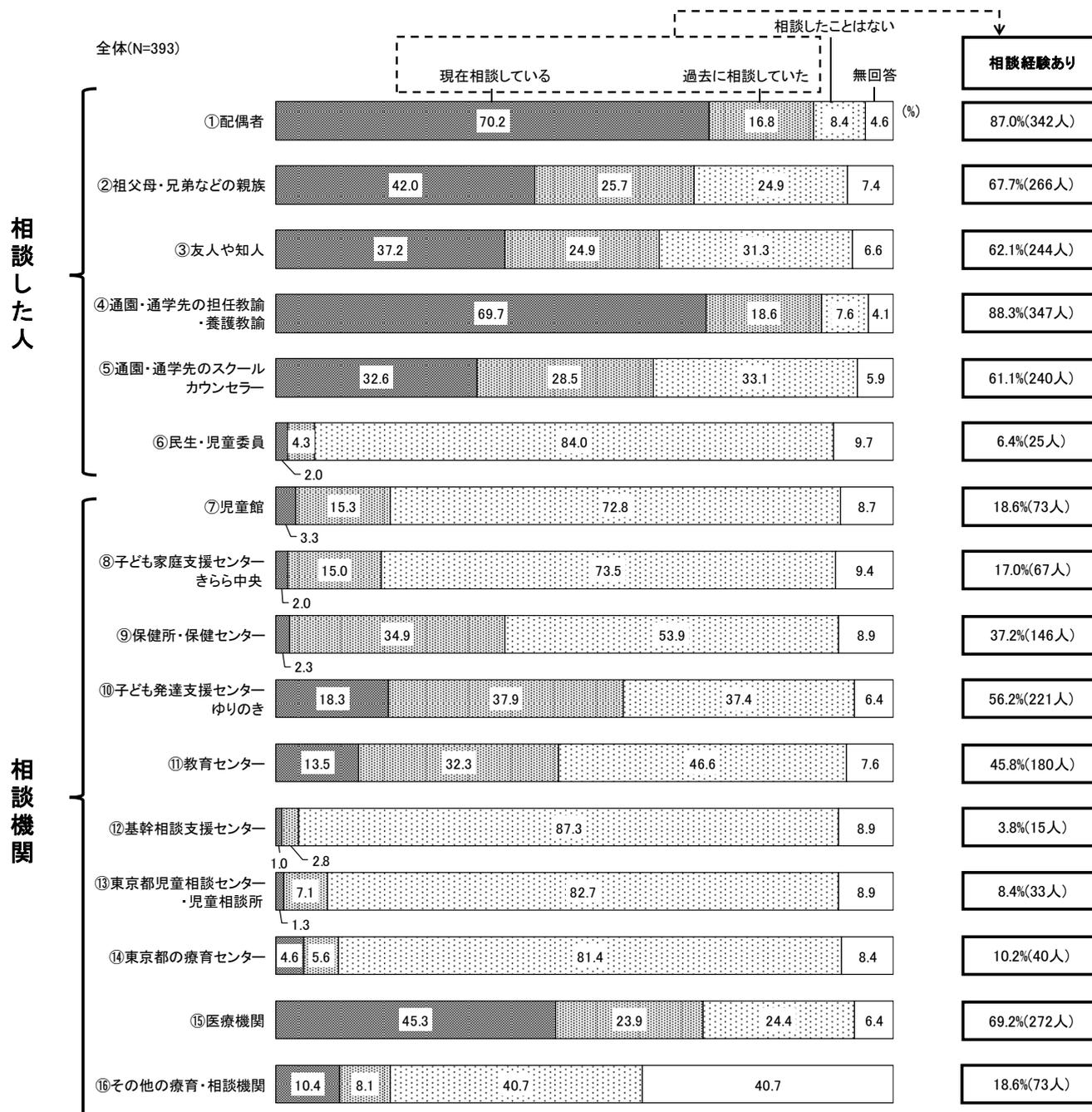
相談した人では「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(88.3%)」が最も多く、次いで「配偶者(87.0%)」、「祖父母・兄弟などの親族(67.7%)」などとなっている。

相談機関では「医療機関(69.2%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センター ゆりのき(56.2%)」、「教育センター(45.8%)」などとなっている。

なお、「その他の療育・相談機関(18.6%)」の内容は、「民間の療育施設」、「放課後等デイサービス」などとなっている。(図 2-3-8)

図 2-3-8 相談経験の有無

<全体>



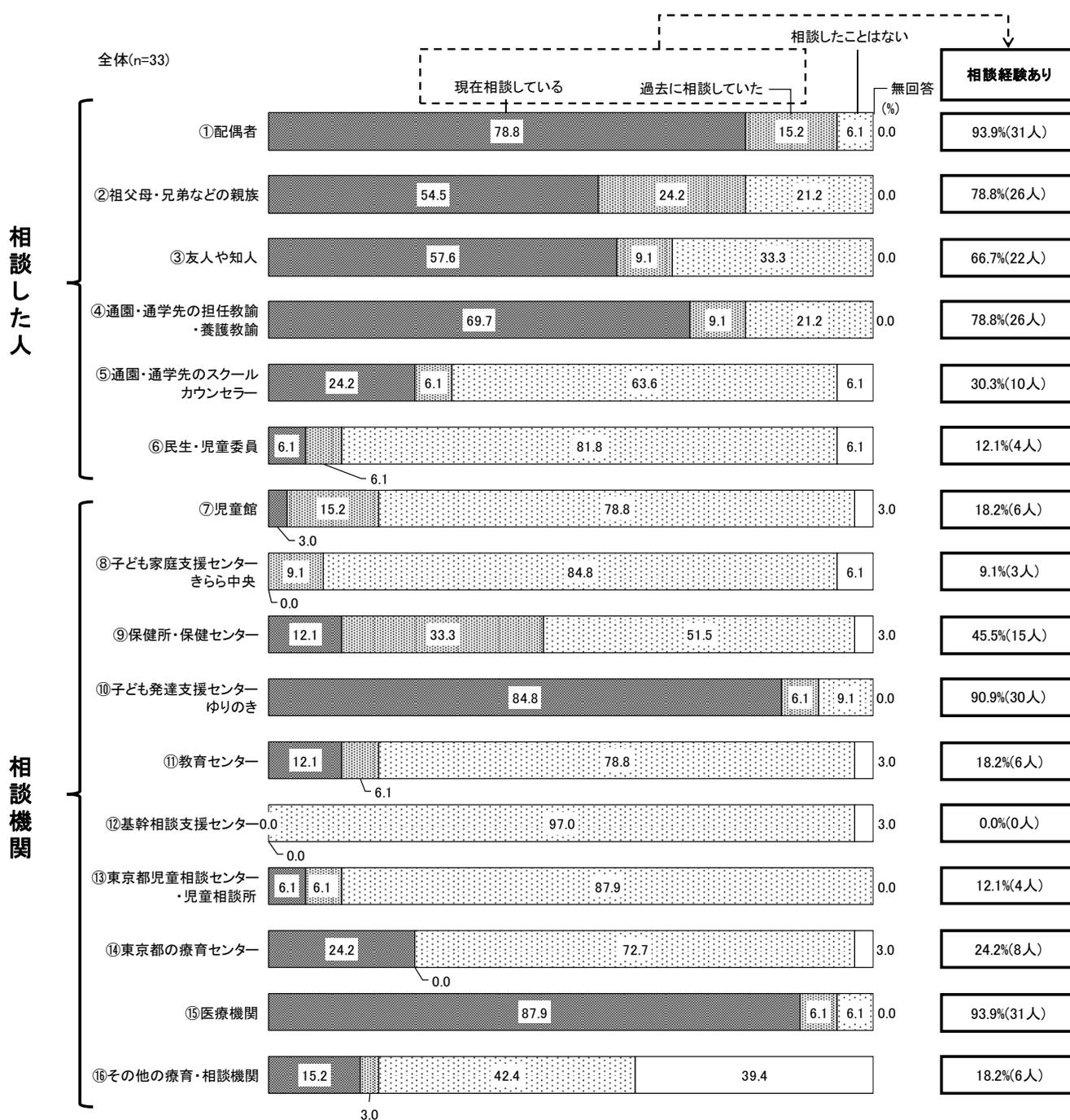
※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：就学前】

就学前における「現在相談している」または「過去に相談していた」と回答したく相談経験ありは、相談した人では「配偶者(93.9%)」が最も多く、次いで「祖父母・兄弟などの親族(78.8%)」、「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(78.8%)」などとなっている。相談機関では「医療機関(93.9%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センター ゆりのき(90.9%)」などとなっている。(図2-3-9)

図2-3-9 相談経験の有無

<就学前>



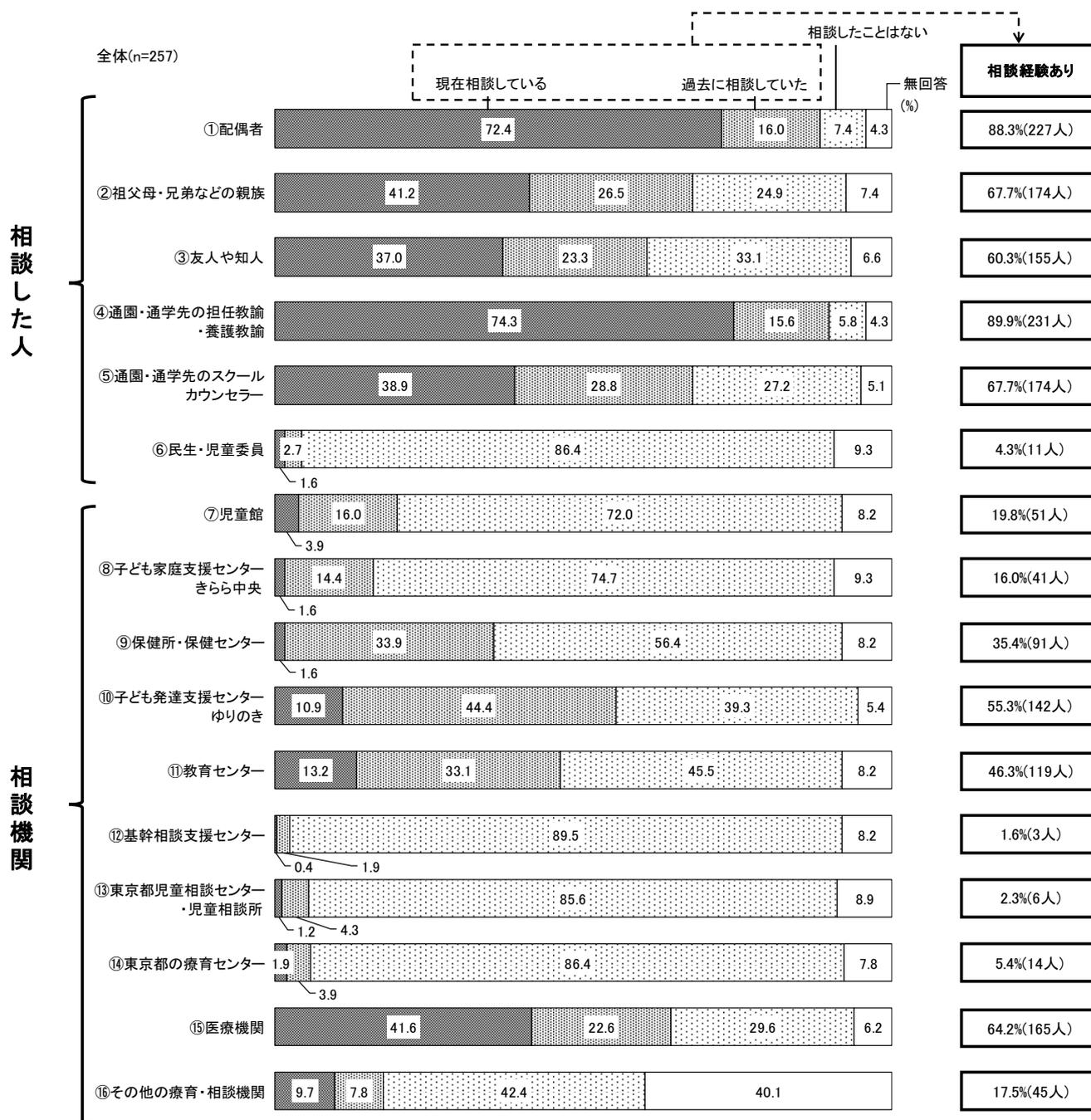
※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：小学生】

小学生における「現在相談している」または「過去に相談していた」と回答したく相談経験ありは、相談した人では「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(89.9%)」が最も多く、次いで「配偶者(88.3%)」などとなっている。相談機関では「医療機関(64.2%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センター ゆりのき(55.3%)」などとなっている。(図2-3-10)

図2-3-10 相談経験の有無

<小学生>



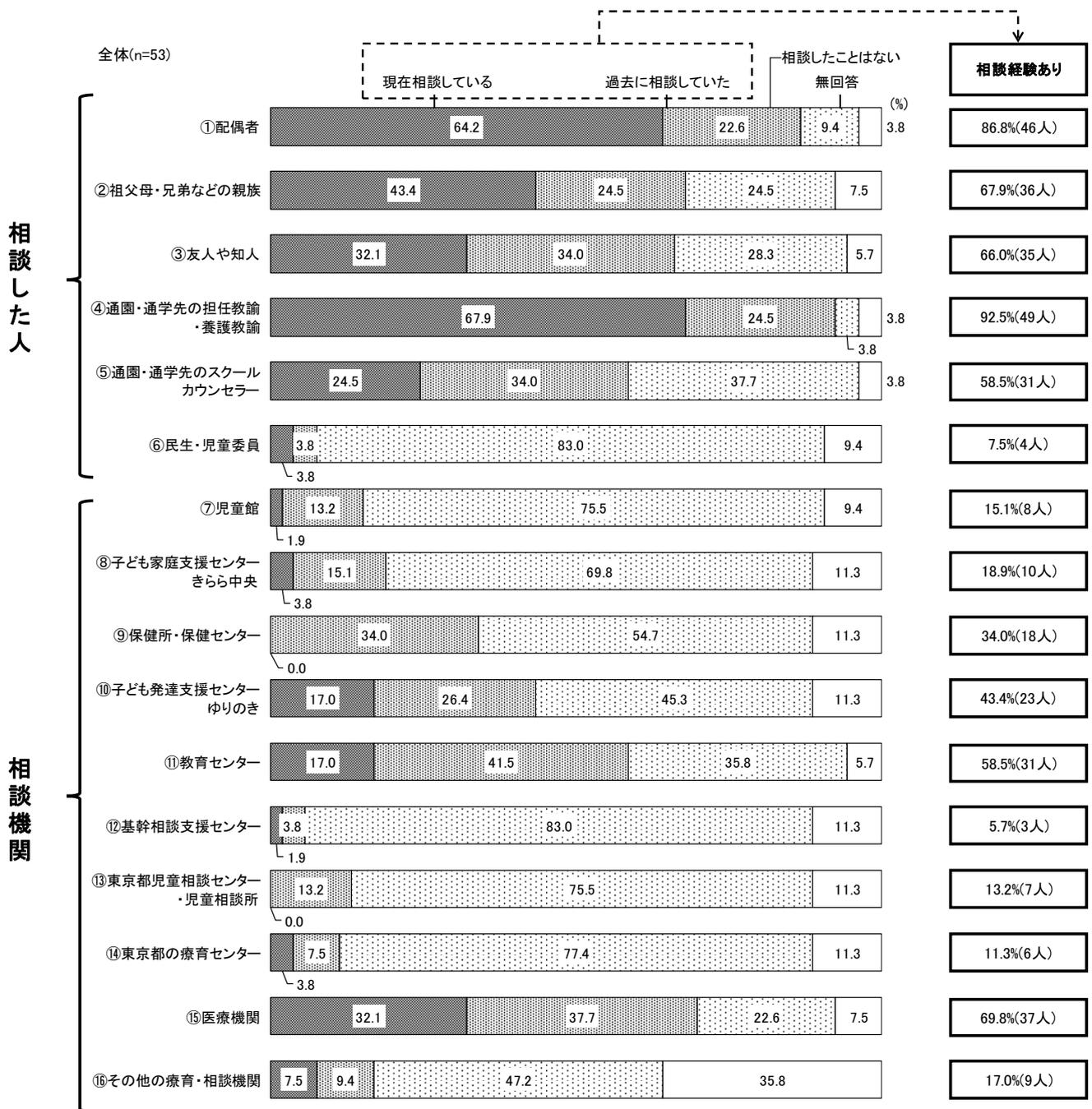
※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：中学生】

中学生における「現在相談している」または「過去に相談していた」と回答したく相談経験ありは、相談した人では「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(92.5%)」が最も多く、次いで「配偶者(86.8%)」などとなっている。相談機関では「医療機関(69.8%)」が最も多く、次いで「教育センター(58.5%)」などとなっている。(図2-3-11)

図2-3-11 相談経験の有無

<中学生>



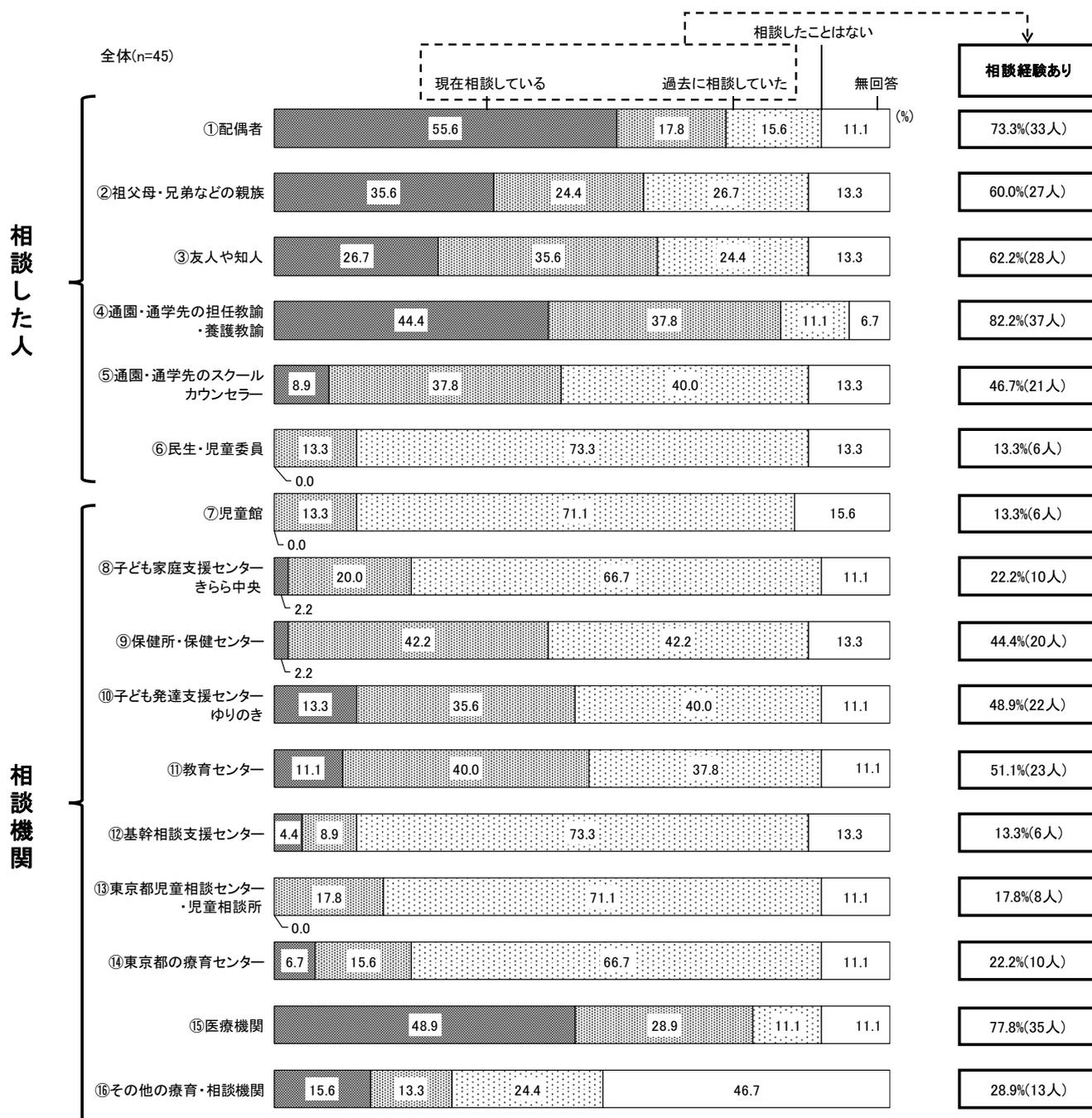
※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

【学齢別：高校生】

高校生における「現在相談している」または「過去に相談していた」と回答したく相談経験ありは、相談した人では「通園・通学先の担任教諭・養護教諭(82.2%)」が最も多く、次いで「配偶者(73.3%)」などとなっている。相談機関では「医療機関(77.8%)」が最も多く、次いで「教育センター(51.1%)」などとなっている。(図2-3-12)

図2-3-12 相談経験の有無

<高校生>



※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも図中の数値の合計とは一致しない。

表 2-3-3 相談の経験(相談経験あり)のまとめ

<全体、学齢別>

		全体 (N=393)	学齢別			
			就学前 (n=33)	小学生 (n=257)	中学生 (n=53)	高校生 (n=45)
相談した人	①配偶者	【2位】 87.0% (342人)	【1位】 93.9% (31人)	【2位】 88.3% (227人)	【2位】 86.8% (46人)	【2位】 73.3% (33人)
	②祖父母・兄弟等の親族	【3位】 67.7% (266人)	【2位】 78.8% (26人)	【3位】 67.7% (174人)	【3位】 67.9% (36人)	60.0% (27人)
	③友人や知人	62.1% (244人)	66.7% (22人)	60.3% (155人)	66.0% (35人)	【3位】 62.2% (28人)
	④通園・通学先の担任教諭 ・養護教諭	【1位】 88.3% (347人)	【2位】 78.8% (26人)	【1位】 89.9% (231人)	【1位】 92.5% (49人)	【1位】 82.2% (37人)
	⑤通園・通学先のスクール カウンセラー	61.1% (240人)	30.3% (10人)	【3位】 67.7% (174人)	58.5% (31人)	46.7% (21人)
	⑥民生・児童委員	6.4% (25人)	12.1% (4人)	4.3% (11人)	7.5% (4人)	13.3% (6人)
相談機関	⑦児童館	18.6% (73人)	18.2% (12人)	19.8% (51人)	15.1% (8人)	13.3% (6人)
	⑧子ども家庭支援センター きらら中央	17.0% (67人)	9.1% (3人)	16.0% (41人)	18.9% (10人)	22.2% (10人)
	⑨保健所・保健センター	37.2% (146人)	【3位】 45.5% (15人)	35.4% (91人)	34.0% (18人)	44.4% (20人)
	⑩子ども発達支援センター ゆりのき (平成29年度までは福祉センター)	【2位】 56.2% (221人)	【2位】 90.9% (30人)	【2位】 55.3% (142人)	【3位】 43.4% (23人)	【3位】 48.9% (22人)
	⑪教育センター	【3位】 45.8% (180人)	18.2% (6人)	【3位】 46.3% (119人)	【2位】 58.5% (31人)	【2位】 51.1% (23人)
	⑫基幹相談支援センター	3.8% (15人)	0.0% (0人)	1.6% (3人)	5.7% (3人)	13.3% (6人)
	⑬東京都児童相談センター ・児童相談所	84% (33人)	12.1% (4人)	2.3% (6人)	13.2% (7人)	17.8% (8人)
	⑭東京都の療育センター	10.2% (40人)	24.2% (8人)	5.4% (14人)	11.3% (6人)	22.2% (10人)
	⑮医療機関	【1位】 69.2% (272人)	【1位】 93.9% (31人)	【1位】 64.2% (165人)	【1位】 69.8% (37人)	【1位】 77.8% (35人)
	⑯その他の療育・相談機関	18.6% (73人)	18.2% (6人)	17.5% (45人)	17.0% (9人)	28.9% (13人)

(5) 相談の効果

子ども：問7-1

子どもの育ちや発達について「現在相談している」と「過去に相談していた」と回答した人に、相談の効果をたずねた。

〈相談した人〉、〈相談機関〉ともに「具体的な対応方法を考えることができた」、「話を聞いてもらって気持ちが楽になった」の回答が多くなっている。

その他の30%を超える項目は、〈相談した人〉では、配偶者、祖父母・兄弟などの親族は「家族で子どものことについて話し合う時間が増えた(配偶者:65.8%、祖父母・兄弟などの親族:34.2%)」、友人や知人は「同じ悩みを持つ保護者と知り合い、共感することができた(34.8%)」の回答が多くなっている。

〈相談機関〉では、子ども発達支援センター ゆりのき、東京都の療育センター、その他の療育・相談機関は「支援を受けて子どもが成長した(子ども発達支援センター ゆりのき:49.8%、東京都の療育センター:40.0%、その他の療育・相談機関:46.6%)」、「さまざまな情報をもらい、子育ての役に立った(子ども発達支援センター ゆりのき:36.2%、東京都の療育センター:32.5%、その他の療育・相談機関:41.1%)」の回答が多くなっている。

東京都の療育センター、医療機関は、「診断を受け、原因がわかった(東京都の療育センター:30.0%、医療機関:57.4%)」の回答が多くなっている。(表2-3-4)

表 2-3-4 相談の効果（複数回答）

<相談経験のある人（相談者別）>

（上段：人、下段：％）

		診断を受け、原因がわかった	具体的な対応方法を考えることができた	話を聞いてもらって気持ちが楽になった	適切な相談機関・医療機関を紹介してもらった	家族で子どもの時間が増えた	支援を受けて子どもが成長した	さまざまな情報に立った子育ての役に立った	同じ悩みを持つこと保護者と知り合い、共感することができた	その他	特にない	無回答	
相談した人	①配偶者 (n=342)	6	125	164	2	225	8	3	1	6	21	31	
		100.0	1.8	36.5	48.0	0.6	65.8	2.3	0.9	0.3	1.8	6.1	9.1
	②祖父母・兄弟などの親族 (n=226)	1	58	173	4	91	11	12	2	4	16	25	
		100.0	0.4	21.8	65.0	1.5	34.2	4.1	4.5	0.8	1.5	6.0	9.4
	③友人や知人 (n=244)	0	48	174	22	18	8	73	85	1	4	25	
		100.0	0.0	19.7	71.3	9.0	7.4	3.3	29.9	34.8	0.4	1.6	10.2
④通園・通学先の担任教諭・養護教諭 (n=347)	5	190	136	45	33	164	69	8	13	2	36		
	100.0	1.4	54.8	39.2	13.0	9.5	47.3	19.9	2.3	3.7	0.6	10.4	
⑤通園・通学先のスクールカウンセラー (n=240)	11	118	119	57	18	60	49	1	7	5	30		
	100.0	4.6	49.2	49.6	23.8	7.5	25.0	20.4	0.4	2.9	2.1	12.5	
⑥民生・児童委員 (n=25)	1	4	7	4	1	2	2	0	0	2	10		
	100.0	4.0	16.0	28.0	16.0	4.0	8.0	8.0	0.0	0.0	8.0	40.0	
相談機関	⑦児童館 (n=73)	1	18	37	3	3	13	9	0	2	2	15	
		100.0	1.4	24.7	50.7	4.1	4.1	17.8	12.3	0.0	2.7	2.7	20.5
	⑧子ども家庭支援センター きらら中央 (n=67)	1	19	24	12	3	13	7	2	2	8	17	
		100.0	1.5	28.4	35.8	17.9	4.5	19.4	10.4	3.0	3.0	11.9	25.4
	⑨保健所・保健センター (n=146)	7	54	53	37	8	13	24	1	2	16	26	
		100.0	4.8	37.0	36.3	25.3	5.5	8.9	16.4	0.7	1.4	11.0	17.8
	⑩子ども発達支援センター ゆりのき (n=221)	14	121	101	43	23	110	80	38	3	10	20	
		100.0	6.3	54.8	45.7	19.5	10.4	49.8	36.2	17.2	1.4	4.5	9.0
	⑪教育センター (n=180)	28	95	48	26	20	25	34	0	5	11	32	
		100.0	15.6	52.8	26.7	14.4	11.1	13.9	18.9	0.0	2.8	6.1	17.8
⑫基幹相談支援センター (n=15)	1	4	3	4	3	1	5	1	0	2	4		
	100.0	6.7	26.7	20.0	26.7	20.0	6.7	33.3	6.7	0.0	13.3	26.7	
⑬東京都児童相談センター・児童相談所 (n=33)	5	6	4	3	4	1	3	0	1	8	5		
	100.0	15.2	18.2	12.1	9.1	12.1	3.0	9.1	0.0	3.0	24.2	15.2	
⑭東京都の療育センター (n=40)	12	14	8	3	1	16	13	4	0	5	7		
	100.0	30.0	35.0	20.0	7.5	2.5	40.0	32.5	10.0	0.0	12.5	17.5	
⑮医療機関 (n=272)	156	144	87	44	30	47	50	6	6	6	29		
	100.0	57.4	52.9	32.0	16.2	11.0	17.3	18.4	2.2	2.2	2.2	10.7	
⑯その他の療育・相談機関 (n=73)	8	46	35	7	13	34	30	15	1	1	13		
	100.0	11.0	63.0	47.9	9.6	17.8	46.6	41.1	20.5	1.4	1.4	17.8	

30%を超えているもの（無回答を除く）

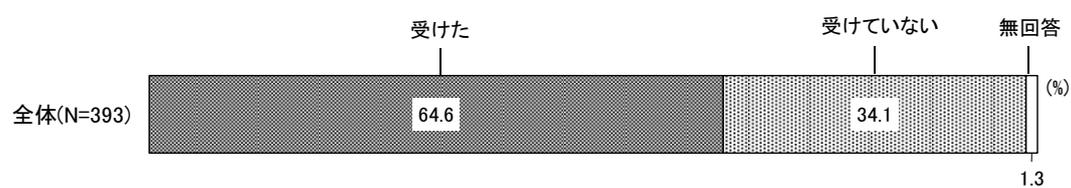
(6) 育ちや発達についての診断の有無

子ども：問8

子どもの育ちや発達について、診断（「〇〇の疑い」、「〇〇の傾向」なども含む）を受けているかをたずねた。

「受けた(64.6%)」、「受けていない(34.1%)」である。(図2-3-13)

図2-3-13 育ちや発達についての診断の有無
<全体>



(7) 診断名

子ども：問8-1

診断を「受けた」と回答した人に、具体的な診断名をたずねたところ、254件の記入があった。

診断名では、「自閉症スペクトラム、広汎性発達障害、ASD、アスペルガー」が60件(23.6%)で最も多く、次いで「ADHD、多動、ADD」が44件(17.3%)、「知的障害、発達遅滞（発達障害との重複を含む）」が35件(13.8%)などとなっている。「その他の診断」は、「吃音」、「場面かん黙」などとなっている。(表2-3-5)

【最初に不安や疑問を感じた時期別】

最初に不安や疑問を感じた時期別にみると、3歳～就学前では「ADHD、多動、ADD(31.4%)」が全体よりも14.1ポイント高くなっている。(表2-3-5)

表2-3-5 診断名

<診断を受けた人、最初に不安や疑問を感じた時期別>

(上段:件、下段:%)

	発達障害					発達障害小計	知的障害				知的障害小計	身体障害					身体障害小計	その他			
	1 発達障害 (5以外の重複含む)	2 自閉症スペクトラム、アスペルガー	3 ADHD、多動、ADD	4 LD	5 2・3の重複		6 知的障害、発達遅滞 (発達障害との重複を含む)	7 ダウン症候群、21トリソミー	8 7以外の染色体異常	9 脳性まひ		10 筋ジストロフィー	11 聴覚障害	12 視覚障害	13 身体障害のその他	14 てんかん		15 その他の診断	16 分類不能	その他小計	
全体 (n=254)	7 2.8	60 23.6	44 17.3	7 2.8	24 9.4	142 55.9	35 13.8	20 7.9	8 3.1	63 24.8	7 2.8	1 0.4	4 1.6	2 0.8	0 0.0	14 5.5	2 0.8	15 5.9	10 3.9	27 10.6	
最初に不安や疑問を感じた時期別	0歳～3歳未満 (n=146)	3 2.1	35 24.0	16 11.0	2 1.4	13 8.9	69 47.3	28 19.2	19 13.0	4 2.7	51 34.9	6 4.1	0 0.0	3 2.1	0 0.0	9 6.2	1 0.7	9 6.2	3 2.1	13 8.9	
	3歳～就学前 (n=70)	3 4.3	18 25.7	22 31.4	3 4.3	7 10.0	53 75.7	5 7.1	0 0.0	1 1.4	6 8.6	1 1.4	1 1.4	0 0.0	1 1.4	0 0.0	3 4.3	0 0.0	3 4.3	3 4.3	6 8.6
	小学校1～3年生 (n=24)	1 4.2	4 16.7	5 20.8	0 0.0	4 16.7	14 58.3	1 4.2	0 0.0	1 4.2	2 8.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 4.2	0 0.0	4 16.7	0 0.0	2 8.3	4 16.7	6 25.0
	小学校4～6年生 (n=8)	0 0.0	2 25.0	1 12.5	2 25.0	0 0.0	5 62.5	1 12.5	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	1 12.5
	中学校 (n=1)	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高等学校 (n=2)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	合計	7 2.8	60 23.6	44 17.3	7 2.8	24 9.4	142 55.9	35 13.8	20 7.9	8 3.1	63 24.8	7 2.8	1 0.4	4 1.6	2 0.8	0 0.0	14 5.5	2 0.8	15 5.9	10 3.9	27 10.6

※最初に不安や疑問を感じた時期の設定で未回答の方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。

(8) 診断を受けた時期と場所

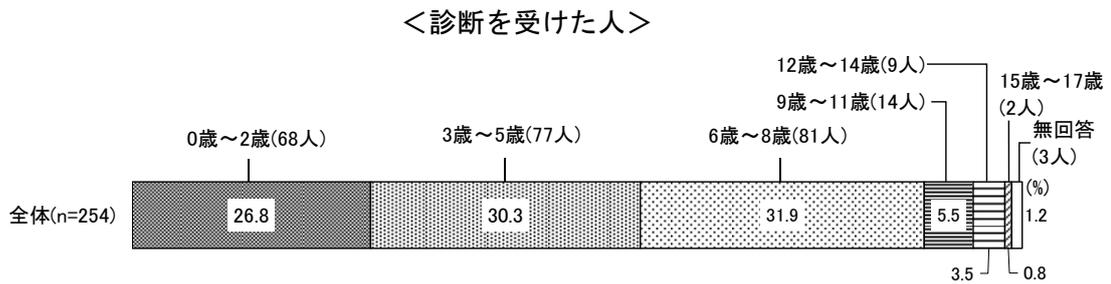
子ども：問 8-2

診断を「受けた」と回答した人に、診断を受けた時期と場所をたずねた。

① 診断を受けた時期

「6歳～8歳（31.9%）」が最も多く、次いで「3歳～5歳（30.3%）」、「0歳～2歳（26.8%）」などとなっている。平均は4.7歳である。（図 2-3-14）

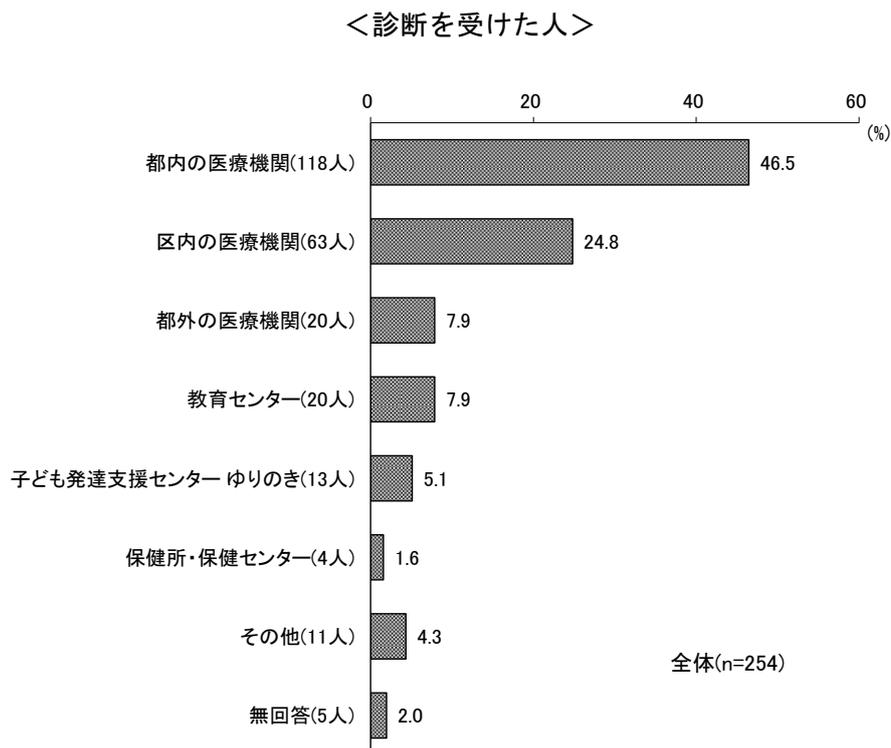
図 2-3-14 診断を受けた時期



② 診断を受けた場所

「都内の医療機関（46.5%）」が最も多く、次いで「区内の医療機関（24.8%）」、「都外の医療機関（7.9%）」、「教育センター（7.9%）」などとなっている。（図 2-3-15）

図 2-3-15 診断を受けた場所（複数回答）



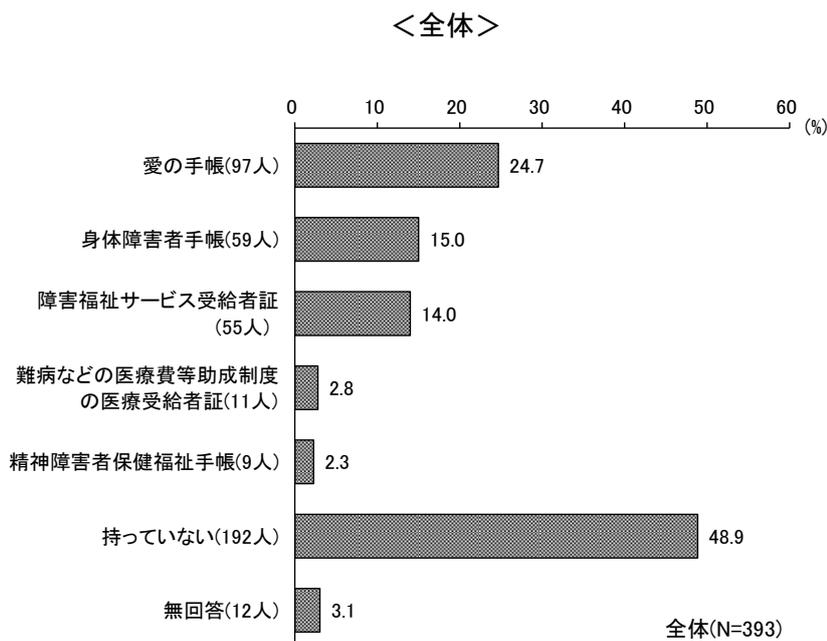
(9) 障害者手帳、障害福祉サービス受給者証の有無（障害の程度）

子ども：問9

持っている障害者手帳または障害福祉サービス受給者証についてたずねた。

「持っていない(48.9%)」が最も多く、それ以外では、「愛の手帳(24.7%)」が最も多く、次いで、「身体障害者手帳(15.0%)」、「障害福祉サービス受給者証(14.0%)」などとなっている。(図 2-3-16)

図 2-3-16 障害者手帳、障害福祉サービス受給者証の有無（複数回答）



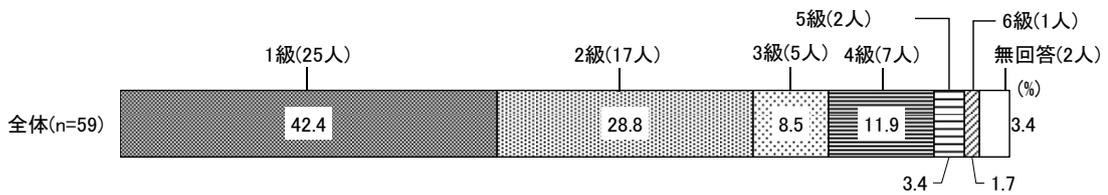
身体障害者手帳を持っている人の障害の程度は、「1級(42.4%)」が最も多く、次いで「2級(28.8%)」、「4級(11.9%)」などとなっている。(図 2-3-17)

愛の手帳を持っている人の障害の程度は、「4度(45.4%)」が最も多く、次いで「3度(26.8%)」、「2度(20.6%)」などとなっている。(図 2-3-17)

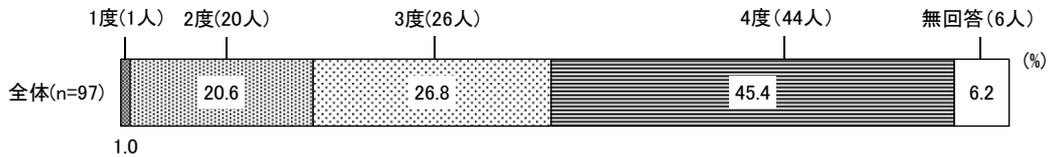
精神障害者保健福祉手帳を持っている人の障害の程度は、「3級」のみとなっている。(図 2-3-17)

図 2-3-17 障害の程度
<全体>

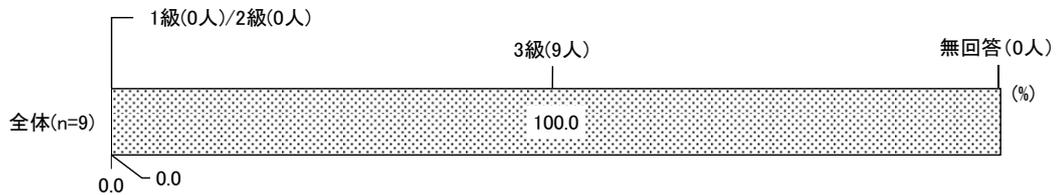
【身体障害者手帳】



【愛の手帳】



【精神障害者保健福祉手帳】



(10) 身体障害者手帳に記載されている障害の種類

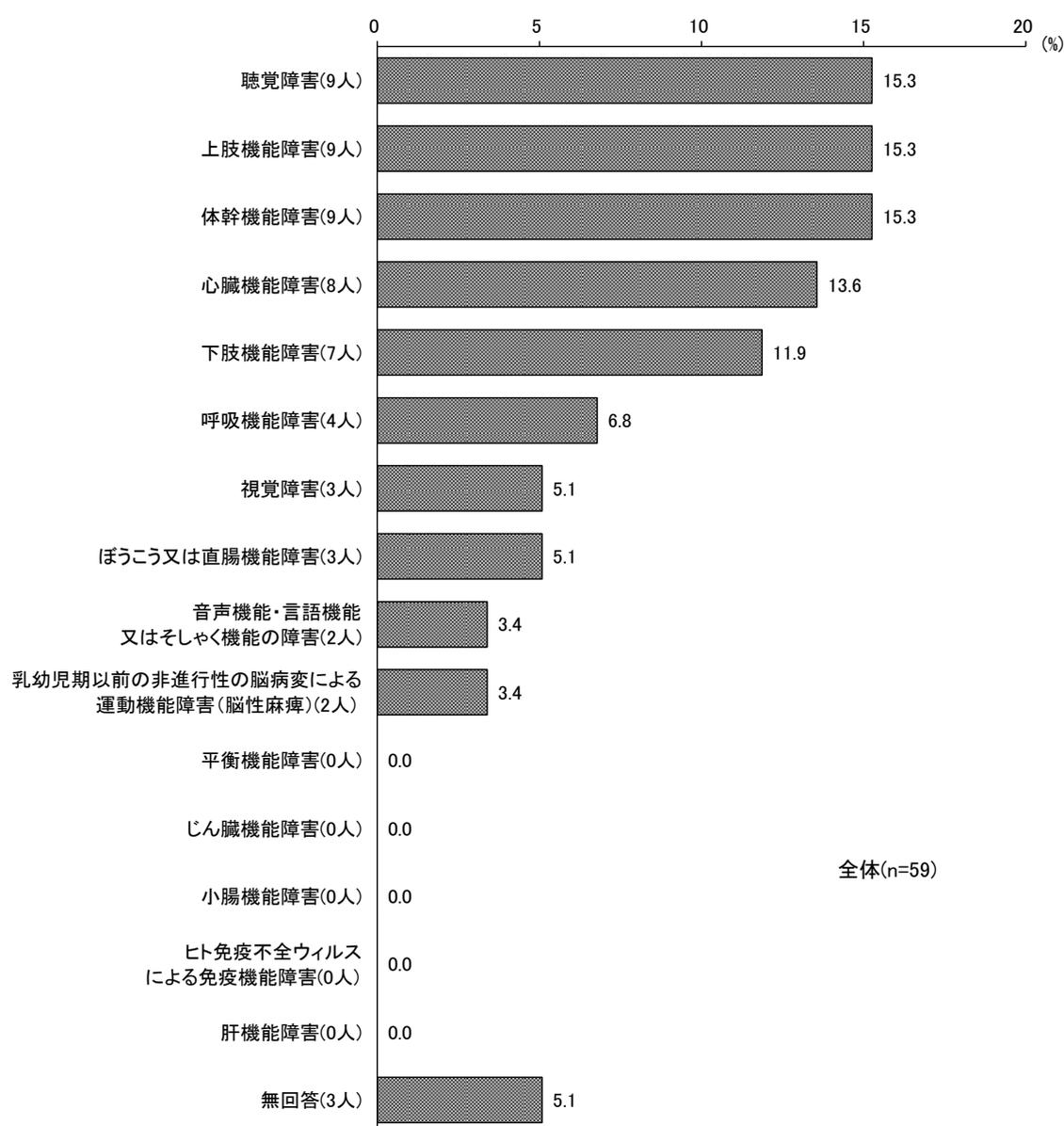
子ども：問9-1

問9で身体障害者手帳を持っていると回答した方に、手帳に記載されている障害についてたずねた。

「聴覚障害」、「上肢機能障害」、「体幹機能障害」が最も多く、15.3%となっている。(図2-3-18)

図2-3-18 身体障害者手帳に記載されている障害の種類

<身体障害者手帳を持っている人>



(11) 日常的に医療的ケアを必要としているか

子ども：問10

お子さんが日常的に何らかの医療的ケアを必要としているかをたずねた。

「必要としている(8.9%)」、「必要としていない(89.1%)」となっている。(図2-3-19)

図2-3-19 日常的に医療的ケアを必要としているか

<全体>



(12) 必要としている医療的ケアの種類

子ども：問10-1

問10で日常的に何らかの医療的ケアを「必要としている」と回答した人(35人)に、医療的ケアの内容をたずねた。

「痰などの吸引」と「ネブライザー」がいずれも12人(34.3%)、「経管栄養(経鼻、胃ろう、腸ろう含む)」が11人(31.4%)などとなっている。

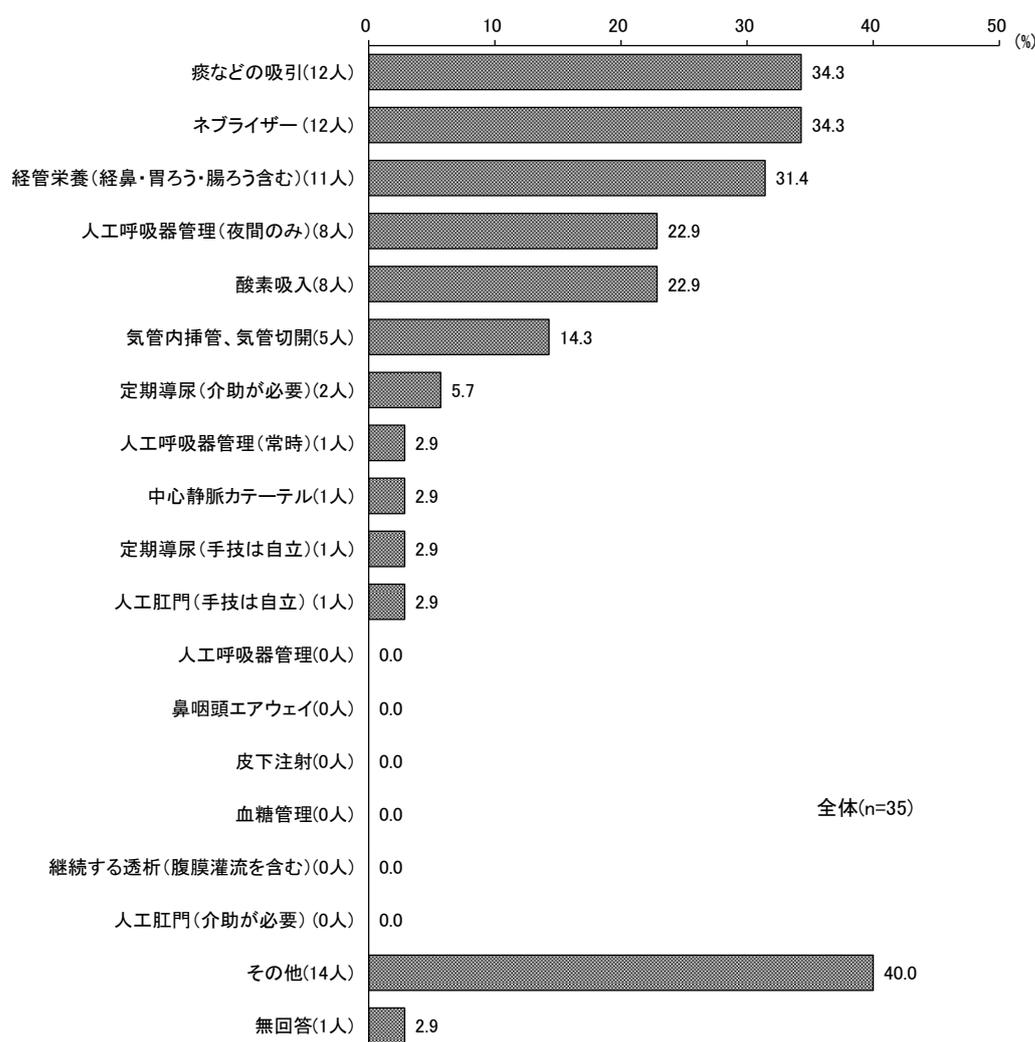
「その他」は14人(40.0%)で、具体的な医療的ケアとしては「投薬」、「浣腸」の記載があった。

(図2-3-20)

【重複の状況】

なお、問10で日常的に何らかの医療的ケアを「必要としている」と回答した人のうち、2種類以上の医療的ケアを受けているのは18人(51.4%)で半数強が複数の医療的ケアを必要としている。

図2-3-20 必要としている医療的ケアの種類(複数回答)
 <日常的に何らかの医療的ケアを必要としている人>



(13) 移動能力の程度

子ども：問10-2

問10で日常的に何らかの医療的ケアを「必要としている」と回答した人(35人)に、移動能力をたずねた。

「ひとりで歩けない(車椅子(バギー)を使用し、介助が必要)」が14人(40.0%)で最も多く、「走れる」が12人(34.3%)、「ひとりで歩ける」が5人(14.3%)などとなっている。(表2-3-6)

表2-3-6 移動能力の程度

<日常的に何らかの医療的ケアを必要としている人、全体、年代別>

		(上段:人、下段:%)							
		まだ歩ける年齢ではない	が(ひとり歩けない(車椅子)を必要ギ―)	能(ひとり歩けない(車椅子)を使用し、介助)	を(ひとり歩けない(車椅子)を使用し、介助)	補(ひとり歩ける(杖など、補助具が必要))	ひとり歩ける	走れる	無回答
全体	(n=35) 100.0	1 2.9	14 40.0	0 0.0	0 0.0	5 14.3	12 34.3	3 8.6	
年代別	0歳~2歳	(n=3) 100.0	1 33.3	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0
	3歳~5歳	(n=10) 100.0	0 0.0	4 40.0	0 0.0	0 0.0	3 30.0	3 30.0	0 0.0
	6歳~8歳	(n=8) 100.0	0 0.0	4 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 25.0	2 25.0
	9歳~11歳	(n=4) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	1 25.0
	12歳~14歳	(n=5) 100.0	0 0.0	3 60.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	1 20.0	0 0.0
	15歳以上	(n=4) 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	2 50.0	0 0.0

(14) 医療的ケアを必要としている人の通園・通学・通所している先

子ども：問5-1

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人が通園・通学・通所している先は、「子ども発達支援センター ゆりのき」が7人(23.3%)、「公立小学校（通級指導学級・特別支援教室も利用）」が5人(16.7%)、「特別支援学校小学部」が4人(13.3%)などとなっている。「その他」は3人(10.0%)で、内容は「児童発達支援所（通所）」などである。（表2-3-7）

表2-3-7 医療的ケアを必要としている人の通園・通学・通所している先（複数回答）

<全体、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)											
		子ども発達支援センター	区立認可保育園	私立認可保育園	認定こども園	認証保育所	居宅訪問型保育（自宅での保育）	居宅訪問型保育（障害児保育園）	区立幼稚園	私立幼稚園	在籍小学校（通常の学級に）	公立小学校（通級指導学級・特別支援教室も利用）	公立小学校（特別支援学級に在籍）
全体	(n=382) 100.0	29 7.6	9 2.4	3 0.8	2 0.5	1 0.3	2 0.5	3 0.8	8 2.1	0 0.0	72 18.8	161 42.1	20 5.2
医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=30) 100.0	7 23.3	2 6.7	1 3.3	0 0.0	1 3.3	1 3.3	3 10.0	1 3.3	0 0.0	3 10.0	5 16.7	0 0.0

		特別支援学校小学部	私立小学校	在籍公立中学校（通常の学級に）	も公立中学校（特別支援教室も利用）	に公立中学校（特別支援学級に在籍）	特別支援学校中学部	私立中学校	高等学校	特別支援学校高等部	その他	無回答
全体	(n=382) 100.0	30 7.9	0 0.0	11 2.9	22 5.8	7 1.8	15 3.9	3 0.8	19 5.0	21 5.5	8 2.1	0 0.0
医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=30) 100.0	4 13.3	0 0.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	2 6.7	1 3.3	2 6.7	2 6.7	3 10.0	0 0.0

※医療的ケアを「必要としている」人の数は、通園・通学・通所している先の設問で、「通園・通学・通所していない」の回答、無回答を除いているため30人となっている。

(15) 医療的ケアを必要としている人の放課後の居場所

子ども：問5-3

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人が放課後を過ごしている場所は、「ほとんど自宅にいる」が23人(76.7%)で最も多く、「放課後等デイサービス(区内の事業所)」が10人(33.3%)、「放課後等デイサービス(区外の事業所)」が5人(16.7%)と続いている。「その他」の内容は、「療育施設」である。(表2-3-8)

表2-3-8 医療的ケアを必要としている人が保育所・幼稚園・学校などが終わった後に
過ごしている場所(複数回答)
<全体、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)									
		学 童 ク ラ ブ	児 童 館	プ レ デ イ	(放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス) (区 内 の 事 業 所)	(放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス) (区 外 の 事 業 所)	親 戚 の 家	友 人 の 家	そ の 他	ほ と ん ど 自 宅 に い る	無 回 答
全体	(n=382) 100.0	37 9.7	13 3.4	41 10.7	67 17.5	35 9.2	5 1.3	6 1.6	61 16.0	238 62.3	2 0.5
医療的 ケアの ニーズ別	必要と している (n=30) 100.0	1 3.3	0 0.0	0 0.0	10 33.3	5 16.7	0 0.0	1 3.3	7 23.3	23 76.7	0 0.0

※医療的ケアを「必要としている」人の数は、通園・通学・通所している先の設問で、「通園・通学・通所していない」の回答、無回答を除いているため30人となっている。

(16) 発達や育ちに関する診断を受けた子どもの育ちや経過

育ちや相談の経過を診断カテゴリ、医療的ケアを必要としている人の状況を比較しながら分析する。

ア 不安を感じた時期・きっかけ(付問 6-1、6-2)

① 最初に不安を感じた時期

【診断カテゴリ別】

発達障害は「0歳～3歳未満(48.6%)」で4割後半、「3歳～就学前(37.3%)」で3割後半となっている。知的障害は「0歳～3歳未満(82.3%)」が8割となっている。身体障害は「0歳～3歳未満(69.2%)」が7割弱となっている。知的障害は「0歳～3歳未満(82.3%)」が、全体よりも32.0ポイント高くなっている。(表 2-3-9)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「0歳～3歳未満」が78.8%で、全体よりも28.5ポイント高くなっている。(表 2-3-9)

表 2-3-9 最初に不安を感じた時期
 <全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)						
		0歳～3歳未満	3歳～就学前	1小学3年生	4小学6年生	中学校	高等学校	無回答
全体		(n=380) 191 100.0	123 32.4	50 13.2	9 2.4	3 0.8	2 0.5	2 0.5
診断カテゴリ別	発達障害	(n=142) 69 100.0	53 48.6	14 9.9	5 3.5	1 0.7	0 0.0	0 0.0
	知的障害	(n=62) 51 100.0	6 82.3	2 3.2	1 1.6	0 0.0	2 3.2	0 0.0
	身体障害	(n=13) 9 100.0	3 69.2	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他	(n=26) 13 100.0	6 50.0	6 23.1	1 3.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0
医療的ケアのニーズ別	必要としている	(n=33) 26 100.0	5 78.8	1 3.0	0 0.0	1 3.0	0 0.0	0 0.0

② 不安や疑問を感じたきっかけ

【診断カテゴリ別】

発達障害は「父親や母親が気づいた(54.2%)」が最も多く、次いで「保育所保育士・幼稚園教諭などに指摘された(21.1%)」などとなっている。知的障害、身体障害は「出産前後に、医療機関などで指摘された(知的障害:38.7%、身体障害:46.2%)」が最も多くなっている。(表 2-3-10)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「出産前後に、医療機関などで指摘された」が12人(36.4%)で最も多く、次いで「父親や母親が気づいた」が9人(27.3%)などとなっている。(表 2-3-10)

表 2-3-10 不安や疑問を感じたきっかけ
 <全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)								
		父親や母親が気づいた	親族や友人などに指摘された	出産前後に、医療機関などで指摘された	保育所保育士・幼稚園教諭などに指摘された	乳幼児健診や就学児健診で指摘された	小学校・中学校・高等学校の教諭などに指摘された	小学校入学以降、不適応などで気づいた	その他	無回答
全体 (N=380)		182 47.9	5 1.3	44 11.6	60 15.8	22 5.8	23 6.1	12 3.2	13 3.4	19 5.0
診断カテゴリ別	発達障害 (n=142)	77 54.2	1 0.7	3 2.1	30 21.1	10 7.0	6 4.2	6 4.2	3 2.1	6 4.2
	知的障害 (n=62)	18 29.0	1 1.6	24 38.7	4 6.5	6 9.7	1 1.6	0 0.0	3 4.8	5 8.1
	身体障害 (n=13)	5 38.5	1 7.7	6 46.2	0 0.0	1 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他 (n=26)	11 42.3	1 3.8	6 23.1	1 3.8	0 0.0	4 15.4	1 3.8	2 7.7	0 0.0
医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=33)	9 27.3	1 3.0	12 36.4	3 9.1	1 3.0	0 0.0	1 3.0	4 12.1	2 6.1

イ 診断を受けた時期と診断を受けた場所(付問 8-2)

① 診断を受けた時期

【診断カテゴリ別】

発達障害は「6歳～8歳(46.5%)」が最も多く、次いで「3歳～5歳(34.5%)」などとなっている。知的障害は「0歳～2歳(57.1%)」が最も多く、次いで「3歳～5歳(31.7%)」などとなっている。身体障害は「0歳～2歳(78.6%)」が最も多く、次いで「3歳～5歳(14.3%)」などとなっている。

発達障害は、知的障害、身体障害と比べて、最初に不安や疑問を感じた時期から診断を受けるまで時間のひらきがある。(表 2-3-11)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「0歳～2歳」が17人(65.4%)で最も多く、次いで「6歳～8歳」が5人(19.2%)となっている。

医療的ケアを必要としている人は、最初に不安や疑問を感じた時期と同時期に診断を受けている。(表 2-3-11)

表 2-3-11 診断を受けた時期

＜診断を受けた人、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別＞

		(上段:人、下段:%)						
		0歳 ～ 2歳	3歳 ～ 5歳	6歳 ～ 8歳	9歳 ～ 11歳	12歳 ～ 14歳	15歳 以上	無 回 答
全体	(n=254) 100.0	68 26.8	77 30.3	81 31.9	14 5.5	9 3.5	2 0.8	3 1.2
診断カテ ゴリ別	発達障害 (n=142) 100.0	9 6.3	49 34.5	66 46.5	10 7.0	6 4.2	2 1.4	0 0.0
	知的障害 (n=63) 100.0	36 57.1	20 31.7	4 6.3	1 1.6	1 1.6	0 0.0	1 1.6
	身体障害 (n=14) 100.0	11 78.6	2 14.3	1 7.1	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	その他 (n=27) 100.0	9 33.3	5 18.5	9 33.3	2 7.4	1 3.7	0 0.0	1 3.7
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=26) 100.0	17 65.4	2 7.7	5 19.2	2 7.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0

※医療的ケアを「必要としている」人の数は、育ちや発達についての診断の有無の設問で、「受けていない」と回答している方がいるため26人となっている。

② 診断を受けた場所

【診断カテゴリ別】

いずれの診断カテゴリも「都内の医療機関(発達障害:51.4%、知的障害:38.1%、身体障害:78.6%)」が最も多くなっている。次いで、発達障害、知的障害は「区内の医療機関(発達障害:23.9%、知的障害:36.5%)」、身体障害は「都外の医療機関」が14.3%となっている。(表2-3-12)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「都内の医療機関」が14人(53.8%)で最も多く、次いで「区内の医療機関」が6人(23.1%)などとなっている。(表2-3-12)

表2-3-12 診断を受けた場所(複数回答)

＜診断を受けた人、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別＞

		(上段:人、下段:%)								
		区内の医療機関	都内の医療機関	都外の医療機関	保健所・保健センター	子ども発達支援センター	教育センター	その他	無回答	
全体		(n=254) 100.0	63 24.8	118 46.5	20 7.9	4 1.6	13 5.1	20 7.9	11 4.3	5 2.0
診断カテゴリ別	発達障害	(n=142) 100.0	34 23.9	73 51.4	8 5.6	2 1.4	9 6.3	10 7.0	4 2.8	2 1.4
	知的障害	(n=63) 100.0	23 36.5	24 38.1	7 11.1	0 0.0	2 3.2	1 1.6	5 7.9	1 1.6
	身体障害	(n=14) 100.0	0 0.0	11 78.6	2 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	その他	(n=27) 100.0	5 18.5	8 29.6	2 7.4	0 0.0	2 7.4	9 33.3	0 0.0	1 3.7
医療的ケアのニーズ別	必要としている	(n=26) 100.0	6 23.1	14 53.8	3 11.5	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 11.5

※医療的ケアを「必要としている」人の数は、育ちや発達についての診断の有無の設問で、「受けていない」と回答している方がいるため26人となっている。

ウ 障害者手帳、障害福祉サービス受給者証の有無（障害の程度）（問9）

【診断カテゴリ別】

発達障害は「障害福祉サービス受給者証(47.5%)」が最も多く、次いで「愛の手帳(45.8%)」などとなっている。知的障害は「愛の手帳(90.2%)」が最も多く、次いで「障害福祉サービス受給者証(21.3%)」などとなっている。身体障害は「身体障害者手帳(85.7%)」が最も多く、次いで「障害福祉サービス受給者証」、「難病などの医療費等助成制度の医療受給者証」が7.1%となっている。
(表 2-3-13)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「身体障害者手帳」が27人(90.0%)で最も多く、次いで「障害福祉サービス受給者証」が6人(20.0%)などとなっている。(表 2-3-13)

表 2-3-13 障害者手帳、障害福祉サービス受給者証の有無（複数回答）
＜全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別＞

		(上段:人、下段:%)				
		身体障害者手帳	愛の手帳	精神障害者保健福祉手帳	障害福祉サービス受給者証	難病などの医療費等助成制度の医療受給者証
全体	(n=189)	59	97	9	55	11
	100.0	31.2	51.3	4.8	29.1	5.8
診断カテゴリ別	発達障害 (n=59)	4	27	9	28	1
		6.8	45.8	15.3	47.5	1.7
	知的障害 (n=61)	10	55	0	13	3
		16.4	90.2	0.0	21.3	4.9
診断カテゴリ別	身体障害 (n=14)	12	0	0	1	1
		85.7	0.0	0.0	7.1	7.1
診断カテゴリ別	その他 (n=11)	9	3	0	1	2
		81.8	27.3	0.0	9.1	18.2
医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=30)	27	5	0	6	3
		90.0	16.7	0.0	20.0	10.0

※障害者手帳、障害福祉サービス受給者証を、「持っていない」192人と無回答12人を除いて集計している。

エ 子どもの育ちや発達の状況(問6)

診断カテゴリ別に、子どもの育ちや発達の状況で、気になることまたは心配なことについて、「ある」、「ときどきある」、「過去にあったが今はない」を合計した「気になることまたは心配なことがある人」について分析を行った。

【発達障害】

「気になることまたは心配なことがある人」は、『行動面(94.4%)』が最も多く、次いで『性格(89.4%)』、『友達関係(85.9%)』などとなっている。(表2-3-14)

表2-3-14 子どもの育ちや発達の状況

＜診断カテゴリ別：発達障害＞

(上段：人、下段：%)

		発達障害					心配になること があるまたは 人
		ない	ある	ときどき ある	過去に あったが ない	無 回答	
発達 の 遅 れ	言葉の遅れ (n=142) 100.0	68 47.9	33 23.2	22 15.5	19 13.4	0 0.0	74 52.1
	運動面での遅れ (n=142) 100.0	82 57.7	20 14.1	26 18.3	13 9.2	1 0.7	59 41.5
行 動 面 、 心 理 面	性格 (n=142) 100.0	15 10.6	73 51.4	50 35.2	4 2.8	0 0.0	2位 127 89.4
	心理的に不安定 (n=142) 100.0	29 20.4	42 29.6	61 43.0	8 5.6	2 1.4	111 78.2
	行動面 (n=142) 100.0	8 5.6	78 54.9	48 33.8	8 5.6	0 0.0	1位 134 94.4
学 習 面	学習面 (n=142) 100.0	26 18.3	64 45.1	46 32.4	5 3.5	1 0.7	115 81.0
	進級・進学 (n=142) 100.0	32 22.5	69 48.6	31 21.8	8 5.6	2 1.4	108 76.1
対 人 関 係	友達関係 (n=142) 100.0	19 13.4	51 35.9	61 43.0	10 7.0	1 0.7	3位 122 85.9
	通園・通学先との関係 (n=142) 100.0	73 51.4	20 14.1	30 21.1	17 12.0	2 1.4	67 47.2
	他人の気持ちが推測 できない (n=142) 100.0	23 16.2	59 41.5	57 40.1	2 1.4	1 0.7	118 83.1

※気になることまたは心配なことがある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

【知的障害】

<気になることまたは心配なことがある人>は、『言葉の遅れ』、『学習面』が 95.2%で最も多く、次いで『進級・進学(84.1%)』などとなっている。(表 2-3-15)

表 2-3-15 子どもの育ちや発達の状況

<診断カテゴリ別：知的障害>

(上段：人、下段：%)

		知的障害					心配になること があるまたは 人は
		ない	ある	とき どき ある	今過 は去 はに ない あ った が	無 回 答	
発達の遅れ	言葉の遅れ (n=63)	2	48	7	5	1	1位 60 95.2
	100.0	3.2	76.2	11.1	7.9	1.6	
運動面での遅れ	(n=63)	11	30	15	6	1	51 81.0
	100.0	17.5	47.6	23.8	9.5	1.6	
行動面、心理面	性格 (n=63)	12	27	23	0	1	50 79.4
	100.0	19.0	42.9	36.5	0.0	1.6	
	心理的に不安定 (n=63)	18	13	28	2	2	
行動面	(n=63)	16	27	18	1	1	46 73.0
	100.0	25.4	42.9	28.6	1.6	1.6	
学習面	学習面 (n=63)	2	53	6	1	1	1位 60 95.2
	100.0	3.2	84.1	9.5	1.6	1.6	
進級・進学	(n=63)	9	39	9	5	1	3位 53 84.1
	100.0	14.3	61.9	14.3	7.9	1.6	
対人関係	友達関係 (n=63)	23	22	15	2	1	39 61.9
	100.0	36.5	34.9	23.8	3.2	1.6	
	通園・通学先との関係 (n=63)	34	11	10	7	1	
他人の気持ちが推測できない	(n=63)	12	33	16	1	1	50 79.4
	100.0	19.0	52.4	25.4	1.6	1.6	

※気になることまたは心配なことがある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

【身体障害】

<気になることまたは心配なことがある人>は、『運動面での遅れ』、『進級・進学』が78.6%で最も多く、次いで『学習面(64.3%)』などとなっている。(表2-3-16)

表2-3-16 子どもの育ちや発達の状況

<診断カテゴリ別：身体障害>

(上段：人、下段：%)

		身体障害					心配になること があるまたは 人は	
		ない	ある	とき どき ある	過 去 に あ っ た が	無 回 答		
発達 の 遅 れ	言葉の遅れ (n=14)	8	4	0	2	0	6	
		100.0	57.1	28.6	0.0	14.3	0.0	42.9
発達 の 遅 れ	運動面での遅れ (n=14)	3	7	0	4	0	11	
		100.0	21.4	50.0	0.0	28.6	0.0	78.6
行 動 面 、 心 理 面	性格 (n=14)	8	2	4	0	0	6	
		100.0	57.1	14.3	28.6	0.0	0.0	42.9
	心理的に不安定 (n=14)	9	2	2	1	0	5	
		100.0	64.3	14.3	14.3	7.1	0.0	35.7
学 習 面	学習面 (n=14)	5	7	2	0	0	9	
		100.0	35.7	50.0	14.3	0.0	0.0	64.3
学 習 面	進級・進学 (n=14)	3	9	1	1	0	11	
		100.0	21.4	64.3	7.1	7.1	0.0	78.6
対 人 関 係	友達関係 (n=14)	8	3	3	0	0	6	
		100.0	57.1	21.4	21.4	0.0	0.0	42.9
	通園・通学先との関係 (n=14)	10	2	1	1	0	4	
		100.0	71.4	14.3	7.1	7.1	0.0	28.6
対 人 関 係	他人の気持ちが推測 できない (n=14)	10	1	3	0	0	4	
		100.0	71.4	7.1	21.4	0.0	0.0	28.6

※気になることまたは心配なことがある人の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

オ 相談機関への相談経験(問7)

診断カテゴリ別に、子どもの育ちや発達の状況について相談機関への相談経験（「現在相談している」、「過去に相談していた」を合計した＜相談経験あり＞）の分析を行った。

【発達障害】

＜相談経験あり＞は、『医療機関(88.0%)』が最も多く、次いで『子ども発達支援センター ゆりのき(62.7%)』、『教育センター(61.3%)』などとなっている。(表2-3-17)

表 2-3-17 相談機関への相談経験
 ＜診断カテゴリ別：発達障害＞

(上段：人、下段：%)

		発達障害				相談経験あり	
		現在相談している	過去に相談していた	相談したことはない	無回答		
相談機関	児童館	(n=142) 100.0	4 2.8	28 19.7	97 68.3	13 9.2	32 22.5
	子ども家庭支援センターきらら中央	(n=142) 100.0	4 2.8	34 23.9	93 65.5	11 7.7	38 26.8
	保健所・保健センター	(n=142) 100.0	3 2.1	58 40.8	68 47.9	13 9.2	61 43.0
	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=142) 100.0	20 14.1	69 48.6	43 30.3	10 7.0	2位 89 62.7
	教育センター	(n=142) 100.0	28 19.7	59 41.5	45 31.7	10 7.0	3位 87 61.3
	基幹相談支援センター	(n=142) 100.0	0 0.0	5 3.5	125 88.0	12 8.5	5 3.5
	東京都児童相談センター・児童相談所	(n=142) 100.0	2 1.4	16 11.3	113 79.6	11 7.7	18 12.7
	東京都の療育センター	(n=142) 100.0	2 1.4	11 7.7	118 83.1	11 7.7	13 9.2
	医療機関	(n=142) 100.0	88 62.0	37 26.1	8 5.6	9 6.3	1位 125 88.0
	その他の療育・相談機関	(n=142) 100.0	18 12.7	14 9.9	46 32.4	64 45.1	32 22.5

※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

【知的障害】

＜相談経験あり＞は、『医療機関(92.1%)』が最も多く、次いで『子ども発達支援センター ゆりのき(82.5%)』、『保健所・保健センター(49.2%)』などとなっている。(表 2-3-18)

表 2-3-18 相談機関への相談経験

＜診断カテゴリ別：知的障害＞

(上段：人、下段：%)

		知的障害				相談経験あり	
		現在相談している	過去に相談していた	相談したことはない	無回答		
相談機関	児童館	(n=63) 100.0	4 6.3	12 19.0	42 66.7	5 7.9	16 25.4
	子ども家庭支援センターきらら中央	(n=63) 100.0	1 1.6	12 19.0	45 71.4	5 7.9	13 20.6
	保健所・保健センター	(n=63) 100.0	2 3.2	29 46.0	26 41.3	6 9.5	3位 31 49.2
	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=63) 100.0	25 39.7	27 42.9	9 14.3	2 3.2	2位 52 82.5
	教育センター	(n=63) 100.0	4 6.3	19 30.2	35 55.6	5 7.9	23 36.5
	基幹相談支援センター	(n=63) 100.0	3 4.8	3 4.8	52 82.5	5 7.9	6 9.5
	東京都児童相談センター・児童相談所	(n=63) 100.0	3 4.8	8 12.7	47 74.6	5 7.9	11 17.5
	東京都の療育センター	(n=63) 100.0	7 11.1	6 9.5	45 71.4	5 7.9	13 20.6
	医療機関	(n=63) 100.0	41 65.1	17 27.0	3 4.8	2 3.2	1位 58 92.1
	その他の療育・相談機関	(n=63) 100.0	11 17.5	6 9.5	13 20.6	33 52.4	17 27.0

※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

【身体障害】

＜相談経験あり＞は、『医療機関(85.7%)』が最も多く、次いで『保健所・保健センター』、『子ども発達支援センター ゆりのき』、『東京都の療育センター』が42.9%などとなっている。(表 2-3-19)

表 2-3-19 相談機関への相談経験

＜診断カテゴリー別：身体障害＞

(上段：人、下段：%)

		身体障害				相談経験あり	
		現在相談している	過去に相談していた	相談したことはない	無回答		
相談機関	児童館	(n=14) 100.0	0 0.0	3 21.4	11 78.6	0 0.0	3 21.4
	子ども家庭支援センターきらら中央	(n=14) 100.0	0 0.0	3 21.4	9 64.3	2 14.3	3 21.4
	保健所・保健センター	(n=14) 100.0	1 7.1	5 35.7	7 50.0	1 7.1	2 位 6 42.9
	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=14) 100.0	4 28.6	2 14.3	7 50.0	1 7.1	2 位 6 42.9
	教育センター	(n=14) 100.0	2 14.3	3 21.4	9 64.3	0 0.0	5 35.7
	基幹相談支援センター	(n=14) 100.0	0 0.0	0 0.0	13 92.9	1 7.1	0 0.0
	東京都児童相談センター・児童相談所	(n=14) 100.0	0 0.0	0 0.0	13 92.9	1 7.1	0 0.0
	東京都の療育センター	(n=14) 100.0	5 35.7	1 7.1	8 57.1	0 0.0	2 位 6 42.9
	医療機関	(n=14) 100.0	7 50.0	5 35.7	1 7.1	1 7.1	1 位 12 85.7
	その他の療育・相談機関	(n=14) 100.0	1 7.1	3 21.4	6 42.9	4 28.6	4 28.6

※相談経験ありの%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

③ 子ども発達支援センター ゆりのき、教育センターの相談状況

【診断カテゴリ別】

発達障害は、子ども発達支援センター ゆりのき、教育センターの「どちらも相談している」人が53人(37.3%)で最も多くなっている。知的障害、身体障害は、「子ども発達支援センター ゆりのきのみ相談している」人が最も多く、知的障害は29人(46.0%)、身体障害は5人(35.7%)となっている。(表2-3-20)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は、「子ども発達支援センター ゆりのきのみ相談している」人が最も多く、13人(37.1%)となっている。一方で、「教育センターのみ相談している」人は3人(8.6%)となっている。(表2-3-20)

表2-3-20 子ども発達支援センター ゆりのき、教育センターの相談状況
 <全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)				
		ゆりのき 子ども発達 支援セン ターのみ 相談して いる	い 教育 セン ター のみ 相談して いる	ど ち ら も 相 談 して いる	ど ち ら も 相 談 して いない	無 回 答
全体		(N=393) 111 100.0	74 18.8	100 25.4	72 18.3	36 9.2
診断カテ ゴリ別	発達障害	(n=142) 33 100.0	30 21.1	53 37.3	12 8.5	14 9.9
	知的障害	(n=63) 29 100.0	3 4.8	20 31.7	6 9.5	5 7.9
	身体障害	(n=14) 5 100.0	3 21.4	1 7.1	4 28.6	1 7.1
	その他	(n=27) 7 100.0	7 25.9	3 11.1	8 29.6	2 7.4
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている	(n=35) 13 100.0	3 8.6	7 20.0	6 17.1	6 17.1

4 サービスの利用状況について

(1) 福祉サービス・支援の認知度、利用状況

子ども：問11

福祉サービス・支援の認知度と利用状況をたずねた。

「知っている、利用している」と「知っているが、利用していない」をあわせた＜認知度＞は、「児童発達支援」と「放課後等デイサービス」が71.5%で最も多く、次いで「保育所等訪問支援(49.9%)」などとなっている。

「知っている利用している」と回答した＜利用状況＞は、「放課後等デイサービス(27.0%)」が最も多く、次いで「児童発達支援(24.2%)」、「保育所等訪問支援(10.9%)」などとなっている。

(表2-4-1-1、表2-4-1-2、表2-4-1-3)

【診断カテゴリ別】

(1)から(12)の福祉サービス・支援の＜認知度＞を診断カテゴリ別にみると、知的障害、身体障害は、いずれの＜認知度＞も全体より高くなっている。

診断カテゴリごとの＜認知度＞では、身体障害は「居宅介護（ホームヘルプ）(64.3%)」、「同行援護(42.9%)」、「児童発達支援(92.9%)」、「医療型児童発達支援(57.1%)」、「意思疎通支援事業(42.9%)」、「日常生活用具給付等事業(50.0%)」の6項目で＜認知度＞が最も高くなっている。知的障害は「行動援護(44.4%)」、「短期入所（福祉型・医療型）(60.3%)」、「放課後等デイサービス(93.7%)」、「保育所等訪問支援(74.6%)」、「移動支援事業(77.8%)」、「日中一時支援事業(55.6%)」の6項目で＜認知度＞が最も高くなっている。(表2-4-1-1、表2-4-1-2、表2-4-1-3)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人の(1)から(12)の福祉サービス・支援の＜認知度＞は、いずれの＜認知度＞も全体より高くなっている。その中でも、「放課後等デイサービス(85.7%)」、「児童発達支援(80.0%)」は8割台となっている。(表2-4-1-1、表2-4-1-2、表2-4-1-3)

表 2-4-1-1 福祉サービス・支援の認知度、利用状況（障害福祉サービス）
 <全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

			(上段:人、下段:%)				認知度		
			利知 用つ して いて る、	利知 用つ して いて るが い、	利知 用ら しな てか いた い・	無 回 答			
障害 福祉 サー ビス	(1)居宅介護 (ホームヘルプ)	全体	(N=393) 100.0	19 4.8	151 38.4	208 52.9	15 3.8	170 43.3	
		診断カテ ゴリ別	発達障害	(n=142) 100.0	3 2.1	56 39.4	79 55.6	4 2.8	59 41.5
			知的障害	(n=63) 100.0	5 7.9	25 39.7	28 44.4	5 7.9	30 47.6
			身体障害	(n=14) 100.0	3 21.4	6 42.9	5 35.7	0 0.0	9 64.3
			その他	(n=27) 100.0	4 14.8	9 33.3	13 48.1	1 3.7	13 48.1
			医療的 ケアの ニーズ別	必要としている	(n=35) 100.0	13 37.1	10 28.6	12 34.3	0 0.0
		(2)同行援護	全体	(N=393) 100.0	2 0.5	114 29.0	262 66.7	15 3.8	116 29.5
	診断カテ ゴリ別	発達障害	(n=142) 100.0	2 1.4	40 28.2	96 67.6	4 2.8	42 29.6	
		知的障害	(n=63) 100.0	0 0.0	25 39.7	33 52.4	5 7.9	25 39.7	
		身体障害	(n=14) 100.0	0 0.0	6 42.9	8 57.1	0 0.0	6 42.9	
		その他	(n=27) 100.0	0 0.0	6 22.2	20 74.1	1 3.7	6 22.2	
		医療的 ケアの ニーズ別	必要としている	(n=35) 100.0	0 0.0	15 42.9	20 57.1	0 0.0	15 42.9
	(3)行動援護	全体	(N=393) 100.0	6 1.8	92 27.8	217 65.6	16 4.8	98 29.6	
		診断カテ ゴリ別	発達障害	(n=142) 100.0	3 2.1	40 28.2	95 66.9	4 2.8	43 30.3
			知的障害	(n=63) 100.0	0 0.0	28 44.4	30 47.6	5 7.9	28 44.4
			身体障害	(n=14) 100.0	0 0.0	6 42.9	7 50.0	1 7.1	6 42.9
			その他	(n=27) 100.0	0 0.0	7 25.9	19 70.4	1 3.7	7 25.9
			医療的 ケアの ニーズ別	必要としている	(n=35) 100.0	0 0.0	15 42.9	20 57.1	0 0.0
		(4)短期入所 (福祉型・医療型)	全体	(N=393) 100.0	23 5.9	134 34.1	221 56.2	15 3.8	157 39.9
	診断カテ ゴリ別		発達障害	(n=142) 100.0	5 3.5	52 36.6	81 57.0	4 2.8	57 40.1
知的障害			(n=63) 100.0	9 14.3	29 46.0	20 31.7	5 7.9	38 60.3	
身体障害			(n=14) 100.0	2 14.3	5 35.7	7 50.0	0 0.0	7 50.0	
その他			(n=27) 100.0	3 11.1	11 40.7	12 44.4	1 3.7	14 51.9	
医療的 ケアの ニーズ別			必要としている	(n=35) 100.0	11 31.4	9 25.7	15 42.9	0 0.0	20 57.1

※網掛けは、最も多い項目である。

※認知度の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

表 2-4-1-2 福祉サービス・支援の認知度、利用状況（障害児福祉サービス）

＜全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別＞

（上段：人、下段：％）

			利 知 用 っ て い て い る 、	利 知 用 っ て い る が い 、	利 知 ら し な か い っ た い ・	無 回 答	認 知 度		
障害 児 福 祉 サ ー ビ ス	(5)児童発達支援	全体 (N=393)	95	186	95	17	281		
			100.0	24.2	47.3	24.2	4.3	71.5	
		診断カテ ゴリ別	発達障害 (n=142)	39	72	24	7	111	
				100.0	27.5	50.7	16.9	4.9	78.2
			知的障害 (n=63)	25	31	2	5	56	
				100.0	39.7	49.2	3.2	7.9	88.9
		身体障害 (n=14)	6	7	1	0	13		
		100.0	42.9	50.0	7.1	0.0	92.9		
	その他 (n=27)	6	9	11	1	15			
		100.0	22.2	33.3	40.7	3.7	55.6		
	医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=35)	14	14	7	0	28		
			100.0	40.0	40.0	20.0	0.0	80.0	
	(6)医療型児童 発達支援	全体 (N=393)	17	134	226	16	151		
			100.0	4.3	34.1	57.5	4.1	38.4	
		診断カテ ゴリ別	発達障害 (n=142)	2	51	85	4	53	
				100.0	1.4	35.9	59.9	2.8	37.3
			知的障害 (n=63)	5	26	26	6	31	
				100.0	7.9	41.3	41.3	9.5	49.2
		身体障害 (n=14)	3	5	5	1	8		
	100.0	21.4	35.7	35.7	7.1	57.1			
その他 (n=27)	3	8	15	1	11				
	100.0	11.1	29.6	55.6	3.7	40.7			
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=35)	8	15	11	1	23			
		100.0	22.9	42.9	31.4	2.9	65.7		
(7)放課後等デイ サービス	全体 (N=393)	106	175	106	6	281			
		100.0	27.0	44.5	27.0	1.5	71.5		
	診断カテ ゴリ別	発達障害 (n=142)	39	77	24	2	116		
			100.0	27.5	54.2	16.9	1.4	81.7	
		知的障害 (n=63)	40	19	3	1	59		
			100.0	63.5	30.2	4.8	1.6	93.7	
	身体障害 (n=14)	4	7	3	0	11			
	100.0	28.6	50.0	21.4	0.0	78.6			
その他 (n=27)	2	12	12	1	14				
	100.0	7.4	44.4	44.4	3.7	51.9			
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=35)	10	20	5	0	30			
		100.0	28.6	57.1	14.3	0.0	85.7		
(8)保育所等訪問 支援	全体 (N=393)	43	153	183	14	196			
		100.0	10.9	38.9	46.6	3.6	49.9		
	診断カテ ゴリ別	発達障害 (n=142)	21	62	55	4	83		
			100.0	14.8	43.7	38.7	2.8	58.5	
		知的障害 (n=63)	11	36	11	5	47		
			100.0	17.5	57.1	17.5	7.9	74.6	
	身体障害 (n=14)	4	4	6	0	8			
	100.0	28.6	28.6	42.9	0.0	57.1			
その他 (n=27)	1	10	15	1	11				
	100.0	3.7	37.0	55.6	3.7	40.7			
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=35)	8	15	12	0	23			
		100.0	22.9	42.9	34.3	0.0	65.7		

※網掛けは、最も多い項目である。

※認知度の％は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

表 2-4-1-3 福祉サービス・支援の認知度、利用状況（地域生活支援事業）
 <全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

			(上段:人、下段:%)				認知度	
			利知 用つ して いて る、	利知 用つ して いて るが い、	利知 用ら しな てか いた ない・	無 回 答		
地域生活支援事業	(9)意思疎通支援事業	全体 (N=393)	1 100.0	65 16.5	313 79.6	14 3.6	66 16.8	
		診断カテゴリー別	発達障害 (n=142)	0 100.0	24 16.9	114 80.3	4 2.8	24 16.9
			知的障害 (n=63)	1 100.0	12 19.0	46 73.0	4 6.3	13 20.6
			身体障害 (n=14)	0 100.0	6 42.9	8 57.1	0 0.0	6 42.9
			その他 (n=27)	0 100.0	4 14.8	22 81.5	1 3.7	4 14.8
		医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=35)	0 100.0	9 25.7	26 74.3	0 0.0	9 25.7
		(10)日常生活用具給付等事業	全体 (N=393)	26 100.0	82 20.9	271 69.0	14 3.6	108 27.5
	診断カテゴリー別		発達障害 (n=142)	0 100.0	32 22.5	106 74.6	4 2.8	32 22.5
			知的障害 (n=63)	10 100.0	19 30.2	30 47.6	4 6.3	29 46.0
			身体障害 (n=14)	4 100.0	3 21.4	7 50.0	0 0.0	7 50.0
			その他 (n=27)	4 100.0	5 18.5	17 63.0	1 3.7	9 33.3
	医療的ケアのニーズ別		必要としている (n=35)	17 100.0	4 11.4	14 40.0	0 0.0	21 60.0
	(11)移動支援事業		全体 (N=393)	41 100.0	102 26.0	238 60.6	12 3.1	143 36.4
		診断カテゴリー別	発達障害 (n=142)	13 100.0	33 23.2	93 65.5	3 2.1	46 32.4
			知的障害 (n=63)	18 100.0	31 49.2	11 17.5	3 4.8	49 77.8
身体障害 (n=14)			2 100.0	5 35.7	7 50.0	0 0.0	7 50.0	
その他 (n=27)			3 100.0	7 25.9	16 59.3	1 3.7	10 37.0	
医療的ケアのニーズ別		必要としている (n=35)	9 100.0	12 34.3	14 40.0	0 0.0	21 60.0	
(12)日中一時支援事業		全体 (N=393)	13 100.0	101 25.7	265 67.4	14 3.6	114 29.0	
	診断カテゴリー別	発達障害 (n=142)	4 100.0	35 24.6	99 69.7	4 2.8	39 27.5	
		知的障害 (n=63)	3 100.0	32 50.8	24 38.1	4 6.3	35 55.6	
		身体障害 (n=14)	0 100.0	7 50.0	7 50.0	0 0.0	7 50.0	
		その他 (n=27)	3 100.0	4 14.8	19 70.4	1 3.7	7 25.9	
	医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=35)	6 100.0	12 34.3	17 48.6	0 0.0	18 51.4	

※網掛けは、最も多い項目である。

※認知度の%は、小数点以下第2位を含む数値を合計した数値であるため、必ずしも表中の数値の合計とは一致しない。

(2) 福祉サービス・支援を利用していない理由

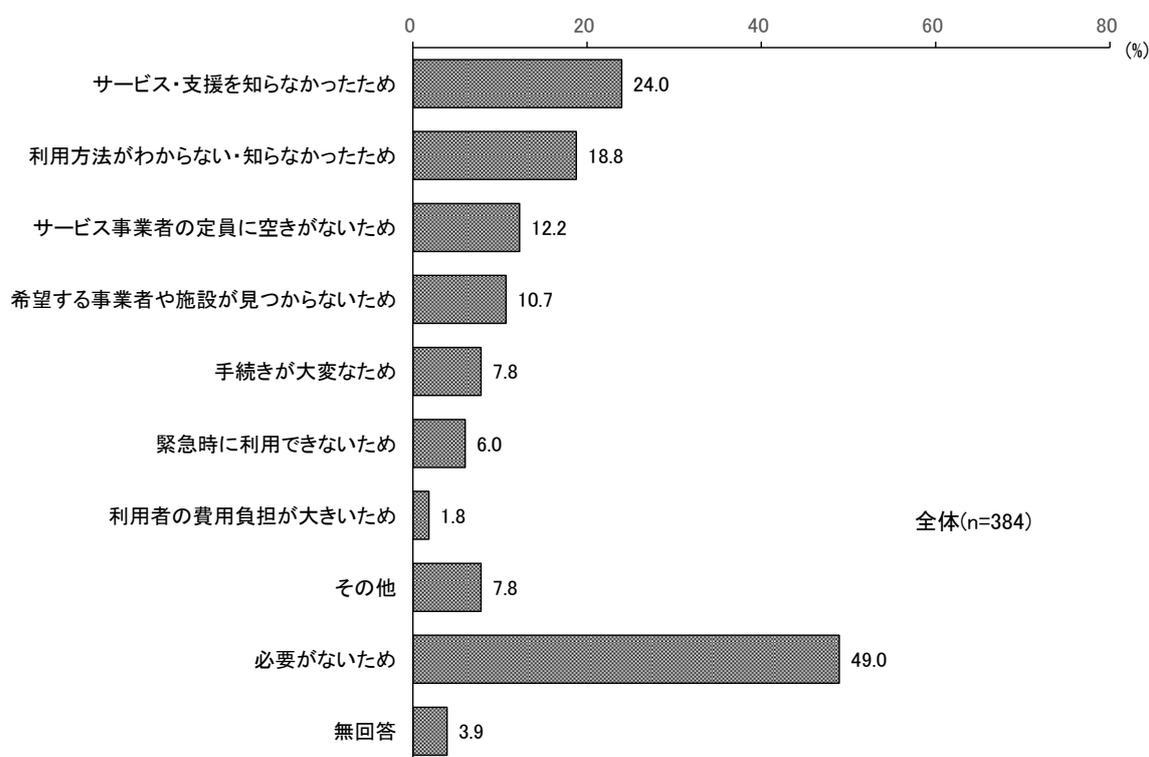
子ども：問11-1

問11で、1つでも「知っているが、利用していない」、「知らなかった・利用していない」と回答した方に、福祉サービス・支援を利用していない理由をたずねた。

「必要がないため(49.0%)」が最も多く、それ以外では「サービス・支援を知らなかったため(24.0%)」が最も多く、次いで「利用方法がわからない・知らなかったため(18.8%)」、「サービス事業者の定員に空きがないため(12.2%)」、「希望する事業者や施設が見つからないため(10.7%)」などとなっている。(図2-4-1)

図2-4-1 福祉サービス・支援を利用していない理由（複数回答）

<1つでも「知っているが、利用していない」、「知らなかった・利用していない」と回答した方>



(3) 福祉サービス・支援の支給量のニーズ充足度

子ども：問11-2

問11(1)～(12)で、1つでも「知っていて、利用している」と回答した方に、福祉サービス・支援の支給量のニーズ充足度をたずねた。

「十分である(27.5%)」、「足りない(26.4%)」などとなっている。(表2-4-2)

【診断カテゴリ別】

診断カテゴリ別にみると、発達障害は「十分である(29.7%)」が最も多いものの、「足りない(28.1%)」も同程度となっている。

知的障害、身体障害は「どちらともいえない(知的障害：42.6%、身体障害：44.4%)」が最も多くなっている。(表2-4-2)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「足りない」、「どちらともいえない」が33.3%で最も多くなっている。(表2-4-2)

表2-4-2 福祉サービス・支援の支給量のニーズ充足度
 <福祉サービス・支援を利用している人、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

(上段:人、下段:%)

		十分である	足りない	どちらともいえないと思(う十分だとも思う)	わからない	その他	無回答
全体 (n=178)		49 100.0	47 26.4	57 32.0	12 6.7	4 2.2	9 5.1
診断カテゴリー別	発達障害 (n=64)	19 100.0	18 28.1	16 25.0	8 12.5	2 3.1	1 1.6
	知的障害 (n=54)	11 100.0	14 25.9	23 42.6	2 3.7	1 1.9	3 5.6
	身体障害 (n=9)	3 100.0	1 11.1	4 44.4	0 0.0	1 11.1	0 0.0
	その他 (n=11)	4 100.0	5 45.5	0 0.0	1 9.1	0 0.0	1 9.1
医療的ケアのニーズ別	必要としている (n=30)	6 100.0	10 33.3	10 33.3	2 6.7	1 3.3	1 3.3

(4) 不足している福祉サービス・支援

子ども：問11-2 (2. 足りない)

福祉サービス・支援の利用者で、サービス支給量のニーズ充足度について、支給量が足りないと回答した人に、不足している福祉サービス・支援をたずねた。

全体では「放課後等デイサービス(48.9%)」が最も多く、次いで「児童発達支援(38.3%)」、「移動支援事業(19.1%)」などとなっている。(表2-4-3)

【診断カテゴリ別】

診断カテゴリ別にみると、発達障害は「放課後等デイサービス」、「児童発達支援」が50.0%で最も多くなっている。

知的障害は「放課後等デイサービス(64.3%)」が最も多く、次いで「児童発達支援」、「移動支援事業」が35.7%などとなっている。(表2-4-3)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は「放課後等デイサービス」が50.0%で最も多くなっている。(表2-4-3)

表2-4-3 不足している福祉サービス・支援(複数回答)

＜支給量が足りないと回答した人、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別＞

(上段：人、下段：%)

		居宅介護 (ホームヘルプ)	同行 支援	行動 支援	短期 入所 (福祉型・ 医療型)	児童 発達 支援	医療 型 児童 発達 支援	放 課 後 等 デ イ サ ー ビ ス	保 育 所 等 訪 問 支 援	意 思 疎 通 支 援 事 業	日 常 生 活 用 具 給 付 等 事 業	移 動 支 援 事 業	日 中 一 時 支 援 事 業	無 回 答
全体	(n=47) 100.0	1 2.1	0 0.0	2 4.3	8 17.0	18 38.3	4 8.5	23 48.9	4 8.5	1 2.1	2 4.3	9 19.1	7 14.9	3 6.4
診断カ テ ゴ リ 別	発達障害 (n=18) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.1	9 50.0	1 5.6	9 50.0	3 16.7	0 0.0	0 0.0	2 11.1	1 5.6	1 5.6
	知的障害 (n=14) 100.0	0 0.0	0 0.0	2 14.3	4 28.6	5 35.7	2 14.3	9 64.3	1 7.1	1 7.1	1 7.1	5 35.7	3 21.4	1 7.1
	身体障害 (n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0
	その他 (n=5) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 20.0	2 40.0	0 0.0
医療的 ケアの ニーズ別	必要としている (n=10) 100.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	1 10.0	2 20.0	2 20.0	5 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	2 20.0	1 10.0

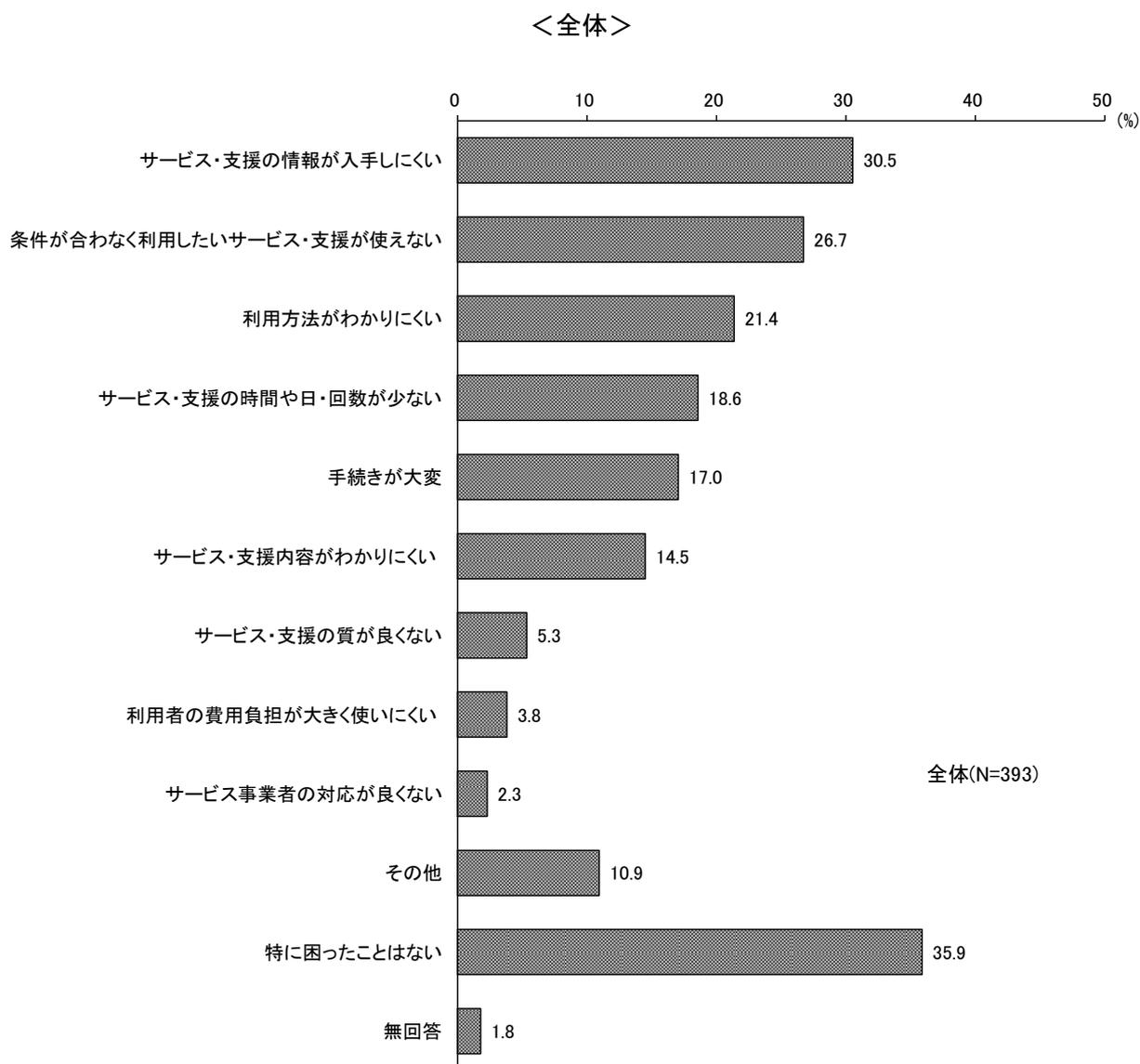
(5) 福祉サービス・支援を利用する上で困っていること

子ども：問12

福祉サービス・支援を利用する上で困っていることをたずねた。

「特に困ったことはない(35.9%)」が最も多く、それ以外では「サービス・支援の情報が入手しにくい(30.5%)」が最も多く、次いで「条件が合わなく利用したいサービス・支援が使えない(26.7%)」、「利用方法がわかりにくい(21.4%)」などとなっている。(図2-4-2)

図2-4-2 福祉サービス・支援を利用する上で困っていること（複数回答）



(6) 医療保険制度による在宅サービスの利用状況

子ども：問13

医療保険制度による在宅サービスの利用状況をたずねた。

「いずれも利用していない(88.0%)」、「無回答(2.8%)」を除いた医療保険制度による在宅サービスを利用している人は36人(9.2%)である。

「訪問リハビリ(理学療法)」は26人(6.6%)、「訪問看護」は16人(4.1%)、「訪問診療」は10人(2.5%)が利用している。その他のサービスの利用者数は10人未満となっている。(表2-4-4)

表2-4-4 医療保険制度による在宅サービスの利用状況(複数回答)

<全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

(上段:人、下段:%)

		訪問診療	訪問看護	(訪問理学療法)	(訪問作業療法)	(訪問言語療法)	その他	していないもの利用	無回答
全体 (N=393)		10	16	26	8	7	3	346	11
		2.5	4.1	6.6	2.0	1.8	0.8	88.0	2.8
診断カテゴリ別	発達障害 (n=142)	0	1	1	1	1	1	136	3
		0.0	0.7	0.7	0.7	0.7	0.7	95.8	2.1
	知的障害 (n=63)	3	7	7	3	3	0	48	4
		4.8	11.1	11.1	4.8	4.8	0.0	76.2	6.3
医療的ケアのニーズ別	身体障害 (n=14)	1	2	4	0	0	0	8	1
		7.1	14.3	28.6	0.0	0.0	0.0	57.1	7.1
	その他 (n=27)	5	4	6	1	2	1	21	0
		18.5	14.8	22.2	3.7	7.4	3.7	77.8	0.0
	必要としている (n=35)	9	13	17	3	4	1	16	0
		25.7	37.1	48.6	8.6	11.4	2.9	45.7	0.0

(7) 切れ目のない一貫した支援をどう思うか

子ども：問14

切れ目のない一貫した支援を目指す中央区の取り組みをどう思うかたずねた。

「必要と思う・進めてほしい(85.5%)」が最も多く、8割を超えている。(表2-4-5)

【通園・通学・通所先別】

回答者数が10人以上の項目では、いずれの通園・通学・通所先も「必要と思う・進めてほしい」が8割以上となっている。(表2-4-5)

【診断カテゴリ別】

診断カテゴリ別にみると、いずれのカテゴリも「必要と思う・進めてほしい」が8割以上となっている。(表2-4-5)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は、「必要と思う・進めてほしい」が88.6%となっている。(表2-4-5)

表 2-4-5 切れ目のない一貫した支援をどう思うか

<全体、通園・通学・通所先別、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

(上段:人、下段:%)

		進 必 要 と 思 う ・	進 必 要 な く 思 て わ よ い ・	い ど え ち ら な い と も	無 回 答	
全体	(N=331)	336 100.0	8 2.0	48 12.2	1 0.3	
通園・ 通学・ 通所先別	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=29) 100.0	25 86.2	2 6.9	2 6.9	0 0.0
	区立認可保育園	(n=9) 100.0	7 77.8	1 11.1	1 11.1	0 0.0
	私立認可保育園	(n=3) 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認定こども園	(n=2) 100.0	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	認証保育所	(n=1) 100.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(自宅での保育)	(n=2) 100.0	2 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(障害児保育園)	(n=3) 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区立幼稚園	(n=8) 100.0	5 62.5	2 25.0	1 12.5	0 0.0
	公立小学校(通常の学級に在籍)	(n=72) 100.0	60 83.3	1 1.4	11 15.3	0 0.0
	公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)	(n=161) 100.0	140 87.0	2 1.2	18 11.2	1 0.6
	公立小学校(特別支援学級に在籍)	(n=20) 100.0	18 90.0	0 0.0	2 10.0	0 0.0
	特別支援学校小学部	(n=30) 100.0	24 80.0	1 3.3	5 16.7	0 0.0
	公立中学校(通常の学級に在籍)	(n=11) 100.0	10 90.9	0 0.0	1 9.1	0 0.0
	公立中学校(特別支援教室も利用)	(n=22) 100.0	19 86.4	1 4.5	2 9.1	0 0.0
	公立中学校(特別支援学級に在籍)	(n=7) 100.0	5 71.4	0 0.0	2 28.6	0 0.0
	特別支援学校中学部	(n=15) 100.0	13 86.7	0 0.0	2 13.3	0 0.0
	私立中学校	(n=3) 100.0	3 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	高等学校	(n=19) 100.0	19 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	特別支援学校高等部	(n=21) 100.0	18 85.7	1 4.8	2 9.5	0 0.0
	その他	(n=8) 100.0	6 75.0	1 12.5	1 12.5	0 0.0
診断カテ ゴリ別	発達障害	(n=142) 100.0	122 85.9	2 1.4	18 12.7	0 0.0
	知的障害	(n=63) 100.0	55 87.3	2 3.2	6 9.5	0 0.0
	身体障害	(n=14) 100.0	13 92.9	0 0.0	1 7.1	0 0.0
	その他	(n=27) 100.0	24 88.9	0 0.0	3 11.1	0 0.0
医療的 ケアの ニーズ別	(n=35) 100.0	31 88.6	0 0.0	4 11.4	0 0.0	

※通園・通学・通所先、育ちや発達についての診断の有無、日常的に医療的ケアを必要としているかの設問で未回答の方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。

※「私立幼稚園」、「私立小学校」は回答者が0人であったため、表中より除いている。

(8) 「育ちのサポートカルテ」の活用状況

子ども：問15

「育ちのサポートカルテ」の活用状況についてたずねた。

「活用している(23.4%)」、「知らなかったが、今後活用を検討したい(32.8%)」、「知っているが、活用していない(18.6%)」、「知らなかったし、今後も活用しない(24.7%)」となっている。(表2-4-6)

【通園・通学・通所先別】

回答者数が10人以上の項目で、全体よりも10ポイント以上高い項目を分析する。

「活用している」では、『子ども発達支援センター ゆりのき』は29人中12人(41.4%)で18.0ポイント、『特別支援学校小学部』は30人中21人(70.0%)で46.6ポイント全体よりも高くなっている。

「知らなかったが、今後活用を検討したい」では、『公立中学校(通常の学級に在籍)』は11人中5人(45.5%)で12.7ポイント、『特別支援学校高等部』は21人中11人(52.4%)で19.6ポイント全体よりも高くなっている。

「知っているが、活用していない」では、全体よりも10ポイント以上高い項目はなかった。

「知らなかったし、今後も活用しない」では、『公立中学校(通常の学級に在籍)』は11人中4人(36.4%)で11.7ポイント、『公立中学校(特別支援教室も利用)』は22人中8人(36.4%)で11.7ポイント、『高等学校』は19人中14人(73.7%)で49.0ポイント全体よりも高くなっている。(表2-4-6)

表2-4-6 「育ちのサポートカルテ」の活用状況

<全体、通園・通学・通所先別>

(上段:人、下段:%)

		活用している	今知後ら活な活用をた検討がしたい	活知用っしてしているが、い、	今知後らも活な活用したくない、	無回答
全体 (n=393)		92 23.4	129 32.8	73 18.6	97 24.7	2 0.5
通園・通学・通所先別	子ども発達支援センター ゆりのき (n=29)	12 41.4	10 34.5	5 17.2	1 3.4	1 3.4
	区立認可保育園 (n=9)	4 44.4	5 55.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	私立認可保育園 (n=3)	0 0.0	2 66.7	1 33.3	0 0.0	0 0.0
	認定こども園 (n=2)	1 50.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	認証保育所 (n=1)	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(自宅での保育) (n=2)	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(障害児保育園) (n=3)	1 33.3	2 66.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区立幼稚園 (n=8)	4 50.0	0 0.0	3 37.5	1 12.5	0 0.0
	公立小学校(通常の学級に在籍) (n=72)	18 25.0	21 29.2	11 15.3	22 30.6	0 0.0
	公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用) (n=161)	38 23.6	55 34.2	31 19.3	36 22.4	1 0.6
	公立小学校(特別支援学級に在籍) (n=20)	5 25.0	7 35.0	5 25.0	3 15.0	0 0.0
	特別支援学校小学部 (n=30)	21 70.0	3 10.0	5 16.7	1 3.3	0 0.0
	公立中学校(通常の学級に在籍) (n=11)	0 0.0	5 45.5	2 18.2	4 36.4	0 0.0
	公立中学校(特別支援教室も利用) (n=22)	1 4.5	8 36.4	5 22.7	8 36.4	0 0.0
	公立中学校(特別支援学級に在籍) (n=7)	1 14.3	2 28.6	2 28.6	2 28.6	0 0.0
	特別支援学校中学部 (n=15)	2 13.3	6 40.0	4 26.7	3 20.0	0 0.0
	私立中学校 (n=3)	0 0.0	1 33.3	0 0.0	2 66.7	0 0.0
	高等学校 (n=19)	0 0.0	3 15.8	2 10.5	14 73.7	0 0.0
	特別支援学校高等部 (n=21)	2 9.5	11 52.4	5 23.8	2 9.5	1 4.8
	その他 (n=8)	3 37.5	3 37.5	1 12.5	1 12.5	0 0.0

※通園・通学・通所先の設問で未回答の方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。

※「私立幼稚園」、「私立小学校」は回答者が0人であったため、表中より除いている。

(9) 「育ちのサポートカルテ」を知ったきっかけ

子ども：問 15-1

問 15 で「育ちのサポートカルテ」を「活用している」または「知っているが、活用していない」と回答した人に、「育ちのサポートカルテ」を知ったきっかけをたずねた。

「子ども発達支援センターの先生に勧められた(35.8%)」が最も多く、次いで「区施設等の掲示物を見た(14.5%)」、「子ども発達支援センターの講演会を通して知った(12.1%)」、「通学先の先生に勧められた(10.9%)」などとなっている。(表 2-4-7)

【通園・通学・通所先別】

回答者数が 10 人以上の項目を分析する。

『子ども発達支援センター ゆりのき』は、「子ども発達支援センターの先生に勧められた(70.6%)」が最も多く、次いで「区施設の掲示物を見た(17.6%)」などとなっている。

『公立小学校（通常の学級に在籍）』は、「子ども発達支援センターの先生に勧められた(31.0%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センターの講演会を通して知った(17.2%)」などとなっている。

『公立小学校（通級指導学級・特別支援教室も利用）』は、「子ども発達支援センターの先生に勧められた(33.3%)」が最も多く、次いで「通学先の先生に勧められた(18.8%)」などとなっている。

『公立小学校（特別支援学級に在籍）』は、「区施設等の掲示物を見た(40.0%)」が最も多く、次いで「子ども発達支援センターの講演会を通して知った(30.0%)」などとなっている。

『特別支援学校小学部』は、「子ども発達支援センターの先生に勧められた(53.8%)」が最も多く、次いで「区施設の掲示物を見た(19.2%)」などとなっている。(表 2-4-7)

第2部 調査の結果

表2-4-7 「育ちのサポートカルテ」を知ったきっかけ（複数回答）

＜「活用している」または「知っているが、活用していない」と回答した人、通園・通学・通所先別＞

		(上段:人、下段:%)									
		区の 広報紙、 区のホ ームペ ージを 見た	区 施設 等 の 掲 示 物 を 見 た	子 ど も 発 達 支 援 セ ン タ ー の 講 演 会 を 通 し て 知 っ た	子 ど も 発 達 支 援 セ ン タ ー の 先 生 に 勧 め ら れ た	通 園 先 の 先 生 に 勧 め ら れ た	通 学 先 の 先 生 に 勧 め ら れ た	家 族 ・ 親 族 か ら 聞 い た	友 人 ・ 知 人 か ら 聞 い た	そ の 他	無 回 答
全体	(n=165) 100.0	16 9.7	24 14.5	20 12.1	59 35.8	4 2.4	18 10.9	0 0.0	12 7.3	7 4.2	5 3.0
通 園 ・ 通 学 ・ 通 所 先 別	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=17) 100.0	0 0.0	3 17.6	0 0.0	12 70.6	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 11.8	0 0.0
	区立認可保育園	(n=4) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	3 75.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 25.0	0 0.0
	私立認可保育園	(n=1) 100.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	認定こども園	(n=2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0
	認証保育所	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(自宅での保育)	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	居宅訪問型保育(障害児保育園)	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	区立幼稚園	(n=7) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	6 85.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	0 0.0
	公立小学校(通常の学級に在籍)	(n=29) 100.0	3 10.3	4 13.8	5 17.2	9 31.0	1 3.4	4 13.8	0 0.0	2 6.9	1 3.4
	公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)	(n=69) 100.0	6 8.7	11 15.9	7 10.1	23 33.3	3 4.3	13 18.8	0 0.0	3 4.3	2 2.9
	公立小学校(特別支援学級に在籍)	(n=10) 100.0	0 0.0	4 40.0	3 30.0	2 20.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 10.0	0 0.0
	特別支援学校小学部	(n=26) 100.0	1 3.8	5 19.2	2 7.7	14 53.8	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 3.8	1 3.8
	公立中学校(通常の学級に在籍)	(n=2) 100.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	公立中学校(特別支援教室も利用)	(n=6) 100.0	3 50.0	1 16.7	0 0.0	1 16.7	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	0 0.0
	公立中学校(特別支援学級に在籍)	(n=3) 100.0	1 33.3	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	1 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	特別支援学校中学部	(n=6) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	1 16.7
	高等学校	(n=2) 100.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0
	特別支援学校高等部	(n=7) 100.0	1 14.3	1 14.3	2 28.6	1 14.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 14.3	1 14.3
	その他	(n=4) 100.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0

※通園・通学・通所先の設問で未回答の方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。

※「私立幼稚園」、「私立小学校」、「私立中学校」は回答者が0人であったため、表中より除いている。

(10) 「育ちのサポートカルテ」を活用していない理由

子ども：問 15-2

問 15 で「育ちのサポートカルテ」を「知っているが、活用していない」または「知らなかったし、今後も活用しない」と回答した人に、「育ちのサポートカルテ」を活用していない理由をたずねた。

「特別な支援は必要ないから(30.0%)」が最も多く、次いで「申請や活用の方法がわからないから(15.3%)」などとなっている。「その他(25.9%)」の内容は、「知らなかったから」、「もう高校生であるため」などとなっている。(表 2-4-8)

【通園・通学・通所先別】

回答者数が 10 人以上の項目を分析する。

『公立小学校(通常の学級に在籍)』は、「特別な支援は必要ないから(48.5%)」が最も多く、次いで「その他(21.2%)」などとなっている。

『公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)』は、「その他(31.3%)」が最も多く、次いで「特別な支援は必要ないから(26.9%)」、「申請や活用の方法がわからないから(17.9%)」などとなっている。

『公立中学校(特別支援教室も利用)』は、「特別な支援は必要ないから(46.2%)」が最も多く、次いで「その他(15.4%)」などとなっている。

『高等学校』は、「特別な支援は必要ないから」、「その他」が 37.5%で最も多くなっている。(表 2-4-8)

表 2-4-8 「育ちのサポートカルテ」を活用していない理由（複数回答）

<「知っているが、活用していない」または「知らなかったし、今後も活用しない」と回答した人、
通園・通学・通所先別>

(上段:人、下段:%)

		あ る 人 情 報 の 取 扱 い に 不 安 が	特 別 な 支 援 は 必 要 な い か ら	持 た れ た ・ 通 学 先 で か ら	な い 申 請 や 活 用 の 方 法 が わ か ら な い	手 続 き な ど が 面 倒 だ か ら	そ の 他	無 回 答	
全体		(n=170) 100.0	5 2.9	51 30.0	6 3.5	26 15.3	14 8.2	44 25.9	24 14.1
通 園 ・ 通 学 ・ 通 所 先 別	子ども発達支援センター ゆりのき	(n=6) 100.0	0 0.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	1 16.7	2 33.3	1 16.7
	私立認可保育園	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0	0 0.0
	認定こども園	(n=1) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 100.0	0 0.0
	区立幼稚園	(n=4) 100.0	1 25.0	0 0.0	1 25.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0
	公立小学校(通常の学級に在籍)	(n=33) 100.0	0 0.0	16 48.5	1 3.0	2 6.1	1 3.0	7 21.2	6 18.2
	公立小学校(通級指導学級・特別支援教室も利用)	(n=67) 100.0	1 1.5	18 26.9	3 4.5	12 17.9	6 9.0	21 31.3	6 9.0
	公立小学校(特別支援学級に在籍)	(n=8) 100.0	0 0.0	1 12.5	0 0.0	4 50.0	0 0.0	2 25.0	1 12.5
	特別支援学校小学部	(n=6) 100.0	0 0.0	1 16.7	1 16.7	0 0.0	0 0.0	4 66.7	0 0.0
	公立中学校(通常の学級に在籍)	(n=6) 100.0	0 0.0	2 33.3	0 0.0	0 0.0	0 0.0	2 33.3	2 33.3
	公立中学校(特別支援教室も利用)	(n=13) 100.0	0 0.0	6 46.2	0 0.0	1 7.7	0 0.0	2 15.4	4 30.8
	公立中学校(特別支援学級に在籍)	(n=4) 100.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0	2 50.0	0 0.0	0 0.0
	特別支援学校中学部	(n=7) 100.0	1 14.3	1 14.3	0 0.0	0 0.0	2 28.6	2 28.6	1 14.3
	私立中学校	(n=2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0
	高等学校	(n=16) 100.0	0 0.0	6 37.5	0 0.0	3 18.8	0 0.0	6 37.5	1 6.3
	特別支援学校高等部	(n=7) 100.0	2 28.6	0 0.0	0 0.0	1 14.3	2 28.6	1 14.3	1 14.3
	その他	(n=2) 100.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	1 50.0	1 50.0	0 0.0	0 0.0

※通園・通学・通所先の設問で未回答の方がいるため、人数の合計が全体と一致しない。

※「区立認可保育園」、「認証保育所」、「居宅訪問型保育（自宅での保育）」、「居宅訪問型保育（障害児保育園）」、「私立幼稚園」、「私立小学校」は回答者が0人であったため、表中より除いている。

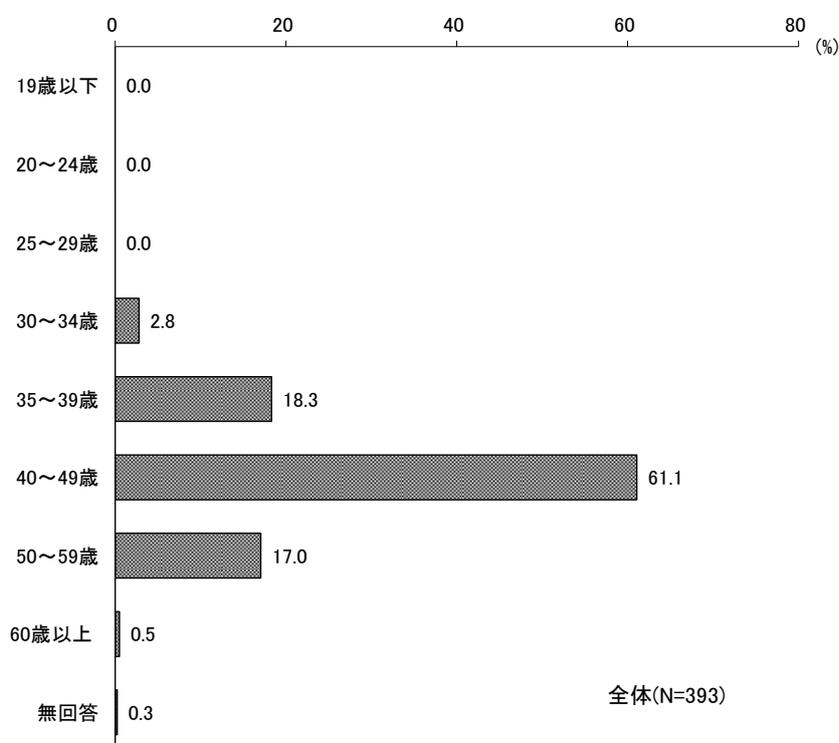
5 主たる養育者の状況について

(1) 主たる養育者の年齢

子ども：問16

主たる養育者の年齢は、「40～49歳(61.1%)」が最も多く、次いで「35～39歳(18.3%)」、「50～59歳(17.0%)」などとなっている。(図2-5-1)

図2-5-1 主たる養育者の年齢
<全体>



(2) 主たる養育者の健康状態

子ども：問17

主たる養育者の健康状態は、「よい(35.9%)」と「まあよい(19.8%)」をあわせた<よい>は55.7%、「あまりよくない(12.7%)」と「よくない(1.3%)」をあわせた<よくない>は14.0%である。

(表 2-5-1)

【診断カテゴリ別】

知的障害の子どもの養育者は「あまりよくない(20.6%)」と「よくない(1.6%)」をあわせた<よくない>は22.2%である。全体と比べて、<よくない>が8.2ポイント高くなっている。(表 2-5-1)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている子どもの養育者は「よい(31.4%)」と「まあよい(17.1%)」をあわせた<よい>は48.5%、「あまりよくない(17.1%)」と「よくない(0.0%)」をあわせた<よくない>は17.1%である。(表 2-5-1)

表 2-5-1 主たる養育者の健康状態
<全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)						
		よい	まあよい	ふつう	あまりよくない	よくない	無回答	
全体		(N=393) 100.0	141 35.9	78 19.8	117 29.8	50 12.7	5 1.3	2 0.5
診断カテゴリー別	発達障害	(n=142) 100.0	43 30.3	26 18.3	47 33.1	22 15.5	3 2.1	1 0.7
	知的障害	(n=63) 100.0	20 31.7	14 22.2	15 23.8	13 20.6	1 1.6	0 0.0
	身体障害	(n=14) 100.0	7 50.0	1 7.1	4 28.6	2 14.3	0 0.0	0 0.0
	その他	(n=27) 100.0	7 25.9	7 25.9	8 29.6	4 14.8	1 3.7	0 0.0
医療的ケアのニーズ別	必要としている	(n=35) 100.0	11 31.4	6 17.1	12 34.3	6 17.1	0 0.0	0 0.0

(3) 主たる養育者の就労状況

子ども：問18

主たる養育者の就労状況は、「働いている(74.6%)」、「働いていない(25.2%)」である。「働いている」が「働いていない」よりも49.4ポイント高い。(図2-5-2)

図2-5-2 主たる養育者の就労状況
<全体>



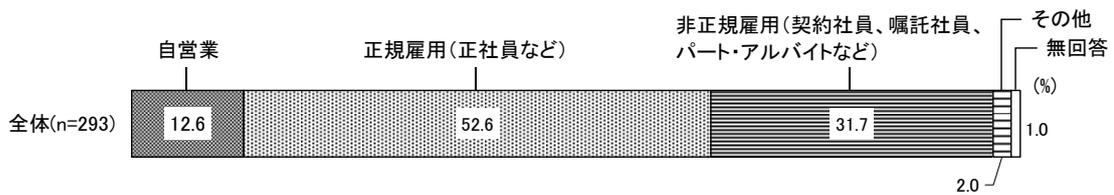
(4) 主たる養育者の就労形態

子ども：問18-1

問18で「働いている」と回答した人に、就労形態をたずねた。

「正規雇用(正社員など)(52.6%)」が最も多く、次いで「非正規雇用(契約社員、嘱託社員、パート・アルバイトなど)(31.7%)」、「自営業(12.7%)」となっている。(図2-5-3)

図2-5-3 主たる養育者の就労形態
<全体>



6 相談について

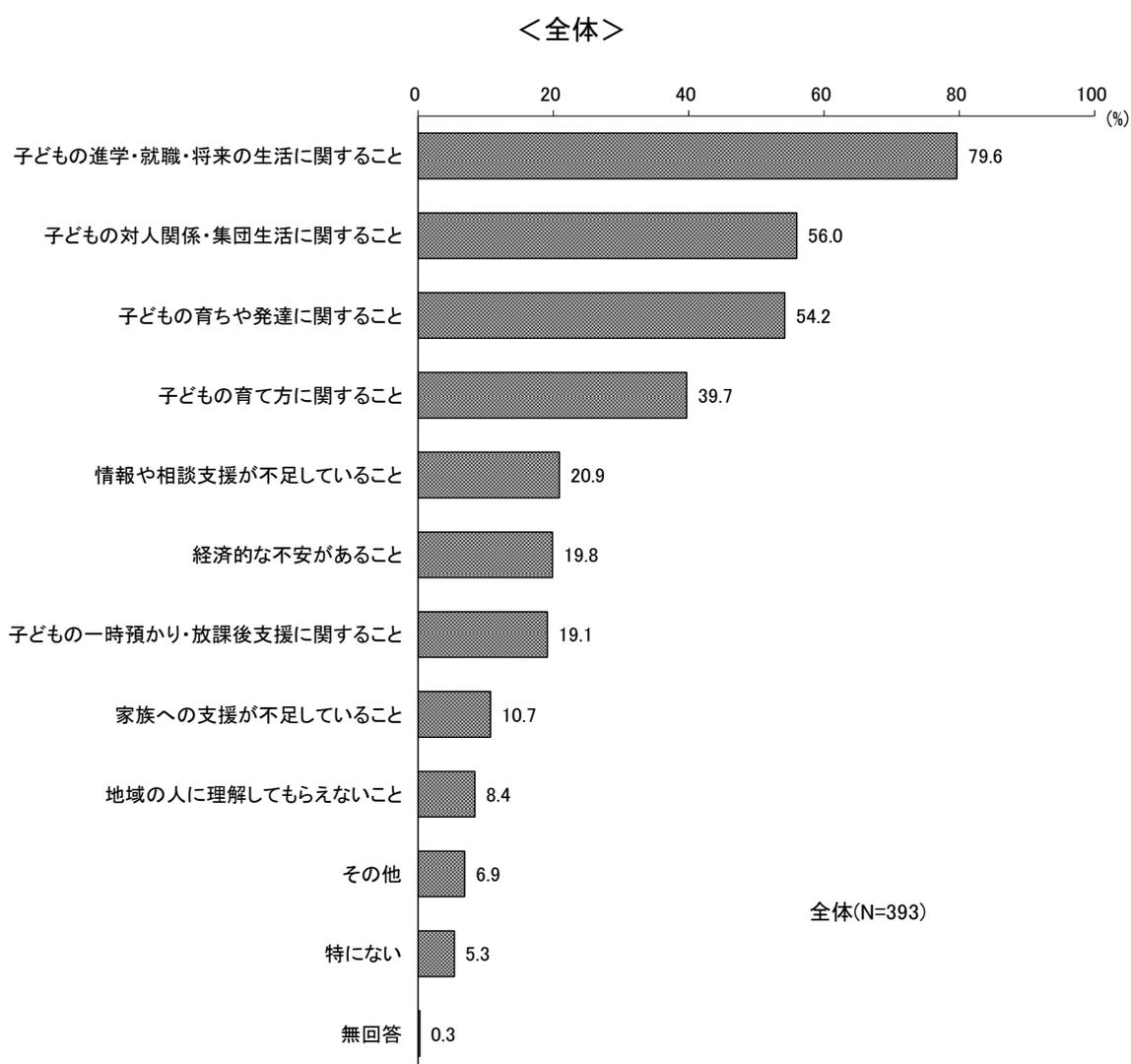
(1) 主たる養育者自身の困りごとや不安に思っていること

子ども：問19

主たる養育者が現在困っていること、不安に思っていることをたずねた。

「子どもの進学・就職・将来の生活に関すること(79.6%)」が最も多く、次いで「子どもの対人関係・集団生活に関すること(56.0%)」、「子どもの育ちや発達に関すること(54.2%)」、「子どもの育て方に関すること(39.7%)」などとなっている。(図2-6-1)

図2-6-1 主たる養育者自身の困りごとや不安に思っていること



(2) 近所に頼れる人がいるか

子ども：問 20

近所の人で、生活のことやお子さんのことで頼れる人がいるかたずねた。

「いる(37.9%)」、「いない(61.1%)」である。「いる」は「いない」よりも23.2ポイント低くなっている。(図 2-6-2)

図 2-6-2 近所に頼れる人がいるか
＜全体＞



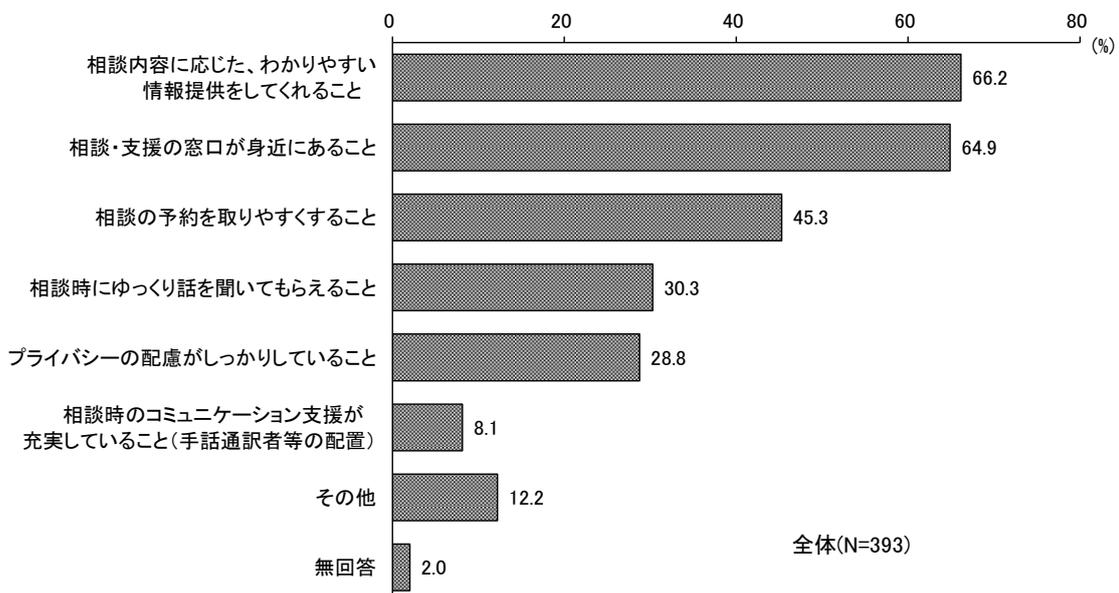
(3) 相談窓口で相談しやすくなるために必要なこと

子ども：問 21

相談窓口で相談しやすくなるために必要なことをたずねた。

「相談内容に応じた、わかりやすい情報提供をしてくれること(66.2%)」が最も多く、次いで「相談・支援の窓口が身近にあること(64.9%)」、「相談の予約を取りやすくすること(45.3%)」などとなっている。(図 2-6-3)

図 2-6-3 相談窓口で相談しやすくなるために必要なこと
＜全体＞



(4) 専門家に支援してほしいと思うこと

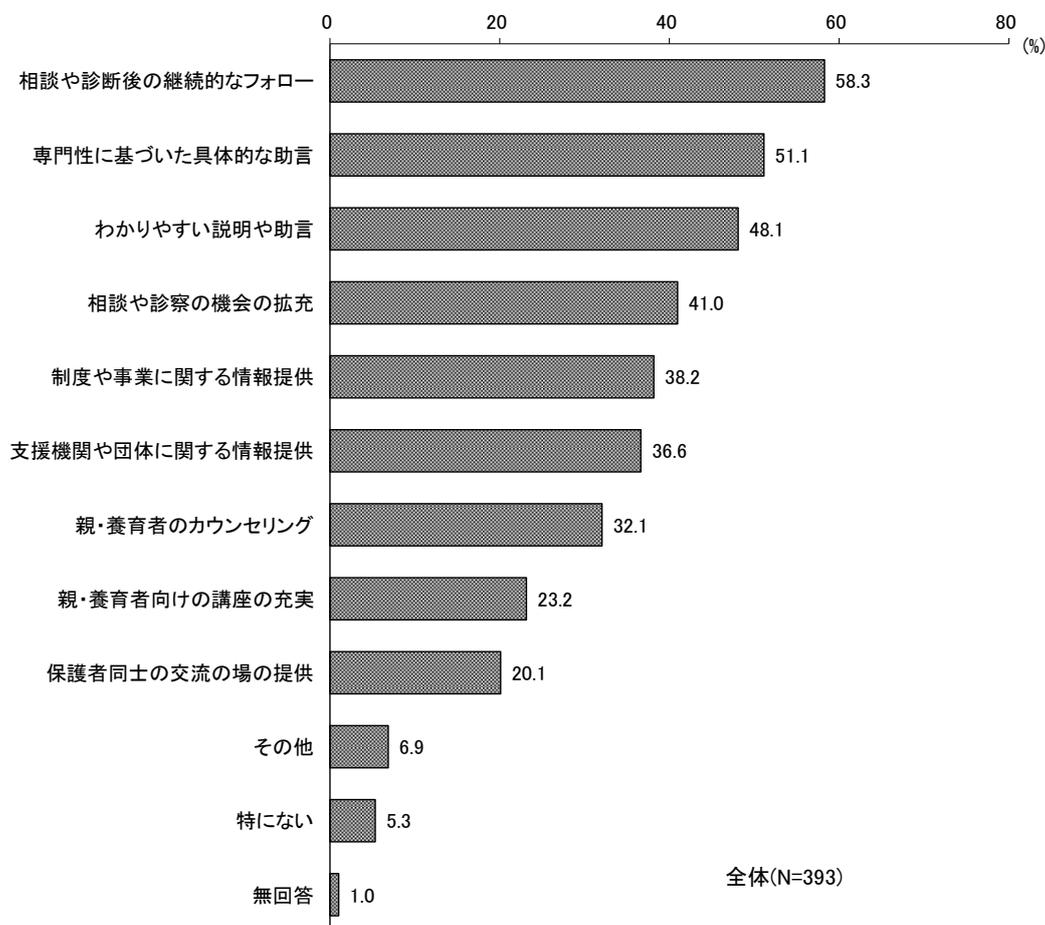
子ども：問22

育ちや発達に関する専門機関や医療機関にどのような支援を希望するかたずねた。

「相談や診断後の継続的なフォロー(58.3%)」が最も多く、次いで「専門性に基づいた具体的な助言(51.1%)」、「わかりやすい説明や助言(48.1%)」などとなっている。(図2-6-4)

図2-6-4 専門家に支援してほしいと思うこと

<全体>



7 子どもの育ち等への理解について

(1) 近所の人に子どもの育ちや発達について理解されていると感じるか

子ども：問 23

近所の人に、お子さんの育ちや発達のことについて理解されていると感じるかたずねた。理解されていると「感じる」が 40.7%、「感じない」が 56.7%となっている。「感じない」が「感じる」よりも 16.0 ポイント高くなっている。(図 2-7-1)

図 2-7-1 近所の人に子どもの育ちや発達について理解されていると感じるか
 <全体>

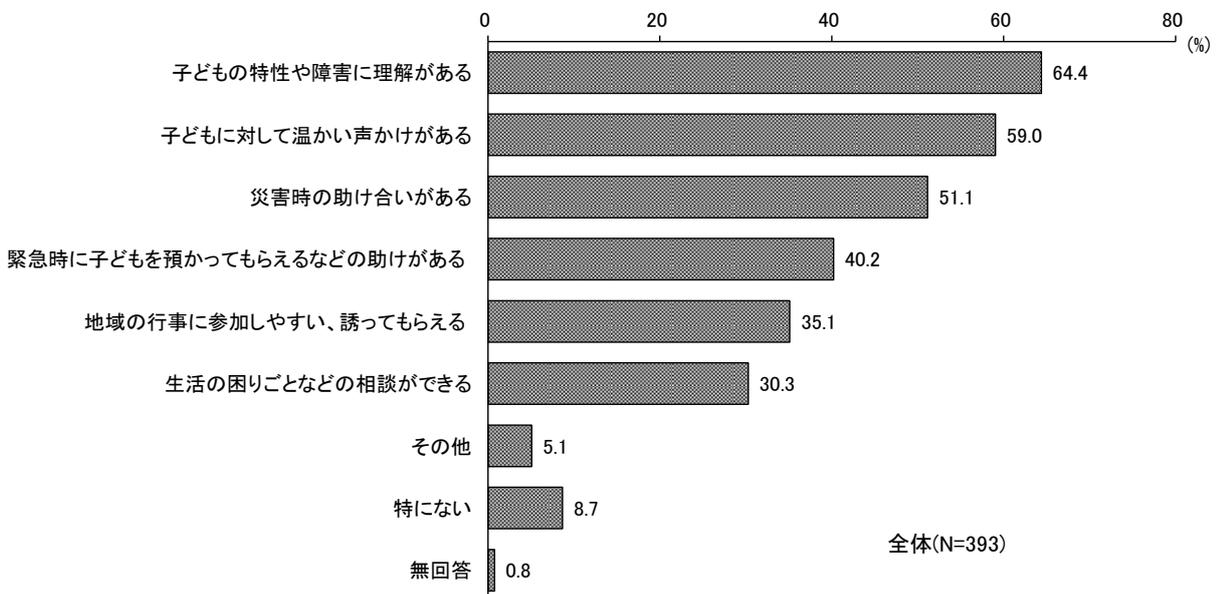


(2) 主たる養育者が望む地域のあり方

子ども：問 24

お住まいの地域がどのような地域であってほしいと思うかたずねた。「子どもの特性や障害に理解がある(64.4%)」が最も多く、次いで「子どもに対して温かい声かけがある(59.0%)」、「災害時の助け合いがある(51.1%)」などとなっている。(図 2-7-2)

図 2-7-2 主たる養育者が望む地域のあり方(複数回答)
 <全体>



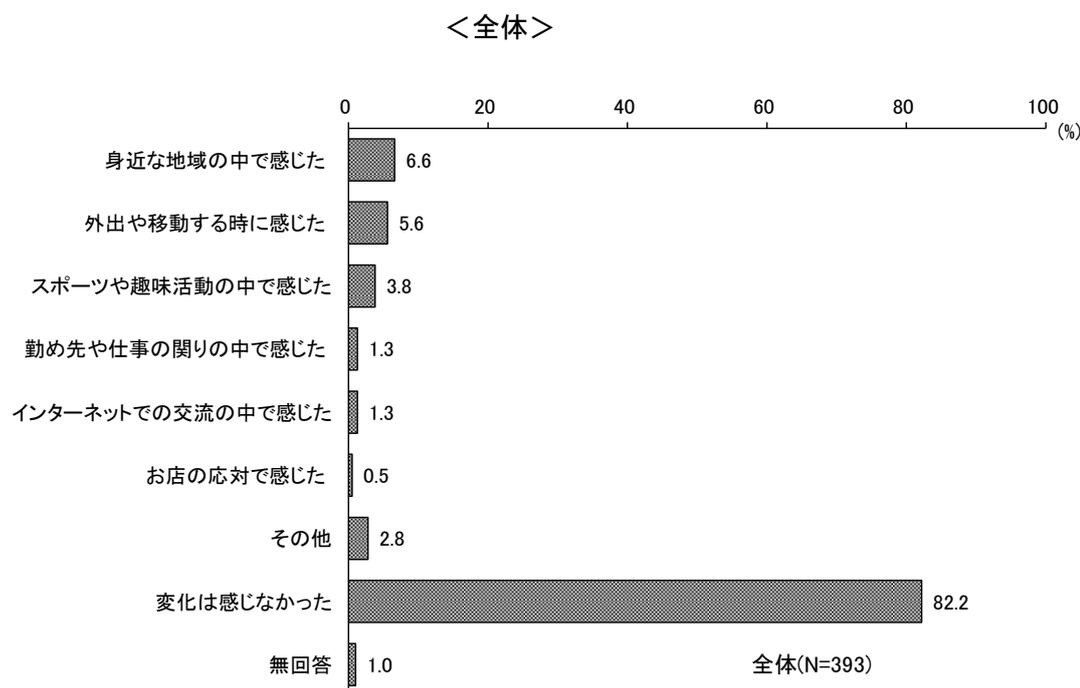
(3) 東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化の有無

子ども：問 25

東京 2020 大会開催によるお子さんの育ちや発達への理解の変化の有無をたずねた。

「変化は感じなかった(82.2%)」が最も多く、それ以外では「身近な地域の中で感じた(6.6%)」が最も多く、次いで「外出や移動する時に感じた(5.6%)」、「スポーツや趣味活動の中で感じた(3.8%)」などとなっている。(図 2-7-3)

図 2-7-3 東京 2020 大会開催による障害等への理解の変化（複数回答）



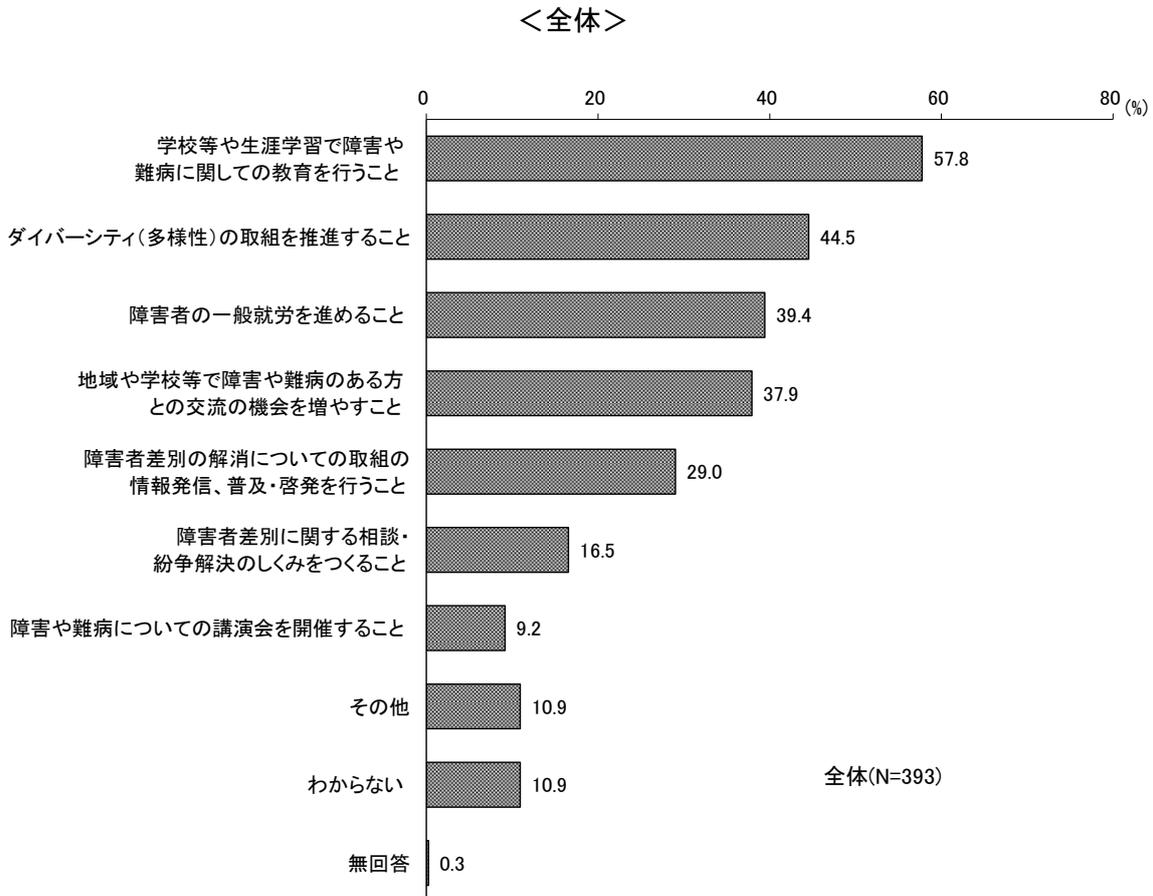
(4) 障害等への理解の普及に必要なこと

子ども：問26

障害等への理解の普及に必要なことをたずねた。

「学校等や生涯学習で障害や難病に関しての教育を行うこと(57.8%)」が最も多く、次いで「ダイバーシティ(多様性)の取組を推進すること(44.5%)」、「障害者の一般就労を進めること(39.4%)」などとなっている。(図2-7-4)

図2-7-4 障害等への理解の普及に必要なこと(複数回答)



8 子どもの将来について

(1) お子さんの将来の働き方の希望

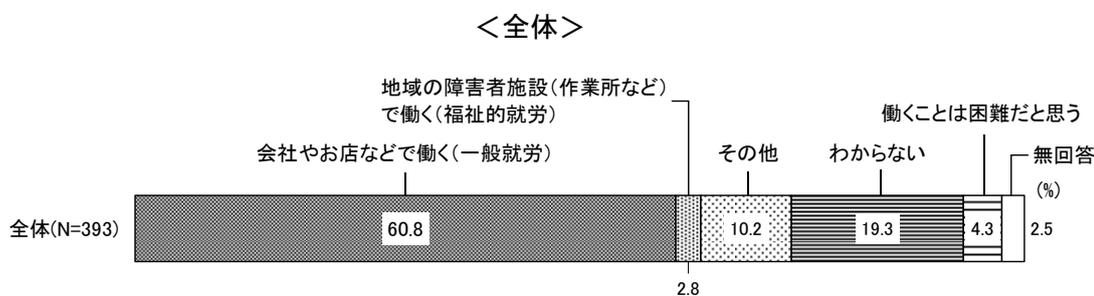
子ども：問27

お子さんの将来の働き方の希望についてたずねた。

「会社やお店などで働く（一般就労）（60.8%）」が最も多く、次いで「わからない（19.3%）」、「その他（10.2%）」などとなっている。

「その他」の内容は、「本人がやりたい仕事」、「自分の特性をいかせる所で働いてほしい」などとなっている。（図2-8-1）

図2-8-1 お子さんの将来の働き方の希望



(2) 障害のある人が働くために必要な環境

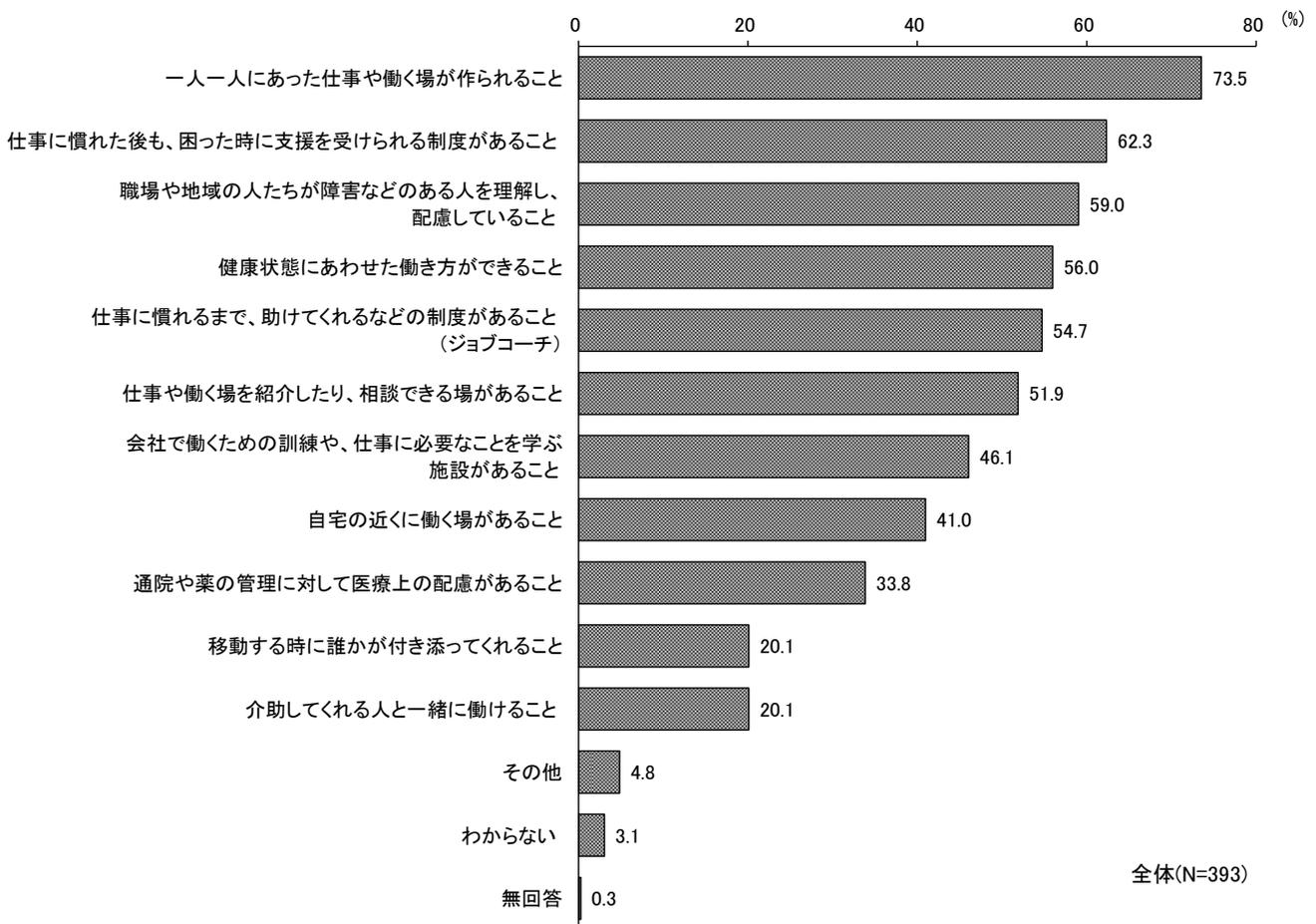
子ども：問 28

障害のある人が働くために必要な環境についてたずねた。

「一人一人にあった仕事や働く場が作られること(73.5%)」が最も多く、次いで「仕事に慣れた後も、困った時に支援を受けられる制度があること(62.3%)」、「職場や地域の人たちが障害などのある人を理解し、配慮していること(59.0%)」などとなっている。(図 2-8-2)

図 2-8-2 障害のある人が働くために必要な環境（複数回答）

<全体>



9 感染症の影響について

(1) 新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと

子ども：問 29

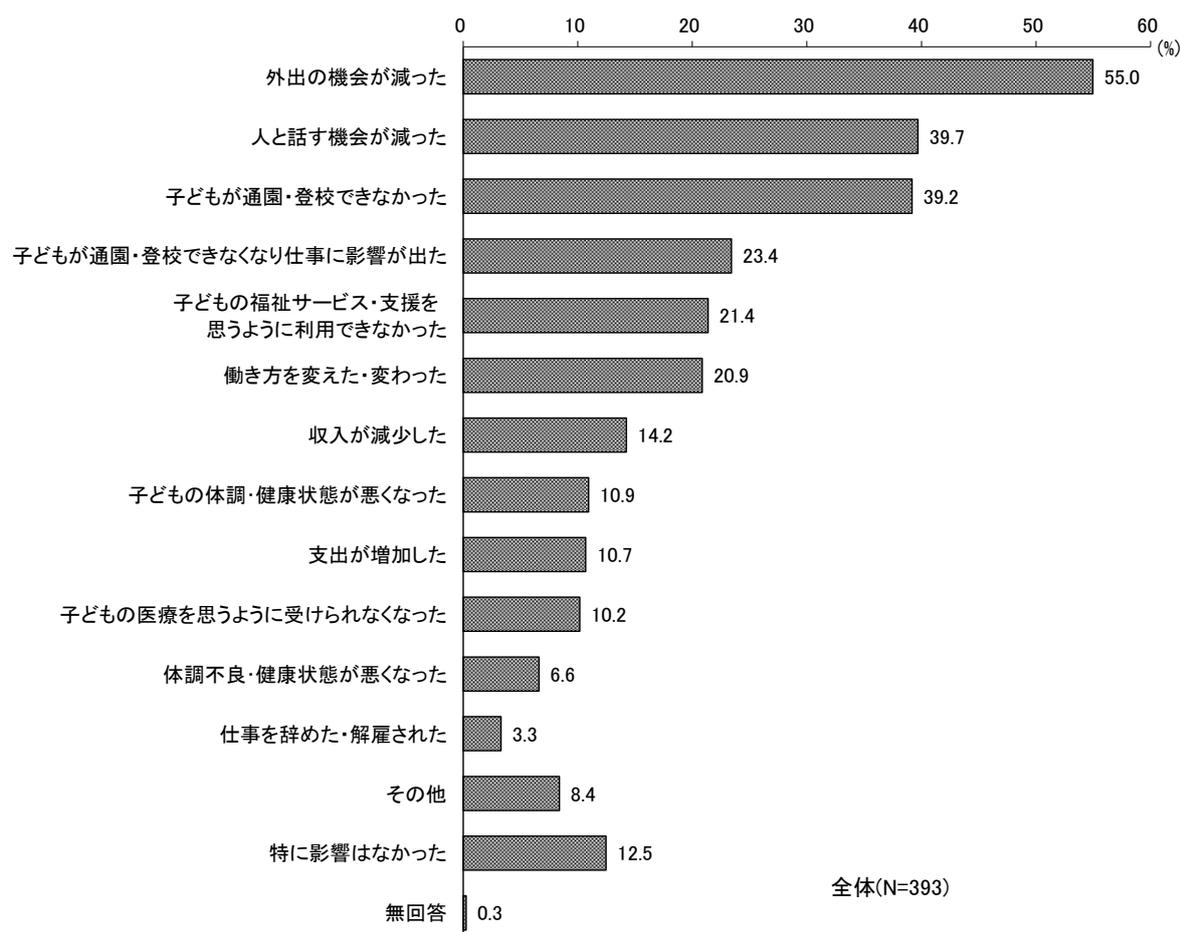
新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたことについてたずねた。

「外出の機会が減った(55.0%)」が最も多く、次いで「人と話す機会が減った(39.7%)」、「子どもが通園・登校できなかった(39.2%)」などとなっている。

「その他(8.4%)」の内容は、「ストレス過多になった」、「支援センターの相談時間が減った」などとなっている。(図 2-9-1)

図 2-9-1 新型コロナウイルス感染症の流行により影響を受けたこと

<全体>



10 今後の区の実施について

(1) 育ちや支援を必要とする子どもへの施策・サービスの満足度

子ども：問30

中央区で実施している育ちに支援を必要とする子ども達に対する施策・サービスについて満足しているかたずねた。

「大変満足(13.2%)」と「やや満足(47.6%)」をあわせた<満足>は60.8%、「やや不満(28.5%)」と「非常に不満(8.4%)」をあわせた<不満>は36.9%となっている。<満足>は<不満>よりも23.9ポイント高くなっている。(表2-10-1)

【診断カテゴリ別】

診断カテゴリ別にみると、発達障害は<満足>は58.5%、<不満>は37.4%である。知的障害は<満足>は44.5%、<不満>は55.6%である。身体障害は<満足>は57.2%、<不満>は35.7%である。

発達障害、身体障害は<満足>が<不満>よりも高くなっているが、知的障害は<不満>が<満足>よりも11.1ポイント高くなっている。(表2-10-1)

【医療的ケアのニーズ別】

医療的ケアを必要としている人は<満足>は60.0%、<不満>は37.2%である。<満足>が<不満>よりも22.8ポイント高くなっている。(表2-10-1)

表2-10-1 育ちや支援を必要とする子どもへの施策・サービスの満足度

<全体、診断カテゴリ別、医療的ケアのニーズ別>

		(上段:人、下段:%)				無回答	
		満足		不満			
		大変満足	やや満足	やや不満	非常に不満		
全体		(N=393) 100.0	52 13.2	187 47.6	112 28.5	33 8.4	9 2.3
診断カテゴリー別	発達障害	(n=142) 100.0	18 12.7	65 45.8	41 28.9	12 8.5	6 4.2
	知的障害	(n=63) 100.0	3 4.8	25 39.7	24 38.1	11 17.5	0 0.0
	身体障害	(n=14) 100.0	4 28.6	4 28.6	5 35.7	0 0.0	1 7.1
	その他	(n=27) 100.0	0 0.0	17 63.0	7 25.9	2 7.4	1 3.7
医療的ケアのニーズ別	必要としている	(n=35) 100.0	5 14.3	16 45.7	8 22.9	5 14.3	1 2.9

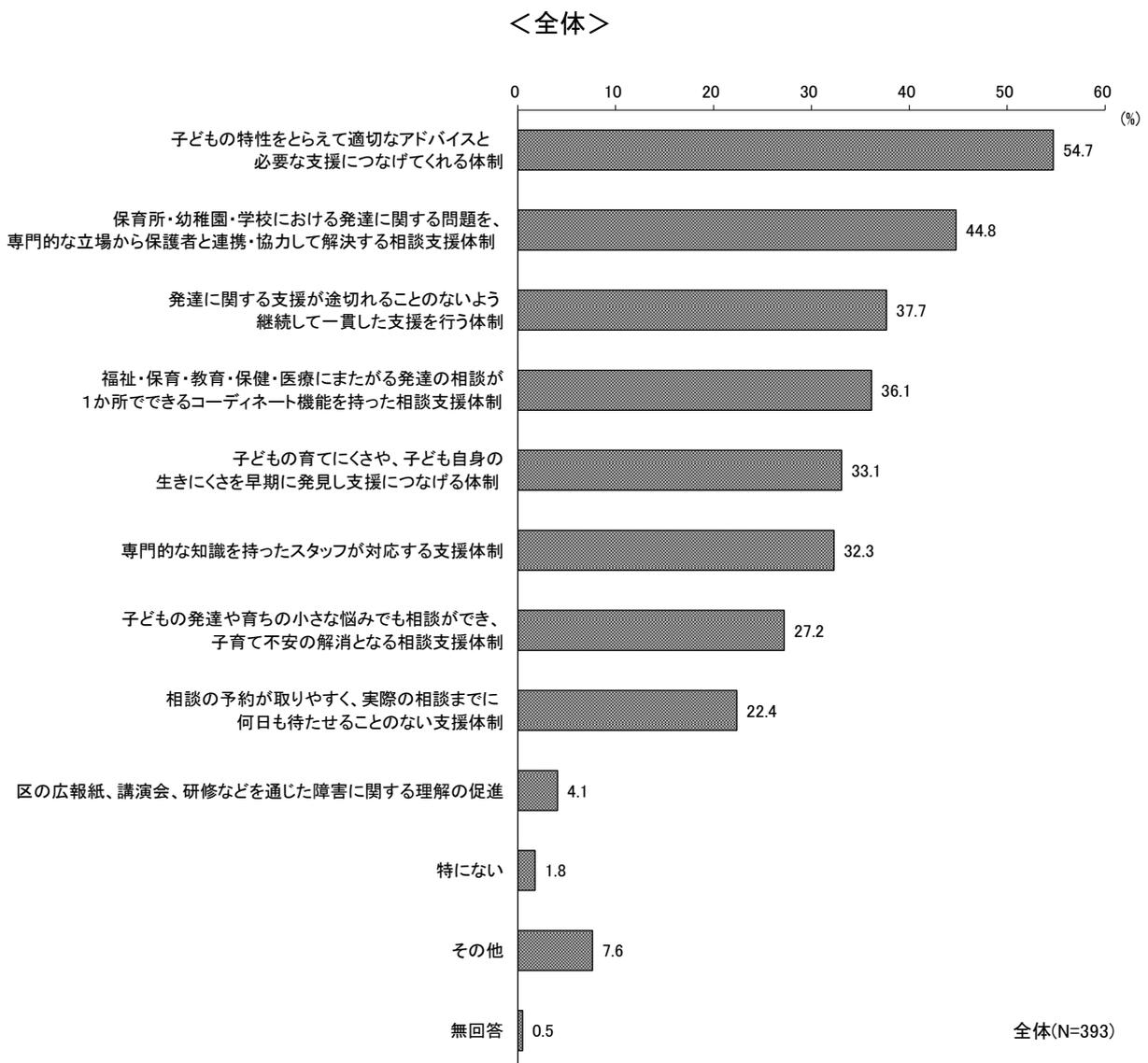
(2) 優先すべき施策

子ども：問31

子どもの育ちや発達に関する問題を解決するために、どのような施策（体制づくり）を優先すべきと考えるかをたずねた。

「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制(54.7%)」が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者と連携・協力して解決する相談支援体制(44.8%)」、「発達に関する支援が途切れることのないよう継続して一貫した支援を行う体制(37.7%)」などとなっている。(図2-10-1)

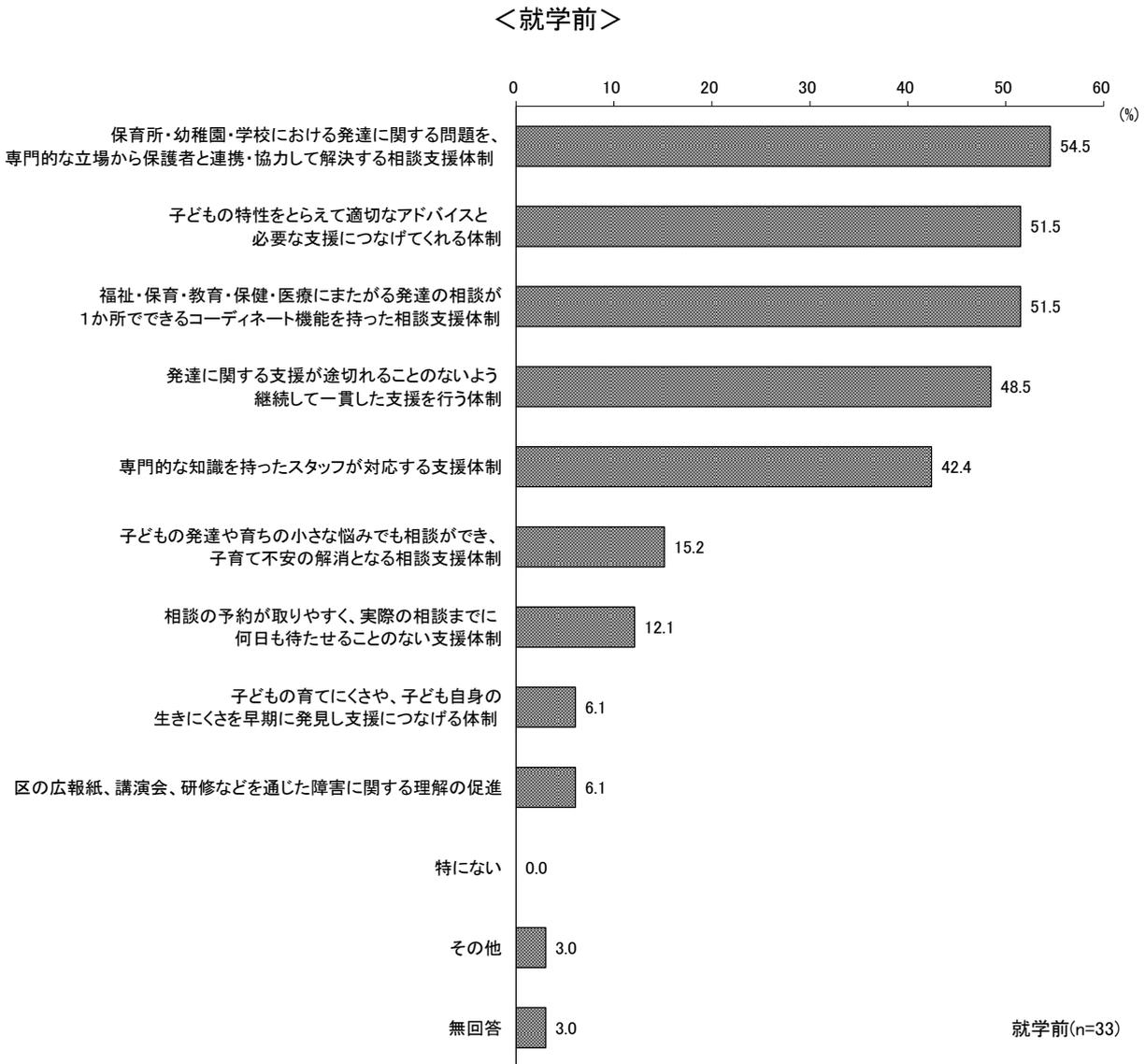
図2-10-1 優先すべき施策（複数回答：3つまで）



【学齢別：就学前】

就学前は、「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者と連携・協力して解決する相談支援体制(54.5%)」が最も多く、次いで「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制(51.5%)」、「福祉・保育・教育・保健・医療にまたがる発達の相談が1か所のできるコーディネート機能を持った相談支援体制(51.5%)」などとなっている。(図2-10-2)

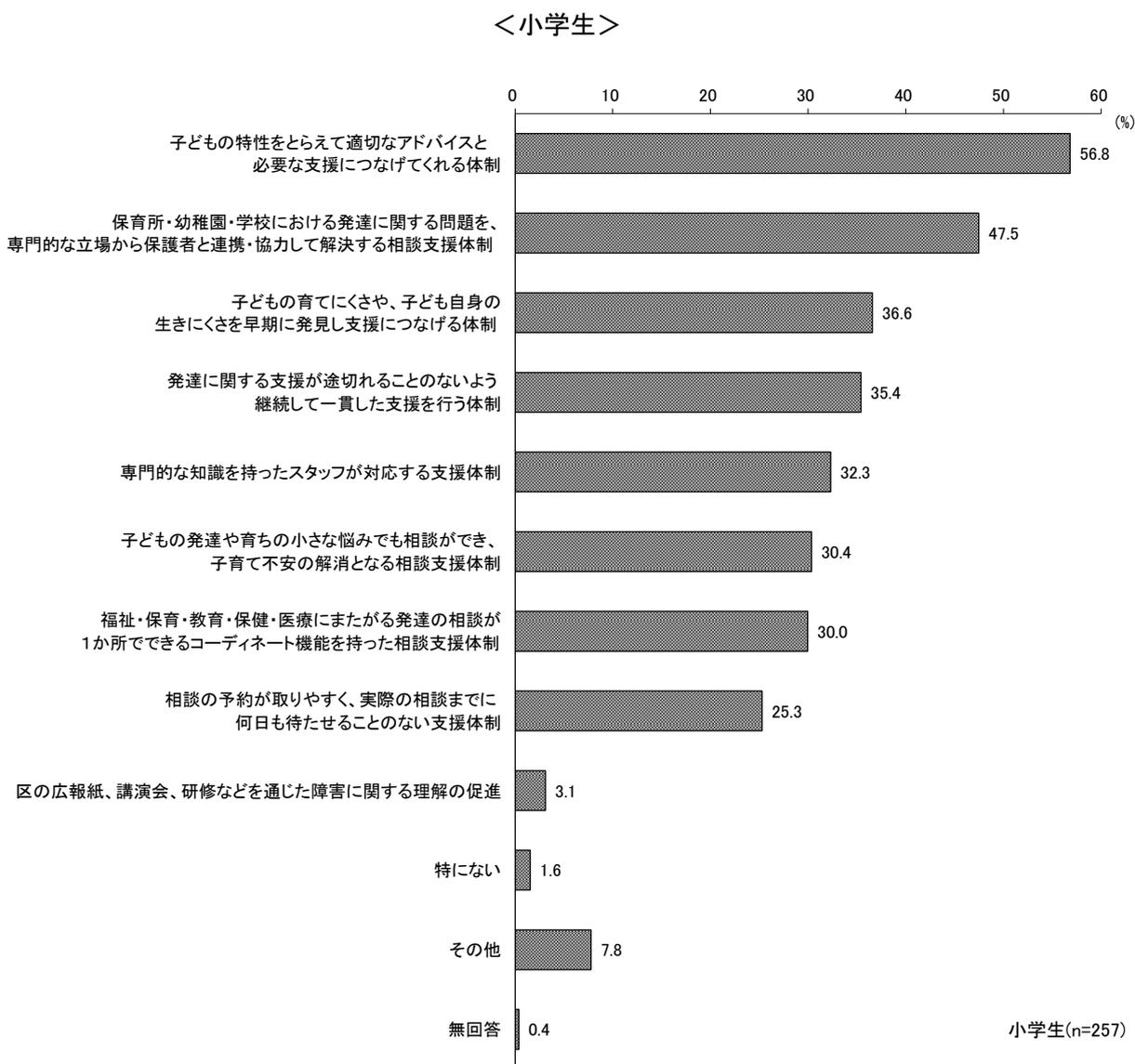
図2-10-2 優先すべき施策（複数回答：3つまで）



【学齢別：小学生】

小学生は、「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制(56.8%)」が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者と連携・協力して解決する相談支援体制(47.5%)」、「子どもの育てにくさや、子ども自身の生きにくさを早期に発見し支援につなげる体制(36.6%)」などとなっている。(図 2-10-3)

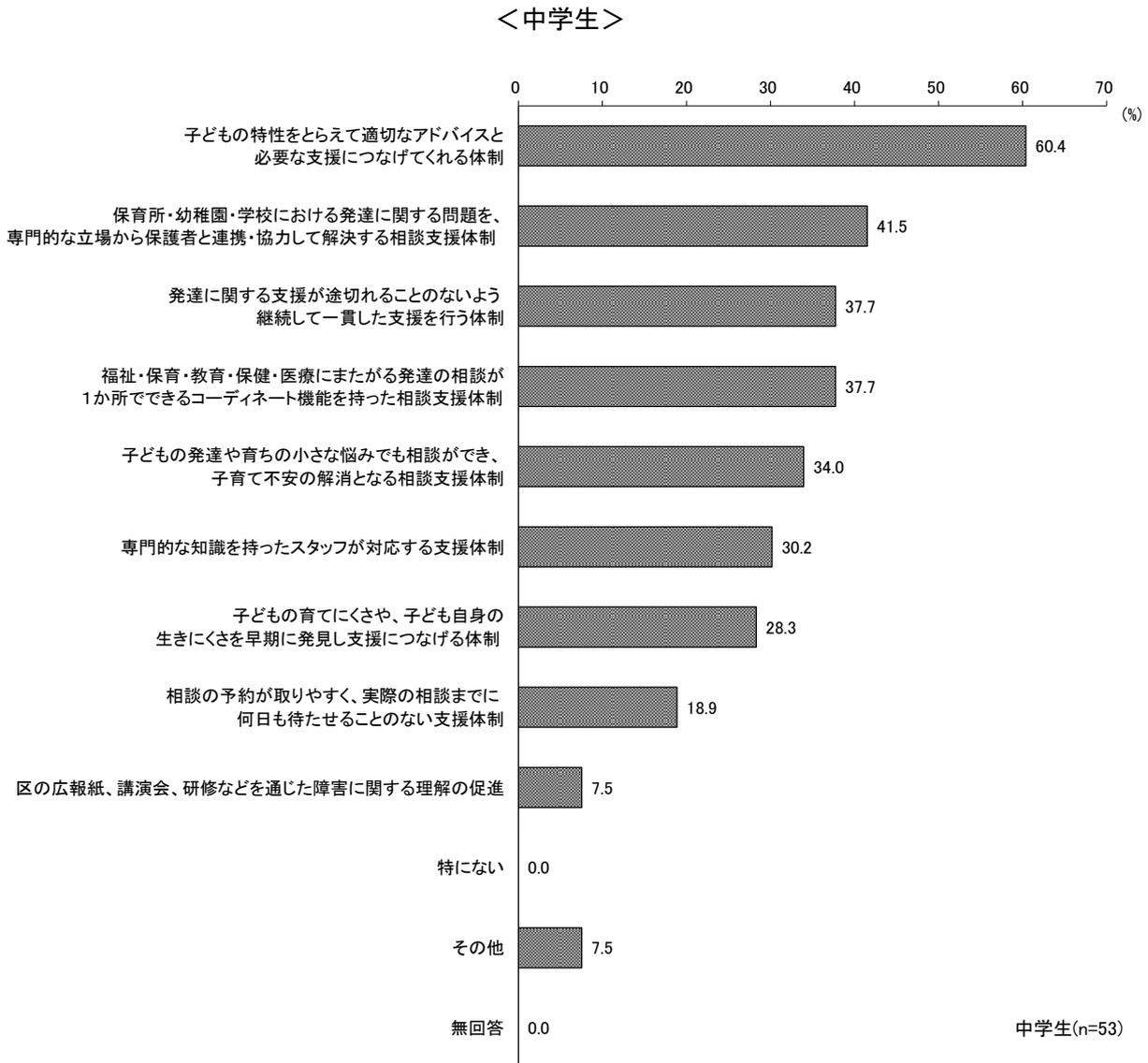
図 2-10-3 優先すべき施策（複数回答：3 つまで）



【学齢別：中学生】

中学生は、「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制(60.4%)」が最も多く、次いで「保育所・幼稚園・学校における発達に関する問題を、専門的な立場から保護者と連携・協力して解決する相談支援体制(41.5%)」、「発達に関する支援が途切れることのないよう継続して一貫した支援を行う体制(37.7%)」、「福祉・保育・教育・保健・医療にまたがる発達の相談が1か所のできるコーディネート機能を持った相談支援体制(37.7%)」などとなっている。(図2-10-4)

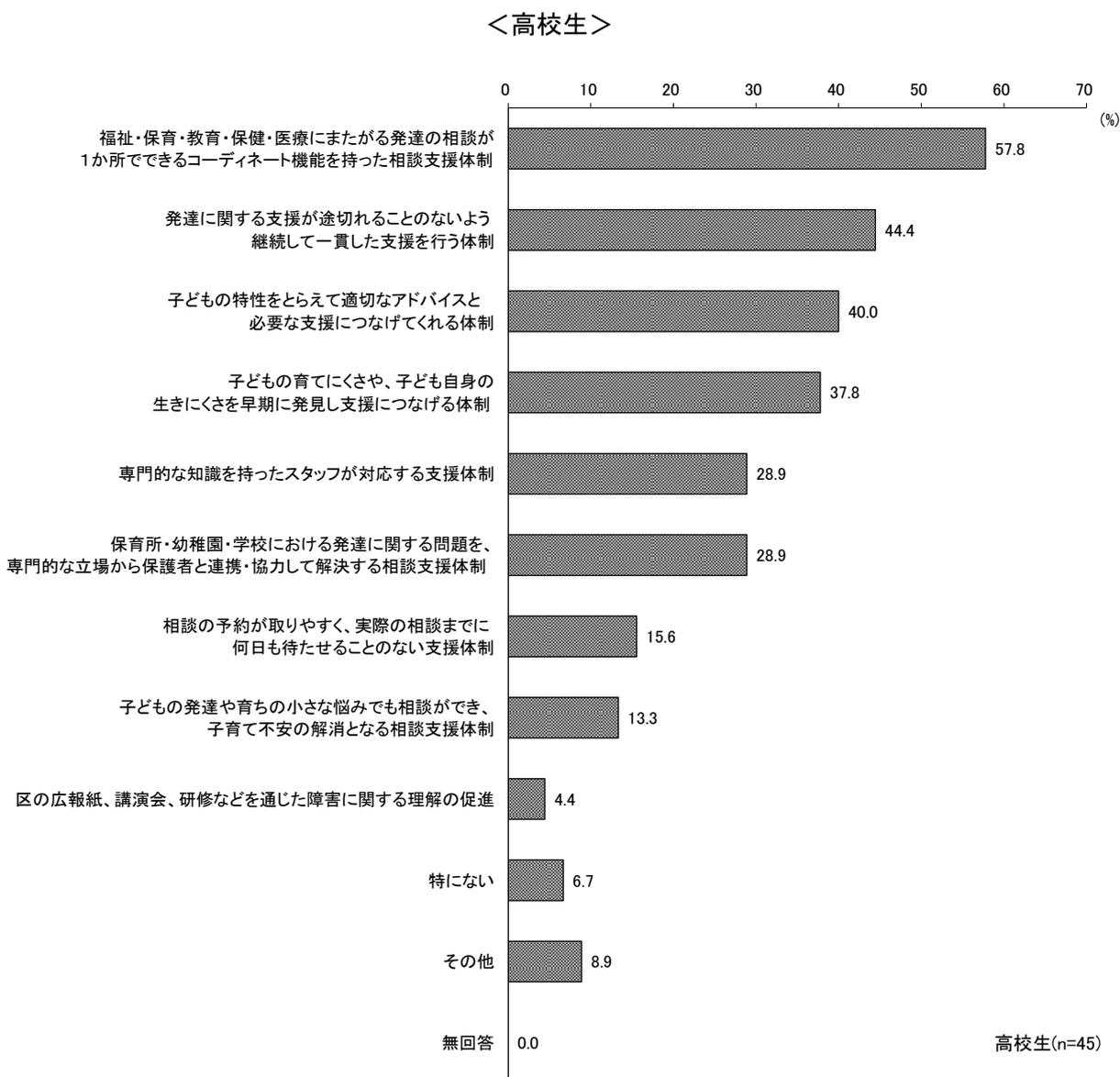
図2-10-4 優先すべき施策（複数回答：3つまで）



【学齢別：高校生】

高校生は、「福祉・保育・教育・保健・医療にまたがる発達の相談が1か所でできるコーディネート機能を持った相談支援体制(57.8%)」が最も多く、次いで「発達に関する支援が途切れることのないよう継続して一貫した支援を行う体制(44.4%)」、「子どもの特性をとらえて適切なアドバイスと必要な支援につなげてくれる体制(40.0%)」などとなっている。(図2-10-5)

図2-10-5 優先すべき施策（複数回答：3つまで）



(3) 中央区（行政）への意見・要望（自由記述）

子ども：問32

中央区(行政)への意見・要望を自由記述形式でたずねたところ、177人から281件の記入があった。(表2-10-2)

表2-10-2 中央区（行政）への意見・要望

項目	記入件数
教育（学校・教育センターなど）について	41
福祉サービスについて	37
切れ目ない支援・関係機関の連携	28
療育について	26
障害への理解・配慮	21
放課後等デイサービス	19
居場所	13
相談	13
情報	10
将来（進学、就職など）	9
健診・診断	6
助成・経済的な支援	5
手続きなど	4
幼稚園・保育園	4
家族への支援	4
医療・医療的ケア	3
バリアフリー	3
感染症の影響	3
災害対策	1
アンケート	4
区・区職員の対応	7
その他	5
お礼・謝意	13
特になし	2
計	281

主な意見は次のとおりである。

(ア) 教育（学校・教育センターなど）について(41件)

- 現在、知的の支援学級しか中央区にはなく、通常級で過ごすのは困難だが、知的支援級だと学習内容が物足りない子どももたくさんいると思います。情緒支援級の設置をぜひ進めてほしいです。
- 小学校特別支援クラスの期限を作らないでほしいです。どのお子さんも長期的にケアの必要な方だと思うので、1年・2年というくくりは難しいです。
- 発達障害は勝どき教室等通級を利用できますが、IQがグレーゾーンだと何の支援も受けられません。生活面では問題なくても勉強面でつまづく事が多く、担任の支援や理解が得られないと自己肯定感が低くなる場面が多くなります。家庭でのフォローも限界がありますので、グレーゾーンも利用できる“何か”をご考慮いただけますと幸いです。
- 小学校の授業中に集中力がなく話が聞けない、板書が苦手、テストが受けられない（集中力が続かずに無回答で出す）子どもがいますが、特別支援学級では学習のサポートはしてもらえないため、親がみるか個人指導の学習塾にみてもらうこととなります。学習面でも公的なサポートが必要だと強く感じています。集団教育だと学習が難しい子どもについてのサポートを充実してほしいです。

(イ) 福祉サービスについて(37件)

- 成人してからの人生が長いので、成人して受けられる現実的なサポートを増やしてほしいです。
- 福祉サービスでも先生方は誰でもではなく、ある程度知識のある方、資格を有することが必要と考えております。中にはお金儲けのために始められてあまり知識もなく、ただ楽しませているのみであまり内容が伴っていない事業所も多く見られます。慎重な調査の上、事業所の開業スタートの指示を求めます。
- 良いサービスには質が大切であり、マンパワーが必要です。時代を見てニーズに合わせた内容を提供することも今は求められていると思います。
- 今年度から移動支援事業の対象が拡大され、地域の通常学級、学童に通えることができ、大変感謝しています。しかしながら、子どもが成長し中・高校生となると行動（通学）範囲が広がり片道30分では足りません。年齢に応じた支給量となるよう検討をお願いいたします。

(ウ) 切れ目ない支援・関係機関の連携(28件)

- 不安に思うことは、18歳以降のことです。高等部卒業後、突然これまでの手厚い支援がほぼなくなってしまうのは、絶望的な状況です。小さい子ども時代の支援も必要ですが、成人してからの人生の方が長く、親も高齢となり、切実に支援が必要となるのではないのでしょうか。
- 小学校入学前に、入学予定の学校に子どもの特性等について相談しやすい仕組みがあるといいと思いました。就学相談で通常級への進学となった場合、支援がそこで切れるように思います。

- 育ちのサポートカルテを作成しているが、年1回やりとりするのみでうまく活用できていないように感じます。学校の担任にも年度末の忙しいタイミングで書類が行くため申し訳なく思います。今後どのように活用していくのか方向性を知りたいです。
- 育ちに支援を必要とする子どもに対して、支援が切れ目なく一貫して継続される体制をうたいながら、通級が1年しか継続できないというのは矛盾していると思います。

(エ) 療育について(26件)

- 福祉センターに通っていますが、予約が非常に取りにくくなりました。子どもが大きくなっても必要な支援と思うため、拡充して下さると良いなと思います。
- ゆりのきでの支援体制が足りていないように思います。そのため、自分で民間施設での支援を探して受ける必要があります。ゆりのきの専門分野での支援も就学前までとなっており、就学後の支援も必要です。
- 療育園がなく、加配の配置もないため、本人に十分な療育機会を与えてあげられているのか、不安です。
- 色々な区の相談事業に助けていただきましたが、年々全国的には発達相談のニーズが増加している中で、ゆりのきだけではキャパオーバーではないかと感じます。もっと拡大するか何かしら、必要ではないかと思えます。

(オ) 障害への理解・配慮(21件)

- 学校の授業などでも、多様性や個性について学び、特別学級などに対する偏見が無い世の中になってほしいです。
- 以前の居住地域は、まったくと言って良いほどサポートがなく、学校も周りも理解がありませんでした。中央区は進んでいる方だと思います。
- 一番感じるのはクラス担任の理解と働きかけだと思います。子どもに寄り添い、理解したいと思ってくださる先生の時は不安なく過ごせます。
- 中央区はインクルーシブ教育をまだされていませんが、他区の小学校では国語と算数を支援級で受け、その他は通常級で受け両方に席がある取り組みをされているそうですが、そういう取り組みをしてくださったら本当に嬉しいです。

(カ) 放課後等デイサービス(19件)

- 学童とゆりのきの放課後等デイサービスを併用できるようにしてほしいです。健常児との交流の機会を作りたいが、毎日本人にとっても負担なので併用できれば週に1~2回程度通わせたい。
- 一番必要だった小学一年生の時は放課後等デイサービスの空きが無く、送迎のある民間学童を、高額ですが仕方なく利用していました。
- 今一番気になることは障害児の放課後等デイサービスです。重心だと受け入れが少なく、現在入れる所はないと聞きます。施設が充実しますことを願っております。

(キ) 居場所(13件)

- 放課後等デイサービスの拡充も求めるとともに、高等学校卒業後の居場所の選択肢が増えることです。
- これから小学校へ進学するにあたり、放課後等デイサービスと学童の両方を利用したいと考えていますが、学童は小2以降ほぼ利用できないと伺いました。障害のある児童は居場所の選択肢が非常に限られています。この問題を早期に解決していただきたいです。
- 子どもが義務教育から外れた先の預り先が少ないと思います。障害児が増加していることもあり、早急に対策が必要だと思われまます。

(ク) 相談(13件)

- 放課後等デイサービスや、移動支援の情報等、どこに相談したらいいのか、今でもよくわかりません。区役所の窓口も、福祉課含めて、色々聞きましたが、提供できないなど、あまり対応の良さを感じなかったです。
- オンラインでの相談を拡充し、働いている親が専門家と話せる機会を増やしてほしいです。
- 今年で通級を卒業する予定ですが、小学校高学年、中学校と段々相談先がなくなっていくことに不安を感じる場合があります。もっと困り事が多かつたら大きくなっても相談先や療育先があるといいなと思います。

(ケ) 情報(10件)

- 区外の学校へ進学してしまうと、同年代のつながりをはじめ、区内の情報もなかなか個人では少ないので、福祉関係専門のホームページが充実していると助かります。
- 行政からの情報提供や連携を民間企業と同じように努力してほしいです。
- 少し情報へのアクセスが難しい(問い合わせをしないと分かりづらい)点があるため、調べやすいホームページなどを作ってくださいると非常に助かります。

(コ) 将来(進学、就職など)(9件)

- 高校を卒業して就職・作業所となるのではなく、発達が遅い分、支援・学習ができるとずっと成長し続けることができますが、そういった場所がありません。有料でも良いので、週に2~3回、自分の発達に合った訓練をプロから受けることができる場がほしいです。
- 作業所の数が他区と比べて少なすぎます。もっと働ける場所の選択肢を増やしてほしいです。

(サ) 健診・診断(6件)

- 初診予約(医療機関)に苦労しました。発達障害を診断できる医療機関の情報や予約について情報提供いただけると助かります。
- 就学前健診以前の発達健診をつくってほしいです。

(シ) 助成・経済的な支援(5件)

- 様々な手当に対して所得制限があることに不満を感じます。
- 子育てしやすい環境だと思いますが、ひとり親支援をもう少し充実してもらえたら嬉しいです。

(ス) 手続きなど(4件)

- 本アンケートもそうですが、紙での手続きが多すぎるのでオンライン化してほしいです。
- 緊急時のサポート体制、対応、申請手続きを改善してほしいです。

(セ) 幼稚園・保育園(4件)

- 私立保育園も公立と同じように支援を進められる体制をとってほしいです。
- 幼稚園を選べるようにしてほしい。障害児にとって、もっと生きやすい町を作してほしいです。障害があるからという理由で断られると親のメンタルがやられます。

(ソ) 家族への支援(4件)

- 子どもが病気や障害をもってしまったことだけでも、親は計り知れない精神的ダメージがあるうえ、生活していくための生きづらさ、土・日の自由な行動がとれるような生活へあこがれもありつつ、現状に諦めの連続となっています。
- 福祉課はもちろん障害児への対応のためにある課だとは思いますが、私は兄弟児のことや私自身の精神的な問題にはほとんどノータッチのことが残念でした。

(タ) 医療・医療的ケア(3件)

- 医療的ケア児が通える保育園の受入れを増やしてほしいです。特に人工呼吸器を使っていると様々な門戸が狭まり困っています。

(チ) バリアフリー(3件)

- 八丁堀駅のバリアフリー化を切望します。

(ツ) 感染症の影響(3件)

- 仕事(フルタイム)をしておりましたが、療育へ通うために2回転職(フルタイム→週2アルバイト)しました。フルタイムは難しく、「リモートワーク」のないアルバイトにしたら、コロナの休園で出社できず就業を継続できませんでした。

(テ) 災害対策(1件)

- 有事の際、電気が止まると人工内耳の充電ができず会話が筆談のみとなります。申し訳ないですが、電気供給されている避難所を優先してあげてほしいです。

中央区障害者（児）実態調査 報告書

令和5（2023）年3月発行

刊行物登録番号



発行 中央区 福祉保健部障害者福祉課

〒104-8404 東京都中央区築地一丁目1番1号

電話：03-3546-5389(直通)

実施 株式会社生活構造研究所

〒102-0083 東京都千代田区麴町2-5-4 第2押田ビル

電話：03-5275-7861



中央区